

香淳皇后実録 卷二

昭和二年（西曆一九二七年） 二十四歳

一月

一日 土曜日 赤坂離宮において新年を迎えられる。昨年末からの御風気のため、終日御仮床に就かれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

大喪中につき、この年は十二月二十六日の御喪明けまでの間、皇室祭祀令に規定の大祭・小祭は掌典部限りにて行われ、いずれも天皇・皇后の御拝礼・御代拝はお取りやめとなる。○例規録

三日 月曜日 昨日午後より天皇も御不例となる。午前、大行天皇十日祭が宮城の櫺殿において執り行われるが、天皇・皇后の出御はお取りやめとなる。○侍従日誌、侍従職日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

五日 水曜日 夜、殯宮移御の儀が行われる。宣仁親王が天皇御名代を務め、故恒久王妃昌子内親王が皇后御名代を務める。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、大正天皇大喪録、大正天皇実録、宮内省省報、官報、河井弥

昭和二年一月

昭和二年一月

八日記

六日 木曜日 午前、殯宮移御後一日祭が執り行われ、宣仁親王が天皇御名代を務め、故恒久王妃昌子内親王が皇后御名代を務める。終了後、復命のため参殿の昌子内親王に、皇后は御仮床にて御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、大正天皇大喪録、大正天皇実録、宮内省省報、官報

九日 日曜日 天皇・皇后御不例につき、皇太后よりお見舞いとして加葉素麺・野菜が贈られる。皇后はこの日の御昼食として、素麺をお召し上がりになる。また十二日には正二位柳原愛子より天皇・皇后にお見舞いとして洋花の鉢植えが献上され、皇后はこれを御床付近に飾って御覧になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十三日 木曜日 大行天皇殯宮二十日祭が行われ、宣仁親王が天皇御名代を務め、故恒久王妃昌子内親王が皇后御名代を務める。終了後、復命のため参殿の昌子内親王に、皇后は御床近くにて御対面になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、大正天皇大喪録、大正天皇実録、宮内省省報、官報

十四日 金曜日 長らく御不例のところ、この日、寝台よりお立ちになることを試みられる。十六日にはお食事も椅子にてお召し上がりになり、十八日からは吸入も止められるなど順調に御回復になる。

○女官日誌

十五日 土曜日 この日、侍従次長入江為守は皇子宫職御用掛を仰せ付けられる。○女官長日誌、進退録、

宮内省省報、官報

十七日 月曜日 雍仁親王英国より帰国につき、天皇・皇后の御使として侍従次長入江為守を横浜に差し遣わされる。夕刻、親王参殿につき、皇后は御食堂において御対面になる。○女官長日誌、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日誌、重要雑録、皇親録、宮内省省報、官報

十九日 水曜日 正午頃、御仮床にある天皇をお見舞いになる。この年初めての御対面にて、約十分ほど御談話になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

午後、故恒久王妃昌子内親王参殿につき、御対面になる。ついで参殿の故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王も交えて御対面になる。以後、この年も皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、朝香宮奥日誌

この日霞ヶ浦海軍航空隊において飛行機転覆事故発生につき、天皇・皇后より負傷者一名に菓子料を下賜される。その後、同人死亡につき、天皇・皇后より祭料を下賜される。以後、不慮の災厄により死傷した陸海軍の将校以下の者に、天皇・皇后より祭料又は菓子料が下賜される。○恩賜録、宮内省

省報

二十日 木曜日 大行天皇の追号が大正天皇と治定される。大行天皇追号奉告の儀につき、故恒久王妃昌子内親王に御名代を仰せ付けられる。天皇御名代は雍仁親王が務める。正午頃、昌子内親王と御食堂において御対面になり、復命を受けられる。儀に当たり、天皇・皇后より皇太后へ御使として皇太后女官長心得島津治子を差し遣わされ、御機嫌伺いとして菓子料を御贈進になる。以後、この年も折に触れ、参殿した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇太后から皇太后の許に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、大正天皇大喪録、大正天皇実録、宮内省省報、官報

二十一日 金曜日 御懐妊の兆候があり、この日、宮内省より非公式として次のように発表される。

皇后陛下ニハ先般来御風邪ニテ御引籠中ノ処御風邪ハ殆ト御全快遊ハサレタルモ其ノ後時々御嘔

昭和二年一月

気アラセラレ侍医ヨリノ願出モアリ旁々御外出ハ尚御難敷ク拝シ奉ル

○女官長日記、侍従職日誌、皇親録、河井弥八日記、奈良武次日記

二十二日 土曜日 午後、翌日の殯宮三十日祭に皇后御名代を務める稔彦王妃聡子内親王参殿につき、御対面になり、お礼言上を受けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十三日 日曜日 午前、殯宮三十日祭につき、稔彦王妃聡子内親王に御名代を仰せ付けられる。天皇御名代は雍仁親王が務める。儀終了後、聡子内親王参殿につき御対面になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、大正天皇大喪録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

正午過ぎ、御病室に天皇を見舞われ、ついで御昼餐を御会食になる。御一緒にての御会食は病後初めてにて、終了後は暫く御談話になる。御夕餐も天皇と御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、拝診録

二十九日 土曜日 午前九時をもって天皇・皇后とも御床払いになる。御床払いにつき天皇・皇后より皇太后への御使として、侍従岡本愛祐を宮城に差し遣わされる。また雍仁親王始め皇族に対しても御使を差し遣わされる。各皇族より御使が参殿し、翌三十日には皇太后御使として皇太后宮事務官西邑清が参殿する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、河井弥八日記

夕刻、七年間の欧州滞留より帰国の稔彦王^{御父邦彦王の弟}と御対面になる。なおこの日、稔彦王の帰国に際し、天皇・皇后の御使として侍従岡本愛祐を東京駅に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舎人日誌、宮内省省報、官報

三十日 日曜日 午前、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、昨日稔彦王帰国の際における御使御差

遣につき、お礼言上を受けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二月

一日 火曜日 午後、天皇と共に鳩彦王妃允子内親王と御対面になる。ついで故依仁親王妃周子・故成久王妃房子内親王と順次御対面になる。なお、房子内親王より、翌日の殯宮四十日祭における皇后御名代辞退の申し出があり、御名代は故恒久王妃昌子内親王に変更される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内省省報

昨日二十九日、宮崎県西諸県郡小林町において大火発生につき、この日罹災者御救恤として天皇・皇后より同県へ金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二日 水曜日 午前、殯宮四十日祭につき、故恒久王妃昌子内親王に御名代を仰せ付けられる。午後、復命のため参殿した昌子内親王と天皇と共に御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、大

正天皇大喪録、宮内省省報、官報

三日 木曜日 午後、正二位柳原愛子参殿につき、天皇と共に奥内謁見所において謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

五日 土曜日 午後、旧女官の千種任子・園祥子・小倉文子・藪嘉根子その他三名に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官日誌、侍従職日誌

六日 日曜日 午前、京都より尼門跡総代として上京した広橋聖瑞に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌

鳩彦王妃允子内親王、ついで故恒久王妃昌子内親王参殿につき、順次御対面になる。允子内親王は十二日に挙行の権殿五十日祭並びに山陵五十日祭に、昌子内親王は七日挙行の霊代奉安の儀・斂葬当日殯宮祭・葬場殿の儀等に、それぞれ皇后の御名代を仰せ付けられたことへのお礼言上のため参殿する。

○女官日誌、内舍人日誌、宮内省省報、官報

帝国学士院会員東京帝国大学名誉教授芳賀矢一元東官職
御用掛この日死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜

される。なお、同人の危篤に際して、天皇・皇后より病氣お尋ねとして葡萄酒を下賜される。○侍従職

日誌、贈賜録、恩賜録、宮内省省報、官報

七日 月曜日 この日より翌日にかけて、大正天皇大喪儀が行われる。皇后は御参列を控えられ、御座所にてお慎みになる。午前の霊代奉安の儀・斂葬当日殯宮祭、夜の斂葬の儀中葬場殿の儀は故恒久王妃昌子内親王に御名代を仰せ付けられる。午後十時十分、葬場殿の儀に合わせ、御座所より新宿御苑の葬場殿に向かい御遙拝になる。○女官日誌、侍従日誌、大正天皇大喪録、儀式録、大正天皇実録、貞明皇后実録正本

宮内省省報、官報

八日 火曜日 この日早朝、多摩の陵所において、斂葬の儀中陵所の儀が行われ、故恒久王妃昌子内親王に御名代を仰せ付けられる。皇后は午前六時、陵所の儀に合わせ、奥御座所において天皇と共に御遙拝になる。なお、大正天皇の陵名は多摩たのみなさき陵と定められる。○侍従日誌、内舍人日誌、大正天皇大喪録、宮

内省省報、官報

午前、天皇と共に、大喪使総裁載仁親王と御対面になり、斂葬の儀終了に関する復命を受けられる。

また、斂葬の儀において天皇御名代を務めた雍仁親王及び皇后御名代を務めた故恒久王妃昌子内親王

参殿につき、いずれも天皇と共に復命を受けられる。午後には宣仁親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王・鳩彦王妃允子内親王と、天皇と共にそれぞれ御対面になる。このほか天皇・皇后と皇太后は、互いに御使を差し遣わされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、貞明皇后実録正本

九日 水曜日 斂葬後一日権殿祭の儀及び斂葬後一日山陵祭の儀につき、故恒久王妃昌子内親王に御名代を仰せ付けられる。○大正天皇大喪録、宮内省省報、官報

十日 木曜日 午前、奥内謁見所において天皇と共に、故恒久王妃昌子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。昌子内親王より昨日の皇后御名代の復命を受けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十二日 土曜日 権殿五十日祭及び山陵五十日祭につき、鳩彦王妃允子内親王に御名代を仰せ付けられる。○大正天皇大喪録、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌

十三日 日曜日 大喪第一期御喪明けとなる。午前、天皇と共に、天機並びに御機嫌奉伺のため参殿した稔彦王・同妃聡子内親王、ついで鳩彦王・同妃允子内親王と御対面になり、允子内親王より、権殿及び山陵における五十日祭の皇后御名代の復命をお受けになる。午後、天皇と共に、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になる。ついで皇太后御使として典侍正親町鍾子参殿につき、天皇と共に奥内謁見所において謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、朝香宮奥日誌

十四日 月曜日 午前、内大臣牧野伸顕に謁を賜う。○女官日誌

天皇と共に、この日より赤坂離宮勤務となる侍従武官西義一・川岸文三郎・矢野機・小山田繁蔵・倉賀野明いずれも大喪第一期中は宮城詰に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府歴史、奈良武次日記

十五日 火曜日 午後、天皇と共に狩ノ間にお出ましになり、侍従長徳川達孝ほか大正天皇側近奉仕者に謁を賜う。翌日午後にも、同じく侍従次長小早川四郎等の大正天皇側近奉仕者に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、奈良武次日記

奥内謁見所において、御機嫌伺いのため参殿の正二位柳原愛子に謁を賜う。○女官日誌、贈賜録

故文秀女王一周年祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐侍従として勅使も務めるを奈良県帯解村円照寺の

権舎並びに墓所へ差し遣わされ、祭糝料・玉串をお供えになる。また天皇・皇后より榊・盛菓子をお

供えになる。○侍従職日誌、皇親録、贈賜録、宮内省省報、官報

十六日 水曜日 載仁親王大喪使総裁・故成久王妃房子内親王並びに大喪儀の際に天皇・皇后・皇太后の御

名代を務めた雍仁親王・宣仁親王不例により欠席・故恒久王妃昌子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡

子内親王を赤坂離宮にお招きになる。天皇と共に小食堂にお出ましになり、一同と御晚餐を御会食に

なる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、典式録、朝香宮奥日誌

十八日 金曜日 天皇と共に表御食堂にお出ましになり、恒憲王・同妃敏子と午餐を御会食になる。

恒憲王は昨年末より名古屋の騎兵第三聯隊勤務となり、同妃も近く愛知県名古屋市の仮寓へ移居する。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内省省報、官報

大喪第二期中、毎週金曜日の午後を定例として皇族・王公族より天皇・皇后への御機嫌伺いが行われることとなる。午後、天皇と共に奥内謁見所において、邦彦王御父、故依仁親王妃周子、載仁親王、守

正王・同妃伊都子、稔彦王妃聡子内親王、李王垠・同妃方子女王等と順次御対面になる。以後、毎週

金曜日に皇族より定例の御機嫌伺いを受けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

公爵島津忠重母寿満御祖母 昨十七日死去につき、皇后宮女官津軽理喜子を久邇宮邸に差し遣わされ、邦彦

王妃侘子島津忠義第七女子、御母に喪中お尋ねとして菓子を御贈進になる。これとは別に、後日天皇・皇后より故菊

麿王妃常子島津忠義第三女子・邦彦王妃侘子へ喪中お尋ねとして菓子を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、皇親録、官報

誌、贈賜録、皇親録、官報

十九日 土曜日 午前、宮内省雇マルトウ・ド・ラ・サールの指導により、フランス語の練習をされる。

以後、同人の賜暇帰国中の七月から十一月を除き、概ね月曜日・水曜日・土曜日を中心に、同人

の指導によりフランス語を学ばれる。なお、時折天皇も御参加になる。○女官日誌

午後、今般満洲駐劄陸軍部隊へ差遣される侍従武官大島陸太郎に謁を賜い、次の令旨を下される。

軍司令官始メ永々守備ノ任務ニ服シ苦勞モ嘸多イコトデアロウ寒サ厳シイ折柄一同一層身体ヲ大

切ニシテ勤務スル様宜敷ク申シ伝ヘヨ

大島武官は二十二日出発、三月十七日帰京し、十九日に復命する。○女官日誌、典式録、進退録、恩賜録、侍従

武官府歴史、宮内省省報、官報

大喪使総裁として勤勞した載仁親王に、天皇・皇后より御紋付七宝鉢並びに金員を下賜される。○大正

天皇大喪録

二十一日 月曜日 この日、北陸地方雪害に対する御救恤として、天皇・皇后より富山県・新潟県・

福井県へ金一封ずつを下賜される。○恩賜録、重要雜録、宮内省省報、官報

昭和二年三月

二十二日 火曜日 この日、従五位中山栄子死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。栄子は侯爵中山忠能の第六女子にて、静寛院宮上臈、明宮出仕、花御殿勤務をつとめた。○恩賜録

二十五日 金曜日 大正天皇月命日につき、皇后宮女官津軽理喜子を多摩陵へ差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また皇太后への御機嫌伺いとして皇后宮女官山岡淑子を宮城へ差し遣わされ、天皇・皇后より菓子・切り花等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

三月

三日 木曜日 この日、侍従長以下の人事が発令される。枢密顧問官兼皇后宮大夫伯爵珍田捨巳は兼官を免じられ侍従長兼任となり、内大臣秘書官長河井弥八は侍従次長兼皇后宮大夫に任じられる。また皇太后宮大夫男爵大森鍾一は病氣療養中につき、侍従次長子爵入江為守に代理が仰せ付けられる。午後、新任の珍田侍従長・入江皇太后宮大夫代理・河井皇后宮大夫に謁を賜う。また、去る一日付にて侍従武官より横須賀鎮守府付に転補の海軍大佐倉賀野明に謁を賜う。その後、皇后宮事務官兼侍従となる子爵加藤泰通・皇太后宮事務官兼任の侍従子爵海江田幸吉・同山県辰吉に謁を賜う。夕刻には奥内謁見所において天皇と共に、この度侍従長を退任の伯爵徳川達孝、侍従次長を退任の男爵小早川四郎、ついで新任の侍従本多猶一郎・野口明・永積寅彦に謁を賜う。このほか、皇后宮事務官兼侍従宮内書記官宮内事務官木下道雄は侍従兼皇后宮事務官引き続き兼宮内書記官宮内事務官に、侍従兼内大臣秘書官宮内事務官皇后宮事務官宮内書記官岡本愛祐は皇后宮事務官兼侍従引き続き兼内大臣秘書官宮内書記官に、それぞれ任じられる。○女官

長日記、女官日誌、進退録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

この日、宮内省より、皇后が御懷妊四箇月にて経過が御順調である旨が発表される。○皇親録
この日、十一月三日が明治節と定められる。○官報

四日 金曜日 この日、侍従次長兼御歌所長子爵入江為守が皇太后宮大夫に任じられる。同人は引き続き御歌所長を兼任する。○進退録、宮内省省報、官報

皇太后宮大夫兼枢密顧問官男爵大森鍾一昨三日死去につき、天皇・皇后より弔問使として侍従牧野貞亮を差し遣わされ、祭資を下賜される。これとは別に天皇・皇后・皇太后それぞれより花を下賜される。なお、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして侍従加藤泰通・侍医荒井恵を差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。○女官日誌、侍従職日誌、進退録、恩賜録、宮内省省報、官報

五日 土曜日 天皇の踐祚前より中断されていた土曜恒例の側近奉仕者との御夕餐土曜定例御相伴が再開され、

皇后も御臨席になる。以後毎年、概ね毎週土曜日に上直の側近奉仕者、あるいは元奉仕者と御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

六日 日曜日 満二十四歳のお誕生日を迎えられる。

午前、天皇と共に奥内謁見所において、総代の内大臣・宮内大臣・侍従長・皇后宮大夫・侍従武官長より祝詞言上をお受けになる。なお、この年は諒闇中につき御祝儀はお取りやめとなる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記、奈良武次日記

七日 月曜日 午前、文学博士三上参次臨時帝室編修官長による「大正天皇ノ御教育ニ関スル明治天皇ノ宸憂」と題する講話を、天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、牧野伸顕

関係文書

昭和二年三月

天皇と共に奥内謁見所において、この日より出仕する赤坂離宮詰の侍医笈繁に謁を賜う。○女官長日記、侍従日誌

八日 火曜日 正午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般皇太后宮大夫に転任の入江為守に謁を賜う。なお、入江に対し、皇后より花瓶を、天皇・皇后より金員を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録

九日 水曜日 去る七日京都府北部を震源とした地震北丹後地震発生につき、午前、天皇・皇后より状況視

察のため侍従土屋正直を差し遣わされる。また地震による損害に対し、この日天皇・皇后より御救恤として京都府へ金一封、大阪府へ金一封を下賜される。なお、土屋侍従は被災各地を巡察し、十七日に天皇・皇后に復命する。○女官日誌、侍従日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、奥丹後震災誌

御夕食後、天皇と共に表内謁見所にお出ましになり、宮内省撮影の御大喪実写、大阪毎日新聞社撮影の奥丹後震災第一報の活動写真を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

十五日 火曜日 かねて辞表奉呈の皇后宮女官島津治子皇后宮女官長心得は、この日皇后宮女官長に昇任の上、

即日依願免官となる。○侍従職日誌、進退録、河井弥八日記、関屋貞三郎日記

十六日 水曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、翌日沼津へ出発につき暇乞いのため参殿の崇仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十七日 木曜日 夕刻、元皇后宮女官長島津治子参殿につき、天皇と共に謁を賜う。島津の退官に際し、天皇・皇后よりお品を賜う。これとは別に、皇后より金員を下賜される。○女官日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、恩賜録、贈賜録、河井弥八日記

十九日 土曜日 この日、従六位竹屋志計子は皇后宮職御用掛を免ぜられた上、皇后宮女官に任じられる。また、皇后宮女官山岡淑子は照宮御養育掛を命じられる。○女官日誌、進退録

二十一日 月曜日 午前、故成久王妃房子内親王・永久王参殿につき、奥内謁見所において天皇と共に御対面になる。今般東京陸軍幼年学校卒業の永久王に対し、天皇・皇后より万那料を御贈進になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

二十四日 木曜日 この日、皇后宮女官青山元子は依願免本官となり、伊地知ミキが皇后宮女官に任じられる。○進退録、河井弥八日記

二十五日 金曜日 午前、昨二十四日に皇后宮女官を退任の青山元子に謁を賜う。○女官日誌

大正天皇月命日につき、皇后宮女官津軽理喜子に権殿の御代拝を仰せ付けられる。また、皇后宮女官竹屋志計子に多摩陵の御代拝を仰せ付けられる。以後、一周年祭まで、月命日に権殿及び多摩陵の御代拝を皇后宮女官に仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

二十六日 土曜日 午後、天皇及び成子内親王と共に階下中央広間において、文部省普通学務局長関屋竜吉の説明により、日米友好親善のため米国より贈られた人形約五十点を御覧になる。これらは日本の子供のために米国各地の有志より寄贈された人形の代表で、この後約一週間赤坂離宮に留め置かれる。翌二十七日、天皇と共に、故恒久王妃昌子内親王・礼子女王、故成久王妃房子内親王・美年子女王・佐和子女王・多恵子女王、鳩彦王妃允子内親王・紀久子女王・湛子女王、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、人形の拝観をお許しになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、朝香宮奥日誌、社

昭和二年四月

会教育事始め、青い目の小さな大使、青い目の人形、東京朝日新聞

二十八日 月曜日 午前、文学博士三上参次より「明治天皇ト東京奠都及宮城御造営」と題する講話を天皇と共に聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、牧野伸顕関係文書

二十九日 火曜日 午後、天皇と共に崇仁親王と御対面になる。親王はこの日、学習院初等科第五学年を修了する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、官報

去る二十七日の福島県石城炭坑警炭礦株式會社所有において発生した火災により多数の死傷者を出した同県に対し、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を下賜される。○恩賜録、重要雜録、宮内省省報、官報

四月

二日 土曜日 午後、翌三日の大正天皇権殿百日祭に皇后御名代を務める故恒久王妃昌子内親王参殿につき、御内儀において御対面になる。なお、皇后は当初、祭儀での御拝礼を御予定のところ、一日の侍医拝診の結果、軽微の御風気がいまだ癒えないことからお取りやめとなる。○女官日誌、河井弥八日記

三日 日曜日 大正天皇権殿百日祭並びに山陵百日祭につき、故恒久王妃昌子内親王に御名代を仰せ付けられる。皇后は両祭儀に合わせ、午前九時三十分には権殿の、午後三時には山陵の方角に向かい御遙拝になる。また大正天皇百日祭につき、皇太后への御機嫌伺いとして、皇后宮女官竹屋志計子を天皇・皇后の御使として宮城へ差し遣わされる。○女官日誌、侍従職日誌、大正天皇大喪録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

四日 月曜日 女子学習院において卒業式挙行につき、故依仁親王妃周子を差し遣わされる。正午前、

復命のため参殿の親王妃と御対面になる。午後、女子学習院長松浦寅三郎参殿につき謁を賜い、卒業式下賜品のお礼言上を受けられる。また在学中の皇族の成績品を御覧になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、女子学習院関係資料

午後、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、大正天皇百日祭における御名代の復命を受けられる。

○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

この日大喪第二期御喪明けにつき、天皇・皇后より皇太后及び各皇族・王公族へ菓子をお贈進になる。七日には皇后宮女官津軽理喜子を天皇・皇后の御使として皇太后に差し遣わされ、万那料・菓子・盆景を贈られる。以後、毎月十日・二十五日に皇族より大喪第三期中の定例御機嫌奉伺を受けられる。

○侍従職日誌、大正天皇大喪録

五日 火曜日 夜、大阪朝日新聞社及び京都府より献上された北丹後地震の活動写真を、天皇と共に御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進献録、奥丹後震災誌

九日 土曜日 午後、この度御用を仰せ付けられる助産婦侍医寮事務嘱託梅林寺こう・坂田あき参殿につき、謁を賜う。○女官日誌

天皇と共に表御食堂にお出ましになり、雍仁親王・宣仁親王・崇仁親王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と支那料理の御晩餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日記、秩父宮附宿直日記、典式録、朝香宮奥日誌

十日 日曜日 この日、内着帯の儀が行われる。午前、奥御座所に出御される。皇后宮女官竹屋志計子が参進し、御帯を皇后に上り、ついで卓上に置く。続いて天皇の臨御の後、皇后宮女官津軽理喜子

が陪侍して、内着帯の儀が行われる。終了後、天皇と共に奥内謁見所において、総代の侍従長・皇后宮大夫・侍従武官長・皇太后宮大夫の祝賀をお受けになり、また皇后宮女官の祝詞言上をお受けになる。続いて皇太后御使の掌侍吉見光子に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。

内着帯の儀につき、天皇・皇后より御使として皇后宮女官竹屋志計子を宮城に差し遣わされ、皇太后に五種交魚を御贈進になる。皇太后より五種交魚の御贈進がある。今回は諒闇中につき、皇太后を除く皇族との間に御使・贈答はなく、酒饌並びにお祝御膳の供進もお取りやめとなる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、久宮御誕生録、重要雑録、貞明皇后実録正本、河井弥八日記、奈良武次日記

十四日 木曜日 午前、大正天皇御遺物下賜のお礼言上のため参殿の鳩彦王と御対面になる。続いて参殿の故依仁親王妃周子、守正王・同妃伊都子、故成久王妃房子内親王と順次御対面になる。午後には奥内謁見所において正二位柳原愛子に謁を賜う。その後は、折から参殿の故恒久王妃昌子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、朝香宮奥日誌、故李王一年祭につき、皇后宮使として朝鮮総督府学務局長李軫鎬を差し遣わされる。○皇親録、宮内省省報、官報

十五日 金曜日 権殿御拝並びに皇太后の御機嫌伺いのため、午後一時五十分御出門、成子内親王を伴われ宮城に行啓される。権殿に御拝の後、皇太后と御対面になる。四時三十分宮城を御出門、還御される。○女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、河井弥八日記

十六日 土曜日 午前、参殿の元皇后宮女官長島津治子に謁を賜い、大正天皇御遺物下賜によるお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌

十七日 日曜日 午後、天皇と共に、参殿の宣仁親王と御対面になり、大正天皇御遺物下賜によるお礼言上をお受けになる。○女官日誌、内舍人日誌

十九日 火曜日 午後、今般第一遣外艦隊並びに旅順海軍無線電信所へ状況実視のため御差遣の侍従武官小山田繁蔵に謁を賜い、令旨を下される。現地で伝達された令旨は次のとおり。

皇后陛下ニ於カセラレテハ司令官以下隊員一同ノ風土異ナル地方ニ於ケル勤務ヲ深ク御心ニ懸ケサセラレ暑サモ追々加ハル折柄一層衛生ニ注意シ身体ヲ大切ニスル様又傷病者ハ能ク勞ハリ遣ハス様申伝ヘヨトノ令旨ニ被為在

小山田武官は二十日出発、五月十七日帰京、十八日に復命する。○女官日誌、侍従職日誌、典式録、恩賜録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、公文備考

二十二日 金曜日 昨二十一日金沢市において発生^御の火災に対し、天皇・皇后より御救恤として金一封を石川県へ下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十四日 日曜日 午前、大正天皇御遺物拝領に対^兄するお礼言上のため朝融王^御参殿につき、天皇と共に御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

正午、天皇と共に広芝へお出ましになり、御茶屋において、ゴルフ競技に参加の侍従・侍従武官・侍医及び皇后宮女官等と御昼餐を共にされる。午後一時三十分、皇太后の御使として典侍正親町鍾子参苑につき、天皇と共に御茶屋において謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 火曜日 権掌侍富田算子去る二十三日死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。これより先、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして花卉・菓子料を下賜される。○女官日誌、

昭和二年五月

贈賜録、進退録、恩賜録

二十八日 木曜日 午後、皇后宮女官竹屋志計子を宮城に差し遣わされ、皇太后に大正天皇御遺物拝領のお礼をお申し入れになる。○女官日誌、侍従職日誌

二十九日 金曜日 天長節につき、午前、奥内謁見所において内大臣・宮内大臣・宮内次官・侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・皇太后宮大夫ほかより拝賀をお受けになる。この年は諒闇中により、儀式等はお取りやめになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記、奈良武次日記

三十日 土曜日 午後、朝鮮より帰京の李王垠・同妃方子女王参殿につき、天皇と共に御対面になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、王公族録、宮内省省報、河井弥八日記

この月 自今、外国駐劄大使公使夫妻の初度赴任の節には、拝謁の有無にかかわらず、天皇・皇后より本人に御紋付銀巻蓑箱を、皇后より夫人に御紋付象牙扇子を下賜することとなる。○贈賜録 例規録

五月

四日 水曜日 天皇と共に表御食堂に出御され、載仁親王・故依仁親王妃周子と御晚餐を御会食にする。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

五日 木曜日 午前、憲法記念館において日本赤十字社第三十五回通常総会挙行につき、御名代として鳩彦王妃允子内親王を差し遣わされ、次の令旨を下される。

日本赤十字社第三十五回通常総会ヲ開催スルニ方リ諸員ニ告ク

本社ノ基礎ハ淺ク固ク其事績亦益顕揚スルヲ得タリ殊ニ昨秋ニ於テ第二回東洋赤十字會議ヲ主催

シ参列各国トノ間連盟ヲ鞏固ナラシメ之カ目的ヲ達成セルアリ又今春丹後地方ノ震災ニ際シ時宜
ヲ謬ラス能ク万般ノ救護ニカメ本社ノ責務ヲ全クシタルハ洵ニ満足ニ勝ヘス各員宜シク奮励ヲ加
ヘ愈社業ノ進展ヲ期セヨ

後刻、允子内親王より復命を受けられる。ついで同社総裁載仁親王と御対面になり、御名代御差遣へ
のお礼言上を受けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、皇親録、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌、河
井弥八日記、日本赤十字社史続稿、事業年報（日本赤十字社）

午後、稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、近く開催の愛国婦人会通常総会に御名代として御差遣の
お礼を受けられる。○女官日誌

東京帝国大学理学部教授今村明恒・同山崎直方より「北丹地方ノ地震ニ就テ」と題する講話を天皇と
共にお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、奥丹後震災誌

六日 金曜日 午前、皇后宮職嘱託加藤虎之亮<sup>武蔵高等
学校教授</sup>より漢文の進講をお聴きになる。○女官日誌

七日 土曜日 午前、憲法記念館において愛国婦人会第二十六回通常総会挙行につき、御名代として
稔彦王妃聡子内親王を差し遣わされ、次の令旨を下される。

愛国婦人会第二十六回総会ヲ開催スルニ当リ諸員ニ告ク

本会ノ事業ハ年ト俱ニ進展シ各般ノ施設亦愈整備スル所アリ本部並ニ支部ヲ通シテ其成績ノ顕焉
ナルヲ致セルハ諸員努力ノ効シ、所ニシテ満足ニ堪ヘス宜シク時勢ノ進運ニ鑑ミ益之カ実績ヲ挙
ケムコトヲ期セヨ

後刻、聡子内親王より復命をお受けになる。ついで同会総裁故依仁親王妃周子と御対面になり、御名

代御差遣へのお礼言上を受けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、皇親録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、愛国婦人会四十年史

九日 月曜日 午前、工学博士子爵大河内正敏^{理化学研究所長}より「我邦天然資源補充ノ方法ニ就テ」と題する講話を、天皇と共にお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、奈良武次日記、河井弥

八日記

十二日 木曜日 午後、東内謁見所において、東京帝国大学理学部助教坪井誠太郎の講話「火山熔岩の相互関係」、中央気象台技師理学博士藤原咲平の講話「地形の渦巻と地面の割目」を天皇と共にお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、奈良武次日記、河井弥八日記、奥丹後震災誌

去る三月九日、千葉県犬吠埼沖合において鹿兒島県立商船水産学校練習船霧島丸が遭難、乗組員五十三名全員が行方不明となる。この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を文部大臣に下賜される。

○恩賜録、宮内省省報、官報

十三日 金曜日 午前、皇后宮職囑託加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。○女官日誌

昨十二日に長野県西筑摩郡福島町において発生した火災により甚大な被害を受けた同県に、この日、天皇・皇后より特に御救恤として金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十六日 月曜日 午前、文学博士三上参次より「聖徳涵養ニ関スル維新元勳ノ事蹟」と題する講話を天皇と共にお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、三上参次御進講案

十七日 火曜日 今般支那駐屯部隊へ御差遣の侍従武官蓮沼蕃に対し、この日、皇后宮大夫を通じて令旨を下される。現地で伝達された令旨は次のとおり。

皇后陛下ニ於カセラレテハ軍司令官始メ一同永ク守備ノ勤務ニ服シ嘸ソ苦勞モ多イコトアラフ
暑サニ向フ折柄各自一層身体ヲ大切ニスル様宜敷申伝ヘヨトノ令旨ニ被為在

蓮沼武官は二十日出発、六月七日に帰京し、同十三日復命する。○女官日誌、典式録、進退録、恩賜録、侍従武

官府歴史、宮内省省報、官報

十九日 木曜日 午後、皇后宮職囑託加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。○女官日誌

二十二日 日曜日 午前、李王垠・同妃方子女王参殿につき、天皇と共に御内儀において御対面になり、翌日より渡欧のため暇乞いをお受けになる。なお翌日の出発に際しては、勅使並びに皇后の御使として侍従本多猶一郎をその邸に差し遣わされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、王公族録、宮

内省省報、官報

二十三日 月曜日 午前、天皇と共に、帝国学士院会員徳富猪一郎より「維新史考察ノ前提」と題する講話をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十四日 火曜日 午前、宮内省御用掛山本信次郎をお相手にフランス語を練習される。以後、翌月

二十八日までの間、火曜日午前を中心として練習される。○女官日誌、侍従職日誌

二十五日 水曜日 正午前、鳩彦王妃允子内親王参殿につき御対面になり、鳩彦王への病氣お尋ねに
対するお礼言上を受けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、朝香宮奥日誌

二十七日 金曜日 午前、皇后宮職囑託加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。○女官日誌

二十八日 土曜日 午後、これまで葉山行啓の際に御自身にて採集され、天皇が整理された貝類の標
本を、側近一同に披露されるため、広芝御茶屋において茶会を催される。御茶屋内の装飾は御自身の

昭和二年六月

思召しにて選定され、床の間には乃木大将の遺墨の軸が掛けられ、黄菖蒲が活けられ、貝類標本の箱が台に並べられる。午後三時、天皇がゴルフの帰途お立ち寄りになり、同刻、皇后もお出ましになり、お召しの側近高等官一同に対し貝類標本を披露される。その後、芝生上にて一同と茶菓をお召しになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、重要雑録、河井弥八日記、奈良武次日記

イタリア国特命全権大使ジュリオ・デツラ・トツレ・デイ・ラヴァンニヤの息女アンナ近く結婚につき、皇后宮職御用掛高木多都雄を大使宿泊の帝国ホテルに差し遣わされ、御紋付金蒔絵桜模様提篋笥を賜う。○侍従職日誌、外交贈答録、贈賜録

三十日 月曜日 午前、天皇と共に、先般帝国学士院恩賜賞受賞の文学博士加藤繁より「唐宋時代ニ於ケル金銀ノ研究」と題する講話をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、河井弥八日記

午後、守正王妃伊都子参殿につき、奥内謁見所において御対面になり、喪明けにつき挨拶を受けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、官報

生物学御研究室の畑にお出ましになり、蚕を御覧になる。なお、この月より生物学御研究室において、発育過程等を御観察の目的にて、蚕の小石丸及び支欧一代雑種が特殊御研究用として毎年継続して飼育されることとなる。○女官日誌、侍従職日誌、御生研沿革史

六月

二日 木曜日 午後、日本銀行総裁井上準之助より「財界ノ現況ニ就テ」と題する講話を天皇と共に

お聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、河井弥八日記

三日 金曜日 午前、皇后宮職嘱託加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。○女官日誌、河井弥八日記

六日 月曜日 午前、文学博士三上参次より「御儉徳二関スル明治天皇ノ御事蹟」と題する講話を天

皇と共に聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、三上参次御進講案

八日 水曜日 午後、奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になる。親王妃より天皇・皇

后それぞれに東伏見宮蔵版『依仁親王』の献上がある。○女官日誌、内舍人日誌

御夕食後、天皇と共に瓢箪池畔にお出ましになり、官幣大社氷川神社より献上蛸石山寺貫主 鷺尾光遍よをお放ちになる。二十日にも蛸をお放ちになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

東京帝国大学医学部附属医院塩田外科にて盲腸炎の手術を受ける鳩彦王に、この日、天皇・皇后よりお尋ね

として新宿御苑産の草花・果物を御贈進になる。○女官日誌、内舍人日誌、贈賜録、皇族身分録、朝香宮奥日誌

九日 木曜日 去る五月下旬の南洋庁管下パラオ島コロール地方における暴風雨の被害に対し、御救

恤として天皇・皇后より金一封を同庁へ下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十一日 土曜日 去る七日、北海道北見国紋別郡興部村において発生した火災の被害に対し、この日、

天皇・皇后より御救恤として金一封を北海道庁へ下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十五日 水曜日 御夕食後、天皇と共に望遠鏡にて月蝕観測を行われるが、折悪しく曇天のため御中

止になる。○女官日誌、侍従日誌

十七日 金曜日 午後、元皇后宮女官長島津治子に謁を賜い、ビーズ織物について指導を受けられる。

○女官日誌

二十一日 火曜日 午後、正二位柳原愛子参殿につき、謁を賜う。○女官日誌

東京慈恵会において総会開催につき、博恭王妃経子を御名代として差し遣わされる。夕刻、経子参殿につき御対面になり、復命を受けられる。ついで同会総裁故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、皇族御差遣のお礼言上をお受けになる。なお、総会開催に当たり、東京慈恵会医院の入院患者にお菓子料を下賜される。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

今回の支那擾乱に伴い派遣された陸海軍部隊の軍人その他の者にして、失眼または手足切断等の者に対し、思召しをもって義眼・義手・義足を下賜される。○贈賜録、密大日記付属書類山東出兵綴

二十四日 金曜日 この日、皇太后より御世襲の御装飾品及び銀貨を譲り受けられる。午後、皇太后御使の皇太后宮大夫入江為守に謁を賜い、皇太后の御口上をお聞きになる。ついで別室において皇太后宮事務官西邑清の説明により、御冠・御頸飾・御指輪を始めとする品々を御覧になる。その後、天皇も入御につき御一緒に御覧になる。皇太后にお礼のため、皇后は皇后宮大夫河井弥八を差し遣わされる。また、二十八日には皇太后御使の掌侍吉見光子に謁を賜い、昭憲皇太后御着用の大礼服・中礼服・外套、皇太后御着用の外套その他洋装品等を譲り受けられる。○女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、例規録、

貞明皇后実録正本、河井弥八日記

二十七日 月曜日 午前、天皇と共に東内謁見所において、文学博士桑田芳蔵東京帝国大学文学部教授より「童話ノ心理」と題する講話をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十九日 水曜日 午前、今般病氣全快につきお礼言上のため参殿の鳩彦王に御対面になる。○女官日誌

誌、侍従日誌、内舎人日誌、朝香宮奥日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般欧州より帰国の宮内省御用掛栗山重信東京帝国大学
医学部教授に謁を賜

う。○女官日誌、侍従日誌

午後四時頃より奥内謁見所前の広場に天皇と共にお出ましになり、望遠鏡にて日蝕を観測される。○

女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

七月

一日 金曜日 午前、皇后宮職嘱託加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。○女官日誌

本日付をもって皇后宮女官山岡淑子が皇子御養育掛を命じられる。この度の辞令は、皇子御養育に関する臨時女子職員職制内規の新設、照宮御養育に関する臨時職員職制内規の廃止に伴うものである。

○進退録

十一日 月曜日 午前、東内謁見所において宮内省御用掛栗山重信東京帝国大学
医学部教授より「欧米各国小供ノ躰

方並ニ児童保護事業ニ就テ」と題する講話を天皇と共にお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、

河井弥八日記

夕刻、故成久王妃房子内親王と御対面になり、一般の美年子女王・多恵子女王への病氣お尋ねに対するお礼言上を受けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録

十二日 火曜日 午前、この日塩原御用邸へ向け出発する成子内親王より暇乞いの挨拶を天皇と共にお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

十六日 土曜日 午前十一時三十分、皇太后が赤坂離宮へ行啓につき、御休所において御対面になる。それより御一緒に表内謁見所に進まれ、お待ち受けの天皇と御歓談になる。ついで西二ノ間^{孔雀}において、お揃いにて御昼餐を御会食になる。皇太后は午後二時退出される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十九日 火曜日 午後、今般沼津へ旅行の崇仁親王参殿につき、御内儀において天皇と共に御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、贈賜録

今般新潟県赤倉より帰京の邦彦王・同妃侘子参殿につき、天皇と共に御対面になる。王・同妃より皇后に妙高山の高山植物の鉢植え等が贈られる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内省省報

二十七日 水曜日 この日、皇子誕生式中着帯の儀が行われる。午前八時五十分、帯親である載仁親王の御使として閑院宮付事務官浮田郷次が帯を捧じて赤坂離宮に参殿し、これを皇后宮大夫河井弥八に伝える。皇后は便殿^{西内謁見所}において、皇后宮女官竹屋志計子より御帯の披露を受けられる。その後、

桂袴^{諫閣中につき}を御着用^{喪服}をお召しになり、便殿^{旧奥御食堂}に出御される。続いて天皇がお出ましになり、着帯の儀が行われる。終了後、天皇と共に西内謁見所において、内大臣牧野伸顕・宮内大臣一木喜徳郎・侍従長珍田捨巳・侍従武官長奈良武次・皇后宮大夫河井弥八以下に謁を賜う。ついで載仁親王と御対面になり、恐悦言上を受けられる。その後、皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜う。なお、従来、御帯は御調製の上、帯親に賜うところ、この度は帯親において調達すべきものと解し、先例を改め閑院宮において調達される。

着帯に際し、天皇と鮮鯛代料をお取り交わしになる。これとは別に天皇より皇后に中啓ほか六品の御贈進がある。皇太后へは天皇・皇后より皇后宮女官津軽理喜子を御使として七種交魚を御贈進になり、皇太后から典侍竹屋津根子を御使として七種交魚の御贈進を受けられる。

諒闇中につき、この日の賢所皇靈殿神殿に着帯奉告の儀には御代拝等なく、掌典部限りにて行われる。

これとは別に、午前、皇后宮女官津軽理喜子を宮城に差し遣わされ、御奉告のため権殿の御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇親録、儀式録、久宮御誕生録、貞明皇后実録

正本、宮内省省報、官報

夕刻、昨日付をもって野戦重砲兵第三旅団長に転出の元侍従武官西義一、同じく歩兵第一聯隊付に転出の元侍従武官大島陸太郎参殿につき、謁を賜う。○女官日誌、贈賜録、宮内省省報、官報、奈良武次日記

二十八日 木曜日 朝、成子内親王と共に、この日より豊後水道沖の聯合艦隊戦闘射撃及び小笠原・

奄美諸島を御視察のため行幸される天皇をお見送りになる。○女官日誌、侍従日誌、宮内省省報、官報

三十日 土曜日 午後、今般海軍砲術学校普通科学生教程を卒業して軍艦比叡乗組に転補となり、この日赴任のため出発する宣仁親王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎

人日誌、贈賜録、官報、河井弥八日記

八月

四日 木曜日 夕刻、皇后宮大夫河井弥人に謁を賜い、同人が東京府知事平塚広義より聴取した小笠原島における天皇の御動静、島民歓喜の状況についての説明をお聞きになる。○女官日誌、侍従職日誌、河

昭和二年八月

井弥八日記

五日 金曜日 皇后宮大夫河井弥八より、子爵渋沢栄一・文部省普通学務局長関屋竜吉から米国より寄贈の人形に対する皇后の恩遇へのお礼言上があつたことをお聞きになる。併せて、代表人形を住まわせる日本家屋の模型が写った写真帖等が献上される。皇后は、渋沢・関屋に労いのお言葉を賜い、その伝達を河井に命じられる。翌六日午後、写真帖を御覧になる。なお、十一月に日本側から米国に對し答礼人形が贈られ、それに際して皇后より日本国際児童親善会に金一封を下賜される。また、米国側世話人より皇后へのお礼伝達を願う宮内大臣宛書翰十一月九日付が寄せられ、後日これを御覧になる。○

女官日誌、侍従職日誌、重要雜録、河井弥八日記、社会教育事始め、青い目の小さな大使、青い目の人形、国立科学博物館百年史

十日 水曜日 午後四時五十五分、豊後水道沖の聯合艦隊戦闘射撃及び小笠原・奄美諸島の御視察より還幸された天皇をお出迎えになる。○女官日誌、宮内省省報、官報

十一日 木曜日 午前、新任の侍従武官陸軍少将瀬川章友に謁を賜う。○女官日誌、宮内省省報、官報、奈良

武次日記

十五日 月曜日 午後、天皇と共に、この日塩原より帰京の皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、同地滞在中の成子内親王の様子をお聞きになる。○女官日誌、河井弥八日記

二十二日 月曜日 午後、内大臣牧野伸顕参殿につき、奥内謁見所において謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、牧野伸顕日記

二十五日 木曜日 午後、奥内謁見所において、今般乳人に任命された木内喜代子・八田義子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

昨夜、島根県美保関において聯合艦隊による基本演習中、軍艦衝突沈没事故が発生し多数の死傷者を出す。よってこの日、軍艦那珂に乗組の博義王に対し、天皇・皇后より侍従長を通じて電報にてお見舞いになる。また後日、天皇・皇后より事故の負傷者に菓子料を、死亡者に祭葬料を賜う。○侍従職日誌、重要雑録、恩賜録、宮内省省報

先般フイリピン大学農科大学英語部長米国婦人エマ・サレプタ・ユールより、同人著書 *Stories from Japanese History* が天皇・皇后・皇太后に各一部ずつ献上される。よって、この日天皇・皇后より外務大臣に謝意伝達を命じられる。○外交贈答録

昨月中旬の台湾総督府管内における暴風雨の被害に対し、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府へ下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十六日 金曜日 夕刻、伺候ノ間にお出ましになり、昨日二十五日に横山大観より献上された「朝陽靈峯」の屏風^{六曲}_{一雙}を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、横山大観の時代

二十七日 土曜日 午後、侍従野口明に御自ら描かれたパステル画をお見せになり、種々説明をお聞きになる。パステル画は昨日十七日、野口より習われたもので、以後、折に触れ植物の写生等を試みられ、この日の披露に及ぶ。○女官長日記、女官日誌

崇仁親王が塩原御用邸より帰京参殿につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

二十九日 月曜日 乳人補充員として桜井ムメ・榎本シンの両名が任命される。○侍従職日誌、河井弥八日記

三十日 火曜日 オランダ国皇帝ウイルヘルミナ翌三十一日お誕生日につき、この日、天皇・皇后より祝電をお送りになる。九月一日には答電が寄せられる。以後、昭和十六年まで毎年、同国皇帝のお誕生日に際し天皇・皇后より祝電をお送りになる。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

宣仁親王が、この日、芝区高輪西台町一番の高輪御料地内へ移転する。○皇族身分録、宮内省省報、官報

九月

一日 木曜日 震災記念日につき、午前十一時五十八分に黙禱をされる。○女官日誌

五日 月曜日 宮中顧問官陸軍軍医監西郷吉義元侍医頭昨日死去につき、天皇・皇后より祭資を賜う。これに先立ち、同人の病気に対しては天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を賜う。○進退録、恩賜録、贈賜録、

宮内省省報、官報

六日 火曜日 夕刻、塩原御用邸より帰京の成子内親王に、天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

高知県下における昨月下旬の暴風雨被害に対し、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県へ下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

九日 金曜日 夕刻、天皇と共に皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、先般採用の乳人八田義子の辞表提出、並びに桜井ムメの補充をお許しになる。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

十日 土曜日 午前二時三十分頃より御出産の兆候があり、その後産殿にお入りになり、四時四十二分、内親王第二皇女を御出産になる。七時三十分頃、御産室にて天皇と御対面になる。

十時より内親王へ御剣を賜うの儀が行われる。勅使として侍従長珍田捨巳が赤坂離宮に差し遣わされ、便殿にて聖旨を皇后宮大夫河井弥八に伝宣し、皇后宮女官を経て内親王に御剣・御袴を賜う。御夕食後、御産室において邦彦王・同妃侃子と御対面、お喜びをお受けになる。

内親王誕生につき、天皇・皇后より皇后宮大夫兼侍従次長河井弥八を御使として宮城の皇太后の許に遣わされ、天皇・皇后それぞれより七種交魚代料を御贈進になる。なお、内親王誕生の御奉告のため、河井に権殿御代拝を仰せ付けられる。皇太后より御使として典侍正親町鍾子が差し遣わされ、天皇・皇后に五種交魚の御贈進がある。また十三日には、天皇・皇后より誕生した内親王に童形服を御贈進になる。十五日には内親王の印章が「雛鶴」と治定される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、皇親録、儀式録、久宮御誕生録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

内親王誕生に際し、ペルー国大統領アウグスト・ベルナルディーノ・レギアより天皇・皇后へ祝電が寄せられ、天皇・皇后はこれに対し答電を御發送になる。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

十一日 日曜日 午前、産殿において天皇と御対面になり、御談話を交わされる。天皇は、その後も折に触れて産殿にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌

去る五日第二女子^子を出産した三条西信子に、七夜に当たるこの日、緋紋縮緬・三種交魚代料を下賜される。○女官長日記、贈賜録

十六日 金曜日 午前七時十分、青山御所寒香亭側において、去る十日に誕生した内親王の御胞衣埋納の儀が行われる。九時三十分、赤坂離宮浴殿において浴湯の儀が行われる。皇后宮女官山岡淑子の奉仕により内親王が浴殿に入り、浴殿外において東京帝国大学教授服部宇之吉が読書を、従三位子爵

細川立興及び正四位子爵井伊直方が鳴弦を務める。

その後、命名の儀が行われる。赤坂離宮において、宮内大臣一木喜徳郎が天皇の旨を承けて宸筆の名記を勅使侍従長珍田捨巳に授ける。勅使は名記を皇后宮大夫河井弥八に授け、大夫はこれを皇后宮女官竹屋志計子に付して内親王に奉る。内親王は祐子さちこと命名され、久宮ひさのみやと称する。また、賢所皇靈殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われる。この日、天皇より七種交魚代料・初衣を、皇后より七種交魚代料・初衣を祐子内親王に御贈進になる。皇太后より御使として掌侍吉見光子が差し遣わされ、天皇・皇后に七種交魚が贈られ、また、天皇・皇后より御使として皇后宮大夫河井弥八を差し遣わされ、天皇・皇后それぞれより皇太后に七種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、久宮御誕生録、皇親録、祭祀録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

この月中旬の熊本・長崎両県下における暴風雨被害に対し、この日、天皇・皇后より御救恤として熊本県・長崎県へそれぞれ金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 陸軍大將子爵大迫尚敏元学習院長、元東宮御学問所評議員 昨日死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜さ

れる。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十三日 金曜日 午後、本日付にて侍医頭を退任する入沢達吉に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、恩賜録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十六日 月曜日 午後、この度退任する梅林寺こう・坂田あきの両助産婦に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌、河井弥八日記

十月

五日 水曜日 この日、雍仁親王は赤坂離宮内に新築の御殿表町御殿に移転につき、天皇・皇后より侍従岡本愛祐を御使として差し遣わされ、三種交魚等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

九日 日曜日 この日、御床払いにつき、天皇と御昼餐を御会食になる。午後一時五十分、お一方にて奥内謁見所において、内大臣牧野伸顕・宮内大臣一木喜徳郎・宮内次官関屋貞三郎・侍従長珍田捨巳等のほか、赤坂離宮勤務の高等官に謁を賜う。夕刻、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜う。御夕餐も天皇と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記、奈良武次日記

十日 月曜日 午前、奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王より御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十一日 火曜日 これより先、昨年来日したシャム国皇族シップパン女王より、同国の家屋を写した特装写真帖及び書翰が贈られる。これに対し、本日付にて答翰をお送りになる。○外交贈答録、重要雑録

十三日 木曜日 本日付にて外務大臣官房人事課長より式部職儀式課長に対し、日本・イタリア両国皇室間における皇太后及び皇后のお誕生日に際しての親電交換を今後は廃止する旨が伝えられる。従来、イタリア国皇太后マルゲリータ及び昭憲皇太后の皇后時代よりの慣行として、日伊両国皇太后及び皇后のお誕生日には両皇室間にて親電の交換がなされていたが、マルゲリータ皇太后の崩御以来、両皇室における御服喪の関係によりこの親電交換は事実上中止されていた。日本の皇室において、外国の皇太后及び皇后のお誕生日に親電を送るのはイタリア国に対してのみであることから、この年の

昭和二年十月

五月以降、両国宮内省が外務省を通じて意向を確認し、廃止の決定に至った。○外交慶弔録、例規録

十四日 金曜日 午後、天皇と共に、祐子内親王誕生のお喜びのため参殿した載仁親王妃智恵子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 土曜日 午後、故依仁親王妃周子・邦英王参殿につき、奥内謁見所において御対面になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十日 木曜日 御朝食前、海軍特別大演習御統裁のため本州南岸付近及び南方海面に行幸の天皇を、成子内親王と共に御玄関までお見送りになる。また、御使として皇后宮大夫河井弥人を横須賀軍港まで差し遣わされ、午後には河井大夫より復命を受けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十二日 土曜日 この日より二十四日まで、歌舞伎座において帝国水難救済会の慈善演劇会が開催される。これに先立ち、同会に金員を賜い、慈善券をお買い上げになる。慈善券は同会に返付される ○贈賜録

二十三日 日曜日 午後零時二十九分、朝融王妃知子女王が東京帝国大学医学部附属医院において第二王女を出産する。この日、皇后宮女官竹屋志計子を久邇宮邸に差し遣わされ、邦彦王・同妃侃子、朝融王・同妃知子女王にそれぞれ三種交魚代料を御贈進になる。誕生した王女は、七夜に当たたる二十九日、朝子と命名される。あさこ命名当日に、天皇・皇后より御使として皇后宮女官津軽理喜子を差し遣わされ、五種交魚・白羽二重を知子女王に御贈進になる。○女官日誌、侍従職日誌、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十四日 月曜日 御夕餐後、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、かねてより病気の故貞愛親王妃利子

女王が重体である旨の報告をお受けになる。天皇・皇后よりお尋ねとして、侍従黒田長敬・侍医高橋信を伏見宮別邸に差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。後刻、皇后は兩名より復命をお受けになる。利子女王はこの日午後七時四十五分薨去する。翌二十五日、弔問のため皇后宮使として皇后宮女官竹屋志計子を伏見宮別邸に差し遣わされ、二十九日には天皇・皇后より祭資を賜う。十一月一日、皇后より櫛を賜い、夜の霊代安置の儀には皇后宮使として皇后宮事務官木下道雄を伏見宮別邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。

利子女王は故幟仁親王第四王女として生まれ、明治九年十月六日貞愛親王妃となり、邦芳王・昭徳王を儲けた。享年七十。○女官日誌、侍従職日誌、当直日誌、皇親録、墓誌銘録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十五日 火曜日 この日還幸される天皇のお出迎えのため、御使として皇后宮大夫河井弥八を横須賀軍港に差し遣わされる。午後五時、赤坂離宮に還幸の天皇をお出迎えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、宮内省省報、官報、河井弥八日記

枢密顧問官有松英義昨二十四日死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十七日 木曜日 午前、大聖寺門跡の石野慈栄・大聖寺門跡の花山院慈薰参殿につき、謁を賜う。

○女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

十一月

二日 水曜日 午前、故貞愛親王妃利子女王の斂葬当日枢前祭の儀につき、皇后宮使として皇后宮事

昭和二年十一月

務官岡本愛祐を伏見宮別邸へ差し遣わされ、玉串をお供えになる。その後、葬送につき、皇后宮使として岡本事務官を葬場^{豊島岡墓地}へ差し遣わされ、玉串をお供えになる。十二月十二日の五十日祭には権舎並びに墓所へ皇后宮使として岡本事務官を差し遣わされ、玉串をお供えになる。また天皇・皇后より霊前に盛菓子^{菓子}を、墓前に榊を賜う。○侍従職日誌、皇親録、宮内省省報、官報

七日 月曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、故利子女王の忌明けにつきお礼言上のため参殿の博恭王・同妃経子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 金曜日 午後、公爵西園寺公望参殿につき、奥内謁見所において謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記、奈良武次日記

午後一時四十五分御出門、宮城に行啓される。御到着後、直ちに権殿に御拝になり、続いて御内儀において皇太后と御対面、種々御談話になる。四時還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十三日 日曜日 御朝餐前、愛知県下における陸軍特別大演習御統裁のため行幸の天皇を、成子内親王と共に御見送りになる。○女官日誌、宮内省省報、官報

十八日 金曜日 この日、皇太后が宮城より青山東御所^{皇子御殿を当月一日付にて改称}に御移転になる。よつて午前、御使として皇后宮女官竹屋志計子を差し遣わされる。午後、皇太后の御使として皇太后宮事務官西邑清参殿につき、謁を賜う。皇太后御移転につき、天皇・皇后より七種交魚・菓子・お重の内を御贈進になる。皇太后より天皇へ万那料、皇后へ三種交魚を御贈進になる。○女官日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十一日 月曜日 祐子内親王を伴われ、午後三時十五分自動車にて御出発、青山東御所にお出ましになる。御到着後、雍仁親王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御一緒に、皇太后と御歓談になる。○女官日誌、侍従職日誌、行啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本

二十二日 火曜日 午前、表謁見所において、朝鮮軍司令官金谷範三・台湾軍司令官田中国重・関東軍司令官村岡長太郎に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

夕刻、名古屋より還幸の天皇をお出迎えになる。○女官日誌、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十四日 木曜日 午前、一昨日台湾より帰京の鳩彦王参殿につき、天皇と共に御対面になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報、朝香宮奥日誌

二十五日 金曜日 午前十時御出門、宮城に行啓される。御到着後、権殿に御拝になり、同三十分還御される。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

午後、天皇と共に御徒歩にて、お庭伝いに青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。○女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

二十九日 火曜日 午後、奥内謁見所において、この日権掌侍より皇后宮女官に転任の万里小路ソデ、権命婦より皇后宮女官に転任の北村民枝に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、進退録、河井弥八日記

午後五時三十分、天皇と共に自動車にて御出発、秩父宮邸^{表町御殿}に行啓される。御殿には故恒久王妃昌子内親王・宣仁親王・崇仁親王も参着にて、一同と御夕餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、行幸録

昭和二年十二月

十二月

一日 木曜日 午後、奥内謁見所において、この度宮内省御用掛を退任の海軍少将原政二郎天皇の軍事学進講担当に謁を賜う。引き続き、後任の宮内省御用掛を拜命の海軍中将野村吉三郎に謁を賜う。○女官日誌、進退録、

侍従武官府資料、宮内省省報、官報、河井弥八日記

三日 土曜日 午後、皇太后が青山東御所よりお庭伝いにて御参殿につき、御休所において御対面になる。続いて表内謁見所において天皇も御一緒に御対面、御談話になる。皇太后御退出の際には、皇后は成子内親王と御一緒にお庭までお見送りになる。皇太后御移転後初めての行啓につき、天皇・皇后と皇太后との間に御贈進品のお取り交わしがある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、

貞明皇后実録正本、河井弥八日記、奈良武次日記

五日 月曜日 午前、御進講室において、文学博士三上参次より「聖徳涵養二関スル維新元勲ノ事蹟」と題する講話を天皇と共に聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、三上参次御進講案

六日 火曜日 午前、この度侍従武官を拜命の海軍大佐山内豊中に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、官報

成子内親王の誕生日につき、天皇及び成子内親王と共に、高等官総代の宮内大臣・侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫の祝詞言上をお受けになる。その後、成子内親王と共に奥内謁見所において、皇后宮女官一同の祝詞言上をお受けになる。なお諒闇中につき、誕生日の祝賀は取りやめとなる。○女官日誌、

侍従職日誌、皇子保育録、河井弥八日記、奈良武次日記

十四日 水曜日 歳末に際し、東京府・東京市後援の下、貧困者救療の目的をもって民間施療団体系が歳末診療を実施するに当たり、この日、東京府に金一封を下賜される。○贈賜録

十五日 木曜日 午後、朝鮮総督山梨半造参殿につき、謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

天皇及び成子内親王と共に、お庭伝いに青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。崇仁親王も参殿につき、茶菓を共にされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

十六日 金曜日 午後一時御出門、成子内親王・祐子内親王を伴われ、宮城に行啓される。権殿に御拝になり、引き続き御内儀の御座所・御休所を始め、謁見所・御学問所等を御覧になり、二時四十分還御される。なお、両内親王は権殿に拝礼の後、皇后に先立ち還御する。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

宮中顧問官吉田要作この日死去につき、天皇・皇后より祭資を賜う。これより先、同人病気に際しては、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○当直日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十八日 日曜日 盲腸炎治療のため東京帝国大学医学部附属医院^{塩田外科}へ入院の孚彦王に、天皇・皇后よりお尋ねとして果物を御贈進になる。○侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、皇族身分録

十九日 月曜日 午前、文学博士三上参次より「明治天皇ノ国民教育ニ就テノ御宸憂」と題する講話を天皇と共に聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十日 火曜日 午前、表内謁見所において、去る五月来任のフランス国特命全権大使ロベール・ジュール・ダニエル・ド・ビリー、去る七月来任のブラジル国特命全権大使アントニオ・ド・ブリエンヌ・フェイトーザ及び同夫人、昨年十一月来任のメキシコ国特命全権公使ホセ・ヴァスケス・スキ

昭和二年十二月

アフィーノ及び同夫人、昨月来任のルーマニア国特命全権公使アウレル・ジアン・ヴァシリユ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

この日、皇后宮女官竹屋志計子が皇后宮女官長心得を仰せ付けられる。○進退録

二十一日 水曜日 午前、近く帰国するドイツ国特命全権大使ウイルヘルム・ゾルフの夫人、及びチェコスロバキア国特命全権公使ジョセフ・スワグロウスキーに謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

向寒に際し、思召しをもって日本赤十字社病院・東京慈恵会医院・恩賜財団済生会病院の各救助収容患者及び財団法人福田会育児院収容者に対し、木綿縞・裏地・裁縫料をそれぞれ下賜される。○贈賜録、河井弥八日記、日本赤十字社史続稿、事業年報（日本赤十字社）

二十三日 金曜日 午前、久しく病氣引き籠もり中であつた皇后宮事務官兼侍従加藤泰通の病後初めての出勤につき、謁を賜う。○女官日誌、河井弥八日記

二十五日 日曜日 大正天皇一周年祭につき、午前八時四十五分御出門、天皇と共に宮城に出御される。権殿一周年祭の儀に臨まれ、天皇に続いて権殿に御拝礼になる。午前十時十五分還御される。

午後零時五十分、天皇と共に御出門、原宿駅より御乗車になり、多摩陵に向かわれる。東浅川仮駅御到着後、多摩陵御休所にお入りになる。ついで山陵一周年祭の儀に臨まれ、天皇に続いて多摩陵に御拝礼になる。四時四十分還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、大正天皇大喪録、幸啓録、

貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十六日 月曜日 諒闇明けにつき、午前、劍璽ノ間等でお祓いが行われる。またこの日、天機並び

に御機嫌伺いとして各皇族が参殿する。御喪明けにつき、天皇・皇后より皇太后に五種交魚・菓子を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、大正天皇大喪録、河井弥八日記

この日、天皇より勲一等瑞宝章の御贈進をお受けになる。○皇親録、河井弥八日記

二十七日 火曜日 この日大正天皇靈代奉遷の儀につき、午前八時十分、御靈代が権殿より皇靈殿へ移御する時刻に、天皇と共にお庭より御遙拝になる。また、権殿の儀には皇后宮女官竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。ついで皇靈殿親祭の儀につき、九時二十分、天皇と共に御出門、天皇に続いて皇靈殿において御拝礼になる。十時四十分宮城を退出され、還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、祭祀録、大正天皇大喪録、宮内省省報、官報

諒闇明けにつき、奥内謁見所において故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王より御機嫌伺いをお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

東内謁見所において、元祭官長公爵一条実孝・元祭官副長伯爵柳原義光・同伯爵清水谷実英及び伯爵壬生基義以下の元祭官、原恒太郎以下元宮城祇候元侍に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、大正天皇大喪録、河井弥八日記

二十八日 水曜日 午前、歳末祝詞言上のため参殿の雍仁親王・宣仁親王に御対面になる。ついで正二位柳原愛子に謁を賜う。柳原には思召しをもつて、生物学御研究室の稲田にてお列入のものにて御作成の花活け等を賜う。

○女官日誌、内舍人日誌

午後二時二十五分、天皇と共にお庭伝いに青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。今回は諒闇明け後初めてのお出ましにつき、天皇・皇后より皇太后へ七種交魚その他を御贈進になる。○女官日誌

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

英国特命全権大使ジョン・アントニー・セシル・ティレーの息女エリザベス近く結婚につき、皇后宮職御用掛高木多都雄を同国大使館に差し遣わされ、御紋付提篋筒を賜う。○侍従職日誌、外交贈答録、贈賜録

二十九日 木曜日 午前、先般関東長官を退任の伯爵児玉秀雄参殿につき、奥内謁見所において謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、官報

歳末祝詞言上のため参殿の載仁親王・春仁王、ついで故依仁親王妃周子にそれぞれ御対面になる。○女官日誌、内舎人日誌

三十日 金曜日 午前、歳末祝詞言上のため参殿の守正王・同妃伊都子に、奥内謁見所において御対面になる。午後には同じく参殿の故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王に天皇と共に御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

三十一日 土曜日 午前、歳末祝詞言上のため参殿の鳩彦王・同妃允子内親王、春仁王妃直子、博義王・同妃朝子とそれぞれ御対面になる。午後には博恭王・同妃経子、邦彦王・同妃幌子と順次御対面になる。また、皇太后の御使の典侍竹屋津根子に天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

一月

一日 日曜日 赤坂離宮において新年を迎えられる。午前九時、大礼服を御着用にて天皇と共に表内謁見所に出御され、宮内大臣始め赤坂離宮勤務高等官の拝賀を受けられる。同二十分、天皇と共に御出門、宮城に行啓される。十時、拝賀の儀に臨まれる。天皇と共に鳳凰ノ間において雍仁親王始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。ついで正殿において大勲位・親任官・前官札遇・貴族院議長・衆議院議長・勲一等・功一級・親任官待遇・公爵・従一位・勲一等外国人等の拝賀をお受けになる。一旦入御の後、再び天皇と共に正殿において、高等官一等・貴族院副議長・衆議院副議長・麝香間祇候・侯爵・正二位・高等官二等・功二級・錦鶏間祇候・勅任待遇・神仏各宗派管長、准勅任雇外国人等の拝賀をお受けになる。その後、西溜ノ間を通御の際、宮内奏任官・同待遇の拝賀をお受けになる。午後、天皇と共に正殿において、外国交際官・同夫人の拝賀をお受けになる。二時三十二分、天皇と共に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、官報

二日 月曜日 午前九時二十分、大礼服を御着用にて御出門、天皇と共に宮城に行啓される。拝賀の儀につき、十時、天皇と共に正殿に出御され、伯爵・従二位・勲二等・子爵・正三位・従三位・功三級・勲三等・男爵・正四位・従四位、勲二等勲三等外国人等の拝賀をお受けになる。十一時、天皇と共に千種ノ間・豊明殿・南溜ノ間・東溜ノ間・西溜ノ間において、貴族院議員・衆議院議員・高等官

昭和三年一月

三等以下、奏任待遇の神職・門跡寺院の住職・准奏任雇外国人、勲四等勲五等勲六等外国人等の拝賀をお受けになる。終わって桐ノ間において、お一方にて御裳捧持者に謁を賜う。十一時五十五分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

三日 火曜日 午前、元始祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従日誌、典式録、儀式録、宮内省省報

正午前、天皇と共に表内謁見所にお出ましになり、博英王始め学齡以上の未成年皇族・公族の拝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

午後、この日誕生日を迎えた宣仁親王参殿につき、天皇と共に御内儀において御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、高松宮日記

元侍女鈴木タカほか四名参殿につき、天皇と共に御内儀において謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

四日 水曜日 午前、成子内親王・祐子内親王と共に、久邇宮家における元奉仕者の元宮内省御用掛後閑菊野^{御学問所御教育主任}ほか二名参殿につき、謁を賜う。その後、お一方にて御学友二名に謁を賜う。○女官日誌

午後、故恒久王妃昌子内親王参殿につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 木曜日 午前、皇太后の御使として参殿の典侍正親町鍾子に謁を賜う。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を遣わされ

る。○女官日誌

新年宴会の内宴を催される。正午、孔雀ノ間において故依仁親王妃周子・博恭王妃経子・博義王妃朝子・朝融王妃知子女王・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王・故恒久王妃昌子内親王・春仁王妃直子と御対面、それより大食堂^{花鳥ノ間}にお出ましになり、午餐を御会食になる。終了後には、紅ノ間において一同と御談話になり、また茶菓を召される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、河井弥八日記

参殿の正二位柳原愛子及び旧女官の千種任子・園祥子・西西子ほかに、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、河井弥八日記

六日 金曜日 午前、先般予備役編入の陸軍大将菅野尚一参殿につき、謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、官報、河井弥八日記

成子内親王・祐子内親王と御一緒に前庭にお出ましになり、羽根突きなどをされ、これを活動写真に撮影させる。以後、この年も随時、皇女と御対面・御会食になる。○女官日誌

夕刻、崇仁親王参殿につき、奥内謁見所において天皇と共に御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七日 土曜日 午前、奥御食堂において祐子内親王の箸初の儀が行われ、天皇及び成子内親王と共に儀式の様子を御覧になる。儀終了後、侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫より祝詞言上を受けられる。祐子内親王の箸初につき、天皇・皇后より皇太后に鮮鯛を、皇后より祐子内親王に鮮鯛代料・御台人形を御贈進になる。また、内親王より皇后に鮮鯛代料の御贈進がある。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、

昭和三年一月

久宮御誕生録、貞明皇后実録正本、河井弥八日記、奈良武次日記

八日 日曜日 多摩陵^{大正天皇陵} 初御参拝として、皇后宮女官伊地知ミキを差し遣わされ、天皇・皇后の御

代拝を仰せ付けられる。以後、皇后宮女官による毎年一月八日の多摩陵御代拝が恒例となる。また、

今後、毎月二十五日に皇后宮女官を遣わされ、天皇・皇后の御代拝を仰せ付けられることとなり、こ

の月二十五日には皇后宮女官万里小路ソデを同陵に遣わされる。○女官日誌、侍従職日誌、典式録

九日 月曜日 午後、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

伯爵園基資去る六日死去につき、特に天皇・皇后より祭資を賜う。同人は明治十六年に京都宮殿勤番

に任じられ、以降は御内儀御用掛・宮内省御用掛を歴任し、昌子内親王・房子内親王・允子内親王・

聡子内親王に奉仕する。なお、翌十日には天皇・皇后より准典侍取扱園祥子^{基資の妹}に菓子を下賜される。

○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

十日 火曜日 午後、載仁親王参殿につき、天皇と共に御内儀において御対面になる。以後、この年

も皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十七日 火曜日 即位礼が十一月十日に、大嘗祭が十一月十四日より十五日にわたって行うことが定

められ、この公告に先立ち、賢所皇靈殿神殿に期日奉告の儀が行われる。午前九時御出門、天皇と共に

宮城に行啓される。御到着後、綾綺殿において御五衣・御小桂・御長袴にお召し換えになり、天皇

に続き、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。終わってお一方にて宮城を御出発、十一時二十

七分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大札要録

十八日 水曜日 午前、宮内省雇マルトウ・ド・ラ・サールの指導により、フランス語の練習をされる。以後、概ね月曜日・水曜日・土曜日を中心に、同人の指導にてフランス語の練習を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、大札録

午後二時十五分御出門、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時還啓される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

富山県射水郡新湊町米田芳太郎所有帆船栄禄丸は、昨年八月二十九日カムチャツカ海岸より小樽港へ向け出帆後行方不明となり、多数の遭難者を出す。よってこの日、天皇・皇后より逡信大臣へ御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十日 金曜日 講書始の儀につき、午前九時四十五分御出門、天皇と共に宮城に行啓される。午前十時より鳳凰ノ間における講書始の儀に臨まれる。洋書は東京帝国大学教授山崎覚次郎より「ダヴィッド・リカルドー「経済及租税ノ原理」の一節」、漢書は京都帝国大学教授高瀬武次郎より「大学三綱領」、国書は帝国学士院会員徳富猪一郎より「神皇正統記ニ就テ」と題する進講をお聴きになる。終わって、天皇は赤坂離宮にお戻りになる。皇后はお一方にて御昼食の後、紅葉山御写真場において、写真の撮影をお受けになる。二時三十五分お一方にて宮城を御出門、赤坂離宮に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、河井弥八日記、奈良武次日記

夕刻、奥内謁見所において、結婚勅許のお礼言上のため参殿した雍仁親王と御対面になる。去る十八日、雍仁親王と子爵松平保男の姪米国駐劄特命全權大使松平恒雄の第一女子の結婚が勅許される。○女官日誌、皇族身分録、両殿下御

婚儀聴許御沙汰書、宮内省省報、官報、河井弥八日記

昭和三年一月

二十一日 土曜日 午後、雍仁親王結婚勅許のお祝い言上のため参殿した故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十三日 月曜日 昨今東京市内において天然痘患者数名発生につき、午前、天皇と共に種痘を受けられる。○女官日誌、侍従日誌、河井弥八日記

午後二時御出門、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。夕刻、還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より「児童ノ心理」と題する講話をお聴きになる。以後、倉橋のこの講話は五月十八日までに合計十回実施される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、進講録、倉橋惣三関係資料、河井弥八日記

二十八日 土曜日 歌会始の儀につき、午前九時四十五分御出門、天皇と共に宮城へ行啓される。十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「山色新」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

雲の上にそひゆる富士のあらたなる姿や御代のすかたなるらむ

午後零時三十分、還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、御歌録、儀式録、進退録、宮内省省報、官報

三十日 月曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。山

陵例祭には、藪嘉根子に御代拝を仰せ付けられる。なお、孝明天皇山陵例祭及び明治天皇山陵例祭には、この年以降昭和二十年まで概ね毎年、元奉仕者あるいは宮内事務官等に御代拝を仰せ付けられる。

○侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、幸啓録、宮内省省報、官報

三十一日 火曜日 午後、奥内謁見所において、寒中お見舞いのため参殿した元皇后宮女官長島津治子・元皇后宮女官青山元子に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官日誌、侍

従職日誌

故貞愛親王妃利子女王百日祭につき、皇后宮使として権舎に皇后宮事務官木下道雄を、墓前に皇后宮事務官岡本愛祐をそれぞれ差し遣わされる。また、天皇・皇后より霊前に菓子をお供えになる。○侍従職日誌、皇親録、宮内省省報、官報

二月

一日 水曜日 午前、新任のソビエト連邦特命全権大使アレクサンドル・トロヤノフスキーに謁見を仰せ付けられる。引き続き、随員として同伴参殿の同国大使館参事官ジアン・マイスキー以下十名に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

午後、天皇と共に御徒歩にて青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

三日 金曜日 午後、関東長官木下謙次郎参殿につき、謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六日 月曜日 午前、天皇と共に表御進講室^{東控}において、文学博士三上参次^{臨時帝室編修官長}より「織田信長豊

昭和三年二月

臣秀吉徳川家康の性格に就いて」と題する講話をお聴きになる。載仁親王・故依仁親王妃周子・鳩彦王が陪聴する。また二十七日には、本講話の続きをお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、三上参次御進講案

八日 水曜日 午後、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。御所には、続いて崇仁親王・成子内親王も参殿する。夕刻、天皇・成子内親王と共に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

九日 木曜日 午後、天皇と共に小食堂^{小宴}において、ソビエト連邦特命全權大使アレクサンドル・トロヤノフスキーのための午餐に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

天皇と共に大食堂^{彩鷲}において、高橋是清より献上の『十六羅漢図』、伯爵田中光顕より献上の志士遺墨を御覧になる。なお、これらの書画は後日、宮内高等官等にも拝観が許される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十日 金曜日 午後、今般朝鮮咸鏡南北両道及び平安北道各国境の軍隊・警察官の状況実視のため差遣される侍従武官矢野機に謁を賜い、次の令旨を下される。

僻遠ノ地ニ在リテ具ニ艱難ヲ嘗メ能ク国境ノ守備及警備ノ重任ニ当ル軍隊警察官及其ノ家族ノ勞苦ハ嘸大ナランカト思フ今寒氣凜冽ノ折柄一層身体ヲ大切ニスルヤウ申伝ヘヨ

矢野は翌十一日出発、三月二十四日帰京、四月二十五日には天皇・皇后に視察内容を講話する。○女官

長日記、女官日誌、典式録、進退録、恩賜録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

皇后宮職囑託加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。以後、この年は金曜日に加藤より合計九回進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

東久邇宮付宮内事務官金井四郎去る八日死去につき、天皇・皇后より御紋付銀花瓶・金員を下賜される。また、天皇・皇后より祭資を賜う。○侍従職日誌、進退録、恩賜録、宮内省省報、官報

十一日 土曜日 紀元節につき、午前、奥内謁見所において赤坂離宮詰高等官より祝賀を受けられる。午後にも再び同所にお出ましになり、宮内大臣一木喜徳郎以下より祝詞の言上を受けられる。また、祝詞言上のため参殿の元皇后宮女官長島津治子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、典

式録

十四日 火曜日 午後、内大臣秘書官松井定克の奉仕により謡曲の御稽古を始められ、この日は羽衣の御稽古をされる。謡曲の御稽古は以後も継続して行われる。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

十五日 水曜日 午後、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

十八日 土曜日 御夕餐後、葉山御用邸より交代帰京の皇后宮女官伊地知ミキに謁を賜い、十二日以來、避寒のため同地滞在中の成子内親王の動静に関する言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

二十日 月曜日 午前、天皇と共に御内儀において、北海道旅行に出発の暇乞いに参殿した雍仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、秩父宮御側日誌、宮内省省報

二十一日 火曜日 仁孝天皇例祭につき、午前、皇后宮女官竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。また陵所において祭典が行われ、藪嘉根子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

昭和三年二月

内舎人日誌、典式録、祭祀録、儀式録、宮内省省報、河井弥八日記

二十二日 水曜日 午前、フランス国特命全權大使ロベール・ジュール・ダニエル・ド・ビリー及び今般日本に到着の同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。後刻、同所に参殿の崇仁親王とも御対面になる。夕刻、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

二十三日 木曜日 東京帝国大学医学部附属医院に入院中の孚彦王が二十日に盲腸炎の手術を終えたため、天皇・皇后よりお尋ねとして五種果物を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、朝香宮奥日誌

二十四日 金曜日 午後、鳩彦王妃允子内親王参殿につき御対面になる。内親王より、先般盲腸炎手術をした孚彦王への天皇・皇后からのお尋ねに対するお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇族身分録、贈賜録、朝香宮奥日誌

学習院卒業生総代二名に謁を賜う。両名より、祐子内親王の初節句につき木彫りの御所人形の献上がある。○女官長日記、女官日誌

二十六日 日曜日 葉山御用邸に行啓のため、午前八時三十分天皇と共に御出門、十時十五分同邸に御到着になる。御用邸滞在中の成子内親王と御対面の後、午前中は御一緒に海岸御散策・貝拾いなどにてお過ごしになり、午後はお揃いで自動車にて立石御茶屋にお出ましになり、海岸を散策される。

途中、御用邸御車寄にて内親王とお別れになり、午後四時五十分赤坂離宮に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十八日 火曜日 正午前、天皇と共に皇后宮大夫河井弥人に謁を賜う。河井より、昨日から発熱している祐子内親王のため、月末に予定されている成子内親王の葉山からの帰京を遅らせるか否かについて伺いがある。天皇は、予定どおりの帰京を御決定になる。祐子内親王の体温は、この日午前六時には三十九度六分に達する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、河井弥八日記

二十九日 水曜日 午後、天皇と共にこの日葉山より帰京した成子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。続いて成子内親王も参殿する。天皇・皇后より皇太后へ雛人形還城樂一組、羽衣一組を御贈進になる。夕刻、天皇・内親王と御一緒に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本、奈良武次日記、河井弥八日記

この月 円照寺・中宮寺・瑞竜寺・禅智院・水薬師寺・長福寺・善光寺・大聖寺・光照院・曇華院・宝鏡寺・靈鑑寺・林丘寺に乾海苔を下賜される。○贈賜録

三月

一日 木曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、侍医頭佐藤恒丸に謁を賜う。同人より祐子内親王の病状についてお聞きになり、また御下問になる。この日、祐子内親王の療養に関し、事務官及び侍医の会議が開かれ、天皇・皇后に侍医頭より毎日容体を奏上することなどが決定される。なお内

昭和三年三月

親王の病状に關し、宮内省より次のように発表される。

久宮祐子内親王殿下ニハ二月二十七日早朝御発熱アラセラレ爾來三十八度乃至三十九度ノ御熱候ヲ拜シ咽頭加答兒ト拜診シ奉ル尚予テヨリ御治療中ナリシ湿疹幾分御増進遊ハサルモ御氣先御食慾共ニ御良好ニ涉ラセラレ御心配申上クル程度トハ認メ奉ラス

來ル三月三日御催ノ御予定ナル御初節句ハ此ノ御不例ニ因リ御延期ノコトト御治定アラセラル

○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、皇親錄、久宮祐子内親王殿下薨去錄、河井弥八日記、東京日日新聞

二日 金曜日 祐子内親王不例につき、正午頃、お見舞いのため参殿の侯爵久邇邦久と、天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女官日誌

正子女王・朝子女王の初節句につき、御台人形・万那料を御贈進になる。○女官日誌、贈賜錄

三日 土曜日 正午前、邦彦王妃倪子^{御母}・朝融王妃知子女王参殿につき、御対面になる。○女官日誌、侍

從職日誌、内舍人日誌

夕刻、侍医頭佐藤恒丸より祐子内親王の容体に關する報告を、天皇と共に聞きになる。○女官長日記、

女官日誌

五日 月曜日 午前二時、天皇と共に侍医頭佐藤恒丸・皇后宮大夫河井弥八より祐子内親王容体急變の報をお聞きになり、直ちに御一緒に内親王の病室に入られ、お見舞いになる。天皇は、昨日より御不例により御仮床に就かれていたため、内親王の症状が多少和らいだ頃、御寢所にお戻りになる。皇后は引き続き、内親王の病床に留まり看護に当たられる。五時、内親王の病状に關し、宮内省より次のように発表される。

久宮祐子内親王殿下ニハ一時御症状御輕快ノ徴ヲ拝シタルモ昨日ヨリ再ヒ御体温御昇上午後九時ニハ御熱三十九度四分御脈搏一五六御呼吸四〇ニ達セラレ急ニ御衰弱遊ハサレ敗血症ヲ疑フヘキ御症候ノ加ハラセラレタルコトヲ拝シ奉ル

今朝〇時ニハ御体温三十九度御脈搏一六六御呼吸三九御重態ト拝シ奉ル

祐子内親王病勢急進につき、皇太后より典侍竹屋津根子を御使として差し遣わされる。さらに午前十一時過ぎ、赤坂離宮を訪問された皇太后と御対面になり、お見舞いをお受けになる。皇太后は、病室において内親王を御慰問になり、正午退出される。

午後、熱海より急遽帰京の邦彦王^{御父}・同妃倪子と御対面になり、天皇及び祐子内親王のお見舞いを受けられる。その後、お一方にて天皇の御病床及び祐子内親王の病室にお出ましになる。

祐子内親王の重体を受け、この日は、雍仁親王以下各皇族、國務大臣、枢密顧問官、元帥以下諸大官、各国大使・公使、旧女官等がお見舞いのため参殿する。翌日以降も同様に皇族以下多数が参殿する。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、久宮祐子内親王殿下薨去録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記、東京日日新聞

六日 火曜日 満二十五歳のお誕生日を迎えられる。

祐子内親王の不例のため、宮城への行啓及び御贈答をお取りやめになる。午前、奥内謁見所において、高等官総代として内大臣・侍従長より祝詞の言上を、続いて皇后宮女官長心得始め皇后宮女官等より祝詞の言上をお受けになる。各皇族からは祝詞の申し入れのみお受けになる。

皇后は終日、しばしば祐子内親王の病室において、御看護・御授乳等に努められる。

夜間より、祐子内親王は、脈拍が百九十六に達するなど、衰弱の傾向が再び強まる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、典式録、久宮祐子内親王殿下薨去録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

皇后のお誕生日につき、スペイン国皇帝アルフォンソ十三世及び同国皇后ヴィクトリア・イウヘニアより皇后に祝電が寄せられる。これに対し、皇后より答電をお送りになる。以後、昭和五年及び同六年にも親電を御交換になる。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

七日 水曜日 祐子内親王は午前四時の拝診の結果、改めて敗血症と診断され、同三十分、宮内省より容体と併せて発表される。

午前十時過ぎ、お見舞いのため参殿の邦彦王・同妃侘子・朝融王妃知子女王と御対面になる。午後は同じく参殿の故恒久王妃昌子内親王と御対面になる。天皇及び祐子内親王の御看護が続く中、遅い御夕餐をお召しになり、御食事終了後も、内親王の病室にて御看護に当たられる。ついで天皇も内親王を見舞うため病室にお出ましになる。

午後九時四十五分、祐子内親王の病状について宮内省より非公式として次のように発表される。

七日午後八時四十分頃御脈やゝ不良となり御危険のおそれありたるを以て早速酸素吸入並に強心的注射を奉したる結果御脈は幾分御回復あらせられ秩父宮殿下始め各皇族殿下引続き御参集相成つゝあり

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、久宮祐子内親王殿下薨去録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、東京日日新聞

八日 木曜日 祐子内親王は、午前二時頃には危険な状態となる。皇后は直ちに内親王の病室にお入りになり、看護に努められる。天皇も二時五十分、内親王の病室にお入りになる。三時三十分、祐子

内親王が危篤に陥る。皇后は母乳を綿に浸し、幾度となく内親王の口の中にお移しになる。午前三時三十八分、心臓麻痺により祐子内親王は薨去する。

祐子内親王は天皇・皇后の第二皇女として昨年九月十日に誕生し、この年一月七日に箸初が行われるなど順調に生育のところ、二月末より発熱があり、この月より敗血症の症状を発し、この日遂に薨去に至る。

午前五時より奥内謁見所において、雍仁親王始め皇族と御対面になり、御機嫌伺いを受けられる。ついで皇后宮女官一同、皇太后御使の典侍竹屋津根子にも謁を賜う。さらに宮内大臣以下側近奉仕者に謁を賜い、弔詞言上を受けられる。八時、天皇と共に故祐子内親王の病室にお入りになり、十五分ほど遺骸に付き添われる。御朝餐後、参殿の正二位柳原愛子にお一方にて謁を賜い、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になる。十一時過ぎ、成子内親王と御対面になる。ついで奥内謁見所において、故内親王に永訣のため参殿した皇太后と御対面になり、皇太后より種々慰めのお言葉を受けられる。ついで皇太后を故内親王の病室に御案内になる。午後は、邦彦王・同妃と御対面になる。また皇后宮女官津軽理喜子を青山東御所へ差し遣わされ、皇太后にお見舞いのお礼をお伝えになる。九時四十五分より、天皇と共に故内親王の病室に臨まれ、遺骸に付き添われる。天皇の御退出後、皇后は雍仁親王・昌子内親王と共に遺骸に付き添われる。

なおこの日、天皇が皇后宮大夫河井弥八に、祐子内親王喪儀の喪主を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、久宮祐子内親王殿下薨去録、皇親録、進退録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、奈良武次日記、河井弥八日記、東京日日新聞

祐子内親王の薨去に際し、英国皇帝・皇后、イタリア国皇帝・皇后、スウェーデン国皇太子・同妃より天皇・皇后に弔電が寄せられる。これに対し、天皇・皇后よりそれぞれに答電を御發送になる。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

九日 金曜日 午前、故祐子内親王の遺骸に拝礼等のため参殿の故菊麿王妃常子・藤麿王、恒憲王・同妃敏子、宣仁親王と順次御対面になる。午後、故内親王の遺骸の傍らに臨まれ、また、故成久王妃房子内親王、朝融王とそれぞれ御対面になる。その間、御機嫌奉伺等のため参殿の伯爵大谷光暢、京都在住華族総代として上京の子爵日野西資博に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

午後七時四十分より病室において故祐子内親王への拝訣の儀及び御槽入の儀が行われる。これに先立ち、故内親王と御永訣のため、天皇・成子内親王と共に約十分間、同室にお入りになる。御永訣後、天皇は入御され、続いて成子内親王が退下した後、皇后はそのまま皇族以下諸員による拝訣が終了するまで遺骸の側にお立ちになる。終わって天皇が病室に入られ、御槽入の儀が行われる。故内親王の遺骸が寝台より御槽に移され、天皇・皇后は成子内親王と共に、故内親王が愛用した人形や玩具その他の品を柩内にお納めになる。続いて諸員が御槽に物品を納めた後、天皇が御槽に御拝になり、退出される。続いて皇后が御拝になり、御退出になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、久宮祐子内親王殿下薨去録、朝香宮奥日誌、河井弥八日記、岡本愛祐関係文書

この日、故祐子内親王の喪儀を三月十三日豊島岡にて行い、墓所を豊島岡墓地とすることが定められる。○女官日誌、皇親録、上奏書類綴抄、宮内省省報、官報

十日 土曜日 午前より御風氣の天皇を看護される。午後、故祐子内親王の霊前に拝礼等のため参殿

の雍仁親王、邦彦王・同妃侃子と御対面になる。三時過ぎより四時までは天皇と共に御寝ノ間御病室において故内親王の遺骸にお付き添いになる。七時頃より天皇・成子内親王と共に同所において、柩の閉蓋を見届けられる。八時二十分より正寝移柩の儀につき、天皇・成子内親王と共に再び御寝ノ間にお出ましになり、御一緒に柩をお見送りになる。柩は輿に乗せられ、御寝ノ間より正寝ノ間彩鸞ノ間に移動、それより槨に納められ、正寝に安置される。九時三十分、皇后は天皇・成子内親王と共に正寝ノ間にお出ましになる。皇后は故内親王の産着・童形服をお手ずから槨に納められる。十一時過ぎより御通夜が行われる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、久宮祐子内親王殿下薨去録、皇親録、朝香宮奥日誌、河井弥八日記、岡本愛祐関係文書

十一日 日曜日 正午前、成子内親王と共に正寝ノ間にお出ましになり、故祐子内親王の靈柩に御拝礼になる。午後、拝礼のため参殿の邦彦王・同妃侃子・三条西信子御妹、鳩彦王妃允子内親王と御対面になる。夕刻及び夜にもお一方にて正寝ノ間にお出ましになり、靈柩に御拝礼になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

十二日 月曜日 天皇の御風気はほとんど全快となる。午後、天皇と共に正寝ノ間にお出ましになり、故祐子内親王の靈柩に御拝礼になる。皇后は天皇の入御後も十分ほど同所にお留まりになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

午後八時より靈代安置の儀執行につき、皇后御使として皇后宮女官竹屋志計子を差し遣わされ、権舎に玉串をお供えになる。儀終了後の九時五十分、天皇・成子内親王と共に正寝ノ間にお出ましになり、

遺骸にお付き添いになる。成子内親王、ついで天皇の御退下後も皇后は同所にお留まりになり、十一時五十分に退下される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、皇親録、

久宮祐子内親王殿下薨去録、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌、岡本愛祐関係文書

十三日 火曜日 故祐子内親王斂葬当日柩前祭に先立ち、午前、天皇・成子内親王と共に正寝ノ間、ついで権舎にお出ましになり、黙禱をされる。午前十一時十分からの柩前祭には皇后宮使として皇后宮女官竹屋志計子を差し遣わされ、玉串をお供えになる。午後零時三十分より霊柩発引につき、天皇・成子内親王と共に御見送りのため、旭ノ間前広間にお出ましになる。霊車が御車寄を離れた後は、お揃いにて階上に昇られ、西側廊下の窓より霊車をお見送りになる。その間、天皇は終始無言のまま凝視され、皇后は絶えず涙を拭われつつ、葬列が御視界を去るまで御見送りになる。

午後一時より豊島岡において行われる斂葬のうち、葬場の儀には皇后宮使として皇后宮女官竹屋志計子を差し遣わされ、玉串をお供えになる。五時二十五分には墓所の儀が終了する。その後、参殿した喪主河井弥八より葬儀が滞りなく終了した旨の復命を天皇と共に受けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、皇親録、久宮祐子内親王殿下薨去録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十四日 水曜日 故祐子内親王斂葬後一日祭として午前九時より権舎祭、十一時より墓所祭が執り行われる。十一時、天皇と共に一時間ほど権舎にお出ましになり、黙禱をされる。祭儀終了後、喪主河井弥八よりの復命を天皇と共に御受けになる。午後一時三十分、奥内謁見所において天皇と共に、侍従長珍田捨巳以下赤坂離宮勤務高等官に謁を賜う。その後天皇と共に、雍仁親王、故恒久王妃昌子内親王、故成久王妃房子内親王、邦彦王・同妃侃子と順次御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、河井弥八日記

故祐子内親王追福のため、思召しをもって恩賜財団慶福会に児童保護資金として金一封を下賜される。

○恩賜録、宮内省省報、河井弥八日記、恩賜財団慶福会事業概要、社会局関係事務概要

十五日 木曜日 午前、天皇・成子内親王と共に故祐子内親王の権舎に御拝礼になる。以後、御用邸への行啓中を除き、九月に宮城へ霊代を奉遷するまでの間、皇后はお一方もしくは天皇・成子内親王と共に、ほぼ毎日権舎に御拝礼になる。○女官日誌、侍従日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、天機並びに御機嫌伺いに参殿の載仁親王、故依仁親王妃周子、博恭王妃経子、故菊麿王妃常子、守正王・同妃伊都子とそれぞれ御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、河井弥八日記

十六日 金曜日 午後、天皇と共に、春季休暇のため翌日から葉山へ転地する崇仁親王と御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。ついで天皇と共に邦彦王・同妃倪子と御対面になり、この日の天皇の御床払いへの祝詞をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十七日 土曜日 故祐子内親王十日祭につき、正午前、権舎に御拝礼になる。また、天皇・皇后より権舎へ榊・菓子をお供えになる。儀終了後、天皇と共に喪主河井弥八より復命を受けられる。以後故内親王の二十・三十・四十・五十・八十日祭の各儀にも天皇・皇后より権舎・墓所へ同様のお供えをされ、また祥月命日には墓所へ色花・盛菓子を、月々の命日には墓所へ色花をお供えすることとされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、久宮祐子内親王殿下墓去録、皇親録、河井弥八日記

十八日 日曜日 午後、天皇・成子内親王と共に青山東御所へ行啓され、皇太后と御対面になる。○

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

十九日 月曜日 午前、奥内謁見所において、本日付で久宮付の乳人を免じられる木内喜代子・桜井ムメに謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

午前十時五十分御出門、天皇・成子内親王と共に豊島岡墓地に行啓される。便殿において諸陵頭杉栄三郎・内匠頭東久世秀雄・司祭長犬塚太郎・同副長二荒芳徳及び葬儀委員等に謁を賜う。それより天皇・皇后・成子内親王御同列にて故祐子内親王の墓に御拝礼になり、玉串をお供えになる。ついで杉より墓所の概況について、東久世より今回造営される故内親王の墓の構造について、それぞれ説明をお聞きになる。正午、還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、久宮祐子内親王殿下薨去録、河井弥八日記

二十日 火曜日 葉山御用邸に行啓のため、午後一時三十分天皇・成子内親王と共に御出門、三時二十五分同邸に御到着になる。御到着の際、避寒のため附属邸に滞在中の崇仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸録、宮内省省報、官報

今般陸軍士官学校予科を卒業した恒徳王に、天皇・皇后よりお悦びとしてお品・万那料を御贈進になる。○侍従職日誌、贈賜録、皇族身分録、官報

二十一日 水曜日 春季皇霊祭及び同神殿祭につき、午前、皇后宮女官竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十二日 木曜日 正午前、参邸の海軍大将竹下勇・近衛師団長長谷川直敏に謁を賜う。ついで葉山滞在中の故能久親王妃富子参邸につき、天皇と共に御対面になる。○女官日誌、行幸録、竹下勇日記、奈良武次

二十四日 土曜日 去る十八日第一女子^{美都子}を出産した大谷智子に、七夜に当たるこの日、緋紋縮緬・

三種交魚代料を下賜される。○贈賜録

二十七日 火曜日 午後、今般予備役に編入の元侍従武官海軍中将小山田繁蔵が参邸につき、天皇と共に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、官報

三十日 金曜日 女子学習院卒業式に御臨席のため、午前八時十二分お一方にて葉山御用邸を御出門、十時五分赤坂離宮に還啓される。十時三十八分御出門、女子学習院に行啓される。御到着後、便殿において春仁王妃直子・博恭王妃経子・博義王妃朝子・恒憲王妃敏子・朝融王妃知子女王・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・故成久王妃房子内親王・故恒久王妃昌子内親王と御対面になる。ついで宮内大臣一木喜徳郎・女子学習院長松浦寅三郎に謁を賜う。続いて在学する紀久子女王・美年子女王・佐和子女王・礼子女王・湛子女王・多恵子女王・李徳恵と御対面になる。それより式場に臨御される。式中、卒業証書及び修了証書・恩賜品・寄贈品の授与、院長の式辞、宮内大臣告辞、卒業生総代の謝辞、唱歌^{金剛石}がある。式が終了して御少憩後、各陳列室において学生の成績品を御巡覧になる。

午後零時三十五分赤坂離宮に還御される。御昼餐後、一時四十分御出門、青山東御所にお成りになり、皇太后と御対面になる。終わって赤坂離宮に戻られ、二時四十五分御出門、東京駅より逗子駅を経て、四時三十三分葉山御用邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、女子学習院関係資料

三十一日 土曜日 午後、海軍軍令部長鈴木貫太郎参邸につき、天皇と共に謁を賜う。○侍従日誌、行幸

四月

二日 月曜日 午前、恒憲王・同妃敏子参邸につき、天皇と共に御対面になり、御機嫌伺いを受けられる。恒憲王はこれまで騎兵第三聯隊中隊長として名古屋に仮寓のところ、先月一日付をもって騎兵第三聯隊付として参謀本部勤務を命じられ、先般帰京する。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、皇族身分録、宮内省省報、官報

内大臣牧野伸顕の夫人峰子参邸につき、成子内親王を伴われ謁を賜う。○女官日誌、河井弥八日記

三日 火曜日 神武天皇祭につき、午前のお出ましをお控えになる。○女官日誌、奈良武次日記

四日 水曜日 夕刻、李塙公参邸につき、天皇と共に御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。李塙公は欧州より帰国する李王垠・同妃方子女王の迎えのため、去る一日京城を出発、この日東京に到着した。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、王公族録、宮内省省報

この日、官幣大社春日神社宮司二条基弘<sup>皇太后の御父公爵
九条道孝の実弟</sup>死去につき、天皇・皇后より特に祭資を下賜される。七日に行われる葬儀には、盛菓子をお供えになる。○侍従職日誌、行幸録、恩賜録、贈賜録、皇親録、官報

五日 木曜日 午前九時三十分、天皇・成子内親王と共に御出門、三崎町油壺の東京帝国大学理学部附属臨海実験所に行啓される。御到着後、天皇が生物御採集等をされている間、皇后は内親王と御一緒に小舟にて油壺湾の磯に上陸され、アサリ貝を御採取になる。その後、丘上の展望所において、天皇・内親王及び同地に参着の崇仁親王と御昼餐を御会食になる。午後は内親王とお二方にて御乗船に

なり、湾内を御周遊になる。実験所に戻られた後、お一方にて磯にお出ましになり、貝殻等をお拾いになる。ついで天皇と共に、実験所内で水族器を御覧になり、魚介藻類に関する研究の御説明をお聞きになる。夕刻、天皇・成子内親王と御一緒に退出され、五時二十分帰邸される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、行幸録

六日 金曜日 故祐子内親王三十日祭につき、午前のお出ましをお控えになる。天皇と共に御用邸内にてお過ごしになる。○女官日誌、侍従日誌

七日 土曜日 午前、参謀総長鈴木庄六参邸につき謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録

正午前、天皇と共に、この日帰京する崇仁親王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録

午後、横須賀鎮守府司令長官安保清種参邸につき、天皇と共に謁を賜い、天機並びに御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、奈良武次日記

八日 日曜日 午後、天皇・成子内親王と共に磯にお出ましになる。故祐子内親王の月命日につき、天皇は御供養の思召しにて、水族器で御飼育中のウミウシ等の生物をお放ちになる。続いてお三方にてボートに召され、タツノオトシゴ八匹を御一緒に放たれる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、奈良武次日記

九日 月曜日 午後一時二十五分、天皇・成子内親王と共に葉山御用邸を御出門、三時十七分赤坂離宮に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十日 火曜日 午後、天皇と共に、欧州旅行より帰京の李王垠・同妃方子女王と御対面になる。○女官

昭和三年四月

長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

この度学習院初等科卒業の崇仁親王参殿につき、御対面になる。後刻、学習院中等科卒業の邦英王^{御弟}と御対面になる。なおこの度の卒業につき、天皇・皇后それぞれよりお品を、天皇・皇后より万那料を崇仁親王に御贈進になる。邦英王にも皇后よりお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、贈賜録、官報

天皇と共に表内謁見所において、内匠頭東久世秀雄ほかの説明により、宮殿敷物の見本を御覧になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

十二日 木曜日 午後、天皇と共に小食堂において、今般離任のイタリア国特命全権大使伯爵ジュリオ・デッラ・トツレ・デイ・ラヴァンニヤのための午餐に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

十三日 金曜日 午後、孔雀ノ間において、今般チリ国へ赴任の特命全権公使森安三郎^{ボリビア国駐節兼勤}及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、贈賜録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

天皇と共に表内謁見所において、伯爵田中光顕に謁を賜い、ついで茶菓を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、奈良武次日記

十四日 土曜日 午後、天皇と共に、今般病氣全快につき参殿した稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十五日 日曜日 天皇と共に表御食堂において御晚餐を催され、先般帰国の李王垠・同妃方子女王と

御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内省省報

十六日 月曜日 故祐子内親王四十日祭につき、午前、天皇・成子内親王と権舎に御拝礼になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に表内謁見所において、先般宮内省御用掛を免じられた東京帝国大学文学部教授服部宇之吉に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥内謁見所において、載仁親王と御対面になり、天機並びに御機嫌伺いを受けられる。親王は大札諸施設検分に伴う京都出張より先般帰京し、この日は故祐子内親王四十日祭墓所祭に参列した。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、閑院宮実録、宮内省省報、河井弥八日記

十七日 火曜日 天皇と共に新宿御苑において観桜会を催される。午後二時三十五分御出門、天皇と共に新宿御苑に行啓される。皇族・王族を従え苑内に出御され、内閣総理大臣以下文武諸官、各国外交団の諸員に御会釈を賜う。四時五分還啓される。観桜会には外国交際官、文武諸官のほか、民間功労者、外国新聞通信員等も招待され、当日の参苑者は合計七千二百名余に上る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、観桜会録、新宿御苑日誌、宮内省省報、官報

十八日 水曜日 推古天皇千三百年式年祭につき、午前九時二十五分、天皇と共に御出門、皇霊殿において御拝礼になる。終わって還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内省省報、官報

十九日 木曜日 昨十八日青森県弘前市において発生した火災の罹災者に対し、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県へ下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十日 金曜日 午前九時三十分御出門、日本女子大学校創立二十五周年記念式に御臨席のため、同校に行啓される。御到着後、便殿において故依仁親王妃周子・博義王妃朝子・春仁王妃直子・故恒久王妃昌子内親王・鳩彦王妃允子内親王・邦彦王妃倪子・朝融王妃知子女王・恒憲王妃敏子・守正王妃伊都子と御対面になる。ついで文部大臣水野錬太郎・校長麻生正蔵・評議員渋沢栄一ほかそれぞれ謁を賜い、校長よりは学校一覽表・職員名簿の奉呈を受けられる。また別室にて列立する教職員等に謁を賜う。それより式場に臨まれる。式中、明治天皇御製の拝唱、文部大臣祝辞、来賓総代祝辞、評議員総代祝辞、桜楓会総代祝辞等がある。便殿にて御少憩後、御大典記念女性文化展覧会の第一会場・第二会場にて陳列品を御巡覧になる。便殿において御昼餐後、展覧会の第三会場・第四会場を御覧になる。続いて校内の実習室にて洗濯染物実習を御覧になり、また寄宿舎も御覧になる。午後三時二十五分、還啓される。なおこの度の行啓に際し、日本女子大学校に金一封を下賜される。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、日本女子大学校四十年史

二十一日 土曜日 午前、今般渡欧する侯爵前田利為夫人菊子参殿につき、謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

今般遠洋航海へ出発の宣仁親王のため、天皇と共に送別の御晩餐を催され、表御食堂において親王及び雍仁親王・崇仁親王と御会食になる。食後は表内謁見所に移られ、成子内親王も交え御歓談になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、典式録、宮内省省報、官報

二十四日 火曜日 午前十時御出門、宮城に行啓される。紅葉山御写真場に御到着後、銀レース大礼服に勲章御佩用のお姿にて写真撮影をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、行啓録、幸啓録、河

井弥八日記

臨時皇后宮職御用掛として御養蚕に奉仕の有泉善三に謁を賜う。○宮内省省報、官報、河井弥八日記
夜、天皇と共に旭ノ間において、日本女子大学校行啓に関する活動写真及び南滿洲鉄道株式会社撮影の活動写真等を御覧になる。途中より成子内親王も陪席する。満鉄活動写真上映の際は、同社社長山本条太郎の言上等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

宮中顧問官子爵園池実康昨二十三日死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病気に際して、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報
二十五日 水曜日 午後、天皇と共に小食堂において、先般朝鮮へ御差遣の侍従武官矢野機より朝鮮及び間島の事情に関する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井

弥八日記、奈良武次日記

二十六日 木曜日 故祐子内親王五十日祭につき、午前、皇后宮使として皇后宮女官竹屋志計子を権舎並びに墓所へ差し遣わされ、玉串をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、久宮祐子

内親王殿下薨去録、皇親録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十七日 金曜日 この日、皇太后付女官の典侍正親町鍾子・掌侍吉見光子・権掌侍生源寺政子は退官し、正親町は皇太后宮職御用掛、吉見・生源寺は皇后宮職御用掛となる。また、皇太后宮女孀山口兼子・同関根照子は権命婦に任じられたうえて退官する。午後、正親町・吉見・生源寺・山口・関根に謁を賜い、新任及び退官のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、進退録
午後二時十分、天皇・成子内親王と御一緒に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。○女官長

昭和三年四月

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

二十八日 土曜日 正午前、この度朝鮮に帰省するため暇乞いに参殿の李王垠・同妃方子女王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、宮内省省報、河井弥八日記

二十九日 日曜日 天長節につき、午前、奥内謁見所において宮内大臣始め総代の侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫に謁を賜う。また皇后宮女官等にも謁を賜う。

正午、故依仁親王妃周子・博恭王妃経子・博義王妃朝子・恒憲王妃敏子・邦彦王妃倪子・守正王妃伊都子・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王・春仁王妃直子・李王垠妃方子女王をお招きになり、孔雀ノ間において御対面になる。ついで小食堂において内宴を催され、一同と御会食になる。成子内親王も臨席する。終了後、紅ノ間において茶菓をお召しになる。

入御の後、雍仁親王・崇仁親王・昌子内親王・房子内親王と御対面になり、ついで正二位柳原愛子に謁を賜う。その後、元奉仕者の清水シゲ・鈴木タカほか三名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、典式録、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌、河井弥八日記

三十日 月曜日 午前、天皇と共に表御進講室において、宮内省御用掛法学博士清水澄より「改正選挙法実施ノ結果ニ就テ」と題する講話をお聴きになる。載仁親王・守正王・故依仁親王妃周子等が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、奈良武次日記、河井弥八日記、清水澄関係文書、

岡本愛祐関係文書

五月

一日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、天機並びに御機嫌奉伺のため参殿の京都在住華族総代唐橋在知に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二日 水曜日 午前、ソビエト連邦特命全權大使アレクサンドル・トロヤノフスキー及び今般到着の同夫人ニーナ・ニコラエヴナ・トロヤノフスキーに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内省省報、官報

三日 木曜日 午後、天皇・成子内親王と御同乗にて青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

夕刻、小食堂において天皇と共に御晚餐を催され、雍仁親王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御会食になる。翌四日には載仁親王、故依仁親王妃周子、邦彦王妃倪子、博恭王・同妃経子、博義王・同妃朝子、藤麿王、恒憲王妃敏子、朝融王・同妃知子女王、守正王・同妃伊都子、春仁王・同妃直子を同じく御晚餐にお招きになる。両日の御会食は、故祐子内親王の不例並びに葬儀に関する慰労の趣旨をもって催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、久宮祐子内親王殿下薨去録、朝香宮奥日誌

五日 土曜日 日本赤十字社第三十六回通常総会に御臨席のため、午前十時十分御出門、憲法記念館に行啓される。御到着後、便殿において総裁載仁親王と御対面になり、ついで故依仁親王妃周子・博恭王妃経子・博義王妃朝子・恒憲王妃敏子・邦彦王妃倪子・守正王妃伊都子・故恒久王妃昌子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王・春仁王妃直子と御対面になる。続いて社長平山成信

昭和三年五月

より社業の現況に関する言上を受けられる。次に副社長徳川圀順・同阪本鈺之助・名誉社員松平乗承・日本赤十字社篤志看護婦人会会長鍋島榮子・副会長本野久子・同平塚茂子にそれぞれ謁を賜い、また列立する理事・常議員・監事・日本赤十字社病院院長・同社各支部長等に謁を賜う。終わって同社員一万六百人十三人が参会する式場に臨まれ、次の令旨を賜う。

日本赤十字社ハ本日ヲ以テ三十六回ノ總會ヲ重ネ基礎愈々固ク事業倍々隆シナルニ至レリ是レ実ニ總裁以下拮据尽瘁ノ致セル所ニシテ其ノ労苦想フヘキナリ蓋シ赤十字ノ事業ハ啻ニ戦時ニ於テノミナラス平時ニ於テモ亦緊切欠クヘカラサルモノナリ總裁以下各員協力一致シテ更ニ大ニ勉ムル所アランコトヲ望ム

次に總裁載仁親王より奉答を受けられる。十一時五分還啓される。直ちに載仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、岡本愛祐関係文書、

事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿

午後、天皇と共に彩鸞ノ間にお出ましになり、帝室博物館総長大島義脩の説明により正倉院御物古代裂地類を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

六日 日曜日 この日、宮城の紅葉山御養蚕所において、御養蚕始の儀が行われる。皇后はお出ましならず、皇后宮女官長心得竹屋志計子・皇后宮女官津軽理喜子が参列する。○女官長日記、女官日誌、河

井弥八日記、東京高等蚕糸学校五十年史

七日 月曜日 愛国婦人会第二十七回通常総会に御臨席のため、午前十時十分御出門、憲法記念館に行啓される。御到着後、便殿において總裁故依仁親王妃周子、名誉会員の春仁王妃直子・博恭王妃経

子・博義王妃朝子・恒憲王妃敏子・邦彦王妃侘子・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・故恒久王妃昌子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。ついで會長本野久子より会の現況に関する言上をお聞きになり、副會長水野満寿子に謁を賜う。続いて列立する理事・監事・評議員・各支部部長ほか謁を賜う。終わって三千余名が参会する式場に臨まれ、次の令旨を賜う。

愛国婦人会は総裁以下各員の力に依り其の基礎益々固く其の事業愈々挙かりて本日茲に第二十七回の総会を開くを見るに至れるは洵に喜はしきことなり総裁以下の労苦殊に多かりしを念ふ尚現今の世態に鑑み更に一層の効績を収めむことを望む

総裁故依仁親王妃周子より奉答を受けられる。十一時五分還啓される。その後、故依仁親王妃周子と御対面になり、お礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、行啓録、宮内省省報、官報、朝香宮奥

日誌、岡本愛祐関係文書、愛国婦人会四十年史、読売新聞

正午、天皇と共に孔雀ノ間に出御され、祐子内親王の不例並びに葬儀の際尽力した者として宮内大臣一木喜徳郎以下百五名に謁を賜う。それより花鳥ノ間において、一同に慰勞の思召しをもって午餐を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、供御日録、久宮祐子内親王殿下薨去録、河井弥八日記、奈良武次日記、牧野伸顕日記

八日 火曜日 午前、正倉院御物を拝見のため参殿した正二位柳原愛子ほか二名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

九日 水曜日 午前十時御出門、天皇と共に宮城に出御される。それよりお一方にて紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の發育状況を御覧になる。また臨時皇后宮職御用掛有泉善三より養蚕に関する

昭和三年五月

説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

午後零時四十五分天皇と共に宮城を御出門、上野公園において開催の大札記念国産振興東京博覧会に
行啓される。便殿において、同会総裁載仁親王・副総裁阪谷芳郎始め諸員等に謁を賜い、会場内を御
巡覧になる。その際、園内の東京府美術館にて開催の仏蘭西美術展覧会も御覧になる。四時十分赤坂
離宮に還啓される。直ちに天皇と共に載仁親王と御対面になり、お礼言上を受けられる。なおこの度
の行幸啓に際し、天皇・皇后より大札記念国産振興東京博覧会に金一封を、仏蘭西美術展覧会に金一
封を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

十日 木曜日 午後、天皇と共に表謁見所において、東京帝国大学理学部助教田中茂穂より「魚学
一般其ノ理学上及応用方面ノ研究」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講
録、奈良武次日記、河井弥八日記

去る三日、山東方面の在留邦人の生命財産保護のため済南に派遣された陸軍部隊と、蒋介石率いる南
軍との間で武力衝突が発生する。今回の支那擾乱に伴い同地に派遣された陸海軍部隊の軍人その他の
者で失眼または手足切断等した者に対し、皇后の思召しをもって義眼・義手・義足が下賜されること
となり、この日、皇后宮大夫より陸軍次官にその旨が口達される。翌日、海軍次官にも同じく口達さ
れる。○贈賜録、陸支普大日記、河井弥八日記、日本外交文書

十一日 金曜日 今般財団法人滝乃川学園後援会主催による舞踊映画会開催同学園移転費用捻出のためにつき、思召し
をもって入場券をお買い上げになる。○贈賜録、河井弥八日記

十二日 土曜日 去る三日、済南において南軍との戦闘により殉職した第六師団所属の陸軍歩兵特務

曹長藤上虎熊ほか十二名に、天皇・皇后より祭糒料を賜う。以後、本事件中の死没者に対しては天皇・皇后より祭糒料が下賜される。○恩賜録、幸啓録、宮内省省報

十四日 月曜日 午前、孔雀ノ間において、今般横浜に来航の米国亜細亞艦隊司令長官マーク・L・プリストル夫人、並びに同伴の米国特命全權大使チャールズ・マクヴェー夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

この日午前、特命検閲使として台湾出張中の邦彦王が台中市内において朝鮮人趙明河より襲撃を受けるも、未遂に終わった事件が発生する。夕刻、御付武官大沼直輔より事件についての電報が到達する。よつて邦彦王へお見舞いの電報を御発送になる。○女官長日記、重要雑録、河井弥八日記、邦彦王行実

十五日 火曜日 午後、元典侍正親町鍾子・元掌侍吉見光子・元権掌侍生源寺政子に奥内謁見所において謁を賜い、退官に当たつての賜物へのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、贈賜録

十六日 水曜日 午前十時御出門、天皇と共に宮城へ行啓される。十一時、藤模様の中礼服をお召しになり、天皇と共に鳳凰ノ間に出御され、この日賢所大前において成年式を済ませた茂曆王の参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の王より謝恩の辞の言上を受けられ、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。ついで天皇・皇后よりそれぞれ王に御盃を賜う。儀終了後、天皇と共に入御される。正午、天皇と共に宮城を退出され、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸録、儀式録、皇親録、皇族身分録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。続いて参殿した崇仁親王とも御対面になる。夕刻、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、行幸録、貞明皇后

昭和三年五月

実録正本

十七日 木曜日 午後、陸軍大臣白川義則に謁を賜い、大臣より済南事件の出兵状況等についての報告をお聞きになる。また戦傷者への義眼・義手・義足・繙帯下賜に対するお礼言上を受けられる。この内、繙帯下賜は去る十五日に皇后の特別の思召しが陸軍大臣に伝えられ、皇后は昨日からこの日午前までに御用務の合間に熱心に繙帯巻きをされる。完成した繙帯二百本は、二十二日に陸軍次官に伝達される。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録、侍従武官府資料、陸支普大日記、河井弥八日記

今般元東宮職出仕久松定孝結婚につき、天皇・皇后よりお品を下賜される。○侍従日誌、贈賜録

十八日 金曜日 奥内謁見所に雛人形が飾られ、夕刻、天皇・成子内親王と共に同所にお出ましになる。赤坂離宮在勤高等官に拝見を許され、その後は賜茶を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

十九日 土曜日 午後、奥内謁見所において、今般第一・第二遣外艦隊並びに旅順海軍無線電信所に御差遣の侍従武官今村信次郎に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下一同力風土異ナル地方ニ於テ困難ナル勤務ニ服スルハ嘸苦勞多キコトテアラウ今ヤ暑サニ向フ折柄各自一層身体ヲ大切ニスルヤウ又傷病者ハ能ク勞リ遣スヤウ申伝ヘヨ

今村武官は二十一日出発、六月二十六日帰京、同三十日に復命する。○女官長日記、女官日誌、進退録、典式録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十一日 月曜日 午前、翌日より朝鮮視察に出発の侍従牧野貞亮に謁を賜う。本視察は天皇の御諒解のもと、側近者の見聞を広めることを目的とし、形式は御差遣ではなく、個人の資格による旅行と

して行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記、岡本愛祐関係文書

二十二日 火曜日 午前、皇太后宮大夫入江為守に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌

去る三月十日より十一日にかけて、荒天のため千葉県犬吠埼沖合において第一室蘭丸並びに歌神丸が難破し多数の遭難者を出す。よつてこの日、天皇・皇后より御救恤金を通信大臣へ下賜される。○恩賜録、

宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 午後、天皇・成子内親王と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。

夕刻、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

二十五日 金曜日 大正天皇月命日につき多摩陵御参拝のため、午後零時五十分天皇と共に御出門になる。原宿駅より東浅川仮駅を経て、自動車にて多摩陵に御到着になる。それより御拝所に進まれ、

天皇に続いて御拝礼になる。四時三十五分還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、行啓録、行幸録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 この日、大正天皇及び故祐子内親王の追悼のため、侯爵細川護立別邸において宮内省有志連合謡会が催される。同会へ思召しをもつて金員を下賜される。○女官長日記、贈賜録

二十八日 月曜日 夕刻、この夜下志津野営演習に出発する雍仁親王と天皇と共に御対面になり、暇乞いを受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、雍仁親王実紀

三十日 水曜日 午前十時御出門、天皇と共に宮城に行啓される。それよりお一方にて紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の飼育状況を御覧になる。また臨時皇后宮職御用掛有泉善三より説明をお聴きになる。正午、天皇と共に宮城を御退出、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、河井

昭和三年六月

弥八日記

午後、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后及び崇仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

三十一日 木曜日 午後、天皇と共に表謁見所において、東京帝国大学名誉教授理学博士池野成一郎

より「斑葉ノ遺伝現象」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、進講録

六月

二日 土曜日 午後、今般山東派遣部隊及び支那駐屯軍に御差遣の侍従武官瀬川章友に謁を賜い、次の令旨を下される。

師団長以下一同カ風土異ル海外ニ在リテ困難ナル勤務ニ服スルハ嘸苦勞多キコトテアラウ尚今回ノ事件ニ際シ負傷又ハ罹病シタル者ニ対シテハ氣ノ毒ニ思フ殊ニ戦死者病歿者ニハ深く同情スル所テアル今ヤ酷暑ニ向フ折柄各自一層身体ヲ大切ニスルヤウ申伝ヘヨ

瀬川武官は四日出発、二十九日帰京、七月三日に復命する。○女官長日記、女官日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、河井弥八日記

四日 月曜日 午前、天皇と共に、東京音楽学校教授高野辰之より「日本歌謡ノ変遷ニ就テ」と題する講話をお聴きになる。ついで天皇と共に小食堂において、孝明天皇が即位礼の際に用いられた唐制の礼服を、文学博士関根正直宮内省御用掛の説明により御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舎人日誌、進講録、奈良武次日記

六日 水曜日 午前、英国より帰国の特命全権大使松井慶四郎及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女

官日誌、内舎人日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報

午後一時三十分御出門、東京慈恵会に行啓される。御到着後、御休所において総裁故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、ついで故依仁親王妃周子・博恭王妃経子・博義王妃朝子・守正王妃伊都子・恒憲王妃敏子・稔彦王妃聡子内親王・朝融王妃知子女王・春仁王妃直子と御対面になる。次に会長徳川家達、医院長高木喜寛、医院次長実吉純郎始め理事・顧問・評議員にそれぞれ謁を賜い、ついで列立する有功会員・終身会員・医員に謁を賜う。終わって総会会場に臨まれ、会長より、同会の運営に関する報告をお聞きになる。総会終了後、御休所にて御少憩になり、ついで各病室を御巡覧になる。三時二十分還啓される。その後、総裁故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、お札言上を受けられる。なお、総会開催に当たり、東京慈恵会医院の入院患者にお菓子料を下賜される。○女官長日記、女官日誌、

内舎人日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、読売新聞

八日 金曜日 夕刻、今般台湾より帰京の邦彦王参殿につき、天皇と共に御内儀において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内省省報、河井弥八日記

九日 土曜日 男爵島津忠備公爵島津忠義五男、御叔父去る五日死去につき、この日の告別式に弔問のため皇后宮女官

津軽理喜子をその邸に非公式に差し遣わされる。これより先、同人病気に際してはお尋ねとして五種果物を下賜され、その死去に際しては祭資・盛菓子を下賜される。○女官長日記、女官日誌、重要雑録、贈賜録、

官報、河井弥八日記

昭和三年六月

昭和三年六月

十一日 月曜日 午後、奥広間^{伺候ノ間}において、臨時皇后宮職御用掛有泉善三に謁を賜い、同人の説明により紅葉山御養蚕所で飼育の繭を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

昨月宮内省囑託を仰せ付けられた東京帝国大学医学部教授遠山郁三・同増田胤次参殿につき、天皇と共に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、進退録

十三日 水曜日 午前、孔雀ノ間において、新任のポーランド国特命全権公使ズジスワフ・オケンツキ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報
午後、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。夕刻、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

十五日 金曜日 午前、故祐子内親王百日祭につき、皇后宮使として皇后宮女官竹屋志計子を権舎及び墓所へ差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。また天皇・皇后より墓所に榊・菓子を、霊前に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、宮内省省報、官報

十六日 土曜日 この日より故祐子内親王一周年祭に至る間、故内親王の権舎並びに墓所へ天皇・皇后より御日供が行われることとなる。権舎は午前九時までに開扉され、御日供、御拝の後に閉扉される。○女官長日記、久宮祐子内親王殿下薨去録

十七日 日曜日 夕刻、天皇・成子内親王と共に秩父宮邸^{表町御殿、赤坂御料地内}に行啓され、親王と御夕餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、行幸録

十九日 火曜日 午後二時御出門、天皇と共に豊島岡墓地へ行啓される。便殿にて御小憩の後、故祐子内親王墓所に生まれ、お揃いにて玉串を捧げ御拝礼になる。その後、明治天皇の皇子・皇女等の十

一墓にそれぞれ御拜礼になる。三時二十二分還啓される。なお往路、鹵簿が護国寺前丁字路に差し掛かった際、直訴未遂事件が発生する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸録、行啓録、重要雑録、宮内省省報、官報、皇宮警察史、警視庁史

夕刻、天皇と共に、翌二十日より野宮演習のため富士滝ヶ原庁舎に出張する雍仁親王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、雍仁親王実紀

二十一日 木曜日 午前、昨日朝鮮より帰京した侍従牧野貞亮に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

二十五日 月曜日 午前、天皇と共に、臨時帝室編修官長三上参次より「明治大帝ノ御聖徳ニ就テ」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、進講録、三上参次御進講案

二十六日 火曜日 午後、今般シヤム国へ赴任の特命全権公使矢田部保吉及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十七日 水曜日 午前、孔雀ノ間において、新任のシヤム国特命全権公使ブラヤー・スパンソムバツト及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午後、青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、行啓録、貞明皇后実録正本

奥内謁見所において、今般馬公要港部・鳳山海軍無線電信所及び南支那沿岸警備艦へ御差遣の侍従武官住山徳太郎に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下警備艦乗員一同力風土異ル地方ニ於テ困難ナル勤務ニ服スルハ嘸苦勞多キコトアラ

昭和三年六月

ウ酷暑ニ向フ折柄各自一層身体ヲ大切ニスル様又傷病者ハ克ク勞リ遣ス様申伝ヘヨ

住山武官は明後二十九日出発、七月二十三日帰京、同二十四日葉山御用邸にて復命する。○女官長日記、

典式録、進退録、行幸録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十八日 木曜日 午前、今般李王妃御用取扱を退職の桜井柳子並びに新任の三浦清子参殿につき、

謁を賜う。○女官長日記、女官日記、恩賜録

二十九日 金曜日 午前、奥内謁見所において、この度の大礼に伴う御装束の衣紋稽古のため京都よ

りお召しの冷泉恭子伯爵冷泉
為系夫人に謁を賜う。同人による稽古は七月二日・三日・五日にも行われる。○女官

長日記、女官日記、河井弥八日記

午後、米国より帰国した特命全權大使松平恒雄及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日記、

侍従職日記、内舍人日記、典式録、宮内省省報、官報

午後一時四十五分御出門、宮城の紅葉山御養蚕所に行啓される。御到着後、御休憩所において東京高

等蚕糸学校長本多岩次郎に謁を賜う。ついで御養蚕室において、本多校長の説明により御法川冷水繰

糸法・足踏式繰糸法・真綿製法などの工程を御覧になる。それより臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説

明にて産卵状況を御覧になる。四時還啓される。○女官長日記、女官日記、内舍人日記、幸啓録、宮内省省報、官報、

河井弥八日記、東京高等蚕糸学校五十年史

夕刻、天皇と共に小食堂にお出ましになり、同室に陳列した陸軍歩兵少佐今村嘉吉による青島・濟南方面のスケッチ数十枚を御覧になる。なお後日、皇后より今村少佐に金員を下賜される。○女官長日記、

女官日記、侍従日記、侍従職日記、贈賜録、奈良武次日記

三十日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、男爵島津忠備の死去に伴う喪明けにつきお礼言上のため参殿した邦彦王妃侘子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌

七月

一日 日曜日 午前、天皇と共に広芝ゴルフ場にお出ましになり、赤坂離宮ゴルフ競技大会に参加される。本大会は近く宮城への御移転に伴い、赤坂離宮における最後のゴルフトーナメントとして催されるもので、天皇・皇后のほか鳩彦王・同妃允子内親王、李王垠及び側近等約二十名が参加する。天皇は李王垠・侍従甘露寺受長と同組に、皇后は宮内次官関屋貞三郎・侍従武官今村信次郎と同組になる。途中、御茶屋において一同と御昼餐を御会食になる。競技終了後、一等の皇后宮女官北村民枝を始め、入賞者には天皇・皇后の御前において侍従武官長より賞品が授与される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、朝香宮奥日誌、関屋貞三郎日記

今般、宮城の表宮殿各所において修繕工事施工につき、この日より八月三十一日までの間、天皇・皇后の出御はお取りやめとなる。○例規録、河井弥八日記

四日 水曜日 午後、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。夕刻、還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

夕刻、紅葉山御養蚕所におけるこの年の御養蚕にて製作された生糸並びに真綿を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

五日 木曜日 午後、奥内謁見所において、この日にて衣紋稽古の御用を終えた冷泉恭子に謁を賜う。

昭和三年七月

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に、湖沼学者子爵田中阿歌麿より「湖沼ニ就テ」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

この日、紅葉山御養蚕所において、御養蚕納の儀が行われる。皇后はお出ましにならず、皇后宮女官長心得竹屋志計子・皇后宮女官油小路蒙子・同万里小路ソデが出席する。○女官長日記、女官日誌、河井弥八

日記

六日 金曜日 午前、先般退任した前掌侍徳樸英子参殿につき謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、進退録、

恩賜録、贈賜録

午後、成子内親王を伴われ広芝へお出ましになり、天皇及び側近等による乗馬競技を御覧になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、奥内謁見所において臨時皇后宮職御用掛有泉善三に謁を賜い、本年の御養蚕関係の御用終了につきお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に小食堂において、特命全権大使男爵松井慶四郎・同夫人、特命全権大使松平恒雄・同夫人をお招きになり、御晚餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

九日 月曜日 午前、奥内謁見所において成子内親王を伴われ、松平信子・同息女節に謁を賜う。今般雍仁親王と婚約した節に初めて謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

午後、天皇・成子内親王と御一緒に主馬寮覆馬場において、馬術競技を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

十一日 水曜日 午前、新任のイタリア国特命全権大使ポンペーオ・アロイージ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。大使館参事官レオネ・ワイルショット以下大使館員四名にも謁見を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

今般特命全権大使長岡春一の任所ドイツ国へ出発する夫人二三子に謁を賜う。ついでベルギー国へ赴任の特命全権大使永井松三及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥内謁見所において、皇族会議出席のため京都より上京の多嘉王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

午後、天皇・成子内親王と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行幸録、貞明皇后実録正本

十二日 木曜日 午後、天皇と共に諏訪ノ御茶屋脇の馬場にお出ましになり、崇仁親王主催の澄宮付職員対赤坂離宮詰職員の打毬試合を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、奈良武次日記

十三日 金曜日 皇太后御参殿につき、天皇と共に奥内謁見所において、お三方にて午餐を御会食になる。その後は御一緒に伺候ノ間にお出ましになり、同所に陳列された吉田博の版画、横山大観の絵画を御巡覧になる。午後三時過ぎ、皇太后のお還りをお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本

夕刻、赤坂離宮御名残のため、天皇・成子内親王及び内大臣牧野伸顕・宮内大臣一木喜徳郎・皇后宮

昭和三年七月

大夫河井弥八以下赤坂離宮詰高等官一同と共に、前庭において記念写真の撮影をお受けになる。その後は一同をお召しになり、花鳥ノ間^{大食}における御晚餐に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍

人日誌、宮城遷御録、河井弥八日記、奈良武次日記、関屋貞三郎日記

十四日 土曜日 葉山御用邸に行啓につき、午前十時、天皇・成子内親王と共に御出門になる。東京

駅より逗子駅を経て、十一時五十五分御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、

行幸録、宮内省省報、官報

十五日 日曜日 午前、海岸へお出ましになり、先に出発されていた天皇と共に、生物の御採集を行われる。以後、御滞在中はしばしば天皇と共に、あるいはお一方もしくは成子内親王、参殿した皇族等を伴われ、御採集などを行われる。○女官日誌、幸啓録、行幸録、河井弥八日記

十八日 水曜日 午前、式部官加藤泰通参邸につき、天皇と共に謁を賜う。加藤は、去る七日付をもって皇后宮事務官・侍従を免じられ専任の式部官となったことから、多年の勤労に対し、天皇・皇后より賜金がある。○侍従日誌、侍従職日誌、進退録、行幸録、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

藤麿王・萩麿王の臣籍降下に先立ち、午前十一時、天皇と共に謁見所において、両王の参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の藤麿王より謝恩の辞を受けられ、勅語に続き、次の懿旨を賜う。

御慶ビヲ申シ又家門ノ栄エラル、ヤウ祈リマス

続いて同じく謝恩の辞言上のため参進の萩麿王に、勅語に続き、懿旨を賜う。二十日、藤麿王は筑波の家名を賜り、華族に列せられ、侯爵を授けられる。萩麿王は鹿島の家名を賜り、華族に列せられ、伯爵を授けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、儀式録、典式録、行幸録、宮内省省報、官報

夜、葉山町の主催による献上打揚花火を天皇と共に御覧になる。花火は二十二日にも催される。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、行幸録

十九日 木曜日 午前、天皇・成子内親王と共に御用邸前の海岸にお出ましになり、葉山町主催の町一色在住漁師による地曳網漁を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、行幸録

二十日 金曜日 午前、この日爵位を授けられた筑波藤麿・鹿島萩麿に天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、河井弥八日記

午後、天皇と共に汐見御茶屋にお出ましになり、御木本幸吉より養殖真珠研究についての講話をお聴きになる。併せて同人による真珠の核入れ作業を御覧になり、天皇・皇后も御自ら核入れ作業を試みられる。この度の御木本の参邸は養殖真珠御奨励の思召しによるもので、翌二十一日午前にも御木本は参邸して真珠核入れ作業を行い、侍従次長兼皇后宮大夫河井弥八より御木本に天皇・皇后の恩遇の意が伝えられる。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、河井弥八日記、奈良武次日記

二十三日 月曜日 午前、参邸した中山三千代元東宮大夫故侯
爵中山孝麿夫人に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。

○女官日誌

夕刻、細川博子侯爵細川
護立夫人に謁を賜う。同人は成子内親王のお相手として息女の泰子・敏子・雅子を引率し午前中より参邸する。○女官日誌、行幸録

夜、天皇と共に横須賀海軍軍楽隊による吹奏をお聴きになる。稔彦王妃聡子内親王・彰常王及び紀久子女王鳩彦王
の王女・湛子女王同が陪聴する。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、行幸録

昭和三年七月

二十四日 火曜日 午前十時五分御用邸を御出門、天皇と共に神武寺に行啓される。御休所にて御小憩の後、お一方にて見晴台に進まれ、四方を御展望になる。午後三時三十二分、天皇と共に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、行幸録、河井弥八日記

新任の閑院宮御用掛陸軍中将稻垣三郎に謁を賜う。○女官日誌、進退録、行幸録、官報、河井弥八日記、奈良武次日記

二十六日 木曜日 午前九時十分、天皇・成子内親王と共に葉山御用邸を御出門、十一時赤坂離宮に還啓される。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において天皇と共に、稔彦王・同妃聡子内親王と御対面になる。稔彦王は先般天皇の命により陸軍獣医学校終業式に差遣され、その復命のため参殿する。聡子内親王はこの日午前に豊島岡墓地において行われた敬仁親王五十年式年祭に参列した。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、行幸録、宮内省省報

午後、天皇と共に青山東御所へ行啓され、皇太后と御対面になる。夕刻、還啓される。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、行幸録、奈良武次日記

この日、豊島岡墓地において敬仁親王^{明治天皇第二皇子}五十年式年祭挙行につき、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。○侍従職日誌、典式録、儀式録、宮内省省報

二十七日 金曜日 那須御用邸に行啓のため、午前七時四十五分、天皇・成子内親王と共に赤坂離宮を御出門になる。これに先立ち、皇太后が行幸啓お見送りの思召しにより参殿されたため、皇后は成子内親王と共に伺候ノ間前にて皇太后をお出迎えになり、奥内謁見所にて御対面になる。ついで天皇

も同所にお出ましになり、御出門の直前には、伺候ノ間前の広間にて皇太后のお見送りを受けられる。八時、宮廷列車にて原宿駅より黒磯駅を経て、自動車にて午後零時十分那須御用邸に御到着になる。これより九月十四日の宮城遷御まで同地に御滞在になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記、奈良武次日記

八月

二日 木曜日 正午前、天皇と共に、今般予備役に編入された海軍大将百武三郎に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、官報

四日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に、御成婚前の大正十二年に行われた久邇宮一家の九州旅行を撮影した活動写真を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌

五日 日曜日 午後、今般欧州より帰国の侍医八田善之進ほかに謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、行幸録、奈良武次日記

六日 月曜日 去る三日新潟県中蒲原郡五泉町において発生した火災による損害に対し、この日天皇・皇后より罹災者御救恤として金一封を同県へ下賜される。○恩賜録、幸啓録、宮内省省報、官報

七日 火曜日 正午前、天皇と共に内閣総理大臣田中義一及び鉄道大臣小川平吉・海軍大臣岡田啓介・大蔵大臣三土忠造・農林大臣山本悌二郎・逓信大臣久原房之助・海軍軍令部長鈴木貫太郎・帝国全権委員内田康哉に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記

八日 水曜日 夜、天皇と共に階下御食堂において開催の茶会に臨まれる。宮内大臣一木喜徳郎・侍

昭和三年八月

従長珍田捨巳・侍従武官長奈良武次・皇后宮大夫河井弥八その他供奉高等官が出席する。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記

九日 木曜日 午前、ゴルフ場六番コースにおいて儀仗衛兵・宮内官による運動会開催につき、天皇・成子内親王と共ににお出ましになり、旗送り競走・三人四脚・風船運搬競走・パン喰競走等の各種競技を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

十四日 火曜日 正午前、枢密院議長倉富勇三郎・陸軍大臣白川義則・商工大臣中橋徳五郎・内務大臣望月圭介・文部大臣勝田主計参邸につき、天皇と共に謁を賜い、天機並びに御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録

午後、海軍大将竹下勇参邸につき、天皇と共に謁を賜い、天機並びに御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、竹下勇日記

十六日 木曜日 正午前、天皇と共に、栃木県下金丸原における演習に参加するため同県を訪れた春仁王陸軍騎兵中尉と御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、宮内省省報、河井弥八日記

十七日 金曜日 正午前、元帥陸軍大将上原勇作・陸軍大将宇垣一成・同武藤信義・同鈴木孝雄・同井上幾太郎、前東京警備司令官磯村年及び新任の東京警備司令官岸本鹿太郎等に天皇と共に謁を賜い、天機並びに御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

十八日 土曜日 正午前、天機並びに御機嫌奉伺のため参邸の台湾総督川村竹治・内務省警保局長横山助成に、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、秩父宮御側日誌、行幸録、河井弥八日記

二十日 月曜日 午後、成子内親王を伴われ丸馬場上にお出ましになり、後刻御到着の天皇と御一緒

に第十四師団留守部隊の将校以下による剣術・銃剣術の試合を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、行幸録、侍従武官府歴史、河井弥八日記

二十一日 火曜日 午前、天皇と共に階下御食堂において、足利佐野織物同業組合より出陳された銘仙を始めとする各種織物を御覧になる。栃木県知事藤山竹一及び同県工業試験場長中台直惇が説明に当たる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記

午後、ゴルフ場にお出ましになり、大谷光明及び高等官等とトーナメントに御参加になる。競技の結果、天皇・皇后がいずれも決勝まで勝ち上がられたため決勝戦は行われず、翌日ストロークマッチによる競技が行われることとなる。皇后は翌日の競技にも参加され、侍従牧野貞亮が第一位、皇后宮女官油小路蒙子が第二位第二位の天皇が御辞退になり繰り上がる、同山岡淑子が第三位同じく繰り上がるとなる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記

二十七日 月曜日 午前、軍事参議官田中国重前台湾軍司令官、宮内省部局長官総代として天機並びに御機嫌奉伺に参邸の宗秩寮総裁仙石政敬・宮内省参事官大谷正男に天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

午後、天機並びに御機嫌奉伺のため参邸の子爵清浦奎吾等に、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

二十九日 水曜日 夜、お月見の催しが行われる。曇天のため、階下御食堂において賜茶の席が設けられる。その後、雲が切れたことから、天皇と共に展望台にお出ましになり、月を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

昭和三年九月

三十日 木曜日 午前、天皇と共に司法大臣原嘉道に謁を賜い、天機並びに御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

午後、御機嫌奉伺のため参邸の子爵後藤新平並びに宮内大臣一木喜徳郎・帝室林野局長官三矢宮松・同局技師東郷直に、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

三十一日 金曜日 錦鶏間祇候山崎四男六この日死去につき、天皇・皇后より祭資を賜う。○進退録、恩賜録、宮内省省報、官報

九月

一日 土曜日 正午前、天皇と共に望楼において、五年前の関東大震災当時を思い出されて暫時黙禱される。○女官日誌

二日 日曜日 午後、天皇と共に、この度の宮城改修の結果につき宮内事務官木下道雄・皇后宮事務官岡本愛祐より復命を受けられ、御移転後の御使用方について説明を御聴取になる。翌三日午後にも再び両名より説明を受けられる。○女官日誌、侍従日誌、河井弥八日記

三日 月曜日 午後、天機奉伺のため参邸の特命全権大使松平恒雄に、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

四日 火曜日 イタリア国特命全権大使ポネーオ・アロイジの夫人が病気のため近く帰国するに当たり、皇后宮職御用掛高木多都雄をその居所横浜市のホテルニューグランドに差し遣わされ、切り花を下賜される。○重

要雑録、外交贈答録

六日 木曜日 午後、錦鶏間祇候総代岡本桂次郎・宮中顧問官総代三宅米吉参邸につき、天皇と共に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、奈良武次日記

この日侯爵久邇邦久結婚式につき、天皇・皇后より三種交魚を下賜される。○贈賜録、侯爵久邇邦久伝

八日 土曜日 称光天皇五百年式年祭につき、皇后宮女官伊地知ミキに御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、官報

九日 日曜日 ゴルフ場にお出ましになり、高等官等とゴルフトーナメントに御参加になる。参加者は白赤各十名に分かれ、ストロークの総数にて勝負を競い、併せて個人戦も行われる。天皇は白組、皇后は赤組として参加され、競技の結果、赤組が勝利する。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

十日 月曜日 正午前、天皇と共に近衛歩兵第四聯隊長大浜石太郎ほかに謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記、奈良武次日記

十一日 火曜日 正午前、海軍大将財部彪に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、河井弥八日記

十三日 木曜日 正午過ぎ、天皇と共に、栃木県知事藤山竹一・同県警察部長中屋重治・陸軍歩兵少佐朝倉利三郎以下警衛将校に謁を賜う。ついで、お一方にて、歩兵少尉中西満洲次郎^{日露戦争戦没将校の遺児}に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、行幸録、河井弥八日記

午後、那須御滞在中最後のゴルフ競技に御参加になる。この日の競技は七名一組としての紅白戦形式で行われ、天皇は紅組、皇后は白組として参加される。競技の結果、白組が勝利する。○女官日誌、侍従日誌、河井弥八日記

十四日 金曜日 午前九時五分天皇・成子内親王と共に那須御用邸を御出門、黒磯駅より原宿駅を経て、午後一時三十分宮城に御到着になる。御車寄にて崇仁親王の出迎えを受けられ、ついで奥内謁見所において皇太后の御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜う。引き続き在京の皇族・王族とそれぞれ御対面になる。

この日をもって赤坂離宮より宮城に遷御につき、天皇・皇后より皇太后へ七種交魚を、皇族・王族に万那料を御贈進になり、また臣下からの献上者に対してはそれぞれ万那料を下賜される。また宮城遷御に対する格別勤労の廉をもって天皇・皇后より内匠頭東久世秀雄・内匠寮工務課長北村耕造・宮内技師鈴木鎮雄へそれぞれ賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸録、宮城遷御録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌、河井弥八日記

この日、雍仁親王と子爵松平保男姪節の納采の儀が行われる。天皇・皇后の御使として侍従山県有道を秩父宮邸に差し遣わされ、鮮鯛を御贈進になる。また、万那料を贈られる。天皇・皇后から皇太后に対しては、五種交魚代料を御贈進になる。親王からは天皇・皇后に鮮鯛・樽が献上される。また、子爵松平保男から天皇・皇后に鮮鯛の献上があり、天皇・皇后から松平子爵に万那料を下賜される。なお松平節は十七日、勢津子と改名する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、雍仁親王殿下御結婚の件、重要雑録、宮内省省報、官報

十五日 土曜日 午前、宮城遷御につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、祭祀録、宮内省省報

宮城遷御につき、天皇と共に千種ノ間において御晚餐を催され、内大臣牧野伸顕・宮内大臣一木喜徳

郎・侍従長珍田捨巳・皇后宮大夫河井弥八以下、侍従・侍従武官・侍医・皇后宮女官・各御用掛等に御陪食を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮城遷御録

十六日 日曜日 午前十一時二十分御出門、天皇と共に青山東御所に行啓される。皇太后・崇仁親王と午餐を御会食になる。午後二時二十五分還啓される。宮城遷御後初めての行幸啓につき、天皇・皇后・皇太后の間に御贈進のお取り交わしがある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、行幸録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に新設の吹上御苑内ゴルフ場に初めてお出ましになり、側近一同とゴルフ競技を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

十七日 月曜日 宮城遷御に伴い、この日午前、故祐子内親王靈代奉遷の儀が行われ、靈代は赤坂離宮内より宮城内の皇后宮御進講室に新たに設けられた権舎に遷される。祭典終了後、喪主河井弥八より儀終了の旨を天皇と共にお聞きになる。ついで天皇と共に権舎に臨まれ、玉串・菓子をお供えになる。この度の靈代奉遷に際し、天皇・皇后より皇后宮女官津軽理喜子を墓所に差し遣わされ、色花をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、久宮祐子内親王殿下薨去録、皇親録、河井弥八日記、奈良武次日記

宮城遷御の御挨拶の意味をもって、天皇と共に在京の成年以上の皇族・王族を招いての御晚餐を催される。天皇と共に千種ノ間にお出ましになり、雍仁親王、博義王・同妃朝子、茂麿王、恒憲王・同妃敏子、邦彦王・同妃倪子、朝融王妃知子女王、守正王・同妃伊都子、鳩彦王妃允子内親王、故恒久王妃昌子内親王、載仁親王、春仁王妃直子、故依仁親王妃周子、李王娘・同妃方子女王と御会食になる。

昭和三年九月

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、宮城遷御録、朝香宮奥日誌

十八日 火曜日 今般宮城遷御につき、正午前、天皇と共に千種ノ間にお出ましになり、列立する在京宮内高等官・同待遇^{部局長官を除く}に謁を賜う。一同には酒饌を賜う。午後六時、天皇と共に豊明殿にて催

される御晩餐にお出ましになり、内大臣牧野伸顕、宮内大臣一木喜徳郎以下宮内省部局長官一同と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮城遷御録、宣召録、河井弥八日記、奈良武次日記

十九日 水曜日 多摩陵御参拝につき、午後零時四十五分、天皇と共に宮城を御出門、原宿駅より浅川駅を経て多摩陵御休所に御到着になる。それより御拝所に参進され、天皇に続いて御陵に御拝礼になる。四時四十五分、宮城に還御される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行啓録、重要雑録、行幸録、宮内省省報、官報

二十日 木曜日 午後、日本丸の図書寮新庁舎に天皇と共に行啓される。曝書室・展示室・書庫等を巡覧され、展示室においては和漢の典籍・古文書や歴代天皇御肖像の模写などを御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、行幸録、昭和三年九月新築記念展覧会陳列図書目録

二十一日 金曜日 午前、皇太后御参内につき、御休所において御対面になる。ついで御一緒に御対面所にお出ましになり、天皇と共に成子内親王を伴われ御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

昨月下旬の朝鮮咸鏡南道・咸鏡北道における豪雨損害に対し、天皇・皇后より御救恤として金一封を朝鮮総督府に下賜される。なお、その後の調査により被害甚大であることが判明したため、後日天皇・

皇后より金一封を追賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十二日 土曜日 午後、天皇と共に新築の生物学御研究所にお立ち寄りになる。宮内省御用掛服部広太郎の説明にて各室を巡覧され、続いて畑・鶏舎・水田等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、御生研沿革史

二十三日 日曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、官報

午後、先般結婚した侯爵久邇邦久・同夫人董子子爵松浦 晴二女 参内につき、天皇と共に謁を賜い、天機並びに御機嫌奉伺をお受けになる。参内に際し、皇后より夫人に白絹縮緬等を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、侯爵久邇邦久伝

二十四日 月曜日 午前、奥内謁見所において、第六師団長陸軍中将福田彦助濟南よ、り帰還、今般後備役に転役の海軍大將山下源太郎、今般渡欧の宮内省御用掛磐瀬雄一東京帝国大学 医学部教授 にそれぞれ謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録、侍従武官府歴史、河井弥八日記、奈良武次日記

二十六日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般米国へ赴任の特命全権大使出淵勝次及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

二十七日 木曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、イタリア国特命全権大使ポンペーオ・アロイジと午餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、宮内省省報、官報

二十八日 金曜日 午前九時、賢所大前において、雍仁親王と松平勢津子の結婚の礼が挙行される。

昭和三年九月

午前、天皇と共に奥内謁見所において、お祝いのため参内の皇族・王族等と御対面になる。

午後三時、天皇と共に鳳凰ノ間に出御され、雍仁親王・同妃勢津子の参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の親王・同妃より謝恩の辞をお受けになり、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。

雍仁親王結婚につき、天皇・皇后より親王へ鮮鯛等を、同妃へ鮮鯛を、皇后より親王へ白縮緬を、同妃へ白羽二重等を御贈進になる。この日、皇后宮使として皇后宮女官長心得竹屋志計子を雍仁親王邸に差し遣わされる。この度の結婚に際し、天皇・皇后は各皇族と御贈進をお取り交わしになり、子爵松平保男・松平恒雄にはそれぞれ鮮鯛代料等を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌、秩父宮御側日誌、雍仁親王殿下御結婚の件、皇族身分録、皇親録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌、河井弥八日記

二十九日 土曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、結婚のお礼言上のため参内の雍仁親王・同妃勢津子と御対面になる。続いて邦彦王・同妃倪子参内につき、天皇と共に御対面になり、祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、河井弥八日記

午後、元皇后宮女官長島津治子・元皇后宮女官青山元子に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

三十日 日曜日 御学問所において天皇と共に、雍仁親王・同妃勢津子と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、典式録

十月

三日 水曜日 午後、公爵西園寺公望参内につき、表内謁見所において天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

夜、遠洋航海を終え帰京の宣仁親王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。これより先、親王の帰還に際して、天皇・皇后より御使として侍従牧野貞亮を高松宮邸に差し遣わされる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

四日 木曜日 御朝食前、陸軍特別大演習御統裁のため岩手県に行幸される天皇をお見送りになる。

○女官日誌

六日 土曜日 午後、桐ノ間において、今般来日の英国陸軍少将男爵ロツクの夫人及び息女、同国臨時代理大使セシル・フランシス・ジョセフ・ドーマーの夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

御風気につきこの日より二十四日まで御静養になる。九日の青山東御所行啓はお取りやめになる。○

女官日誌、行啓録

十一日 木曜日 御夕食後、御寝室にてこの日陸軍特別大演習より還幸された天皇を迎えられる。○

女官日誌、侍従日誌、河井弥八日記

十二日 金曜日 この日、正子女王^{朝融王第一王女}・朝子女王^{同第二王女}は賢所に初めて参拝する。ただし、皇后の

御風気により、両女王の参内は延期される。なお、朝子女王の誕生及び命名の際は、諒闇中のためお祝品の御贈進がなかったため、この日の賢所初参拝に際し誕生祝として、天皇・皇后より朝融王へ白

昭和三年十月

羽二重・酒・鮮鯛を御贈進になる。○女官日誌、皇親録、典式録、宮内省省報

十三日 土曜日 御風気のため、今般来日のイタリア国伯爵サン・マルチノ・デイ・ヴァルペルガ及び同夫人の謁見はお取りやめになる。また、十五日の帝国美術院第九回美術展覧会行啓もお取りやめになる。○侍従職日誌、典式録、幸啓録

十六日 火曜日 豊島岡墓地において故祐子内親王墓所竣工につき、天皇・皇后より墓所に柵をお供えになり、権舎に菓子・果物をお供えになる。○久宮祐子内親王殿下薨去録、河井弥八日記

十七日 水曜日 神嘗祭につき、午前、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、官報

二十日 土曜日 枢密顧問官陸軍中将男爵中村雄次郎元宮内大臣この日死去につき、天皇・皇后より祭資を賜う。これより先、同人の病気に對しては天皇・皇后よりお尋ねとして新宿御苑産野菜・葡萄酒を下

賜され、侍医を差し遣わされる。○女官日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十三日 火曜日 スペイン国皇后ヴィクトリア・イウヘニアのお誕生日十月二十四日につき、天皇・皇后より祝電を御發送になる。翌二十四日、答電が寄せられる。昭和五年も親電を御交換になる。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

去る十九日、新潟県佐渡郡両津町において発生した大火被害に對し、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県へ下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十四日 水曜日 故貞愛親王妃利子女王一年祭につき、権舎並びに墓所へ皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐を差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。また天皇・皇后より靈前に菓子を、墓

前に櫛をお供えになる。○侍従職日誌、皇親録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十五日 木曜日 午後、侍従長珍田捨巳・侍従武官長奈良武次・皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、御床払いの恐悦言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、河井弥八日記

二十六日 金曜日 夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、結婚奉告のため神宮・山陵への参拝を終え参内した雍仁親王に御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報、河井弥八日記、雍仁親王実紀

二十九日 月曜日 午前、天皇と共に、文学博士三上参次より大礼の本義についての進講をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、進講録、河井弥八日記

三十日 火曜日 御夕餐後、天皇と共に悠紀斎田等の活動写真を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌

三十一日 水曜日 午後一時四十五分、天皇と共に御出門、皇太后の御機嫌伺いのため青山東御所に行啓され、三時五十五分還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、行幸録、貞明皇后実録

正本、宮内省省報、官報

十一月

一日 木曜日 午後、紅葉山御写真場において、皇后の衣紋方を務める菊亭章子侯爵菊亭公長夫人及び冷泉恭子

に謁を賜う。それより兩名の奉仕により御五衣を着され、写真の撮影を受けられる。○女官日誌、侍従職日誌

この日、皇后宮女官竹屋志計子皇后宮女官長心得が皇后宮女官長に任じられる。○進退録、河井弥八日記

昨月二十五日北海道宗谷郡稚内町において発生した火災の被害に対し、御救恤として天皇・皇后より金一封を北海道庁へ下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二日 金曜日 午前、桐ノ間において、新任のチェコスロバキア国特命全権公使カーレル・ハラ及び同夫人・息女、スイス国特命全権公使エミール・トラベルシニー、チリ国特命全権公使エンリーケ・ガリヤルド・ニエートに謁見を仰せ付けられる。入御の後、再度桐ノ間に出御され、今般帰任のノルウェー国特命全権公使ヨハン・ウイルヘルム・ミヘレットに謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午後、正子女王・朝子女王の初参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になる。皇后より正子女王・朝子女王にそれぞれ万那料及びお品を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

三日 土曜日 明治節につき、午前、天皇と共に表内謁見所に出御され、内大臣・宮内大臣・侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫始め側近高等官等に謁を賜う。続いて雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族と御対面になる。それよりお一方にて奥内謁見所にお出ましになり、各皇族妃・王族妃と御昼餐の内宴を催される。終わって奥内謁見所において正二位柳原愛子に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、儀式録、典式録、朝香宮奥日誌、河井弥八日記

午後、天皇と共に表内謁見所に出御され、大礼使典儀部参与官西園寺八郎主馬頭より大礼諸儀に関する説明をお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、大札録、河井弥八日記、奈良武次日記

五日 月曜日 大礼奉祝のため、紅白菊花の販売収益を社会団体に寄付する趣につき、花の日に金

員を下賜される。同会は大正三年の青島凱旋時に菊花を販売し、その収益をもって戦死者遺族を救済することを目的として設立された。なお昨四日には、同会代表嘉悦孝・天野多喜子より天皇・皇后に紅白菊花の献上がある。○贈賜録、河井弥八日記

六日 火曜日 即位礼・大嘗祭挙行のため、京都に行幸の儀が行われる。大正度の大礼においては皇后貞明は御懐妊により行啓されなかったため、天皇・皇后が御同列にて京都に行幸啓され、大礼に臨まれるのは明治四十二年の登極令制定以降今回が初めてとなる。

早暁より温明殿賢所の御殿名において祭典が催され、皇后宮職御用掛吉見光子に御代拝を仰せ付けられる。午前、賢所御神体の神鏡が御羽車に移御される際、天皇・皇后は内庭に降りられ御遙拝になる。ついで御羽車は鹵簿立てをなし、行進が開始される。

皇后は空色のビロードの御通常服に勲一等宝冠章の副章を御佩用になり、天皇が鳳輦に乗御された後、四頭立ての馬車にお乗りになる。七時二分鹵簿は行進を開始し、宮城正門鉄橋外より御羽車の鹵簿と接続し、宮城正門を出て七時二十六分東京駅に御到着になる。天皇・皇后は便殿において宣仁親王を始めとする奉送の各皇族、皇太后御使の皇太后宮大夫入江為守と御対面になる。午前八時、御召列車は東京駅を発車し、名古屋駅を経て、午後四時四十分名古屋離宮に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、

内舎人日誌、秩父宮御側日誌、大札録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、昭和大礼要録

七日 水曜日 午前九時五十分天皇と共に名古屋離宮を御出発、名古屋駅より京都駅を経て、午後三時十九分、天皇に続いて京都皇宮の御車寄に御到着になる。その後、表謁見所において雍仁親王・同

妃勢津子以下各皇族に御対面になる。なお、賢所は春興殿に奉遷され、夕刻、同殿において賢所春興殿に渡御の儀が行われる。皇后は皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。天皇・皇后はこれより二十六日までの間、御親謁のため神宮に行幸啓の期間を除き京都皇宮を御泊所とされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、大礼録、宮内省省報、官報、昭和大礼要録

八日 木曜日 午前十一時二十分より午後零時四十分まで、天皇と共に紫宸殿の儀の習礼を行われる。

ついで掌典長九条道実より賢所大前の儀についての説明をお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、大礼録

九日 金曜日 午前、邦彦王・同妃倪子参殿につき、天皇と共に御対面になる。午後には子爵日野西資博始め京都在住華族参殿につき、天皇と共に謁を賜う。ついで元典侍高倉寿子始め旧女官に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、大礼録、河井弥八日記

十日 土曜日 即位礼当日賢所大前の儀につき、午前、御髪具銀の御釵子・御笄をお付けになり、御学問所にお

いて白色帛の御五衣・御唐衣・御裳をお召しになる。御檜扇をお持ちになり、御休所の宜陽殿へ御移動になる。十時過ぎ、賢所が安置された春興殿にお進みになる。天皇の賢所への御拝礼及び御告文の奏上に続き、御拝礼になる。次に皇族以下供奉諸員が一斉に再拝する。終わって天皇に続き、御学問所に入御される。

午後、即位礼当日紫宸殿の儀が行われる。御学問所において御五衣・御唐衣・御裳を御着用になる。御髪は大垂髪にて、金色の御釵子、御笄、金蒔絵菊御紋章の御櫛をお挿しになる。天皇の御列について紫宸殿に出御され、天皇は高御座に、皇后は御帳台に昇御される。高御座及び御帳台の御帳がそれぞれ上げられ、天皇は福頼の御笏を、皇后は御檜扇をお持ちになり立御される。それより天皇が勅語

を宣す。続いて内閣総理大臣田中義一が寿詞を奏し、終わって階段を下り、午後三時を期し天皇陛下万歳を三唱する。諸員はこれに唱和する。終わって皇后は御帳台を、天皇は高御座を下御され、御学問所に入御される。ついで同所において天皇と共に、内大臣、侍従長以下側近等に謁を賜い、祝詞の言上を受けられる。

この日、東京の皇霊殿・神殿においては奉告の儀が行われ、皇后宮使として皇后宮女官代吉見光子に御代拝を仰せ付けられる。

即位礼につき、この日天皇・皇后と皇太后との間で御贈進のお取り交わしがあり、皇后より皇太后に鮮鯛・柳樽が、皇太后より皇后に屏風一双・鮮鯛・清酒が贈られる。また天皇・皇后より皇族・王公族へ鮮鯛一折ずつを御贈進になり、正二位柳原愛子へは鮮鯛を下賜される。その他、皇族・臣下等より各種贈進及び献上がある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、秩父宮御側日誌、大札録、貞明皇后実録正本、官報、河井弥八日記、昭和大札要録

十一日 日曜日 午前、掌典長九条道実より大嘗祭の次第について、天皇と共に説明をお聞きになる。

○女官日誌、侍従日誌、大札録、河井弥八日記

即位礼後一日賢所御神楽の儀につき、夕刻、天皇と共に御学問所にお出ましになる。御五衣・御小桂・御長袴をお召しになり、春興殿において天皇に続き御拝礼になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、大札録、昭和大札要録

十二日 月曜日 午後、内匠寮出張所臨時所長心得植松雅道・殿掌油小路隆成の説明により、小御所・紫宸殿・清凉殿を御巡覧になる。○女官日誌、大札録

猷仁親王四十年式年祭につき、皇后宮女官伊地知ミキを豊島岡墓地に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○典式録、大札録、宮内省省報

十三日 火曜日 午前、九条幾子九条淨操院、皇太后の御生母に謁を賜う。○女官日誌、河井弥八日記

午後、天皇と共に饗宴場を御下見になり、併せて大嘗祭の悠紀主基屏風を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、大札録、野口明日記

この日大嘗宮において大嘗祭前一日大嘗宮鎮祭の儀並びに小御所において同鎮魂の儀が執り行われる。○官報、昭和大礼要録

十四日 水曜日 午前、京都皇宮内の賢所大前において、大嘗祭当日賢所大御饌供進の儀執行につき、皇后宮女官代吉見光子に御代拝を仰せ付けられる。東京においては、大嘗祭当日皇霊殿神殿に奉幣の儀が行われ、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。

大嘗宮の儀につき、午後四時二十五分天皇に続いて京都皇宮を御出発、頓宮大宮御所にお出ましになる。悠紀殿供饌の儀につき、午後六時十分、天皇は仙洞御所正門内北方に造営された大嘗宮の廻立殿に渡御される。ついで皇后も同所に渡御され、御着後、直ちに白色帛の御五衣・御唐衣・御裳にお召し替えになる。その後、天皇が悠紀殿に渡御される。ついで皇后も悠紀殿南庭の帳殿に進まれる。天皇が悠紀殿の御座、皇后が帳殿の御座に着されるや、国栖の古風、ついで悠紀地方風俗歌が奏される。奏楽終了後、皇后は帳殿の御座より御拝礼になり、廻立殿を経て頓宮にお戻りになる。続いて天皇は神饌御親供の儀を行われ、午後九時二十五分廻立殿を経て頓宮に還御される。

主基殿供饌の儀につき、翌十五日午前零時十分、天皇に続いて廻立殿に渡御される。ついで天皇・皇

后はそれぞれ廻立殿より、主基殿に進まれる。同殿における天皇・皇后の御所作は悠紀殿の時と同様に行われる。儀が終わり、皇后は頓宮にお戻りになる。天皇は午前三時十分同所にお戻りになる。それより天皇に続いて御出発、午前三時五十六分京都皇宮に還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

秩父宮御側日誌、大礼録、宮内省省報、官報、昭和大礼要録

十五日 木曜日 午後、大嘗宮の儀が滞りなく終了につき、天皇と共に皇太后御使の皇太后宮大夫入江為守に謁を賜い、ついでお祝い言上のため参殿の雍仁親王・同妃勢津子以下の皇族・王公族と御対面になる。この度大嘗宮の儀無事終了につき、天皇・皇后と皇太后との間で御贈進のお取り交わしがあり、皇后と皇太后は相互に鮮鯛・昆布・柳樽を御贈進になり、天皇・皇后より皇太后に蔬菜・小鴨を贈られる。○女官日誌、侍従日誌、秩父宮御側日誌、大礼録、供御録、貞明皇后実録正本

この日、各門跡寺院の尼僧に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、大礼録

十六日 金曜日 大饗第一日の儀が行われる。儀場となる饗宴場は京都皇宮の東側、外苑東北部に仮設された建物にて、北部中央に玉座を、その東側に皇后御座を設け、東方北部には西面して悠紀地方風俗歌の屏風帝室技芸員川合玉堂の筆が、西方北部には東面して主基地方風俗歌の屏風帝室技芸員山元春挙の筆が立てられる。午後

零時八分、中礼服をお召しの上、天皇陸軍御正装と共に饗宴場の謁見所に出御され、列立する大勲位以下前官礼遇以上の諸員に謁を賜う。一旦便殿に入御の後、再び謁見所において、各国大使・使節及びその夫人に謁見を仰せ付けられ、御握手を賜う。終了後、大饗宴場に出御され、天皇は玉座に、皇后は御座に立御される。それより天皇の勅語御朗読があり、引き続き内閣総理大臣田中義一・首席大使のドイツ国特派大使ウイルヘルム・ゾルフがそれぞれ奉対文を朗読する。御着席後、天皇・皇后及び参列

者に白酒・黒酒が供される。ついで、式部長官より悠紀地方並びに主基地方より進献された多米都物の奏上がある。その後、天皇・皇后及び参列者に清酒・酒肴が供され、久米舞、悠紀主基風俗舞、五節舞が順次行われる。舞及び大歌が終了し、天皇・皇后は便殿に入御の後、午後一時五十六分皇宮へお戻りになる。この日の饗宴には皇族・王公族二十五方、大勲位以下勲一等以上・同夫人三百七十五人、高等官一以下四百五十四人、特派大使・使節・同夫人三十七人、随員・同夫人五十三人の計九百四十四人が参列する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、秩父宮御側日誌、大礼録、官報、昭和大礼要録

十七日 土曜日 大饗第二日の儀につき、中礼服をお召しになり、午後六時五十分天皇^{陸軍御正装}と共に饗宴場の謁見所に出御され、各国特派大使・使節以下に謁見を仰せ付けられ、御握手を賜う。ついで饗宴場に出御される。陪宴者は雍仁親王以下皇族・王族が二十三方、ドイツ国特派大使以下各国大使・使節並びに同夫人三十七人、大勲位以下、大礼使長官・次官並びに以上の者の夫人、供奉勅任官、皇后宮女官等百四十三人の総計二百三人。天皇は楕形の食卓中央の玉座に、皇后はその対面の御座に御着席になる。西洋料理のコースを陪宴者と御会食になり、饗宴の間には欧州管弦楽が奏される。儀が終わり、便殿に入御の後、九時二分皇宮へお戻りになる。

大饗夜宴の儀につき、午後十時八分天皇と共に饗宴場に出御される。楽師による萬歳楽・太平楽の舞楽を御覧になり、終了後一旦便殿に入御される。十一時五十分、再び饗宴場にお出ましになる。場内には冷食並びに酒飲料が供され、陸海軍軍楽隊が交互に欧州管弦楽を奏する。儀が終わり、便殿入御の後、翌十八日午前零時二十四分、皇宮へお戻りになる。本儀の参列者は雍仁親王以下皇族・王族二十三方、各国特派大使・使節並びに同夫人九十人、大勲位以下勲一等以上の者並

びに同夫人三百六十六名、高等官一等以下その他の諸員二千三百人、総計二千七百七十九人に達する。

○女官日誌、侍従日誌、秩父宮御側日誌、大札録、官報、昭和大札要録

十八日 日曜日 午後、翌日帰京の宣仁親王参殿につき、天皇と共に御対面になる。ついで大谷智子

御、渋谷蓬子皇太后の御妹にそれぞれ謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、大札録

この日、京都府葛野郡嵯峨町婦人会の主催で、御大札記念事業として嵯峨亀山公園内に贈従四位津崎村岡いわゆる幕末の勤王家の銅像建設に当たり、該工費の一部として同会に金員を下賜される。○贈賜録、河井弥八日記

十九日 月曜日 神宮御親謁につき、午前十時天皇と共に京都皇宮を御出門、京都駅より山田駅を経、午後二時五十分行在所の神宮司庁に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大札三重県行幸啓記、昭和大札要録

二十日 火曜日 即位礼及大嘗祭後神宮に親謁の儀につき、桂袴をお召しになり、午前九時、豊受大

神宮御親謁のため天皇と共に行在所を御出門、頓宮豊受大神宮齋館に御到着になる。天皇の御拝礼後、御五衣・

御唐衣・御裳にお召し替えになり、頓宮を御出発、正殿に進まれ、大床の御拝座より御拝礼になる。

午後零時二十一分、天皇と共に行在所に還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大札要録

二十一日 水曜日 即位礼及大嘗祭後神宮に親謁の儀につき、桂袴をお召しになり、午前九時、皇大

神宮御親謁のため天皇と共に行在所を御出門、頓宮皇大神宮齋館に御到着になる。昨日同様、天皇の御拝礼後、

御五衣・御唐衣・御裳にお召し替えになり、頓宮を御出発、正殿に進まれ、大床の御拝座より御拝礼

になる。正午、天皇と共に行在所に還御される。○女官日誌、侍従日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大札要録
午後、行在所において、慶光院盈子邦彦王姉、伊勢在住に謁を賜う。また雍仁親王・朝融王・神宮祭主多嘉王にそれぞれ御対面になる。ついで三重県知事原田維織以下県関係者、神宮大官司伯爵三条西実義以下神宮職員に、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、大札録

宮中顧問官桂潜太郎この日死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病氣に対しては天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十二日 木曜日 午前十時、天皇と共に行在所を御出門、山田駅より京都駅を経て、午後二時五分京都皇宮に還御される。○女官日誌、侍従日誌、大札録、宮内省省報、昭和大札要録

天皇と共に饗宴場第一朝集所において、陳列された京都府・奈良県下の物産を御巡覧になる。二十三・二十四日にも物産を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、奈良県庁所蔵文書、河井弥八日記

二十三日 金曜日 即位礼及大嘗祭後神武天皇山陵に親謁の儀につき、白の通常服をお召しになり、午前九時七分天皇と共に京都皇宮を御出門、京都駅より畝傍駅を経て、神武天皇陵の頓宮に御到着になる。天皇の御拝礼後、頓宮を出御され、御拝座より御陵に御拝礼になる。畝傍駅より京都駅を経て、午後三時二十四分京都皇宮に還御される。○女官日誌、侍従日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大札要録

二十四日 土曜日 即位礼及大嘗祭後仁孝天皇山陵孝明天皇山陵に親謁の儀につき、白の通常服をお召しになり、午前九時天皇と共に京都皇宮を御出門、頓宮泉浦寺に御到着になる。天皇が仁孝天皇陵に御拝礼の後、頓宮を出御され、祭舎に進まれ御拝礼になる。終了後、頓宮にお戻りになる。引き続き、天皇が孝明天皇陵に御拝礼の後、再び頓宮を出御され、祭舎に進まれ御拝礼になる。十一時四十二分

京都皇宮に還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大礼要録

午後、伯爵大谷光暢・同夫人智子並びに子息光紹参殿につき、天皇と共に御対面になる。ついでお一方にて智子・光紹と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌

二十五日 日曜日 即位礼及大嘗祭後明治天皇山陵に親謁の儀につき、白の通常服を召され、午前九時天皇と共に京都皇宮を御出門になる。京都駅より桃山駅を経て、明治天皇陵の頓宮に到着される。天皇の御拝礼の後、頓宮を出御、御陵に参進され御拝礼になる。十一時五十分京都皇宮に還御される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大礼要録

午後、瑞竜寺門跡村雲御所の九条日浄皇太后の御兄九条道実の養女に謁を賜う。○女官日誌、大札録

この日、英照皇太后陵及び昭憲皇太后陵に天皇・皇后より皇后宮女官津軽理喜子を差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○大札録

二十六日 月曜日 早朝、東京に還幸の儀につき賢所移御のため、春興殿において祭典が行われ、賢所は御羽車に移御される。○昭和大礼要録

午前九時四十分、天皇の鹵簿が京都皇宮を御出発になり、建礼門内にて御羽車の鹵簿と合流後、皇后の鹵簿が出発される。京都駅より名古屋駅を経て、午後三時十分名古屋離宮に御到着になる。直ちに供奉の雍仁親王・同妃勢津子、載仁親王、邦彦王・同妃侘子と天皇と共に御対面になり、引き続き内閣総理大臣田中義一・愛知県知事小幡豊治に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、秩父宮御側日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大礼要録

二十七日 火曜日 午前六時五十分、馬車にお乗りになり、天皇の鹵簿に続いて名古屋離宮を御出発

昭和三年十一月

になる。名古屋駅より東京駅を経て、午後四時十三分宮城に還御される。途中、賢所御羽車は温明殿に還御する。その後、天皇と共に表内謁見所において奉迎の各皇族に御対面になり、ついで内閣総理大臣以下に謁を賜う。また、お一方にて旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子・園祥子等に謁を賜う。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大礼要録

還幸啓につき、皇太后への御使として天皇は侍従長珍田捨巳を、皇后は皇后宮大夫河井弥八を青山東御所へ差し遣わされる。○貞明皇后実録正本、河井弥八日記

二十九日 木曜日 即位礼及大嘗祭後大正天皇山陵に親謁の儀につき、午前九時五分天皇と共に宮城を御出門、原宿駅より東浅川駅を経て、多摩陵の頓宮に御到着になる。天皇の御拝礼に続いて頓宮を御発になり、祭舎へ参進され御拝礼になる。午後二時二十五分宮城に還御される。○侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、大札録、宮内省省報、官報、昭和大礼要録

三十日 金曜日 午前、天皇と共に御学問所にお出ましになり、雍仁親王を始め各皇族・王公族と順次御対面になり、大礼の諸儀滞りなく終了につき恐悦言上を受けられる。午後には鳩彦王妃允子内親王・博恭王妃経子・博義王妃朝子と同じく御対面になる。また、天皇・皇后と皇太后との間で鮮鯛の御贈進をお取り交わしになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、大札録、貞明皇后実録正本

この日、朝融王妃知子女王内着帯につき、お悦びとして天皇・皇后より三種交魚を御贈進になる。○

贈賜録

十二月

一日 土曜日 大札の諸儀滞りなく終了につき、午後二時御出門、天皇と共に青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。皇太后及び後刻参殿の崇仁親王と茶菓を共にされ、四時二十五分還御される。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二日 日曜日 午後、この日誕生日を迎えた崇仁親王と表御座所において天皇と共に御対面になる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 水曜日 午前、今般賜暇帰国につき、暇乞いのため参内の米国特命全権大使チャールズ・マクヴェー及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

六日 木曜日 成子内親王の誕生日につき、午前、成子内親王と共に内親王の居間において、正子女王・朝子女王、三条西信子及び息女の淑子・味子、湛子女王、多恵子女王と御対面になる。正午より天皇・成子内親王と共に、総代の内大臣・宮内大臣・侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・侍医頭より祝詞の言上をお受けになる。午後六時より、天皇と共に千種ノ間において、成子内親王の誕生日祝いの内宴に臨まれる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、朝香宮奥日誌

七日 金曜日 大礼後宮中饗宴第一日につき、午後零時二十五分、天皇と共に御学問所前に進まれ、雍仁親王・同妃勢津子、載仁親王、故依仁親王妃周子と御対面になり、ついで千種ノ間においてドイツ国特命全権大使ウイルヘルム・ゾルフ以下各国大公使・同夫人に御握手を賜い、内閣総理大臣田中義一以下御陪食の諸員に謁を賜う。それより豊明殿へ出御され、饗宴に臨まれる。午後三時、牡丹ノ

間においてドイツ国大使館参事官フォン・シェーン以下各国大使館員並びに同夫人に謁見を仰せ付けられる。この日の饗宴第一日に続き、天皇と共に、翌八日・十日・十一日の計四日にわたり催される宮中饗宴の午餐に臨まれる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日誌、大礼録、儀式録、宮内省省報、官報、昭和大礼要録

十二日 水曜日 午前九時五分御出門、東京府美術館にて開催の唐宋元明名画展覧会にお立ち寄りになる。御到着後、展覧会の会長近衛文麿の出迎えを受けられ、玄関上広間に整列する展覧会の委員正木直彦東京美術
学校長以下八名・帝室博物館総長大島義脩・外務省文化事業部長岡部長景、中华民国より来日した劉驥業・李文権・高賛鼎に謁を賜う。ついで正木委員の説明により、中华民国より出陳された歴代帝王函巻ほか陳列品を御巡覧になる。終わって東京音楽学校に向かわれる。御到着後、便殿において先着の皇族・王族と御対面になる。ついで校長乗杉嘉寿並びに関係勅任官に謁を賜う。次に乗杉校長より書類の奉呈を受けられる。便殿前廊下に整列する学校奏任職員に謁を賜い、奏樂堂にお入りになり、邦楽演奏をお聴きになる。御昼餐後、再び奏樂堂にお出ましになり、洋楽演奏をお聴きになる。午後三時四十五分還御される。○女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌、河井弥八日記、関屋貞三郎日記、外交時報

聡子内親王内着帯につき、天皇・皇后より三種交魚を御贈進になる。○贈賜録

十三日 木曜日 午前九時御出門、天皇と共に恩賜上野公園竹の台広場に設営された御大礼東京市奉祝会に行啓される。御到着後、便殿において皇族・王族と御対面の後、東京市長以下幹部等に謁を賜う。別室に陳列の教育学芸品を御覧になり、奉祝会場に臨まれる。式中、市長の祝辞奏上に続いて天

皇が勅語を賜う。十一時三十分天皇と共に還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附宿直日記、幸啓録、宮内省省報、官報、昭和大礼記録、昭和大礼要録

十五日 土曜日 午前十時、今般離任のノルウェー国特命全権公使ヨハン・ウィルヘルム・ミレツト、スウェーデン国特命全権公使オスカル・アントン・ヘルマン・エーヴェロフに謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

夕刻、賢所御神楽につき、御拝礼になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内省省報、官報

十六日 日曜日 午後零時三十分、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国のドイツ国特命全権大使 ウィルヘルム・ゾルフ、並びにブラジル国特命全権大使 A・ド・ブリエンヌ・フェイトーザ及び同夫人のため午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、中山三千代に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌

十七日 月曜日 大札中の慰勞の思召しにより、御常御殿南階下の芝生において、侍従職職員へのくじ引きを催される。午後四時、天皇及び成子内親王と共に、南階上にお出ましになる。参集した百七十余名の職員が順番に御前に参進してくじ引きをし、その順位に従い、抽籤品を拝受する。なお、この日不参の高等官以下のため、翌十八日午後にも同様の催しを行われる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、河井弥八日記

歳末に際し、東京府・東京市後援により官公私社会事業諸団体が協力して貧困者救療を実施するに当

昭和三年十二月

たり、思召しをもつて東京府に金一封を下賜される。○恩賜録、贈賜録

十八日 火曜日 大札無事終了につき、天皇と共に豊明殿において午餐を催され、博恭王・同妃経子、守正王・同妃伊都子、春仁王・同妃直子及び大札使総裁載仁親王始め大札使高等官・国務大臣等二百二十余名と御会食になる。翌十九日にも同様の催しが行われる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十九日 水曜日 午前、今般英国在勤帝国大使館付武官として渡英する海軍中佐公爵島津忠重^{御叔父}に謁を賜う。○女官日誌、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十二日 土曜日 正午過ぎ、皇太后及び故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王をお招きになり、天皇と共に内宴を催される。この催しは、皇太后及び昌子内親王・房子内親王が大札諸儀中の饗宴その他へ出席がなかったことから行われたものである。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十三日 日曜日 午前九時御出門、天皇と共に新宿御苑に行啓され、大札記念として催されるゴルフトーナメントに臨まれる。午後四時十五分還御される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、新宿御苑上申報告綴、宮内省省報、官報、朝香宮典日誌、河井弥八日記、奈良武次日記、野口明日記

二十四日 月曜日 午後、奥内謁見所において、今般英国へ赴任の特命全權大使松平恒雄に謁を賜う。

○女官日誌、内舎人日誌、典式録、宮内省省報、官報

去る九月上旬の台湾総督府管内における暴風雨被害に対し、この日御救恤として天皇・皇后より金一封を総督府へ下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十五日 火曜日 大正天皇祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子に多摩陵の御代拝を仰せ付けられる。

○女官日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、宮内省省報

二十六日 水曜日 思召しをもって日本赤十字社病院・東京慈恵会医院・恩賜財団済生会病院の各救助收容患者及び財団法人福田会育児院收容者に対し、木綿縞・裏地・裁縫料をそれぞれ下賜される。

○贈賜録、日本赤十字社史続稿

二十七日 木曜日 午前、奥宮殿において天皇と共に、正二位柳原愛子に謁を賜い、歳末の御機嫌奉伺をお受けになる。その後、山内禎子侯爵山内豊景夫人、貞愛親王の王女に謁を賜い、歳末の御機嫌奉伺をお受けになる。

○女官日誌、侍従職日誌

二十八日 金曜日 この日海軍中将野村吉三郎海軍軍令部出仕、前海軍軍令部次長の宮内省御用掛が免じられ、海軍中将末次

信正海軍軍令部次長に同職が仰せ付けられる。○進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

二十九日 土曜日 歳末につき、午前、鳩彦王・同妃允子内親王、博恭王、守正王、李王垠・同妃方子女王と御対面になり、祝詞言上を受けられる。夕刻、天皇と共に故成久王妃房子内親王と御対面になり、祝詞言上を受けられる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、朝香宮奥日誌

午後、天皇と共に、宮内大臣・宮内次官・侍従武官長・皇后宮大夫・侍医頭より歳末の祝詞言上を受けられる。○女官日誌、河井弥八日記、関屋貞三郎日記

夜、成子内親王の催しによるクリスマス祝い及び歳末のお祝い余興が行われ、天皇と共に御出席になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

昭和三年十二月

三十日 日曜日 歳末につき、午前、故菊麿王妃常子・茂麿王と御対面になり、祝詞言上を受けられる。ついで天皇と共に雍仁親王・同妃勢津子、載仁親王・春仁王・同妃直子と御対面になり、祝詞言上を受けられる。それより旧女官四名にお一方にて謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十一日 月曜日 歳末につき、午前、奥内謁見所において故恒久王妃昌子内親王と天皇と共に御対面になり、祝詞言上を受けられる。ついで邦彦王・同妃倪子、朝融王より順次祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

一月

一日 火曜日 宮城において新年を迎えられる。午前、天皇と共に御学問所において、側近高等官の拝賀をお受けになる。十時、拝賀の儀に臨まれる。天皇と共に鳳凰ノ間において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王族の拝賀をお受けになる。ついで正殿において大勲位・親任官・前官礼遇・貴族院議長・衆議院議長・勲一等・功一級・親任官待遇・公爵・従一位・勲一等外国人等の拝賀をお受けになる。一旦入御の後、再び天皇と共に正殿において、高等官一等・貴族院副議長・衆議院副議長・麿香間祇候・侯爵・正二位・高等官二等・功二級・勅任待遇・神仏各宗派管長、准勅任雇外国人等の拝賀をお受けになる。その後、西溜ノ間を通御の際、宮内奏任官・同待遇の拝賀をお受けになる。午後、天皇と共に正殿において、外国交際官・同夫人の拝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥宮殿において崇仁親王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

二日 水曜日 拝賀の儀につき、午前十時十分、天皇と共に正殿において、伯爵・従二位・勲二等・子爵・正三位・従三位・功三級・勲三等・男爵・正四位・従四位、及び勲二等・勲三等外国人等の拝賀をお受けになる。十一時、天皇と共に千種ノ間において貴族院議員・衆議院議員の拝賀をお受けに

なる。続いて豊明殿・南溜ノ間・東溜ノ間・西溜ノ間において、高等官三等以下、奏任待遇の神職・門跡寺院住職・准奏任雇外国人、勲四等・勲五等・勲六等外国人等より拝賀をお受けになる。終わって桐ノ間において、お一方にて御裳捧持者に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、奈良武次日記

三日 木曜日 午前、天皇と共に、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、親王より、賜物についてのお礼言上、及び来る五日に伊勢へ向け出発する暇乞いの言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、宮内省省報

天皇と共に奥内謁見所において、博英王始め未成年皇族と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、天皇と共に奥御対面所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になる。以後、この年も皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

四日 金曜日 午前、御機嫌伺いのため参内の元宮内省御用掛後閑菊野御学問所御教育主任、並びに御学友・御同

級生四名に謁を賜う。○女官日誌

五日 土曜日 新年につき、正午頃、内宴を催され、雍仁親王妃勢津子・故依仁親王妃周子・博恭王妃経子・故菊麿王妃常子・鳩彦王妃允子内親王・故成久王妃房子内親王・故恒久王妃昌子内親王・春仁王妃直子・李王垠妃方子女王と共に御会食になる。○女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子・園祥子等に謁を賜う。

以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官日誌、侍従日誌

六日 日曜日 午後、奥内謁見所において、元久邇宮侍女滝野繁尾に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。○女官日誌

七日 月曜日 午前、御機嫌伺いのため参内の徳川実枝子威仁親王の王女、公爵徳川慶久夫人、松平信子雍仁親王妃勢津子の母にそれぞれ謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌

この月上旬、新潟・富山両県管内において大風雪等による被害発生につき、天皇・皇后より両県に御救恤金を下賜される。○恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

八日 火曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜う。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后より青山東御所の皇太后に御使を遣わされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

故祐子内親王の月命日につき、皇后宮女官伊地知ミキを豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より権舎及び墓所に菱葩・果物・菓子をお供えになる。以後、この年は、故祐子内親王の月命日に当たる毎月八日に、皇后宮女官を豊島岡墓地に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、典式録

九日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前十時十分、成子内親王を伴われ御出門、東京駅より逗子駅を経て、十一時五十五分、葉山御用邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

この日、昨年末以来御風気のため御静養中であつた皇太后の御床払いにつき、皇后宮女官津軽理喜子

昭和四年一月

を御使として青山東御所に差し遣わされ、天皇・皇后より三種交魚を御贈進になる。○女官日誌、行幸録

贈賜録、貞明皇后実録正本

十二日 土曜日 午後、内大臣秘書官松井定克をお召しになり、謡曲の稽古を行われる。翌十三日も松井をお召しになり、謡曲の稽古を行われる。○女官日誌

十六日 水曜日 この日、侍従長兼枢密顧問官伯爵珍田捨巳危篤につき、天皇・皇后より病氣お尋ねとして侍従土屋正直・侍医寛繁を同人邸に差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。その後、同人死去につき、天皇・皇后より弔問使として侍従土屋正直を同人邸に差し遣わされる。翌十七日、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。十九日、皇后宮使として皇后宮女官津軽理喜子を差し遣わされ、祭資・櫛を下賜される。

珍田は、明治十八年外務省に奉職、独国・米国・英国に駐節の特命全権大使を歴任し、大正八年開催のパリ講和会議に際しては全権委員を務めた。大正十年宮内省御用掛を拝命し、天皇の皇太子時代の欧州御巡遊に際して供奉長を務め、その後も天皇の摂政時代には東宮大夫として、御即位後は侍従長として奉仕した。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、恩賜録、贈賜録、進退録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、伯爵珍田捨巳伝

十七日 木曜日 午後、参邸の内閣総理大臣兼外務大臣田中義一に、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、

侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録

十八日 金曜日 天皇・皇后より、咽頭ジフテリアに罹患した崇仁親王に鶏卵等を御贈進になる。○

侍従職日誌、贈賜録

二十一日 月曜日 天皇と共に還啓のため、午後一時二十五分葉山御用邸を御出門、三時十分宮城に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十二日 火曜日 午後、奥内謁見所において新任の侍従長鈴木貫太郎に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、儀式録、進退録、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 午前、桐ノ間において新任のドイツ国特命全権大使エルンスト・アルツール・フォレットチ及び同夫人、並びに随伴の大使館参事官フォン・シェーンその他に謁見を仰せ付けられる。

○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十四日 木曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「田家朝」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

この年もみのりよかれといのらむ小田のさと人朝日をかみて

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、儀式祭典録、典式録、御歌録、宮内省省報、官報

二十五日 金曜日 熱海滞在中の邦彦^御が、去る二十二日より結腸S字状部潰瘍のため下血、二十

三日には多量の下血があり一時失神する。この日午後、邦彦王違例の電報到達につき、侍医村山浩一より言上をお受けになり、ついで久邇宮付宮内事務官山田益彦に謁を賜い、王の容体についてお聞きになる。直ちに天皇・皇后より御使として皇后宮事務官岡本愛祐及び侍医八田善之進を王の許に差し遣わされ、葡萄酒・鶏卵・花卉を御贈進になる。夜、侍医松永琢磨に謁を賜い、王のその後の容体をお聞きになる。その後、再び松永侍医より、熱海に御差遣の八田侍医からの電話による容体の報告を

昭和四年一月

お聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、皇親録、邦彦王殿下薨去の件、邦彦王殿下薨去録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

二十六日 土曜日 午後、天皇と共に豊明殿において、今般新任のドイツ国特命全権大使エルンスト・アルツール・フォレッツチ及び同夫人のため午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、

宮内省省報、官報

午後、熱海より帰京の侍医八田善之進、及び皇后宮大夫河井弥八に、天皇と共に謁を賜い、八田より邦彦王の容体につき復命を御聴取になる。この日、皇后が翌日熱海へ行啓されることが決定する。なお、この日予定されていた御結婚五年記念日の内宴は、お取りやめとなる。○女官日誌、侍従日誌、典式録、

河井弥八日記

二十七日 日曜日 邦彦王をお見舞いになるため、午前八時十五分御出門、東京駅より汽車にて熱海に向かわれる。この日の行啓は、当初午前十一時に御出門の御予定であったところ、未明より王の病勢亢進との報が到達したことから、七時十分に皇后宮大夫河井弥八・侍医頭佐藤恒丸に謁を賜い、両名よりの申し入れをお受けになり、御予定を繰り上げての御出発となる。十時三十五分熱海駅に御着、自動車にて久邇宮別邸に御到着になる。御休所において邦彦王妃御倪子母・朝融王御兄兄より邦彦王の病状をお聞きになり、二階の寝室に臥床中の邦彦王をお見舞いになる。なお、この度のお見舞いに当たり、スープ・牛乳・万那料を王に御贈進になる。王からは重体にもかかわらず明瞭な言葉にてお礼がある。暫くの間、邦彦王妃と共に枕頭にてお過ごしになり、その後、医師の手当てのため退室され、階下の室にて御兄弟と御対面になる。再び二階の寝室にお入りになり、邦彦王妃と共に看護されていたとこ

る、王の病勢が進んだため、朝融王・邦英王御弟・久邇邦久御兄・三条西信子御妹・大谷智子御妹が寢室に入る。その後、王の容体が急変し、正午頃には危篤に陥り、午後零時二十九分薨去する。皇后は、御永訣の後、階下に移られ、載仁親王、故依仁親王妃周子、李王垠・同妃方子女王と御対面になる。さらに宮内大臣・内大臣等の供奉高等官に謁を賜い、弔辞をお受けになる。

邦彦王は、明治六年七月二十三日朝彦親王の第三王子として誕生し、二十年久邇宮継嗣の治定を受けた。二十六年、士官候補生として入宮以降、軍務に勤しみ、第十五師団長・近衛師団長・軍事参議官等を歴任、大正十二年には陸軍大将に昇進する。また日独協会・日本美術協会・帝国飛行協会・同仁会・大日本武徳会・聖徳太子一千三百年御忌奉賛会の各総裁として、各団体の発展に寄与した。享年五十七。

午後三時三十分久邇宮別邸を御出門、熱海駅を御発車になり、六時還啓される。奥内謁見所において、侍従長・侍従武官長始め留守居の側近奉仕者より弔辞をお受けになる。また、皇太后御使として参内の権典侍山口正子より御機嫌伺いを受けられる。

この日及び葬儀当日の廃朝、並びにこの日より七日間の宮中喪となる。天皇・皇后は、皇室服喪令の規定によりそれぞれ服喪皇後の御服喪期間は一年される。また、御服喪に伴い、講書始のほか各種の儀式・祭祀がお

取りやめとなる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、邦彦王殿下薨去の件、邦彦王殿下薨

去録、邦彦王殿下喪儀録、皇親録、皇族身分録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

二十八日 月曜日 正午前、天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣一木喜徳郎に謁を賜う。○女官

日誌

昭和四年一月

午後、故邦彦王の靈柩が熱海の久邇宮別邸を出発し、東京の久邇宮邸に到着する。よって、御使として皇后宮女官長竹屋志計子を同邸に差し遣わされ、天皇・皇后よりそれぞれ榊・盛菓子を、皇后より果物をお供えになる。翌二十九日には、靈前に野菜をお供えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雜録、邦彦王殿下薨去録、邦彦王殿下喪儀録、皇親録、邦彦王行実

三十日 水曜日 午後、葉山より帰京した成子内親王と天皇と共に御対面になる。○女官日誌

故邦彦王拝訣の儀につき、午後、皇后宮女官津軽理喜子を久邇宮邸に差し遣わされる。夜、正寝移柩の儀につき、皇后宮女官油小路蒙子を差し遣わされ、天皇・皇后より榊・盛菓子を、皇后より菓子を靈前にお供えになる。また油小路女官・皇后宮職御用掛生源寺政子に通夜への参列を仰せ付けられる。

○女官日誌、侍従職日誌、邦彦王殿下薨去録、邦彦王殿下喪儀録、皇親録

三十一日 木曜日 邦彦王薨去につき、弔問のため、午後一時五十分御出門、天皇と共に久邇宮邸に行啓される。天皇の御拝礼に続き正寝ノ間に進まれ、靈柩に玉串を奉じられ御拝礼になる。その後、天皇と共に便殿において、喪主の朝融王及び同妃知子女王、故邦彦王妃倪子と御対面になり、ついで多嘉王御父邦彦王の弟・同妃静子、守正王同・同妃伊都子、鳩彦王同・同妃允子内親王、稔彦王同、恒憲王、李王、王塚妃方子女王、邦英王と御対面になり、また侯爵久邇邦久・三条西信子・大谷智子に謁を賜う。二時四十五分還啓される。久邇宮邸への行啓に際し、天皇・皇后より靈前に果物・野菜をお供えになり、久邇宮に果物・菓子を御贈進になる。また翌二月一日には、皇后より靈前に菓子を御供えになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、邦彦王殿下薨去録、邦彦王殿下御葬儀録、邦彦王殿下喪儀録、重要雜録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

二月

二日 土曜日 午前、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を久邇宮邸に差し遣わされ、幣帛・櫛を下賜される。また天皇・皇后より祭資を下賜される。夜、霊代安置の儀につき、皇后宮使として皇后宮女官伊地知ミキを同邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また皇后より霊前に果物をお供えになる。○女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、邦彦王殿下薨去録、邦彦王殿下喪儀録、皇親録、皇族身分録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

三日 日曜日 故邦彦王斂葬当日柩前祭の儀につき、午前、皇后宮使として皇后宮女官長竹屋志計子を久邇宮邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。霊車発引の時刻には、御遙拝になる。ついで葬送につき、皇后宮使として竹屋皇后宮女官長を豊島岡墓地の葬斎場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、これより先、邦彦王薨去につき、英国皇帝・皇后、オランダ国皇帝、スウェーデン国皇太子・同妃、シヤム国皇帝、チエコスロバキア国大統領より天皇・皇后に弔電が寄せられ、それぞれ答電をお送りになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、邦彦王殿下薨去の件、邦彦王殿下薨去録、邦彦王殿下喪儀録、邦彦王殿下御葬儀録、皇親録、皇族身分録、外交慶弔録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

四日 月曜日 故邦彦王斂葬後一日祭につき、午前、久邇宮邸の権舎に果物をお供えになり、故邦彦王妃侘子の御機嫌伺いのため、皇后宮女官を差し遣わされる。○女官日誌、侍従日誌、邦彦王殿下薨去録、邦彦王殿下喪儀録

宮中御喪明けにつき、皇太后より御機嫌伺いとして万那・野菜の御贈進がある。また、翌五日より葉山御用邸に皇后御避寒につき、皇太后より果物・切り花・菓子の御贈進がある。○女官日誌、侍従職日誌

昭和四年二月

五日 火曜日 葉山御用邸に行啓のため、成子内親王と共に午後二時五十分御出門、四時三十五分御用邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

故邦彦王十日祭につき、榊・盛菓子をお供えになる。また故邦彦王妃幌子の御機嫌伺いのため、皇后宮女官長竹屋志計子をお供えになる。その後も、二十日祭・三十日祭・四十日祭には、同邸の権舎に皇后宮女官を差し遣わされ、また榊・盛菓子をお供えになる。○女官日誌、侍従職日誌、邦彦王殿下薨去録、邦彦王殿下喪儀録

七日 木曜日 スペイン国皇帝アルフォンソ十三世より天皇に、同国皇太后マリア・クリスチーナの崩御を報ずる親電到達につき、天皇・皇后より弔電をお送りになる。葬儀当日には、同国駐劄特命全權公使太田為吉をサン・フランシスコ大寺院に差し遣わされ、柩前に花環をお供えになる。なお、この日より十六日までの十日間、宮中喪となる。○外交慶弔録、外交贈答録、行幸録、重要雜録、宮内省省報、官報

八日 金曜日 午後、去る六日式部長官を退任の公爵伊藤博邦参邸につき、謁を賜う。○女官日誌、恩賜録、進退録、宮内省省報、官報

十三日 水曜日 午後、宮内省雇マルトウ・ド・ラ・サールよりフランス語の指導をお受けになる。同人は大正十五年以来、皇后のフランス語御習得のお相手を務めていたが、昨年十二月よりこの年一月にかけて台湾・香港を旅行していたため、この日がこの年最初の指導となる。以後、この年十一月の雇備期間満了まで、しばしば同人よりフランス語の指導をお受けになる。○女官日誌、仏語御進講仏国婦人傭聘録

二十四日 日曜日 正午より、昨二十三日葉山御用邸に御到着の天皇、並びに成子内親王と共に南邸

の御茶寮において御昼餐を御会食になる。○女官日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録

二十六日 火曜日 宮城県本吉郡気仙沼町において一昨日火災による損害発生につき、この日天皇・

皇后より同県に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十七日 水曜日 故邦彦王の月命日につき、皇后宮女官津軽理喜子を豊島岡墓地に差し遣わされ、

御代拝を仰せ付けられ、盛菓子・果物をお供えになる。またこの日は、故祐子内親王の発病日に当たることから、皇后宮女官小路蒙子を豊島岡墓地に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。以後、

故邦彦王の月命日の二十七日に、皇后宮女官を権舎又は墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、典式録、邦彦王殿下薨去録

三月

六日 水曜日 満二十六歳のお誕生日を迎えられる。

御服喪中につき拝賀及び参賀は行われず、側近奉仕者を代表し皇后宮女官津軽理喜子より電話にて恐悦の申し入れがある。なお、内々に天皇よりお祝いの品の御贈進がある。○女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌、

儀式録、典式録

七日 木曜日 午後二時二十分、成子内親王と共に葉山御用邸を御出門になり、四時宮城に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

八日 金曜日 故祐子内親王一周年祭につき、午前、皇后宮使として皇后宮女官津軽理喜子を権舎並びに墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。同十一時、天皇及び成子内親王と共に権舎にお出ま

昭和四年三月

しになり、御拝礼になる。午後、侍従長鈴木貫太郎・侍従武官長奈良武次・皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、喪主を務めた河井より祭儀終了の報告をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、久宮祐子内親王殿下薨去録、典式録、例規録、宮内省省報、官報

九日 土曜日 午後、奥内謁見所において、満洲駐劄陸軍部隊への御差遣より帰国した侍従武官川岸文三郎に謁を賜い、復命をお受けになる。川岸は、天皇の御沙汰、並びに皇后の令旨を拝受し、二月二日出発、二十八日帰京する。皇后の令旨は次のとおり。

軍司令官以下一同力気候風土異ル海外ニ在リテ困難ナル勤務ニ服スルハ嘸苦勞多キコトアラウ
寒サモ敵シキ折柄各自一層身体ヲ大切ニスルヤウ又傷病者ハ克ク勞リ遣スヤウ申伝ヘヨ

○女官日誌、典式録、恩賜録、進退録、進献録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十一日 月曜日 全国及び海外居留の個人・団体よりの大札奉祝献上品を御覧になるため、午前十時三十分御出門、天皇と共に赤坂離宮に行啓される。午後三時十二分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、昭和大礼記録、昭和大礼要録

十六日 土曜日 この日陸軍士官学校予科を卒業の永久王に、天皇・皇后よりお品を御贈進になる。

○女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、皇族身分録

十七日 日曜日 故邦彦王五十日祭につき、皇后宮使として皇后宮女官津軽理喜子を権舎並びに墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、権舎並びに墓所に榊を、権舎に盛菓子をお供えになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、邦彦王殿下薨去録、邦彦王殿下喪儀録、皇親録、宮内省省報、官報

十八日 月曜日 午前九時、祐子内親王の霊代を皇霊殿に遷すの儀が行われる。これに先立ち、八時

三十分、天皇と共に権舎において内々に御拝礼になる。また、天皇・皇后より菓子・果物を墓所にお供えになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報、官報

十九日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、邦彦王薨去後の第一期喪明けにつき参内の故邦彦王妃倪子・朝融王・邦英王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録
去る十四日より翌十五日にかけて茨城県新治郡石岡町において火災による損害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、近く欧米各国へ出張の宮内書記官岩波武信に謁を賜う。
○女官日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報、官報

二十三日 土曜日 午後、奥内謁見所において、今般内大臣秘書官長兼式部次長を拝命の子爵岡部長景、ついで近く欧米各国へ出張の侍医田中幸一に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報、官報、

岡部長景日記

元帥海軍大將子爵井上良馨昨二十二日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を同人邸に差し遣わされ、榊を賜い、玉串をお供えになる。二十六日に行われる葬送には、皇后宮使として黒田事務官を同邸に差し遣わされ、榊を賜い、玉串をお供えになる。また、同人を青山齋場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、去る二十一日には、天皇・皇后より病氣お尋ねとして葡萄酒を下賜され、侍医高橋信を差し遣わされる。○女官日誌、侍従職日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、

齋藤実日記

二十五日 月曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、侍医寮囑託を拝命の小田正暁に謁を賜う。

昭和四年三月

○女官日誌

昨二十四日、稔彦王妃聡子内親王が東久邇宮邸において第四王子を出産する。この日、天皇・皇后より稔彦王・同妃に三種交魚・菓子を御贈進になる。誕生した王子は、七夜に当たる三十日、俊彦としひこと命名される。命名当日に、天皇・皇后より稔彦王に白羽二重・酒・鮮鯛を御贈進になる。また、皇后より御使として皇后宮女官津軽理喜子を差し遣わされ、産衣を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、稔彦王殿下王男子御誕生御命名の件、皇親録、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

この日、朝融王妃知子女王が東京帝国大学医学部附属医院において第一王子を出産する。皇后より朝融王・同妃、故邦彦王妃侘子にそれぞれ三種交魚代料を御贈進になる。誕生した王子は、七夜に当たる三十一日、邦昭くにあきと命名される。命名当日に、天皇・皇后より朝融王に白羽二重・酒・鮮鯛を御贈進になる。○女官日誌、侍従職日誌、朝融王殿下王男子御誕生御命名の件、皇親録、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

二十九日 金曜日 午前、奥内謁見所において、この日女子学習院卒業式に御名代として御差遣の故依仁親王妃周子と御対面になり、復命をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、行啓録、皇親録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に侍医頭佐藤恒丸に謁を賜い、御懷妊三箇月で経過が至極順調である旨の奏上をお受けになる。また、皇后宮大夫河井弥八より恐悦の旨の言上をお受けになる。皇后の御懷妊は、侍医頭・侍医より宮内大臣に上申され、六時、宮内省より正式に発表される。○女官日誌、侍従職日誌、皇親録

四月

二日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、載仁親王と御対面になり、御懷妊の祝詞言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

四日 木曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、京都より帰京した朝融王・故邦彦王妃侘子と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

文武官一同からの御成婚奉祝献上品東京美術学校に委嘱して製作がこの度完成し、夕刻、天皇と共に西溜ノ間において、東京美術学校長正木直彦の説明により御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、進献録、十三松堂日記、御

成婚奉祝献品図録

五日 金曜日 翌六日歌舞伎座において財団法人滝乃川学園後援会主催の慈善観劇会開催につき、思召しをもって入場券をお買い上げになる。○贈賜録

九日 火曜日 午後、奥内謁見所において、女子学習院本科卒業の美年子女王成久王の王女及び故成久王妃房子内親王と御対面になる。ついで天皇もお出ましになり、茶菓を共にされる。皇后より美年子女王に

お品の御贈進がある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、贈賜録

十一日 木曜日 午前、南洋視察より帰京の侍従甘露寺受長に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌

十四日 日曜日 午前、徳川実枝子に謁を賜い、去る十二日の宣仁親王・徳川喜久子実枝子の息女の結婚勅許についてのお礼言上をお受けになる。○女官日誌、重要雑録、宣仁親王殿下御結婚の件、高松宮家御婚儀関係書類、宮内

省省報、官報

伯爵後藤新平昨十三日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を同人邸に差し遣わされる。翌十五日には、皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐を同人邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。十六日に青山斎場において行われる葬送には、皇后宮使として黒田事務官を差し遣わされ、焼香させられる。なお、去る六日、同人の病気に際して天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒・野菜を下賜される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、

後藤新平

十五日 月曜日 午前、今般女子学習院本科を卒業の紀久子女王^{鳩彦王の女王}及び鳩彦王妃允子内親王参内につき、御対面になる。○女官日誌

十六日 火曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、去る三月の恒徳王成年式に際しての賜物等につきお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、皇親録

十九日 金曜日 午前、皇后宮職嘱託加藤虎之亮より論語の進講をお聴きになる。以後、この年は金曜日を定例として同人より十回にわたり進講をお聴きになる。○女官日誌

二十日 土曜日 午後、奥内謁見所において博恭王妃経子と御対面になり、御機嫌奉伺、及び宣仁親王と徳川喜久子^{経子の弟慶久の息女}の結婚勅許についてのお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十二日 月曜日 午後、天皇と共に吹上御苑を御散策になり、大池において小鴨・真鴨・尾長鴨・鴛鴦等の水禽九種計百五十二羽をお放ちになる。○女官日誌、侍従日誌、重要雑録

二十四日 水曜日 午前、奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、昨二十三日

執行の恒久王十年式年祭についてのお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

正午前、天皇と共に豊明殿において、宮内省御用掛工藤壮平の説明により、大正天皇御結婚二十五年記念奉祝として文武官一同より献上された画帖を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、進献録

二十五日 木曜日 この日、別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○恩賜録、靖国神社百年史

二十六日 金曜日 午後、天皇と共に奥宮殿において、航海演習より帰京した宣仁親王と御対面になる。親王より結婚勅許についてのお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内省省報、高松宮日記

二十九日 月曜日 天長節につき、御服喪中のところ除喪され、午前、奥内謁見所において側近奉仕者の拝賀をお受けになる。正午より、成子内親王と共に奥御食堂において酒饌をお召し上がりになり、その後天皇と共に、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王の拝賀を、ついで奥内謁見所において故伯爵川村純義夫人ハル・伯爵柳原義光夫人花子、及び元皇后宮女官長・元皇后宮女官の拝賀をお受けになる。また、お一方にて侍従長・侍従武官長の拝賀をお受けになる。

午後、皇太后御参内につき、天皇及び成子内親王と共に奥御対面所において御対面になる。その後、奥御食堂において皇太后に酒饌を供進され、御談話になる。皇太后還啓後、奥御対面所において旧女官の千種任子・園祥子等に謁を賜い、ついで両陛下御座所において元奉仕者の清水シゲ・鈴木タカ等に謁を賜う。六時、天皇と共に表内謁見所において、宮内大臣始め側近高等官をお召しの内宴に臨まれる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、儀式録、典式録、幸啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

昭和四年五月

五月

二日 木曜日 この日、天皇へガーター勲章御贈進のため、英国皇帝ジョージ五世より御差遣の英国皇族グロスター公ジョージ五世の王子来日につき、皇后の御名代として雍仁親王妃勢津子を霞閑離宮に差し遣わされる。正午前、参内の雍仁親王妃と奥内謁見所において御対面になり、グロスター公の出迎えに関する復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、外賓接待録、重要雑録、秩父宮附日記、秩父宮御側日誌

六日 月曜日 御夕餐後、天皇と共に御学問所において、侍従牧野貞亮より昨年の朝鮮視察に関する講話をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

故邦彦王百日祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子を権舎及び墓所へ差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。また天皇・皇后より権舎に盛菓子を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、邦彦王殿下薨去録、邦彦王殿下喪儀録、皇親録、宮内省省報、官報、邦彦王行実

七日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌

奥内謁見所において、今般第一・第二遣外艦隊、及び旅順海軍無線電信所へ御差遣の侍従武官住山徳太郎に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下一同カ風土異ル海外ニ在ツテ困難ナル任務ニ服スルコト真ニ苦勞ニ思フ暑サニ向フ折柄各自一層身体ヲ大切ニスルヤウ申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク勞リ遣ハセ

住山はこの日出発、六月二十二日帰京し、二十八日葉山御用邸において復命する。○女官長日記、女官日

誌、進退録、典式録、恩賜録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

九日 木曜日 この日、英国皇族グロスター公送別の午餐が催される。それに先立ち、天皇・皇太后と共に牡丹ノ間においてグロスター公と御対面になり、御談話になる。ついで午餐のため天皇とグロスター公が豊明殿に向かわれるのをお見送りになる。その後、皇太后と共に、奥内謁見所において御昼餐を御会食になる。午後、皇太后と共に同所において、この度天皇に贈呈されたガーター勲章及び献上品等を御覧になる。なお、皇后宮大夫河井弥人を霞関離宮に差し遣わされ、滞在中のグロスター公に御紋付プラチナ製シガレットケースを御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、外賓接待録、重要雑録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

天皇と共に奥内謁見所において、故邦彦王妃倪子・朝融王・同妃知子女王と御対面になり、第二期喪明けにつき、挨拶を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、邦彦王殿下薨去録

御夕餐後、天皇と共に表御座所において、侍従甘露寺受長の南洋視察に関する講話をお聴きになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十日 金曜日 午後、天皇と共に御学問所において、この年帝国学士院賞を受賞した海洋気象台技師堀口由己より「極東颱風論」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、日本学士院八十年史

十一日 土曜日 午後、奥内謁見所において、今般渡欧の徳川為子御母倪子の妹・島津伊楚子御叔父島津忠重の夫人に謁を賜う。成子内親王が同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

十三日 月曜日 午前、天皇と共に御学問所において、臨時帝室編修官長三上参次より「明治天皇ノ聖徳ニ就テ(特ニ行幸ニ就テ)」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

昭和四年五月

内舎人日誌、進講録

十四日 火曜日 この日、憲法記念館において日本赤十字社第三十七回通常総会挙行につき、御名代として博恭王妃経子を御差遣になる。これに先立ち、午前、博恭王妃と御対面になり、次の令旨を下される。

日本赤十字社ハ本日茲ニ第三十七回ノ總會ヲ開クニ至レルカ。諸般ノ事業益順調ニ進ミ。殊ニ海外赤十字社トノ連絡密接ヲ加ヘ。其ノ声誉内外ニ揚カルヲ多トス。尚客年ノ支那事変ニ際シテハ機宜ヲ失ハス。直ニ臨時救護班ヲ派遣シ。良好ノ成績ヲ収メタルヲ喜フ。總裁以下各員ノ労苦想フヘシ。今後更ニ人類ノ福祉増進ノ為メ。一致努力セムコトヲ望ム

後刻、奥内謁見所において博恭王妃と御対面になり、復命をお受けになる。続いて、日本赤十字社總裁仁親王と御対面になり、御名代御差遣のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

内舎人日誌、行啓録、皇親録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿

午前、天皇と共に奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王、及び初参内の俊彦王と御対面になる。

天皇・皇后より稔彦王・同妃に五種交魚を、俊彦王に鮮鯛・御台人形を御贈進になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、贈賜録、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

午後、文学博士井上通泰より『万葉集』に関する進講をお聴きになる。井上による『万葉集』の進講は、二十一日・二十四日・二十七日にも行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十五日 水曜日 午後、天皇及び成子内親王と共に正殿において、大正天皇の宸翰を御覧になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌

十六日 木曜日 この日、憲法記念館において愛国婦人会第二十八回通常総会挙行につき、御名代として鳩彦王妃允子内親王を御差遣になる。これに先立ち、午前、奥内謁見所において允子内親王と御対面になり、次の令旨を下される。

愛国婦人会は総会を重ねること。茲に二十八回にして。其の事業は年と共に拡張せられ。其の施設亦整備せるのみならず本部及び支部を通して事業の成績愈顕著なるものあるを喜ぶ。総裁以下各員の労苦想ふへし。尚将来更に一層努力せむことを望む

後刻、允子内親王と御対面になり、復命をお受けになる。続いて、同会総裁故依仁親王妃周子と御対面になり、御名代御差遣のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、宮内省省報、官報、愛国婦人会四十年史

今般渡英の松平信子に謁を賜い、暇乞いをお受けになる。成子内親王も交え御談話になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

十七日 金曜日 午前十時、御桂を召されて奥御座所に出御され、入側にて天皇をお出迎えの後、御対座になり、内着帯の儀を行われる。儀終了後、天皇と共に奥内謁見所において、宮内省高等官総代の宮内大臣・侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫の拝賀を、ついで皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。その後、お一方にて奥宮殿洋館にお出ましになり、宮内省御用掛磐瀬雄一・侍医塚原伊勢松、及び侍医寮事務嘱託坂田あき・梅林寺こうに謁を賜う。また、皇太后御使として権典侍山口正子参内につき、お一方にて奥内謁見所において謁を賜い、お祝品の御贈進を受けられる。これに対して、御使として皇后宮女官長を青山東御所に差し遣わされる。さらに侯爵久邇邦久・三条西信

昭和四年五月

子と御対面の後、天皇と共に御学問所に出御され、故邦彦王妃侃子・朝融王・同妃知子女王の拝賀をお受けになる。午後、天皇と共に奥内謁見所において、載仁親王・雍仁親王妃勢津子の拝賀を、さらに故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、孝宮御誕生録、貞明皇后実録正本

十八日 土曜日 去る昭和三年五月十日に山東省済南の擾乱において右眼球に砲弾破片創を受けた陸軍歩兵上等兵平栗甚蔵歩兵第五十聯隊
機関銃隊所屬に、この日、義眼を下賜される。なお、この年は、合計三回にわた

り、皇后より傷痍軍人に対し義眼の下賜がある。○贈賜録

二十三日 木曜日 去る二十日岐阜県吉城郡船津町において火災による損害発生につき、この日、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十六日 日曜日 午後、御機嫌伺いのため参内の大谷智子・同子息と御対面になる。去る三月十九日第二男子を出産した智子に、御服喪中につき七夜に賜うことができなかつた白羽二重・万那料を、この日下賜される。また、同伴の子息にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、重要雑録

この日、大聖寺二十四世普明浄院宮光格天
皇皇女百年御忌相当につき、御供養料として大聖寺門跡の石野慈栄に金員を下賜される。○贈賜録

二十八日 火曜日 午後二時十五分、成子内親王と共に御出門、青山東御所に行啓される。皇太后及び先着の雍仁親王妃勢津子と共にお過ごしになる。四時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

二十九日 水曜日 成子内親王と共に葉山御用邸に行啓のため、午後二時二十分御出門、四時十分御

到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

六月

一日 土曜日 昨月下旬の樺太庁恵須取町・留多加町における火災による損害に対し、天皇・皇后より同庁に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

三日 月曜日 去る四月二十二日、汽船豊国丸は函館港出港後、カムチャツカ東海岸へ航行中沈没し、多数の遭難者を出す。これに対し、この日天皇・皇后より逡信大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

五日 水曜日 この日、憲法記念館において東京慈恵会総会挙行につき、御名代として故依仁親王妃周子を御差遣になる。七日、同妃と御対面になり、復命をお受けになる。なお、東京慈恵会医院本建築の基金募集のため、この月八日慈善音楽会を開催する同会より、入場券をお買上げになる。○女官日誌、行啓録、皇親録、贈賜録、宮内省省報、官報

十五日 土曜日 午後、葉山御用邸に御到着の天皇と御対面になる。なお、天皇は十七日に宮城に還幸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十八日 火曜日 午後、臨時皇后宮職御用掛有泉善三参邸につき謁を賜い、繭についての説明をお聞きになる。○女官日誌

二十二日 土曜日 午後、成子内親王と共に、葉山御用邸に御到着の天皇をお出迎えになる。なお、天皇は二十四日に宮城に還幸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、内舍人日誌、

昭和四年七月

幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十四日 月曜日 午前、新任の式部長官林権助参邸につき、謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。
午後、元女子学習院幼稚園主任野口幽香^{一葉保育園創始者}参邸につき、謁を賜う。一葉保育園バザーにおいてたびお買い上げにつき、野口よりお礼言上をお受けになる。○女官日誌、宮内省省報、官報、野口幽香の生涯
この月十六日から十八日にかけての北海道駒ヶ嶽の噴火による茅部郡鹿部村・亀田郡軍川村への被害
に対し、天皇・皇后より北海道庁に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報
この月 常磐会においてバザー開催につき、お買い上げになる。○女官日誌

七月

五日 金曜日 この日、御養蚕納の儀が行われる。皇后は、葉山御用邸に御滞在中につき、御欠席になる。○侍従職日誌

十日 水曜日 午前、新任の国务大臣総代として参邸の海軍大臣財部彪より、御機嫌奉伺の言上を皇后宮大夫河井弥八を経てお受けになる。○女官日誌、財部彪日記、河井弥八日記

十二日 金曜日 正午前、成子内親王と共に、葉山御用邸に御到着の天皇をお出迎えになり、御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十四日 日曜日 午前、天皇と共に、病気全快のお礼言上のため参邸した崇仁親王と御対面になる。成子内親王も交え、御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、贈賜録

二十二日 月曜日 午前、茂麿王参邸につき、天皇と共に御対面になり、陸軍士官学校卒業のお礼言

上と和歌山歩兵第六十一聯隊へ帰隊の暇乞いを受けられる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報

この日、故邦彦王墓起工奉告祭終了につき、御使として皇后宮事務官岡本愛祐を墓所に差し遣わされ、拝礼させられる。○侍従職日誌、故久邇宮邦彦王殿下御墾城工事録

二十八日 日曜日 午前、公爵九条道実参邸につき、天皇と共に謁を賜う。ついで参邸の侍従職御用掛松平慶民に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌

八月

二日 金曜日 午後、天皇と共に、昨一日付にて近衛歩兵第四聯隊長に転補の前侍従武官川岸文三郎に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、恩賜録、贈賜録、幸啓録、行幸録、侍従武官府資料、宮内省省報、官報

三日 土曜日 去る七月二十八日、博義王妃朝子が伏見宮邸において第一王女を出産する。誕生した王女は、七夜に当たるこの日、光子と命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より博義王に白羽二重・酒・鮮鯛を賜う。翌四日、天皇と共に博義王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、皇親録、博義王殿下王女子御誕生御命名の件、皇族身分録、贈賜録、宮内省省報、官報

四日 日曜日 天皇及び成子内親王と共に汐見御茶屋にお出ましになり、侍従長始め供奉高等官一同と御夕餐を共にされる。その後、葉山町主催の花火を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録

昭和四年八月

六日 火曜日 横須賀鎮守府主催の水兵遠泳を御覧になるため、午後、天皇・成子内親王と共に汐見御茶屋にお出ましになる。それより天皇は和船に乗船され、お近くより御覧になる。皇后は御茶屋より望遠鏡にて、遠泳員による各種競泳を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、侍従武官府資料

昨五日、北海道空知郡歌志内の住友坂炭礦におけるガス爆発事故により多数の死傷者発生につき、この日、天皇・皇后より北海道庁に御救恤金を下賜される。○恩賜録、幸啓録、宮内省省報、官報

十四日 水曜日 午後、天皇と共に、去る一日侍従武官を拝命した阿南惟幾に謁を賜う。○女官日誌、幸啓録、行幸録、侍従武官府資料、宮内省省報、官報、奈良武次日記

十六日 金曜日 天皇・皇后より、軍艦榛名に乗組中盲腸炎のため舞鶴要港部病院に入院した宣仁親王に、侍従長の電報をもってお見舞いの旨をお伝えになる。これに対し翌十七日、お礼の電報が寄せられる。○女官日誌、重要雑録、幸啓録、行幸録

この日、従六位津田梅子死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。津田は、明治十八年宮内省御用掛となり、ついで華族女学校教授として三十三年に非職となるまで同校の教育に従事した。○恩賜録、幸啓録

十九日 月曜日 午前、聯合艦隊への御差遣よりこの日帰還した侍従武官住山徳太郎をお召しになり、舞鶴における宣仁親王の近状をお聞きになる。○女官日誌、侍従武官府歴史

二十日 火曜日 午前、那須御用邸へ行幸の天皇を、成子内親王と共にお見送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

二十三日 金曜日 去る十七日、恒憲王妃敏子が賀陽宮邸において第三王子を出産する。誕生した王子は、七夜に当たるとこの日、あまのり章憲と命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より恒憲王に白羽二重・酒・鮮鯛を賜う。○女官日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸録、皇親録、皇族身分録、恒憲王殿下王男子御誕生御命名の件、重要雑録、宮内省省報、官報

二十八日 水曜日 午前九時、成子内親王と共に葉山御用邸を御出門、十一時宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十九日 木曜日 午後、奥内謁見所において、この度御雇を仰せ付けられた今城誼子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、進退録

この日、正五位桑野銳元皇子傳育官・元澄宮御養育掛死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。○恩賜録、贈賜録

九月

一日 日曜日 午前、奥内謁見所において、病氣全快につき参内の宣仁親王と御対面になる。なお昨日、病氣全快につき帰京した宣仁親王に、天皇・皇后より三種交魚を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、行幸録、高松宮日記

震災記念日につき、発生時刻の午前十一時五十八分に黙禱され、御昼餐は握り飯・漬物・牛肉缶詰とされる。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

三日 火曜日 去る八月上旬台湾総督府管内において風水害発生につき、天皇・皇后より同総督府に

昭和四年九月

御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

七日 土曜日 午後、奥内謁見所において雍仁親王と御対面になる。親王は、去る八月十一日より陸軍大学校学生として野砲兵第五聯隊にて隊付勤務をしていたが、この日帰京した。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮附日記、宮内省省報

十日 火曜日 午後、那須御用邸より還幸の天皇を成子内親王と共に御出迎えになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十三日 金曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、正二位柳原愛子に謁を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十四日 土曜日 この日、着帯の儀が行われる。午前九時、奥内謁見所において御帯進献の儀が行われ、帯親の載仁親王より御使をもって御帯が奉じられ、卓上に安置される。皇后は同所に臨まれ、皇后宮女官長竹屋志計子により開封された御帯を御覧になる。十時、賢所皇靈殿神殿に着帯奉告の儀が行われ、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。十一時、奥御対面所に出御され、同所入側にて天皇をお出迎えになる。それより御着席になり、天皇が皇后宮女官長より御帯の奉呈をお受けになり、着帯の儀を行われる。儀終了後、天皇と共に奥内謁見所において、皇太后御使の典侍竹屋津根子に謁を賜い、ついで内大臣・宮内大臣以下の拝賀をお受けになる。午後、天皇と共に奥内謁見所において、祝賀のため参内した載仁親王始め皇族・王族と御対面になる。また、お一方にて又は天皇と共に、侍医寮事務嘱託梅林寺こう・坂田あき、元皇后宮女官長島津治子等に謁を賜う。この日、天皇と皇后との間、天皇・皇后と皇太后との間、天皇・皇后と皇族・王族・御親族との間でお祝品が取

り交わされる。なお、青山東御所への御使は皇后宮女官津軽理喜子が奉仕する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、祭祀録、孝宮御誕生録、皇親録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報
東京府において今般霖雨のため失業した労働者に対する救済事業が行われるに当たって、着帯の儀の内祝いとして思召しをもって東京府知事に御救恤金を下賜される。○贈賜録

十七日 火曜日 十五夜につき、侍従長・皇后宮女官長ほかの側近奉仕者をお召しになり、奥御座所前の御入側において天皇と共に観月会を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

二十日 金曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般愛知県下の旅行より帰京の鳩彦王・同妃允子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、朝香宮奥日誌、宮内省省報
二十一日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般海軍兵学校に入学の博英王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、宮内省省報

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、翌二十二日愛知県へ出発の雍仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日誌、秩父宮御側日誌、宮内省省報

二十五日 水曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、出産後初めて参内の博義王妃朝子と御対面になり、御機嫌奉伺をお受けになる。朝子は、来る十月三日より博義王の赴任地佐世保へ旅行する。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報、河井弥八日記

二十六日 木曜日 去る二十日、三条西信子が第一男子を出産する。誕生した男子は、七夜に当たるこの日、実謙さねのりと命名される。命名当日に際し、白羽二重・三種交魚代料を下賜される。また、実謙に

昭和四年九月

お品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、例規録

二十八日 土曜日 この日、俊彦王箸初につき、天皇・皇后より稔彦王・同妃聡子内親王に五種交魚代料を、俊彦王に鮮鯛を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

日本赤十字社社長男爵平山成信去る二十五日死去につき、この日、祭資を下賜される。また、同人の病気に際してお尋ねとして皇后より野菜を、危篤に際して天皇・皇后より葡萄酒を下賜される。○侍従

職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報、日本赤十字社史統稿

二十九日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子と御対面になる。昨二

十八日、雍仁親王・同妃の結婚後一周年につき、天皇・皇后より御使の皇后宮女官長竹屋志計子を通じて万那料及びお品の御贈進があり、親王妃はそのお礼と御機嫌伺いのため参内した。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記

三十日 月曜日 この日未明、侍医の拝診をお受けになり、午前五時三十分産殿に入られ、六時十五分内親王を御出産になる。その後、誕生の内親王との初御対面を終えられた天皇と御対面になる。また、故邦彦王妃侘子参内につき御対面になる。

十時、新誕の内親王に御剣を賜うの儀が行われる。後刻、皇后は、儀が滞りなく終わった旨を皇后宮女官長よりお聞きになる。この日、天皇と皇后との間に、天皇・皇后と皇太后との間に、天皇・皇后と皇族との間にお祝品が取り交わされる。なお、青山東御所への天皇・皇后の御使は皇后宮大夫河井弥八が奉仕する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御誕生録、重要雑録、皇親録、宮内省

省報、官報

この日、奥野智恵子・竹村玉恵が乳人に、小野瀬うめ・渡辺ダイ・古沢マツが乳人補充員に命じられる。○侍従職日誌、孝宮御誕生録、皇親録

十月

一日 火曜日 前内閣総理大臣男爵田中義一去る九月二十九日死去につき、この日、弔問のため、御使として皇后宮事務官黒田長敬を同人邸に差し遣わされる。三日葬送につき、午前、同人邸の柩前に皇后宮事務官岡本愛祐を、午後、青山斎場に同黒田長敬をそれぞれ皇后宮使として差し遣わされ、焼香させられる。また、天皇・皇后より祭資を、皇后より花を下賜される。なお、去る九月二十九日、同人の危篤に際して天皇・皇后よりお尋ねとして侍医寛繁を差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

今般帝国水難救済会において慈善演劇会を開催につき、金一封を下賜される。○贈賜録

二日 水曜日 夜、皇大神宮式年遷宮執行につき、皇后宮女官長より無事終了の旨の言上を受けられる。五日には豊受大神宮式年遷宮が行われる。○女官長日記、女官日誌、典式録

五日 土曜日 去る二十九日鹿児島県大島郡において暴風被害発生につき、この日天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

六日 日曜日 内親王誕生の七夜に当たり、午前七時より青山御所内寒香亭側において御胞衣埋納の儀が行われる。ついで九時より宮城において浴湯の儀が行われる。皇子御養育掛山岡淑子の奉仕により内親王が浴殿に入り、臨時帝室編修官長三上参次が読書を、従三位子爵細川立興及び従三位子爵大

給近孝が鳴弦を務める。その後、皇后宮女官長より浴湯の儀終了の旨をお聞きになる。

十時四十分、命名の儀が行われ、宮内大臣一木喜徳郎が天皇の旨を承けて宸筆の名記を勅使侍従長鈴木貫太郎に授ける。勅使が名記を皇后宮大夫河井弥八に授け、大夫がこれを皇后宮女官長に付して内親王に奉る。ついで、皇后宮女官長より皇后に御名記が披露される。内親王は和子かずこと命名され、孝宮たかのみやと称する。なお、内親王の印章は「白菊」と定められる。

十一時、賢所皇靈殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われ、皇后宮事務官木下道雄に御代拝を仰せ付けられる。また、命名の儀終了の御奉告のため、天皇・皇后より、皇后宮女官津軽理喜子を多摩陵大正天に皇陵に差し遣わされる。同時に皇后宮大夫を青山東御所の皇太后の許へ差し遣わされる。

この日、天皇より鮮鯛代料・初衣を、皇后より鮮鯛代料・初衣・柳樽・昆布柳樽・昆布は目録のみを内親王に御贈進になる。また、内親王より天皇・皇后にそれぞれ鮮鯛代料の御贈進がある。なお、天皇・皇后と皇太后との間、皇太后と内親王との間にもお祝品が取り交わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、孝宮御誕生録、皇親録、重要雑録、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

七日 月曜日 この日盲腸炎の手術を受けた宣仁親王のお見舞いのため、天皇・皇后より侍従甘露寺受長を入院先の東京帝国大学医学部附属医院塩田外科に差し遣わされ、花卉・スープを御贈進になる。十八日の退院に際しては、天皇・皇后より侍従牧野貞亮を差し遣わされ、果物・鶏卵を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、皇族身分録

十八日 金曜日 午後、御静養室において、故邦彦王妃倪子・大谷智子と御対面になる。○女官長日記

女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十五日 金曜日 去る十八日東京帝国大学医学部附属医院警瀬婦人科において手術を受けた李王垠妃方子

女王に、お尋ねとして果物・花卉を御贈進になる。○女官長日誌、女官日誌、贈賜録

三十一日 木曜日 御出産後の御静養より御床払いにつき、午前、奥内謁見所において、宮内高等官総代の内大臣・宮内大臣・宮内次官・侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長に謁を賜う。また、御使として皇后宮女官長竹屋志計子を青山東御所の皇太后の許に差し遣わされる。午後、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、孝官御誕生録、河井弥八日記

十一月

二日 土曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王と御対面になり、本日山口・広島両県下への出張に出発につき暇乞いを受けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮附日誌、秩父宮御側日誌、宮内省省報

三日 日曜日 明治節に当たるも拝賀にお出ましくなく、皇族妃・王族妃をお招きの内宴もお取りやめになる。午後、奥内謁見所にお出ましになり、内大臣・宮内大臣・宮内次官ほか側近奉仕高等官等より非公式に祝詞言上を受けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、河井弥八日記、奈良武次日誌

四日 月曜日 枢密顧問官侯爵井上勝之助昨三日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資

昭和四年十一月

を下賜される。六日葬送につき、天皇・皇后より花を下賜される。なお、同人の病気に際しては、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

六日 水曜日 午後、奥内謁見所において、元宮内省雇マルトゥ・ド・ラ・サールに謁を賜う。同人は大正十五年十月にフランス語の進講に関することを囑託され、この月二十三日をもって雇傭期間満了により帰国するため、お品並びに皇后のお写真・成子内親王の写真を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、仏語御進講仏国婦人傭聘録

十日 日曜日 御大札一周年の記念日につき、午後、天皇と共に御学問所において、侍従長始め側近男女高等官一同に茶菓を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十一日 月曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、去る八日に台湾より帰京した故依仁親王妃周子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、来る十四日陸軍特別大演習行幸へ天皇御出発につき御機嫌伺いを受けられる。その後、天皇と共に各妃を和子内親王の許に御案内になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日、東京文理科大学長兼宮中顧問官三宅米吉死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病気に際して天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、宮内省省報

十二日 火曜日 この日、現今の状況に顧み、率先して皇室費を節約すべしとの天皇の思召しにより、

皇族との恒例の御贈答並びに臣下への賜与が廃止される。特別の思召しによるものを除き、新年・寒中・紀元節・暑中・中元・明治節・歳末・天皇御式年祭等における恒例の御贈答、天長節及び皇后のお誕生日に際して天皇・皇后より各宮に対してなされる御贈進、各直宮の誕生日に際して各宮より天皇・皇后になされる献上、行幸啓・還幸啓に際して各宮より天皇・皇后になされる献上、直宮の旅行に際して天皇・皇后よりなされる恒例の御贈進、お返し御贈進・賜与、代料による御贈答・賜与、成子内親王・和子内親王未成年の間における恒例の御贈答が廃止される。翌十二月には、恒例献上内規が作成され、侍従長から各宮付宮内事務官に通牒される。○女官長日記、例規録、伺御覽言上モノ控簿、岡本愛祐関係文書

十四日 木曜日 午前、陸軍特別大演習御統裁のため茨城県下へ行幸される天皇を、成子内親王と共に御廊下においてお見送りになる。二十一日、還幸の天皇と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、宮内省省報、官報

九月下旬沖繩県下において風水害による損害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十四日 日曜日 夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、昨二十三日山口・広島両県下への出張より帰京の雍仁親王、及び同妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮附日記、秩父宮御側日誌、雍仁親王実紀、宮内省省報

二十六日 火曜日 午前、賢所皇靈殿神殿に謁するの儀を終えた和子内親王と御対面になる。その後、天皇・和子内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・宮内次官始め側近奉仕高等官より

祝詞の言上をお受けになる。午後、天皇と共に奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子・載仁親王始め皇族・王族十八方と御対面になり、また侯爵久邇邦久に謁を賜う。ついで千種ノ間において内宴に臨まれる。終わって、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になり、祝詞言上を受けられる。また、皇太后御使として権典侍清水谷英子参内につき、お一方にて奥内謁見所において御対面になる。なお、和子内親王の賢所皇靈殿神殿に謁するの儀に際し、天皇・皇后は皇后宮女官万里小路ソデを多摩陵に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、皇后宮女官津軽理喜子を皇太后の許に差し遣わされる。この日、天皇・皇后と皇太后との間、天皇・皇后と和子内親王との間、皇太后と和子内親王との間においてお祝品が取り交わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇親録、孝宮御誕生録、重要雑録、祭祀録、典式録、宮内省省報、官報

三十日 土曜日 この日午後、安政疑獄の志士故小林良典贈正四位、鷹司家諸大夫、民部権大輔の遺児芝香を宮中にお召しになり、思召しをもって皇后宮女官長を通じて同人に真綿及び金一封を下賜される。これより先、侍従牧野貞亮を安政疑獄志士遺墨展覧会に差し遣わされた際、良典の遺児が生存していることを憫然に思し召され、特に賜物の御沙汰を下される。○女官長日記、女官日誌、贈賜録、修補殉難録稿

十二月

六日 金曜日 成子内親王の誕生日に当たるこの日、数え年五歳につき着袴の儀が行われる。午前、内親王が童形服にて賢所・皇靈殿・神殿に拝礼する。その後、天皇と共に両陛下御座所において、儀を終えて参内した内親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。ついで天皇及び内親王と共に奥

内謁見所において、総代の宮内大臣・宮内次官・侍従長・侍医頭・侍従武官長の、続いて皇后宮女官長及び皇后宮女官の祝詞言上をお受けになる。その後、天皇及び内親王と共に祝御膳の御昼餐を御会食になる。午後、元奉仕者より祝詞言上を受けられる。

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、内宴にお召しの雍仁親王・同妃勢津子・宣仁親王・載仁親王・故邦彦王妃倪子・朝融王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王・邦英王と御対面になり、その後、千種ノ間における内宴に臨まれる。なお、成子内親王着袴の儀につき、天皇・皇后より皇后宮女官油小路蒙子を多摩陵に、同万里小路ソデを豊島岡墓地にそれぞれ差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后と皇太后との間、天皇・皇后と成子内親王との間、皇太后と成子内親王との間においてお祝品が取り交わされる。○女官長日記、

女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、皇子保育録、典式録、貞明皇后実録正本

八日 日曜日 陸軍軍医監保利真直侍医寮御用掛去る六日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。なお、これより先、同人の病気に際して天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして菓子を賜う。○恩賜録、贈賜録

十三日 金曜日 午前、東一ノ間・東二ノ間及び廊下において、近くローマにて開催の日本美術展覧会に出品される川合玉堂「奔湍」ほかの絵画を御覧になる。○女官長日記、女官日記、侍従職日記、内舍人日記、

読売新聞

十六日 月曜日 この日、宮内省御用掛松平頼平御剣掛死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、これより先、天皇・皇后より病氣お尋ねとして菓子を賜う。○恩賜録、宮内省省報、官報

昭和四年十二月

日本赤十字社病院救助收容患者・恩賜財団済生会病院救助收容患者・東京慈恵会医院救助收容患者・財団法人福田会育児院收容者に対し、木綿反物・裏地・裁縫料をそれぞれ下賜される。なお、天皇・皇后より日本赤十字社病院維持費として金一封を同社に下賜される。また皇后より、歳末恒寒に際し東京府市後援の下に官公私立連合三十四団体が連絡施療を実施するに当たり、東京府に金一封を下賜される。○贈賜録、宮内省省報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史統稿

十七日 火曜日 午後、奥内謁見所において、曇華院門跡の飛鳥井慈孝に謁を賜う。飛鳥井は、来る二十五日の大正天皇三年式年祭に当たり、多摩陵参拝の総代として上京した。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、贈賜録

朝融王妃知子女王参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、病気全快につきお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十九日 木曜日 午後一時五十分御出門、青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。三時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

二十三日 月曜日 午前、臨時帝室編修官長三上参次より「明治天皇の御儉徳と明治十二三年頃の財政」と題する進講を天皇と共に聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、進講録、三上参次御進講案、三上参次資料

午後、奥内謁見所において、徳川実枝子に伴われ参内の徳川喜久子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

二十四日 火曜日 この日、茂麿王^{菊麿王の王子}は情願により皇族の身分を離れ、天皇より葛城の家名を下賜され、華族に列し、伯爵を授けられる。皇后は御服喪中のため、同人の参内朝見の儀並びに午餐御陪

食にはお出ましなく、午後、奥内謁見所において同人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、勲一等茂磨王殿下に家名を賜い華族に列せらるるの件、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

夕刻、天皇と共に御学問所において、陸軍一等軍医正小泉親彦陸軍軍医学校教官より被服地質の衛生学的研究につき講話を御聴取になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官府歴史、奈良武次日記、

陸軍軍医学校五十年史

二十七日 金曜日 邦彦王墓所竣工奉告祭執行につき、皇后宮女官津軽理喜子を差し遣わされ、拝礼させられる。また、菓子・果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十八日 土曜日 午後、歳末につき参内の元皇后宮女官長島津治子・元皇后宮女官青山元子に御休所において謁を賜う。終わって、奥内謁見所において旧女官の千種任子・園祥子等に謁を賜う。ついで御休所において故邦彦王妃倪子及び三条西信子と御対面になる。さらに奥御対面所において宣仁親王と御対面になり、奥内謁見所において天皇と共に、恒徳王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十九日 日曜日 午前、奥内謁見所において天皇と共に、宮内大臣・宮内次官・侍従長・侍従武官長・侍医頭より歳末祝詞の言上を受けられる。終わって次官に謁を賜い、先に視察をお命じになった細民の救療状況、歳末並びに夜間の診療所の状況につき報告を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、関屋貞三郎日記

皇太后御参内につき、奥御対面所において天皇と共に御対面になり、奥御食堂において御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、

昭和四年十二月

官報

鳩彦王・同妃允子内親王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において御対面になり、歳末祝詞の言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、朝香宮奥日誌

三十日 月曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、歳末につき参内の雍仁親王妃勢津子・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。また博恭王・博義王・同妃朝子参内につき、奥内謁見所においてお一方にて御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、梨本伊都子日記

三十一日 火曜日 午前、載仁親王・春仁王参内につき、御対面になり、歳末の祝詞言上を受けられる。ついで皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、歳末の御挨拶を受けられる。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和五年（西曆一九三〇年） 二十七歳

一月

一日 水曜日 御父邦彦王の薨去に伴い、御服喪中のところ、一月一日・二日及び三日のみ奥限り除喪され、午前九時、天皇と共に御学問所において、内大臣始め側近奉仕高等官等の拝賀をお受けになる。このほかの新年の諸儀にはお出ましをお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

儀式録、典式録

二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王、鳩彦王・同妃允子内親王、稔彦王・同妃聡子内親王と御対面になり、新年の祝詞言上をお受けになる。午後、天皇と共に奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になる。以後、この年も皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三日 金曜日 午後、奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

五日 日曜日 午後、旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子・園祥子・生源寺伊佐雄に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

皇太后御参内につき、奥御対面所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

昭和五年一月

人日誌、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 水曜日 午後二時御出門、青山東御所に行啓される。皇太后と御対面になり、三時四十八分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

新年の初拝礼のため、皇后宮女官伊地知ミキを久邇宮邸の故邦彦王の権舎と豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。さらに、権舎に菓子・菓物を御供えになる。また、祐子内親王の月命日につき、皇后宮女官山岡淑子を豊島岡墓地の墓所に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。天皇・皇后より墓所に菱葩・菓子・果物をお供えになる。以後、昭和二十九年まで毎年一月八日に皇后宮女官等を差し遣わされ、新年に際しての多摩陵^{大正天皇陵}の初参拝と豊島岡墓地の初拝礼が行われることとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

この日、イタリア国皇太子ウンベルトとベルギー国皇女マリー・ジョゼの結婚式挙行につき、天皇・皇后よりベルギー国皇帝アルベール一世及び皇后に祝電をお送りになる。これに対し後日、答電をお受けになる。また、天皇・皇后よりイタリア国皇太子に、お祝いとして蒔絵文台硯箱^{羽衣の匣}を御贈進になり、ドイツ国駐劄特命全權大使長岡春一をローマのクイリナーレ王宮にて挙行の結婚式に参列させられる。○外交慶弔録、外交贈答録、宮内省省報、官報

九日 木曜日 天皇及び成子内親王・和子内親王と共に葉山御用邸へ行啓のため、午前十時二十五分御出門、午後零時十分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、

幸啓録、行幸録、例規録、宮内省省報、官報

十四日 火曜日 午前、皇后宮職御用掛高木多都雄に謁を賜う。去る十一日より大阪府立貿易館主催

の国産品輸入品対照展覧会が三越百貨店において開催につき、高木御用掛に視察をお命じになったところ、この日復命を受けられる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、行幸録、東京朝日新聞

十七日 金曜日 この日、宣仁親王と徳川喜久子徳川慶久の第二女子結婚に係る納采の儀が行われる。午前、天皇・

皇后の御使として侍従岡本愛祐を高松宮邸に差し遣わされ、高松宮に鮮鯛を御贈進になる。また天皇・皇后より御使として皇后宮女官津軽理喜子を青山東御所に差し遣わされ、皇太后に五種交魚を御贈進になる。なお、天皇・皇后より公爵徳川慶光に五種交魚を下賜される。午後、納采の儀のお悦び言上及びお祝品御贈進のため、皇太后御使として皇太后宮事務官西邑清参邸につき、天皇と共に謁を賜う。ついで侍従武官長奈良武次より供奉員代表として祝詞の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、宣仁親王殿下御結婚の件、皇族身分録、重要雑録、幸啓録、行幸録、奈良武次日記

二十日 月曜日 天皇及び和子内親王と共に還啓のため、午前九時五十分葉山御用邸を御出門、十一時三十五分宮城に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥内謁見所において、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、還幸啓の御機嫌伺いを受けられる。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から皇太后の許に御使を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において宣仁親王と御対面になり、去る十七日の納采の儀における御使御差遣並びに御贈進についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十二日 水曜日 午前、奥内謁見所において侍従武官矢野機に謁を賜い、去る十四日飛行第五聯隊第一大隊において夜間飛行演習中に発生した飛行機衝突事故の状況実視の復命をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、進退録、恩賜録、侍従武官府歴史、宮内省省報

二十四日 金曜日 午前、天皇と共に御学問所南廊下において、大阪府知事柴田善三郎の説明により、同所に陳列の国産品輸入品対照展覧会の出品物を御覧になる。二十九日午後にも天皇と共に各種出品物を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十七日 月曜日 故邦彦王一周年祭につき、皇后宮使として皇后宮女官長竹屋志計子を権舎及び墓所に差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より権舎に盛菓子を、墓所に榊をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇親録、邦彦王殿下喪儀録、邦彦王殿下薨去録、例規録、重要雑録、宮内省省報、官報

二十八日 火曜日 この日、御喪明けにつき、午前、奥内謁見所において宮内大臣始め表奥側近奉仕高等官に謁を賜う。ついで天皇と共に、故邦彦王妃倪子^{御母}・朝融王^{御兄}と御対面になる。夕刻には、天皇と共に奥内謁見所において多嘉王^{御叔父}・同妃静子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、邦彦王殿下薨去録

正午、天皇と共に奥御食堂において、和子内親王の箸初の儀に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後二時四十五分御出門、青山東御所に行啓される。皇太后に御喪明けのお礼を申し入れられ、四時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

二十九日 水曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「海辺巖」であり、皇后宮御歌は左のとおり。

皇后宮御歌

海をいつる年のはつ日に照らされてのとかにたてりはまの大岩

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、御歌録、儀式録、儀式祭典録、典式録、進退録、宮内省省報、官報、あけぼの集

三十日 木曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報

三十一日 金曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は京都帝國大学教授三浦周行より「日本書紀孝徳天皇紀」、漢書は東京帝國大学教授塩谷温より「尚書ノ一節（昭和元号ノ出典）」、洋書は帝國学士院会員横田秀雄より「フランソア・ジェニーノ解釈法」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、儀式祭典録、典式録、宮内省省報、官報

二月

一日 土曜日 多摩陵に御参拝のため、午前十時十分御出門、原宿駅より東浅川駅を経て、陵所御休所に御到着になる。御拝礼の後、御休所にて御昼餐をお召し上がりになり、午後二時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、重要雜録、宮内省省報、官報

昭和五年二月

皇子御養育掛を拝命の小倉満子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録

奥内謁見所において、近く結婚する徳川喜久子及び同母実枝子に謁を賜い、暇乞いをお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に、今般大札御祝品としてポーランド国大統領イグナツイ・モシチツキより御贈進があつた

壁掛け織物同国女流作家の図案で、ポーランド
太古の狩猟の光景を図案化したものを御覧になる。○侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、進献録

御夕餐後、天皇と共に女官候所において、昨年天皇が大阪府への行幸の際にお買い上げになつた計算

器の取扱い方についてお調べになる。侍従木下道雄より使用法の説明をお聞きになる。○侍従日誌

三日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般滿洲駐劄陸軍諸部隊へ御差遣の侍従武官瀬川章友に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下一同カ風土異ル海外ニ在ツテ困難ナル任務ニ服スルコト真ニ苦勞ニ思フ嚴寒ノ折柄各
自一層身体ヲ大切ニスルヤウ申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク勞リ遣ハセ

瀬川は十一日出発、關東軍司令官畑英太郎以下に令旨を伝達、三月九日帰京し、二十五日復命する。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、恩賜録、典式録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

午後一時三十分御出門、豊島岡墓地に行啓される。御休所において朝融王・同妃知子女王、故邦彦王

妃侃子、邦英王御弟、及び侯爵久邇邦久御兄・同夫人董子、三条西公正・同夫人信子御妹、伯爵大谷光暢・同

夫人智子御妹と御対面になる。さらに久邇宮宮務監督本郷房太郎・同宮宮内事務官山田益彦等に謁を賜

う。その後、邦彦王墓に進まれ御拝礼になり、ついで祐子内親王墓にも御拝礼になる。なお、邦彦王

墓所に菓子・果物・野菜を、祐子内親王墓所に菓子・果物・色花をお供えになる。二時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、重要雑録、宮内省省報、官報

四日 火曜日 この日、宣仁親王と徳川喜久子との結婚の礼につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、祝詞言上のため参内の皇族・王族と御対面になる。皇族等との御対面は午後にも行われる。

午後三時、天皇と共に鳳凰ノ間にお出ましになり、宣仁親王・同妃喜久子の参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の親王より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。終わって、天皇と共に御学問所において総代の宮内大臣・侍従長・侍従武官長より、奥宮殿において皇后宮女官、元奉仕者より祝詞の言上を受けられる。この度の婚儀に際し、皇后宮使として皇后宮女官長竹屋志計子を高松宮邸に差し遣わされ、宣仁親王に白縮緬を、同妃に白羽二重を御贈進になる。また天皇・皇后より親王・同妃それぞれにお祝いの品を御贈進になる。なお、天皇・皇后と皇太后あるいは皇族等との間で御贈進品のお取り交わしがある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇親録、皇族身分録、祭祀録、重要雑録、皇族叙勲録、宮内省省報、官報、高松宮宣仁親王

五日 水曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、結婚のお礼言上、並びに翌六日より神宮及び山陵に参拝につき暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、高松宮宣仁親王

天皇及び和子内親王と共に葉山御用邸へ行啓のため、午前十時二十五分御出門、午後零時十分御用邸に御到着になる。御到着の際、御車寄において同地滞在中の成子内親王の出迎えを受けられる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

六日 木曜日 午後、近衛師団長林銃十郎参邸につき、天皇と共に謁を賜う。ついで伯爵二荒芳徳参邸につき、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、行幸録

九日 日曜日 午前、内大臣秘書官松井定克をお召しになり、謡曲の稽古を行われる。松井をお召しになつての謡曲御稽古は、宮城・葉山御用邸・那須御用邸御滞在中を問わず、この年、一年を通して頻繁に行われる。○女官日誌

十一日 火曜日 午前、紀元節祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。その後、成子内親王と共に供奉高等官一同の祝詞言上をお受けになり、引き続き酒饌の御陪食を仰せ付けられる。午後、風船送り・球拾い・顔書き等の余興が催され、皇后は職員と共に御参加になり、さらに女嬬・雑仕等による競走・踊り等を御覧になる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、竹屋皇后宮女官長に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、儀式録、行幸録、典式録、宮内省省報

十三日 木曜日 天皇に軍事参議会の結果を奉答のため参邸の載仁親王^{軍事参議院議長}と御対面になり、ついで天皇及び親王と御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録

十四日 金曜日 午後、元帥陸軍大將上原勇作参邸につき、天皇と共に謁を賜い、天機並びに御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、侍従武官府資料

十六日 日曜日 午後、新任の侍医寮御用掛井上誠夫^{眼科拝診を担当}参邸につき、天皇と共に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報

十八日 火曜日 午前、参邸の宮内次官関屋貞三郎に謁を賜い、今般の宮内省官制改革に伴う人事異

動について言上をお受けになる。○女官日誌、幸啓録、行幸録、関屋貞三郎日記

官幣大社賀茂別雷神神社摂社大田神社境内等改修築につき、金一封を下賜される。○侍従職日誌、贈賜録

十九日 水曜日 午後、天皇と共に表謁見所にお出ましになり、この日賢所において成年式を済ませた永久王の参内朝見の儀に臨まれる。王より謝恩の辞をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。

成年式に当たり、天皇・皇后より永久王に酒・鮮鯛・お品及び金員を御贈進になる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、儀式録、皇親録、皇族身分録、典式録、宮内省省報、官報

二十日 木曜日 午後、昨十九日後備役に編入の前参謀総長鈴木庄六参邸につき、謁を賜い、在職中のお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、行幸録、贈賜録、侍従武官府資料、官報

スウェーデン国皇后御不例につき、この日、天皇・皇后より同皇后へお見舞電報を御發送になる。二十一日、同国皇帝より答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

二十一日 金曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、行幸録、典式録、宮内省省報

故成久王妃房子内親王参邸につき、正午過ぎ、天皇と共に御対面になり、永久王の成年式が滞りなく済んだことについてのお礼言上をお受けになる。ついで成子内親王も交え御昼餐を御会食になる。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録

二十二日 土曜日 夕刻、天皇及び成子内親王と共に、海軍軍楽隊によるメンデルスゾーン作曲「結婚行進曲」、イヴァノヴィッチ作曲「ドナウ河の漣」、ロッシーニ作曲「ウイリアム・テル序曲」等の演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録

昭和五年三月

二十三日 日曜日 午後、故侯爵中山孝麿元東宮大夫
宮中顧問官夫人三千代参邸につき、謁を賜う。○女官長日記、女官

日誌

二十五日 火曜日 去る昭和三年十月二十九日に山東省派遣地より帰還の途中、不慮の事故により左

眼球に裂創等を受けた陸軍歩兵一等卒庄司沢喜平司歩兵第三十四聯
隊第二中隊所属に、この日、義眼を下賜される。○贈賜

録

二十六日 水曜日 午後、宮内大臣一木喜徳郎参邸につき、謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

二十七日 木曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・円照寺・靈鑑寺・中宮寺・瑞竜寺・禅智院・

水薬師寺・長福寺・善光寺に乾海苔を賜う。○贈賜録

二十八日 金曜日 午後一時十分、天皇及び成子内親王・和子内親王と共に葉山御用邸を御出門、三

時宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮

内省省報、官報

三月

一日 土曜日 午後一時五十分御出門、皇太后の御機嫌伺いのため青山東御所に行啓される。四時還

啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

二日 日曜日 宣仁親王結婚お祝いのため、天皇と共に御晩餐を催される。天皇・成子内親王と共に

奥内謁見所において宣仁親王・同妃喜久子、雍仁親王・同妃勢津子、故恒久王妃昌子内親王・故成久

王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になり、ついで御学問所において御会食になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

三日 月曜日 和子内親王初節句につき、天皇及び成子内親王と共に申ノ口において、侍従・侍従武官・皇后宮女官等による舞踊・謡曲・手品などの余興を御覧になる。始めに昼の部として女孀一同による「海底より御悦」、皇后宮女官一同による「田植」、囑託・雑仕一同による「一寸法師」等が供覧され、御夕餐後には夜の部として皇后宮女官有志による「だるまさん」、雑仕一同による「人ノ一生景」、侍従・皇后宮女官有志による「ゴルフ行進曲」等が披露される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

この日、麴町区紀尾井町の新邸李王家
東京邸に移転した李王垠・同妃方子女王に、天皇・皇后より三種交魚等を御贈進になる。○贈賜録、官報

四日 火曜日 この日、皇后宮職官制中改正の件が、皇室令をもって公布・施行される。この改正により、皇后宮職の職掌として、従来の皇后宮に関する事務に加え、皇子の保育に関する事務が定められる。なおこの日、侍従次長兼皇后宮大夫河井弥八が皇后宮大夫兼侍従次長に任じられる。○皇室令録、進退録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

六日 木曜日 満二十七歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。ついで桐ノ間において、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王・同妃喜久子・載仁親王始め皇族・王族の拝賀を、続いて内閣総理大臣以下各国务大臣・枢密顧問官等、宮内勅任官同待遇以上の者及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、千種ノ間において、宮内奏任官及び同待遇の拝賀をお受けになる。

午後、奥内謁見所において、崇仁親王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になり、続いて旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子、侯爵久邇邦久始め御縁故者、元奉仕者等の拝賀をお受けになる。ついで皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。二時、皇太后と共に牡丹ノ間において、隣室竹ノ間における式部職楽部並びに東京音楽学校教授安藤幸のヴァイオリン、同小倉末のピアノ、同長坂好子のソプラノ独唱等の洋楽演奏をお聴きになる。休憩の後より、天皇も御臨席になる。演奏終了後、天皇・皇太后及び陪聴の皇族と共に、御学問所において茶菓をお召し上がりになる。その際、雍仁親王参内につき、天皇・皇太后と共に御対面になり、陸軍歩兵大尉に昇任につきお礼言上を受けられる。

午後六時三十分、天皇と共に御学問所において内宴に臨まれ、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官と御晚餐を共にされる。御晚餐の後、余興として行われたピンポンの紅白戦を御覧になり、天皇・皇后もそれぞれの組にお入りになって楽しまれる。終了後、くじ引きにて一同にお品を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附日記、幸啓録、重要雑録、典式録、贈賜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

七日 金曜日 御不例により御仮床に就かれる。二十一日に御床払いになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録

十二日 水曜日 去る十日、鎮海湾要塞司令部演武場において陸軍記念日の催しとして活動写真の映写中、フィルムに引火して火災が発生し、観覧中の児童その他が多数死傷する。この日、天皇・皇后より朝鮮総督府に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十八日 火曜日 午後、この日来日したデンマーク国皇太子フレデリック、皇太子弟クヌッド、及び皇従弟アクセル・同妃マルガリータ以下の一行が、御機嫌伺いのため参内し、名刺を置いて宿所の霞関離宮に帰還する。これに対し、御答礼のため、天皇・皇后より御使として式部長官林権助を霞関離宮に差し遣わされる。翌十九日、同国皇太子一行の参内に際し、皇后は御風気のため御対面にならず、式部官山県武夫を霞関離宮に差し遣わされ、皇従弟妃に鈴蘭蒔絵手箱^{赤塚自得}を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、外賓接待録、外交贈答録

この日、邦彦王の霊代を皇霊殿に遷すの儀が行われる。皇后宮女官長竹屋志計子を久邇宮邸の霊舎に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。また、皇后より菓子・果物をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、官報

二十一日 金曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官伊地知ミキに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報

二十三日 日曜日 去る二十一日御床払いにつき、皇后宮女官長竹屋志計子を青山東御所に差し遣わされ、御不例中のお尋ねについてのお礼を皇太后にお申し入れになる。○女官長日記、女官日誌

二十四日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般辞任の前久邇宮宮務監督本郷房太郎・前宮内事務官^{久邇山田益彦}山田益彦、新任の別当^{久邇高橋其三}高橋其三・宮内事務官^{久邇浜田武}浜田武に謁を賜う。また今般転任の前侍従

武官矢野機に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報
俊彦王初誕辰につき、天皇・皇后より白紋縮緬等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十六日 水曜日 午前、震害復興につき賢所皇靈殿神殿に報告の儀が行われ、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、祭祀録、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

二十七日 木曜日 午前九時四十五分御出門、東京女子高等師範学校に行啓される。文部大臣田中隆三・東京女子師範学校長吉岡郷甫ほか十二名にそれぞれ謁を賜う。ついで講堂にお出ましになり、附属小学校尋常科・高等科児童、本科生徒等による読方・綴方演習作業等を御覧になり、続いて附属幼稚園を御巡覧になる。便殿において御昼餐の後、文部大臣ほか本日奉仕者に特に謁を賜う。ついで各室を巡られ、実験・実習等を御覧になる。さらに体操御覧室にお出ましになり、附属小学校・高等女学校本校及び第六臨時教員養成所の生徒達による合同体操等を御覧になり、ついで成績品を御巡覧になる。終わって便殿において吉岡校長に謁を賜い、お言葉を賜う。お言葉の覚書は次のとおり。

本日此校ニ臨ミ詳ニ課業ノ實際ヲ見学校長ヲ始メ職員等ガ熱心ニ教導ニ当リ生徒等モ亦真率ニ勉勵シツツアルハ満足ニ堪ヘズ

此校ハ創設以來既ニ五十余年ヲ経成績愈々揚ガリ国家社会ニ貢献セシ所洵ニ多シ此レ実ニ昭憲皇太后並皇太后陛下ノ御懿旨ニ副フ所以タルヲ信ズ

今ヤ女子教育ハ益々振興ノ必要ヲ感ゼシムルモノアリ諸子宜シク此校ノ本旨タル師範教育ガ真ニ女子教育ノ源泉ヲ為スヲ思ヒ一層努力ヲ加ヘ以テ時世ノ進運ニ伴ハンコトヲ期スベシ

校長より奉答をお受けになり、午後三時還啓される。夜、東京女子高等師範学校より献上の生徒の成績品等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

二十八日 金曜日 午前、桐ノ間において、今般新任のトルコ国特命全權大使ジェヴァット・ベイ及

び同夫人、並びに随伴の大使館参事官ほか二名、ブラジル国特命全権大使イポリト・パセコ・アルヴェス・デ・アラウジヨ及び同夫人、並びに随伴の大使館付海軍武官、米国特命全権大使ウイリアム・R・キヤッスル及び同夫人、並びに随伴の大使館参事官ほか十七名に順次謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午後、崇仁親王参内につき、天皇と共に奥宮殿において御対面になり、学習院中等科第二学年修了につきお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、官報

二十九日 土曜日 女子学習院において卒業式挙行につき、午前九時御出門、同院に行啓される。御到着後、便殿において女子学習院長松浦寅三郎・宮内次官関屋貞三郎に謁を賜う。続いて在学中の紀久子女王始め各女子皇族・王族、先着の雍仁親王妃勢津子始め各妃と御対面になる。その後、式場にお出ましになり、卒業証書・修了証書の授与、恩賜品の伝達、華族会館・常磐会よりの各寄贈品の授与、院長の式辞等を御覧になる。式終了後、成績品陳列場において学生の成績品を御巡覧になる。御少憩の後、同校を御出発、青山東御所にお立ち寄りになる。皇太后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。ついで皇太后と共に新しく赤坂離宮青山御所内に建築中の御殿^{大宮御所}を御覧になり、午後四時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、女子学習院関係資料

昨二十八日石川県能美郡小松町において火災被害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

三十一日 月曜日 午後、桐ノ間において、今般帰任のベルギー国特命全権大使アルベール・ド・バツソンプイエール及び同夫人、帰国のポーランド国特命全権公使ズジスワフ・オケンツキ及び同夫人、着

昭和五年四月

任のルーマニア国代理公使ジョルジュ・G・ストイセスコ及び同夫人に、順次謁見を仰せ付けられる。後刻、桐ノ間において、今般着任のスウェーデン国特命全権公使ヨハン・エリック・エーワルド・フルトマン及び同夫人・息女、メキシコ国特命全権公使ミグエル・アロンソ・ロメロ及び同夫人、カナダ特命全権公使ハーバート・メレディス・マラー及び同夫人、ノルウェー国特命全権公使ルードウイク・セザール・マルチン・オーベルに、順次謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

公爵西園寺公望病気につき、天皇・皇后より、静岡県興津に滞在の同人にお尋ねとして果実・花卉^ラを下賜される。また、四月三日からは天皇・皇后より毎日牛乳・スープを下賜される。なお牛乳の下賜は六月十四日まで、スープ下賜は四月九日までそれぞれ続けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録

四月

一日 火曜日 午後、奥宮殿において、今般御用を免じられた元侍医寮嘱託小田正暁に謁を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二日 水曜日 午前、奥内謁見所において、参内の故依仁親王妃周子と御対面になり、病気快復につきお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、贈賜録

夕刻、天皇と共に奥御対面所において、この度皇后宮女官を退官の山岡淑子に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、進退録、贈賜録

去る三月二十七日、大谷智子が第三男子を出産する。誕生した男子は、七夜に当たるこの日、暢頭ちやうけんと命名される。命名当日に際し、白羽二重・三種交魚代料を下賜される。○女官長日記、贈賜録

三日 木曜日 午前、神武天皇祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

四日 金曜日 午後、天皇及び成子内親王と共に御散策になり、紅葉山より道灌濠沿いに満開のサクラを御鑑賞になる。ついで吹上御苑において花見を催される。側近奉仕者による余興を御覧になり、皇后も皇后宮女官と共にスプーンレースに参加される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

五日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般支那駐屯軍へ御差遣の侍従武官阿南惟幾に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下一同カ風土異ル海外ニ在ツテ困難ナル任務ニ服スルコト真ニ苦勞ニ思フ各自一層身体ヲ大切ニスルヤウ申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク勞リ遣ハセ

阿南は七日出發、支那駐屯軍司令官植田謙吉以下に令旨を伝達、二十三日帰京し、二十四日・二十八日に拝謁、五月一日復命する。○女官長日記、女官日誌、進退録、恩賜録、典式録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報
奥内謁見所において、瑞竜寺門跡村雲御所の九条日浄皇太后の御兄九条道実の養女に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌
スウェーデン国皇后ヴィクトリア昨四日崩御につき、この日、天皇・皇后より同国皇帝グスタフ五世へ弔電を御發送になる。翌六日、答電が寄せられる。同皇后崩御につき、この日より二十五日まで二十一日間の宮中喪となり、翌六日の赤坂離宮における宣仁親王・同妃喜久子の渡歐送別宴への行幸啓

昭和五年四月

は中止とされ、米國特命全權大使夫妻との午餐御会食、觀桜会等は延期とされる。十二日にストックホルムにおいて挙行の御葬儀には、勅使のスウェーデン國駐劄特命全權公使武者小路公共を介して、天皇・皇后より柩前に花環をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、外交慶弔録、外交贈答録、觀桜会録、幸啓録、典式録、宮内省省報、官報

この日、皇后宮女官伊地知ミキが皇子御養育掛を命じられる。○女官長日記、進退録

去る二日、福岡県若松・戸畑両市共有の汽船第一わかと丸が航行中に強風のため難破し、多数の遭難者発生につき、この日天皇・皇后より通信大臣に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

七日 月曜日 午後、御休所において三条西信子と御対面になり、病氣全快のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十日 木曜日 午後、天皇と共に御学問所において、侍従本多猶一郎より満洲及び支那旅行の談話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、進退録

十三日 日曜日 今般海外巡遊に出発の宣仁親王・同妃喜久子のため、天皇と共に送別の午餐を催される。午後、豊明殿において、宣仁親王・同妃を始め皇族・王族、また親王・同妃の公式訪問国によりお召しの英國特命全權大使及び同夫人、並びに同國大使館員、スペイン國臨時代理公使並びに同國公使館員その他と御会食になる。当初、午餐はこの月十二日に開催予定のところ、スウェーデン國皇后葬儀当日により、この日に変更される。なお、宣仁親王を通じて、皇后より英國皇后に蒔絵手筥^{金地} ^{秋草}

^{ノ図、昭憲皇}太后御遺品 を、スペイン國皇后に綴錦卓子掛^{白花地} ^{花模様} を、それぞれ御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内省省報、官報

十五日 火曜日 午後、天皇と共に東一ノ間・東二ノ間において、先般第二回聖徳太子奉讚美術展覽会東京府美術館にて開催に陳列された邦彦王の遺墨書画、並びに陶器の染筆等を御覧になる。その際、文学博士黒板勝

美東京帝国大学教授の説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、贈賜録、大正期美術展覽会出品目録

夕刻、本日付にて侍従より大臣官房秘書課長・侍従職御用掛・皇后宮職御用掛に転任の木下道雄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、宮内省省報、官報

十六日 水曜日 天皇と共に表内謁見所において、近く海外巡遊に出発する宣仁親王・同妃喜久子のため送別の内宴を催され、宣仁親王・同妃並びに雍仁親王・同妃勢津子・崇仁親王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附日記、重要雑録

十七日 木曜日 天皇と共に豊明殿において、米国特命全権大使ウイリアム・R・キャッスル及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

十八日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般フランス国より帰国の特命全権大使安達峰一郎及び同夫人に謁を賜う。ついで天皇と共に御学問所において、宣仁親王・同妃喜久子の海外巡遊に随行する式部官山県武夫・別当石川岩吉・皇族付武官水野恭介・高松宮御用掛坂本恒雄・同御用取扱落合たかに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、宮内省省報、官報
皇后宮職嘱託加藤虎之亮より漢文の進講として論語についてお聴きになる。以後、この年は概ね金曜日に、同人より二十回にわたり進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和五年四月

二十日 日曜日 午前、天皇と共に吹上御苑にお出ましになり、今般文武官より大札奉祝の献上として建設中の西洋館御茶寮^{後日、花蔭亭と命名される}を御巡覧になり、内匠頭東久世秀雄・内匠寮技師鈴木鎮雄より説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

夕刻、天皇と共に奥御対面所において、翌二十一日より欧米各国に出発する宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宮内省省報、官報

二十一日 月曜日 この日宣仁親王・同妃喜久子欧米各国へ出発につき、皇后宮女官長竹屋志計子を高松宮邸に差し遣わされる。またお見送りのため、皇后宮御使として皇后宮大夫河井弥八を東京駅より横浜まで差し遣わされる。夕刻、帰京の河井に謁を賜う。親王・同妃は、横浜より汽船鹿島丸に乗り船し、欧州への途に就く。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、外国差遣録、重要雑録、宮内省省報、官報、高松宮同妃両殿下御外遊日誌、河井弥八日記、高松宮宣仁親王

二十二日 火曜日 午後一時五十分御出門、青山東御所に行啓され、皇太后と御対面になる。四時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十六日 土曜日 午前、東京帝国大学医学部附属医院に入院中の李王妃方子女王をお見舞いのため、御使として皇后宮女官長竹屋志計子を差し遣わされ、鶏卵・鶉卵・花卉を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、梨本伊都子日記

二十八日 月曜日 天皇と共に御学問所において、今般フランス国より帰国の特命全権大使安達峰一郎及び同夫人と御晚餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十九日 火曜日 天長節につき、午前、成子内親王と共に奥宮殿において天皇と御対面になり、御祝詞をお申し入れになる。終わって、奥内謁見所において総代の内大臣・宮内大臣・宮内次官・侍従長・皇后宮大夫・侍従武官長・侍医頭より祝詞言上をお受けになる。ついで御常御殿御入側において皇后宮女官一同より祝詞言上を受けられる。その後、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、奥御食堂においてお三方にてお祝御膳を御会食になる。ついで皇太后と共に御休所において、雍仁親王妃勢津子始め皇族妃と御対面、旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子等に謁を賜う。正午過ぎ皇太后と共に奥内謁見所において、皇族妃との内宴を催される。終了後、天皇と共に奥御対面所において崇仁親王と御対面になる。それより天皇・皇太后と共に主馬寮覆馬場前にお出ましになり、天長節の余興として大相撲を御覧になる。終了後、皇太后と共に宮殿において茶菓をお召し上がりになる。その際、成子内親王・和子内親王も加わり、御一緒にお過ごしになる。皇太后御退出後、天皇と共に奥御対面所において、清水シゲ・鈴木タカ等の元侍女に謁を賜う。ついで、天皇・成子内親王と共に御学問所における側近奉仕男女高等官との内宴に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、典式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、日本相撲史

五月

一日 木曜日 午後、天皇と共に御学問所において、特命全権大使芳沢謙吉フランス国駐節より、「印度支那ノ情況」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、岡本愛祐

関係文書

昭和五年五月

二日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般フランス国へ赴任の特命全權大使芳沢謙吉及び同夫人に謁を賜う。続いて京都在住華族総代として御機嫌奉伺のため参内の伯爵山科家言に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報
午後、奥内謁見所において、今般第一・第二遣外艦隊及び旅順海軍無線電信所へ御差遣の侍従武官山内豊中に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下一同方風土異ル海外ニ在ツテ困難ナル任務ニ服スルコト真ニ苦勞ニ思フ暑サニ向フ折柄各自一層身体ヲ大切ニスルヤウ申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク勞リ遣ハセ

山内は五日出發、第一遣外艦隊司令官米内光政以下に令旨を伝達、六月十六日帰京し、六月十九日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、恩賜録、典式録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

三日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。東京高等蚕糸学校長本多岩次郎・臨時皇后宮職御用掛有泉善三等が列席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夕刻、天皇と共に奥御対面所において、翌四日に陸軍大学校学生の資格にて満洲・朝鮮への戦史旅行に出發する雍仁親王と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報、雍仁親王実紀

四日 日曜日 午後、天皇と共に霜錦亭において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、邦昭王の初節句に対する御贈進についてのお札言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

五日 月曜日 日本赤十字社第三十八回通常総会に御臨席のため、午前十時御出門、憲法記念館に行

啓される。御到着後、便殿において同社総裁載仁親王ほか名誉会員の皇族十方と御対面になり、続いて宮内大臣一木喜徳郎・陸軍次官阿部信行陸軍大臣代理・海軍次官山梨勝之進海軍大臣代理・社長徳川家達・副社長徳川圀順・同阪本鈺之助等に謁を賜う。その際、社長より報告書その他の書類の奉呈、及び同社の現況につき言上を受けられる。その後、式場に臨御され、次の令旨を賜う。

日本赤十字社第三十八回ノ總會ニ臨ミ基礎愈固ク事業倍隆ナルヲ見満足ノ至ニ堪ヘス是レ偏ニ総裁以下各員ノ努力ニ頼ルモノニシテ深ク其ノ労苦ヲ多トス

赤十字ノ事業ハ戦時平時ヲ通シテ人類ノ慶福ニ寄与スルコト尠カラス殊ニ輓近國際的協調ノ氣運ニ伴ヒ各員益奮勵シ以テ社業ノ伸展ヲ期セムコトヲ望ム

ついで総裁の奉答をお受けになり、十一時十五分還啓される。還啓後、奥内謁見所において載仁親王と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）

奥内謁見所において皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜い、翌六日皇太后の大宮御所への御移転について、及び昨日公爵九条道孝二十五回忌法会執行に際してのお仕向けのお礼について言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

六日 火曜日 この日、皇太后が青山東御所より赤坂離宮青山御所内に新築の大宮御所に御移転になる。皇后御使として皇后宮女官長竹屋志計子を差し遣わされ、賀詞をお申し入れになる。また御移転に際し、飾棚・鮮鯛・柳樽・三種交魚を皇太后に御贈進になる。なお、今般大宮御所が皇太后の御在所と定められたことにより、京都皇宮内の大宮御所は京都大宮御所と改称される。○女官長日記、女官日

昭和五年五月

誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、重要雜録、貞明皇后実録正本、例規録、宮内省省報、官報

七日 水曜日 愛国婦人会第二十九回総会に御臨席のため、午前十時御出門、憲法記念館に行啓される。便殿において總裁故依仁親王妃周子始め各皇族妃と御対面になり、続いて会長本野久子子爵本野盛一母・

副会長水野満寿子・本部顧問水野鍊太郎・同田内三吉ほかに謁を賜う。その際、会長より報告書その他の書類の奉呈、及び会の現況につき言上を受けられる。終わって式場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲ニ愛国婦人会第二十九回ノ總會ニ臨ミ親シク各員ヲ見ルコトヲ喜ヒ併セテ事業ノ将来益進展セムコトヲ望ム

ついで總裁故依仁親王妃の奉答を受けられ、式終了後、御退場になる。十一時十分還啓される。還啓後、奥内謁見所において、参内の故依仁親王妃と御対面になり、行啓のお礼言上を受けられる。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

午後、この度大宮御所に御移転のお礼として皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

九日 金曜日 陸海軍将校婦人会第二十五回記念会に御臨席のため、午後一時五十分御出門、東京水交社に行啓される。御着後、便殿において總裁博恭王妃経子始め各皇族妃に御対面になる。引き続き

会長黒木百故陸軍大將黒木為楨夫人・副会長山内禎子侯爵山内豊景夫人・顧問内山訓陸軍大將内山小二郎夫人・幹事長奈良光陸軍大將奈良良武次夫人ほかに謁を賜う。ついで式場に臨まれ、会長報告の後、次の令旨を賜う。

茲ニ陸海軍將校婦人会二十五周年記念会ニ臨ミ親シク各員ヲ見ルヲ喜ヒ更ニ会運ノ益隆盛ナラムコトヲ望ム

総裁の奉答を受けられ、便殿に入御される。御少憩の後、余興場にお出ましになり、三曲合奏「四季の遊」をお聴きになる。終わって三時二十五分還啓される。還啓後、奥内謁見所において、参内の博恭王妃経子と御対面になり、行啓のお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

十日 土曜日 御夕餐後、天皇と共に奥内謁見所において、復興事務局編纂・献上の映画「帝都復興」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、進献録

十二日 月曜日 横須賀軍港における軍艦高雄進水式に行啓につき、午後一時御出門、東京駅より横須賀駅を経て横須賀鎮守府に御到着になる。便殿において雍仁親王妃勢津子・載仁親王・故依仁親王妃周子・博恭王・同妃経子・博義王妃朝子・故菊麿王妃常子・恒憲王妃敏子・故邦彦王妃侃子・朝融王・同妃知子女王・春仁王妃直子と御対面になる。続いて、臨時海軍大臣事務管理浜口雄幸^{内閣総理大臣}・横

須賀鎮守府司令長官大角岑生以下に謁を賜い、模型を御覧になりながら、大角より進水式及び建造の経過についての説明をお受けになる。その後、自動車にて式場に臨まれる。進水式では、進水手続きの後、横須賀海軍工廠長藤田尚徳が金斧にて支綱を切断し、艦体が船台を滑り海中に浮かぶ様子などを御覧になる。その後、浜口より式終了の旨の言上をお受けになり、直ちに式場を御退出、鎮守府にお入りになる。五時五十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、重要雑録、宮内省

省報、官報

今般東京劇場において財団法人滝乃川学園後援会主催の慈善観劇会開催につき、入場券をお買い上げになる。○贈賜録

十三日 火曜日 午後、紅葉山御養蚕所へお出ましになり、成子内親王と共に蚕に桑の葉をお与えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十四日 水曜日 午後一時御出門、今般新築落成の華族会館に行啓される。御到着後、便殿において雍仁親王妃勢津子・故邦彦王妃倪子・春仁王妃直子と御対面になり、館長徳川家達に謁を賜う。その後、能楽堂に進まれ、有志演能会による「橋弁慶」「西王母」「七騎落」「胡蝶」を御覧になる。御休憩を挟んで「羽衣」「八嶋」「桜川」「融」「高砂」を御覧になる。終了後、便殿にお入りになり、旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子・園祥子に謁を賜う。五時五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

十五日 木曜日 午後、奥内謁見所において、大聖寺門跡の石野慈栄に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日成年式中賜冠の儀を済ませた邦英王がお礼言上のため参内につき、御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

天皇と共に御学問所において、農政家山崎延吉元衆議院議員、元愛知県立農事試験場長、元県立農林学校長より「農業ノ経営」と題する進講

をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、我農生回顧録

十六日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般ルーマニア国へ赴任の特命全権公使藤田栄介ユーゴスラビ

ア国駐
節兼勤及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

午前十一時、天皇と共に鳳凰ノ間に出御され、この日賢所において成年式を済ませた邦英王の参内朝

見の儀に臨まれる。王より謝恩の辞をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。午後、奥内謁見所において、邦英王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。成年式のお祝いとして、天皇・皇后より邦英王に酒・鮮鯛及び金員を、皇后よりお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、皇親録、皇族身分録、皇族叙勲録、典式録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に西一ノ間・西二ノ間・東一ノ間・東二ノ間において、明治天皇御手許書類取調掛顧問三上参次臨時帝室編修官長・同取調員本多辰次郎臨時帝室編修局御用掛の説明により、先般取調べが終了した明治天皇御手許

書類のうち、第一種に属する帝国憲法・皇室典範制定関係、台湾出兵、日清戦役、大正天皇の御教育関係などの書類を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、岡部長景日記

十七日 土曜日 天皇及び成子内親王と共に葉山御用邸へ行啓のため、午後一時御出門、二時四十五分御用邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

十九日 月曜日 午前九時四十五分、天皇及び成子内親王と共に葉山御用邸を御出門、十一時三十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報
新築の大宮御所に天皇と共に行啓のため、午後零時四十分御出門になる。御到着後、謁見所において皇太后と御対面になり、また先着の雍仁親王妃勢津子と御対面になる。その後、御食堂において午餐を御会食になる。御食後、皇太后の御案内により御所内を御巡覧になり、ついで茶菓を共にされる。五時還啓される。大宮御所への初めての行幸啓につき、皇后より三種交魚等を、天皇・皇后より菓子等を皇太后に御贈進になる。また、天皇・皇后より同御所内の大正天皇のお写真に切り花・果物等を

昭和五年五月

お供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行幸録、行啓録、貞明皇后実録正本、

宮内省省報、官報

二十日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、邦英王の成年式終了、及び去る十七日夜の近火お見舞いについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌

二十一日 水曜日 午後、奥内謁見所において、新任の侍従武官町尻量基に謁を賜う。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従武官府資料、宮内省省報、官報

二十二日 木曜日 午前、成子内親王・和子内親王と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。成子内親王と共に蚕室にお入りになり、蚕にお手ずから桑の葉を与えられ、臨時皇后宮職御用掛有泉善三より説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十三日 金曜日 午前、天皇と共に皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、成子内親王の養育方法に関する言上をお聞きになる。河井は、内親王の学齢前一年間はなるべく幼稚園に入園を願いたいとし、翌昭和六年三月までの養育に関して、内親王が毎週二回新宿御苑又は浜離宮に通い女子学習院幼稚園児約十名ずつを相手とすること、両所では女子学習院教授等が相手をして他の園児と差別を設けないようにすることなどを言上する。これに対し、天皇・皇后は、決定の上はなるべく速やかに実施すべきことを御希望になる。○女官長日記、侍従職日誌、河井弥八日記、河井弥八関係文書

午後、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国の米国特命全権大使ウイリアム・R・キャツスル及び同夫人のため午餐を催される。皇后より同夫人に鼈甲手筥^{籬二菊}を^ノ下賜される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、外交贈答録、宮内省省報、官報、外務省記録

二十四日 土曜日 去る二日、樺太東海岸及び亜庭湾において暴風のため出漁中の漁船が多数遭難し、多くの死者・行方不明者を出す。この日、天皇・皇后より樺太庁に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十六日 月曜日 午後、天皇と共に紅葉山御養蚕所へお出ましになり、各室を御巡覧になる。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十七日 火曜日 午前、奥内謁見所において、李王塚妃方子女王と御対面になり、同妃入院中の賜物についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に奥御対面所において、満洲・朝鮮における陸軍大学校戦史旅行より帰京した雍仁親王、及び同妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮御側日誌、秩父宮附日記、進献録、雍仁親王実紀、秩父宮雍仁親王

二十八日 水曜日 昨二十七日川村ハル故伯爵川村純義夫人死去につき、この日、天皇・皇后より盛菓子を、天皇・

皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、同人の危篤に際して天皇・皇后より病氣お尋ねとして花卉寄植・万那料を下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、重要雑録、官報

二十九日 木曜日 午前、皇后宮御進講室において皇后宮大夫河井弥八より、天皇行幸昨二十八日より六月三日まで中

の静岡県の地理・産業等に関する講話をお聴きになる。翌三十日以降も、河井より静岡県についてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

東京慈恵会総会に御臨席のため、午後一時四十分御出門、華族会館に行啓される。御到着後、便殿に

昭和五年六月

において総裁故恒久王妃昌子内親王、名誉会員雍仁親王妃勢津子始め各皇族妃と御対面になり、ついで副会長渋沢栄一始め理事・監事・評議員等に謁を賜う。その後、総会場に臨御され、渋沢副会長より昭和四年度歳出歳入決算報告、院長高木喜寛より施療患者要領報告をお聴きになり、便殿にお戻りになる。同所において徳川実枝子に謁を賜い、二時三十分還啓される。還啓後、奥内謁見所において故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、行啓のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

三十日 金曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御生母九条幾子^{浄操}院に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十一日 土曜日 午後、奥内謁見所において故邦彦王妃侘子と御対面になり、一昨二十九日渋谷の本邸より麻布区三河台町の新邸への移居に際してのお仕向けにつきお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、宮内省省報

六月

一日 日曜日 午前、成子内親王と共に奥内謁見所において、朝融王・同妃知子女王と御対面になり、昨五月三十一日に駒沢別邸より渋谷本邸への移居に際してのお仕向けについてのお礼言上をお受けになる。去る五月二十九日に故邦彦王妃侘子が渋谷の本邸より麻布区三河台町の新邸に移居したことに伴い、朝融王・同妃が渋谷の本邸に移居した。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、贈賜録、宮内省

省報

夕刻、成子内親王と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕の發育を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二日 月曜日 午前、皇太后御参内につき、成子内親王と共に御休所において御対面になる。また、お召しの雍仁親王妃勢津子とも御対面になり、奥内謁見所において、皇太后・雍仁親王妃と共に御昼餐を御会食になる。御食後、皇太后及び雍仁親王妃と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。成子内親王も参着し、御一緒に室内外において蚕の飼育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、

幸啓録、重要雜録、宮内省省報、官報

三日 火曜日 午後、去る五月二十八日以来静岡県に行幸中の天皇還幸につき、成子内親王・和子内親王と共にお出迎えになる。○女官長日記、女官日誌、官報

五日 木曜日 午後、天皇と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

六日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般トルコ国より帰国の特命全權大使吉田伊三郎に謁を賜う。ついで、今般欧米各国への旅行ブリュッセルにて開催の第十四回赤十字国際会議に日本赤十字社長として出席に出発する公爵徳川家達貴族院議長・日本赤十字社長

に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拜謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥内謁見所において、賢所初参拝を終えて初参内の邦昭王、及び朝融王・同妃知子女王と御対面になる。邦昭王に万那料・白羽二重等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において台湾総督石塚英蔵に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

昭和五年六月

七日 土曜日 午後、成子内親王と共に生物学御研究所脇の水田において、天皇のお田植えの様子を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、生物学御研究室記録

八日 日曜日 この日より紅葉山御養蚕所において繭掻き開始につき、皇后宮女官長竹屋志計子・皇后宮女官北村民枝等を同所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 月曜日 邦英王の成年祝いのため、天皇と共に御学問所において御晚餐を催され、邦英王及び故依仁親王妃周子・故邦彦王妃倪子・朝融王・同妃知子女王、侯爵久邇邦久・三条西信子と御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

十二日 木曜日 午後、天皇と共に御学問所において、蚕業試験場長平塚英吉より「本邦ノ養蚕ニ就テ」と題する講話をお聴きになる。講話は養蚕業の現状及び変遷、蚕品種の改良事業、養蚕業の改善発達に資すべき事項の各項目にわたり、実物・図表を用いて行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十三日 金曜日 午前、奥内謁見所において、鳩彦王・同妃允子内親王と御対面になり、紀久子女王と侯爵鍋島直泰の婚約勅許についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、紀久子女王殿下正三位侯爵鍋島直映嗣子従五位鍋島直泰へ御婚嫁の件

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、繭を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌
御夕餐後、天皇及び成子内親王と共に吹上御苑にお出ましになり、滋賀県野洲郡守山町青年団長川端貞次より献上の源氏螢数千匹を観瀑亭前の滝の付近にお放ちになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、進献録

十五日 日曜日 午前十時五十分御出門、天皇と共に赤坂離宮に行啓され、皇族親睦会に御臨席になる。皇太后を始め参集の皇族・王公族と御対面になり、写真撮影の後、午餐を御会食になる。午後、余興を御覧になり、模擬店を巡られる。五時五十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行幸録、皇族親睦会録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十六日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、皇族親睦会幹事の鳩彦王と御対面になり、昨十五日の同会への行幸啓についてのお礼言上をお受けになる。また二十日には、故恒久王妃昌子内親王・鳩彦王妃允子内親王より行幸啓についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、朝香宮日誌、朝香宮奥日誌

午後、奥内謁見所において、藪嘉根子<sup>元皇太后
宮掌侍</sup>・平田三枝<sup>元皇太后
宮権命婦</sup>に謁を賜い、今般皇太后の大宮御所御移転につきお悦びの言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十七日 火曜日 午前、桐ノ間において、新任のイタリア国特命全権大使ジョバンニ・チェザーレ・マヨニ、並びに随伴の大使館員等に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に吹上御苑にお出ましになり、大札に当たり文武官一同より献上・新築された御休所<sup>花蔭亭と命
名御内定</sup>を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、昭和大礼記録

十八日 水曜日 午後、天皇と共に鳳凰ノ間にお出ましになり、今般公家を継承した李鍵公の参内朝見の儀に臨まれる。公より謝恩の辞をお受けになり、天皇の勅語に続き懿旨を賜う。なお、李鍵公に対し、お祝いとして天皇・皇后より清酒・鮮鯛を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、儀式録、皇親録、典式録、宮内省省報、官報

十九日 木曜日 午前、桐ノ間において、フィンランド国代理公使ジョルジュ・ウインケルマン及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

天皇と共に豊明殿において、イタリア国特命全権大使ジョバンニ・チエザーレ・マヨニのため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般ドイツ国より帰国の特命全権大使長岡春一・同夫人、ついでブラジル国より帰国の特命全権大使有吉明・同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般ロンドン海軍会議より帰国の帝国全権委員若槻礼次郎、及び同財部彪海軍大臣

同夫人に謁を賜う。若槻には、天皇・皇后より清酒・五種交魚を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、恩賜録、財部彪日記

二十一日 土曜日 午前、この日皇太后が東京音楽学校に行啓され、その際の御前演奏のラジオ中継放送が行われ、これをお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、幸啓録、宮内省省報

二十三日 月曜日 午前、御進講室において天皇と共に、臨時帝室編修官長三上参次より「明治天皇ト明治十年」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十五日 水曜日 大正天皇崩御後初めて皇太后のお誕生日の祝賀が行われるため、皇后宮使として皇后宮大夫河井弥八を大宮御所に差し遣わされる。午後、河井より復命をお聞きになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、貞明皇后実録正本

夕刻、天皇と共に奥御対面所において、この日誕生日を迎えた雍仁親王と御対面になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌

二十六日 木曜日 午後、皇后宮御進講室において、東京女子高等師範学校教授倉橋惣三より、幼稚園の保育事項に関する進講をお聴きになる。その後、幼児が制作した粘土・切り紙・自由画などの陳列を御覧になり、それぞれ倉橋より説明をお聞きになる。倉橋の保育事項に関する進講は引き続き七月三日・七日にも行われ、この両日には天皇も御同席になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、

内舍人日誌、倉橋惣三関係資料

二十八日 土曜日 この日及び翌二十九日、吹上御苑においてゴルフ競技会が催され、午後、天皇及び侍従甘露寺受長と共にコースを廻られる。競技会には侍従・侍従武官・侍医・皇后宮女官等が参加する。両日の競技の結果、皇后は二十一位とられる。なお、二十九日は大雨の中での競技となったことから、三十日午後にも小競技会が開催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

七月

一日 火曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、糸繰りの状況を御覧になる。東京高等蚕糸学校長本多岩次郎・臨時皇后宮職御用掛有泉善三より説明をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二日 水曜日 午前九時五十分御出門、東京聾啞学校に行啓される。御到着後、便殿において文部大臣田中隆三以下に謁を賜い、校長樋口長市より書類奉呈をお受けになった後、各教室を巡られる。つ

いで講堂において遊戯・講演等を御覧になる。便殿に戻られ御昼餐をお召し上がりになった後、午後一時同校を御出発、東京盲学校に行啓される。便殿において校長秋葉馬治に謁を賜い、秋葉校長より書類の奉呈をお受けになり、各教室を御巡覧になる。その後、講堂において教員・生徒による演奏をお聴きになる。三時五十分還啓される。なお、東京聾啞学校においては御昼餐後、東京盲学校においては演奏終了後、それぞれ便殿に校長をお召しになり、次のお言葉を賜う。

今日は教育の實際をいろ／＼見せて貰つて満足に思ふ。校長以下職員も仲々骨の折れることと思ふが此の上とも努力せられるやうに。

また今回の行啓に際し、東京聾啞学校・東京盲学校にそれぞれ奨学資金を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

四日 金曜日 午前、桐ノ間において、今般来日の豪州ニュー・サウス・ウェールズ州前総督海軍大將ダドレー・ド・シエヤー及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午後一時四十五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。天皇・皇太后と共に御苑内を御散策になる。四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

五日 土曜日 午前、御養蚕納の儀が行われる。皇后はお出ましにならず、皇后宮女官長竹屋志計子を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

七日 月曜日 午前、桐ノ間において、新任のフランス国特命全権大使ダミアン・ド・マルテル及び

随伴の大使館員等十一名、ついでペルシャ国特命全権公使アワネス・ハーン・モサーエツドに謁見を仰せ付けられる。午後、天皇と共に豊明殿において、マルテル大使のための午餐に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

九日 水曜日 御夕餐後、天皇と共に常侍官候所において、海軍大臣財部彪より供覧の、ロンドン海軍会議開会式にて英国皇帝のお言葉を録音したレコードをお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌
十日 木曜日 午前、奥内謁見所において、入院中のお見舞品下賜のお礼言上のため参内した侯爵久邇邦久と御対面になる。同人は、先般盲腸炎のため東京帝国大学医学部附属医院に入院し、六月二十一日手術を受け、今月四日退院した。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、侯爵久邇邦久伝

十一日 金曜日 天皇と共に葉山御用邸へ行啓のため、午前十時二十五分、成子内親王を御同伴にて御出門、午後零時八分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

成子内親王と共に名島にお出ましになり、御採集中の天皇と落ち合われる。以後、御用邸御滞在中は天皇の御採集に同行される。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録

十四日 月曜日 恩賜財団済生会において今般赤羽乳児院改築につき、金一封を下賜される。○恩賜録、

宮内省省報

十八日 金曜日 雍仁親王・同妃勢津子参邸につき、天皇と共に御夕餐を御会食になる。雍仁親王は、来る二十二日より福岡県久留米市に滞在し、陸軍大学校学生の資格のまま飛行第四聯隊付として勤務する。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、皇族身分録、秩父宮御側日誌、宮内省省報、雍仁親王実紀

昭和五年七月

十九日 土曜日 午前、故侯爵中山孝麿夫人三千代参邸につき、謁を賜う。○女官日誌

二十日 日曜日 午前、朝鮮総督齋藤実参邸につき、謁を賜う。○女官日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、齋藤実日誌

元帥陸軍大将伯爵奥保鞏昨十九日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮事務官永積寅彦を同人邸に差し遣わされる。また、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。二十三日には、皇后宮事務官黒田長敬を差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。また、天皇・皇后より祭資を下賜される。二十四日に行われる葬儀には、黒田事務官を葬斎場に差し遣わされ、焼香させられる。なお、これより先天皇・皇后より、同人の病気に際して果物を下賜され、また危篤に際して葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、宮内省省報、官報

二十二日 火曜日 去る十八日の九州地方における暴風雨被害に対し、天皇・皇后より福岡県・長崎県・鹿児島県・佐賀県・熊本県に対し、被害に応じ御救恤金を下賜される。この度の暴風雨被害に対しては、さらに八月二日、沖縄県・山口県に対しても、被害に応じ御救恤金を下賜される。またこの月中旬に台湾に襲来した暴風雨による被害に対し、天皇・皇后より同総督府に御救恤金を下賜される。

○恩賜録、宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 正午前、参邸の内閣総理大臣浜口雄幸・外務大臣幣原喜重郎・鉄道大臣江木翼・通信大臣小泉又次郎・海軍大臣財部彪・陸軍大臣臨時代理阿部信行に、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、財部彪日誌

二十八日 月曜日 正午頃、宮内大臣一木喜徳郎・枢密院議長倉富勇三郎参邸につき、天皇と共に謁

を賜う。後刻、伯爵二荒芳徳に謁を賜う。○女官日誌、幸啓録、行幸録、倉富男三郎日記

六月下旬よりこの月にかけて暴風雨のため朝鮮南部において水害発生につき、天皇・皇后より朝鮮総督府に御救恤金を下賜される。なお、実状視察のため現地に差し遣わされた侍従海江田幸吉は翌二十九日出発、八月十五日帰京、同月十九日那須御用邸に参着し、翌二十日皇后宮女官を経て皇后に復命する。○女官日誌、侍従日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報

三十日 水曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報

三十一日 木曜日 午前、大蔵大臣井上準之助・商工大臣俵孫一・内務大臣安達謙蔵参邸につき、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録

八月

一日 金曜日 正午前、内大臣牧野伸顕及び宮内省部局長総代として参邸の宗秩寮総裁仙石政敬・女子学習院長松浦寅三郎、宮中顧問官総代川島令次郎・錦鶏間祇候総代向井巖に、天皇と共に謁を賜う。

○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録

四日 月曜日 天皇及び成子内親王と共に還啓のため、午後一時四十五分葉山御用邸を御出門、三時二十五分宮城に御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録、宮内省省報、官報

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、歩兵第五旅団長として名古屋へ赴任する稔彦王と御対面にな

昭和五年八月

る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、贈賜録、官報

五日 火曜日 天皇及び成子内親王と共に那須御用邸へ行啓のため、午前九時十分御出門、午後一時四十分御用邸に御到着になる。御車寄において、昨日塩原御用邸より先着の和子内親王

用邸に滞在の迎えをお受けになる。その後、天皇と共に先般増築された照宮御座所・孝宮御座所・御遊戯

室など各室を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、工事録、那須御用邸管理事務所日誌、宮内省省報、官報、栃木県庁文書

六日 水曜日 午後、第十四師団長松木直亮参邸につき、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、栃木県庁文書

大札に当たり文武官一同よりの献上として今般御用邸敷地内に新築された嚶鳴亭を御覧になるため、成子内親王と共に同亭にお出ましになる。同じく文武官一同より献上・新築された澄空亭に御乗馬にてお出ましの帰途、嚶鳴亭にお立ち寄りの天皇と共に同亭内を御巡覧になり、茶菓を共にされる。以後、那須御用邸御滞在中、しばしば嚶鳴亭にお出ましになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、進献録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁文書

七日 木曜日 正午前、海軍大将安保清種

ロンドン海軍会議における帝国全権委員顧問

参邸につき、天皇と共に謁を賜う。午後、

天皇と共に、安保大将よりロンドンにおける宣仁親王・同妃の動静、英国皇室の様子等についての談話をお聞きになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録、河井弥八日記

九日 土曜日 旧曆閏六月十五日につき、お月見のため、天皇及び成子内親王、男女供奉高等官と御

夕餐を共にされる。雨天のため月は見えず、ベランダから室内に場所を変更して行われる。○女官日誌、

侍従日誌、内舍人供奉日誌、那須御用邸管理事務所日誌、幸啓録、行幸録、奈良武次日記

十二日 火曜日 午後、近衛師団長林銑十郎参邸につき、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内

舍人供奉日誌、幸啓録

二十日 水曜日 去る九日の暴風雨により沖縄県下北大東島・南大東島において被害が発生する。

よつてこの日、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十三日 土曜日 昨月下旬の台湾総督府管下への暴風雨被害に対し、この日天皇・皇后より同総督

府に御救恤金を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十六日 火曜日 午後、天皇と共に、足利・佐野において生産の織物を中心とした栃木県下の各種

物産を御覧になる。その際、同県知事原田維織より説明をお聞きになる。翌二十七日にも引き続き物

産を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、行幸録、那須御用邸管理事務所日誌、栃木県庁文書

九月

一日 月曜日 震災七周年につき追憶のため、天皇と共に握り飯・梅干し等をお召し上がりになり、

供奉員一同にもこれを賜う。関東大震災火災歿死者七回忌に当たり、震災記念堂落成につき、天皇・皇

后より同所に生花を下賜される。○女官日誌、幸啓録、恩賜録、河井弥八日記

五日 金曜日 午前、内大臣牧野伸顕参邸につき謁を賜う。○女官日誌、牧野伸顕日記

八日 月曜日 御夕餐後、天皇及び成子内親王と共にお月見の茶会を催される。宮内大臣一木喜徳郎・

侍従長鈴木貫太郎・侍従武官長奈良武次始め、侍従・侍従武官・侍医・皇后宮女官等が陪席する。○

女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、行幸録

十六日 火曜日 午後、栃木県知事原田維織・同県学務部長森部隆・同県女子師範学校長山東善之進に謁を賜う。ついで知事の説明をお聞きになりつつ、県下小学校・女学校生徒による習字・手芸など陳列の学芸品を御覧になる。○女官日誌、河井弥八日記

二十四日 水曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○侍従職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

二十六日 金曜日 午後、成子内親王と共に、栃木県出身画家及び県内中等学校教員の制作した和洋絵画を、栃木県知事原田維織の説明をお聞きになりつつ御巡覧になる。○女官日誌、河井弥八日記

二十七日 土曜日 午前、この日参邸の宮内大臣一木喜徳郎に謁を賜う。○女官日誌、那須御用邸管理事務所

日誌

三十日 火曜日 和子内親王初誕辰につき、午前、皇后宮大夫河井弥八始め供奉高等官の拝賀をお受けになる。皇后より鮮鯛・御台人形を、天皇・皇后よりお品を和子内親王に御贈進になる。午後、御内庭のテニスコートにお出ましになり、供奉員一同による運動競技を御覧になり、また夕刻には供奉員一同による仮装行列等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、那須御用邸管理事務所日誌、河井弥八日記

十月

四日 土曜日 午前十時十分、成子内親王と共に那須御用邸を御出門、黒磯駅・原宿駅を経て、午後

二時四十五分宮城に還啓天皇は去る九月十日に還幸される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、那

須御用邸管理事務所日誌、宮内省省報、官報

五日 日曜日 今般花蔭亭落成につき、午前、天皇及び成子内親王と共に同亭にお出ましになり、各室を御巡覧になる。ついで亭開きとして、天皇と共に、宮内大臣一木喜徳郎始め男女高等官、並びに特別の思召しにより花蔭亭・澄空亭・嚶鳴亭の各亭名を撰した臨時帝室編修官長三上參次・東京帝国大学名誉教授服部宇之吉、各亭名を揮毫した皇太后宮大夫入江為守・図書寮御用掛落合為誠・内大臣秘書官松井定克、及び内匠頭東久世秀雄始め関係者をお召しになり、御昼餐を共にされる。以後、天皇と共に、あるいはお一方にてしばしば花蔭亭にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇と共に奥御対面所において、北陸地方における演習より帰京の雍仁親王、並びに同妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、雍仁親王実紀

八日 水曜日 夕刻、天皇と共に奥御対面所において、翌九日より名古屋へ旅行の稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報

この日、青山東御所の名称が廃止される。該殿舎にはこの日崇仁親王が移居し、以後、澄宮御殿と称される。移居に当たり、天皇・皇后より親王に三種交魚等を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、皇親録、例規録、贈賜録、宮内省省報、官報

九日 木曜日 午後、奥内謁見所において崇仁親王と御対面になり、この度の御殿移転についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和五年十月

十日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般英国より帰国の侯爵前田利為夫人菊子に謁を賜う。後刻、前田侯爵にも謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、進献録

午後、奥内謁見所において、今般和子内親王の乳人を御用済の奥野智恵子・竹村玉恵に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、皇親録

夕刻、天皇と共に御学問所において、和子内親王初誕辰お祝いの内宴を催され、天皇及び成子内親王、並びに内大臣牧野伸顕始め側近奉仕高等官と御夕餐を御会食になる。天皇・皇后のお出ましに先立ち、和子内親王は御学問所において一同より祝詞言上を受ける。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

舍人日誌

十一日 土曜日 午後、花蔭亭御披露のため、天皇と共に同亭において茶会を催される。雍仁親王・同妃勢津子・春仁王妃直子・故依仁親王妃周子・故菊麿王妃常子・恒憲王妃敏子・故邦彦王妃侃子・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・李王垠・同妃方子女王が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮御側日誌

十三日 月曜日 午前、天皇と共に御学問所において、臨時帝室編修官長三上参次の「明治天皇ト大津事件」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、三上参次御進講案

十四日 火曜日 午前、天皇と共に豊明殿・千種ノ間において、宮内省御用掛工藤壮平の説明により、曝涼中の御物を御覧になる。二十日、お一方にて再び曝涼中の御物を御覧になる。○女官長日記、女官日誌

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 木曜日 午後、侍医塚原伊勢松の臨時拝診をお受けになる。五時十分、天皇と共に奥内謁見所において宮内大臣一木喜徳郎に謁を賜い、侍医頭の報告として、拝診の際に胎児の心音・胎動が確認されたこと、御健康は佳良である旨をお聞きになる。六時、宮内省より、皇后は御懐妊五箇月にて、経過も至極順調である旨が発表される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、皇親録、順宮御誕生録

十七日 金曜日 午前、神嘗祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

午後、天皇と共に奥内謁見所において、皇太后御使として参内の権典侍山口正子に謁を賜い、皇后御懐妊に対する祝詞言上をお受けになる。皇太后より皇后に葡萄の御贈進がある。ついで侯爵久邇邦久、雍仁親王・同妃勢津子からも祝詞言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十日 月曜日 午前、奥内謁見所において台湾総督石塚英蔵に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十二日 水曜日 午前十一時十五分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。その後、御一緒にお庭を御散策になる。午後四時三十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

二十四日 金曜日 この日より二十六日まで帝国水難救済会において慈善演劇会開催につき、金一封を下賜される。○恩賜録

二十五日 土曜日 午後、奥内謁見所において、今般陸軍騎兵少尉に任官の恒徳王・李鍵公と御対面になり、任官及び叙勲のお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録

昭和五年十一月

イタリア国皇女ジョバンナ結婚式挙行につき、天皇・皇后より同国皇帝ヴィットリオ・エマヌエーレ三世及び同皇后へ祝電を御發送になる。二十七日、同国皇帝より答電が寄せられる。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

二十六日 日曜日 午後、花蔭亭を未成年皇族に御披露のため、成子内親王と共にお出ましになり、お招きの崇仁親王・正彦王・紀久子女王・湛子女王・盛厚王・彰常王・美年子女王・佐和子女王・多恵子女王・礼子女王と御一緒に写真撮影、運動競技、宝探し等にて過ごされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、朝香宮日誌、朝香宮奥日誌

二十八日 火曜日 午前、醍醐天皇千年式年祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

奥内謁見所において、今般退京の宮中顧問官日野西資博に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

三十一日 金曜日 午前、奥内謁見所において、今般新任の内大臣秘書官長木戸幸一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、宮内省省報、官報、木戸幸一日記

十一月

一日 土曜日 官幣大社明治神宮鎮座十年祭執行につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。○幸啓録
三日 月曜日 明治節につき、午前、天皇と共に御学問所において、崇仁親王と御対面になる。ついで内大臣・宮内大臣・侍従長始め側近奉仕高等官等の拝賀をお受けになる。終わって、皇太后御参内につき、奥御対面所において御対面になり、天皇・皇太后とお祝御膳を御会食になる。その後、天皇

と共に御学問所において、雍仁親王始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。正午、皇太后と共に奥内謁見所において内宴を催され、雍仁親王妃勢津子・故依仁親王妃周子始め皇族妃・王族妃と御会食になる。終了後、天皇・皇太后と共に奥御対面所において、千種任子始め旧女官六名の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、典式録、宮内省省報、官報

六日 木曜日 午前、奥内謁見所において、参内の京都在任華族総代の伯爵油小路隆成に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恩賜録、贈賜録

大宮御所より引き継がれた昭憲皇太后御佩用の勲章を、第一応接間において御覧になる。○女官長日記、女官日誌

八日 土曜日 内着帯につき、午前、奥御座所に出御される。参進の皇后宮女官長竹屋志計子より帯をお受けになり、ついで同間入口前において天皇の出御を奉迎される。その後、御椅子に着座され、内着帯の儀が行われる。儀終了後、天皇の入御を奉送される。なお、御帯は皇后宮女官油小路蒙子が拝受する。十時三十五分、天皇と共に奥内謁見所において、総代の内大臣・宮内大臣・宮内次官・侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長の拝賀を、ついで皇后宮女官長始め皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。その後、奥宮殿御洋館において御着帯になり、十一時二十分、天皇と共に再び奥内謁見所において帯親の載仁親王と御対面になり、また皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜う。続いて、故邦彦王妃倪子・朝融王・同妃知子女王・故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。午後零時三十分、天皇と共に祝御膳をお召し上がりになる。午後、祝詞言上のため参内の元皇后宮女官長・元皇后宮女官にそれぞれ謁を賜う。つい

で雍仁親王・同妃勢津子と御対面になる。また、皇太后宮大夫入江為守より祝詞言上を受けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、順宮御誕生録、皇親録

内着帯につき、皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされる。天皇・皇后より皇太后に五種交魚を、秩父宮・竹田宮・北白川宮・朝香宮・東久邇宮、崇仁親王に三種交魚をそれぞれ御贈進になる。

また天皇・皇后より久邇宮に五種交魚を御贈進になり、正二位柳原愛子に三種交魚を下賜される。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、順宮御誕生録

十日 月曜日 大札記念日につき、午後、天皇及び成子内親王と共に花蔭亭にお出ましになり、侍従

長鈴木貫太郎始め男女側近奉仕者三十六名と茶菓を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舍人日誌、典式録

去る七日宮中顧問官新山莊輔元新冠・下総・外山各御料牧場長死去につき、この日天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、

同人の病気に際しては、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

台湾霧社付近における暴動平定のため出動中戦死した陸軍歩兵大尉荒瀬虎夫ほか五名に、この日、天

皇・皇后より祭塗料を下賜される。以後も、本事件における殉難者に対し、天皇・皇后より祭塗料を

下賜される。○恩賜録、宮内省省報

十一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、参内の故依仁親王妃周子と御対面になり、内着帯済了

につき祝詞の言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌

十四日 金曜日 午後、花蔭亭においてお過ごしのところ、参亭の皇后宮大夫河井弥八より、この日

午前東京駅にて内閣総理大臣浜口雄幸が銃撃された旨をお聞きになる。夕刻、再度河井に謁を賜い、

その後の経過等をお聞きになる。東京帝国大学医学部附属医院に入院した浜口に対して、天皇・皇后よりお尋ねとして侍医八代豊雄を差し遣わされる。なお、葡萄酒の下賜を御用意のところ、これをお取りやめになり、天皇・皇后より新宿御苑産の菊花を下賜される。ついで、天皇・皇后は、十八日より当分の間、毎日スープを下賜され、さらに二十五日より毎日牛乳を下賜される。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、重要雑録、恩賜録、行幸録、河井弥八日記、木戸幸一日記、浜口雄幸随感録

十五日 土曜日 朝、侍医塚原伊勢松に謁を賜い、内閣総理大臣浜口雄幸の容体をお聞きになる。後刻、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、浜口の容体並びに内閣総理大臣臨時代理として外務大臣幣原喜重郎が任命されたこと等につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、河井弥八日記

十八日 火曜日 午前九時四十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、ついで御一緒に赤坂離宮の元生物学御研究所にお出ましになり、同所において女子学習院教授宇佐美ケイに引率された成子内親王始め学習院幼稚園園児の出迎えをお受けになり、芝生の広場において園児の遊ぶ様子を御覧になる。ついで元御研究所内において園児による昼食の支度の様子を御覧になる。皇太后と共に僊錦閣において御昼餐を御会食になった後、再び元御研究所にお出ましになり、園児による手工・遊戯等を御覧になり、唱歌をお聴きになる。四時二十分還啓される。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報

一昨十六日枢密顧問官男爵田健治郎死去につき、この日天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、同人の病気に際しては、お尋ねとして天皇・皇后より葡萄酒を下賜される。○侍従日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

昭和五年十二月

二十六日 水曜日 午前四時二分頃、伊豆半島北部を震源地とする地震発生につき、御起床になって、御書齋御入側において揺れが静まるのをお待ちになる。今回の地震により静岡県・神奈川県において被害発生につき、翌二十七日、天皇・皇后より両県に侍従牧野貞亮を差し遣わされ、御救恤金を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、重要雑録、静岡神奈川両県下震災録、宮内省省報、官報、日本被害地震総覧

二十七日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般上京の長福寺門跡の中川秀峰に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

三十日 日曜日 御夕餐後、皇后宮御進講室において天皇と共に、侍従牧野貞亮より神奈川・静岡両県下における震災状況視察の復命をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、静岡神奈川両県下震災録

十二月

五日 金曜日 午後、皇后宮御進講室において皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、静岡県伊豆地方における地震被害についての応急及び善後措置に関する静岡県知事の談話内容をお聞きになる。八日には河井に対し、寒冷の折柄、防寒のための衣服下賜についてお尋ねになる。十日、静岡・神奈川両県下の罹災傷病者に対し、白メンネルを下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、河井弥八日記

六日 土曜日 成子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、総

代の宮内大臣・侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・侍医頭・皇后宮女官長に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。ついで天皇と共に朝融王・同妃知子女王と御対面になる。また、成子内親王と共に神戸信旧姓平山、皇后の御字友に謁を賜い、祝詞言上を受けられる。午後、元皇后宮女官長、元皇后宮女官に謁を賜う。

この年は、先日の震災等により内宴は行われないうこととなる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 火曜日 歳末恒寒に際し、東京府市後援の下に官公私立団体が連絡施療を実施するに当たり、東京府に金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報

十二日 金曜日 日本赤十字社病院救助收容患者・恩賜財団済生会病院救助收容患者・東京慈恵会医院救助收容患者・財団法人福田会育児院收容者に、木綿反物・裏地・裁縫料を下賜される。また、全国私設社会事業団体が行う育児・養老の二事業に対し、金一封を内務大臣に下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報、事業年報（日本赤十字社）

十三日 土曜日 去る六日に誕生日を迎えた成子内親王のお祝いとして、天皇及び同内親王、並びに多恵子女王・湛子女王・三条西淑子御妹信子の息女と共に御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、朝香宮日誌、朝香宮奥日誌

十五日 月曜日 夕刻、賢所御神楽につき、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

十七日 水曜日 午後、奥御対面所において天皇と共に、正二位柳原愛子に謁を賜い、年末の御機嫌奉伺を受けられる。和子内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十三日 火曜日 午前、景行天皇千八百年式年祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

皇后宮職御用掛加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。加藤は、去る二十日付にて皇后宮職御用掛を仰せ付けられる。併せて同日、内大臣秘書官を退官の松井定克は皇后宮職囑託を命じられ、引き続き謡曲の指導を奉仕する。○女官長日記、女官日誌、進退録、宮内省省報、加藤虎之亮関係資料

午後、奥内謁見所において、今般竹田宮御用取扱を免じられた珍田岩子故侍従長珍田捨巳夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

二十五日 木曜日 午前、大正天皇祭皇靈殿の儀につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。夕刻、同御神楽の儀につき、同皇后宮女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報

二十六日 金曜日 日本赤十字社に対し、天皇・皇后より病院維持費を下賜される。同社の病院維持費は、大正十五年以降五年間、天皇・皇后より継続して下賜されていたが、この年をもつて満期となるため、翌年より改めて五年間継続して下賜されることとなる。また、皇后より同社病院救助患者治療費として金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史稿

二十七日 土曜日 午前、奥御対面所において天皇と共に、歳末の御機嫌奉伺のため参内の元皇后宮女官長島津治子・元皇后宮女官青山元子・同山岡淑子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十八日 日曜日 午前、皇太后御参内につき、奥御対面所において天皇・成子内親王と共に御対面になり、ついで奥御食堂において天皇・皇太后と御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、重要雜録、典式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十九日 月曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、総代の宮内大臣・内大臣・宮内次官・侍従長・侍従武官長・侍医頭より祝詞言上をお受けになる。続いて故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王・同妃允子内親王・守正王・同妃伊都子、及び名古屋より帰京の稔彦王等とそれぞれ御対面になる。午後、天皇と共に奥御対面所において旧女官の千種任子・園祥子・西西子・生源寺伊佐雄に、皇后宮御進講室において皇太后宮大夫入江為守に謁を賜い、奥内謁見所において博義王・同妃朝子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、官報

三十日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、侯爵久邇邦久に謁を賜い、歳末の挨拶をお受けになる。午後、天皇と共に同所において、載仁親王始め皇族・公族と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

三十一日 水曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において崇仁親王と御対面になり、歳末の挨拶をお受けになる。続いて朝融王・同妃知子女王と御対面になる。夕刻、天皇と共に同所において、雍仁親王・同妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

天皇と共に奥内謁見所において、皇太后御使として参内の典侍竹屋津根子に謁を賜う。皇太后より天皇・皇后にそれぞれ三種交魚・菓子の御贈進がある。これに対し、皇后宮女官長竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

昭和六年一月

昭和六年（西曆一九三一年） 二十八歳

一月

一日 木曜日 午前、天皇と共に表内謁見所において、側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。その後、お一方にて奥内謁見所において、雍仁親王始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になる。なお、皇后は、御懷妊中につき正殿における拝賀にはお出ましにならず、皇后宮大夫を通じて、國務大臣代表の内閣総理大臣臨時代理の祝詞言上、及びベルギー国特命全權大使^{外交団首席}の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、河井弥八日記

三日 土曜日 午前、元始祭につき、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。○侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、河井弥八日記

新年につき、天皇と共に奥内謁見所において、博英王始め未成年皇族・公族の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

午後、天皇と共に奥御対面所において、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王の祝詞言上をお受けになる。ついで天皇と共に御座所入側において、清水シゲ・鈴木タカ始め元奉仕者に謁を賜い、

祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四日 日曜日 新年につき、午前、奥内謁見所において、御機嫌伺いに参内の後閑菊野・田中俊子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

五日 月曜日 新年につき、午後、天皇と共に奥内謁見所において、旧女官の千種任子・西西子・生源寺伊佐雄に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に奥御対面所において皇太后と御対面になり、新年の祝詞をお取り交わしになる。その後、奥御食堂においてお祝御膳を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、

貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

六日 火曜日 天皇及び成子内親王と御昼餐を御会食になる。以後、この年も皇女と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、新年の御機嫌伺いに参内の元皇后宮女官長島津治子、及び元皇后宮女官山岡淑子・同青山元子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

英国皇妹ルイーズ・ヴィクトリア・アレクサンドラ・ダグマー去る四日薨去につき、この日、天皇・皇后より同国皇帝ジョージ五世、並びに同国皇族アーサー・オブ・コンノート及び同妃に弔電をお送りになる。これに対し七日、それぞれより答電をお受けになる。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

財団法人滝乃川学園後援会主催の慈善観劇会開催につき、この日、思召しをもって入場券をお買い上げになる。○贈賜録

七日 水曜日 この日、大宮御所に御使として皇后宮女官長竹屋志計子を差し遣わされる。○女官長日

昭和六年一月

記、女官日誌

八日 木曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、明日より葉山御用邸行幸啓につき御機嫌伺いのため参内の雍仁親王・同妃勢津子、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。以後、この年も皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記、朝香宮奥日誌

午後、奥内謁見所において皇太后御使の権典侍山口正子と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌

九日 金曜日 午前十時二十五分御出門、天皇及び成子内親王・和子内親王と共に葉山御用邸に行啓される。午後零時十四分御到着になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十三日 火曜日 午後、天皇と共に、鳩彦王妃允子内親王及び紀久子女王鳩彦王第一王女と御対面になり、降嫁五月十二日に従五位鍋島直泰と結婚につき昨十二日皇后より紀久子女王にお品の御贈進があったことへのお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、朝香宮奥日誌

十六日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。以後、この年は金曜日を中心に、途中、御出産による休講を挟み、三十余回にわたり加藤の定例進講をお受けになる。

○女官日誌、幸啓録、加藤虎之亮関係資料

二十一日 水曜日 午後、宮城に還幸される天皇を、成子内親王と共に御見送りになる。なお、皇后

は二十八日まで葉山御用邸に御滞在になる。○女官日誌、侍従職日誌、宮内省省報、官報
二十三日 金曜日 午前、歌会始の儀が行われる。皇后は、葉山御用邸御滞在中につき御欠席になる。
この年のお題は「社頭雪」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

みやしろの鳥居につもる白雪をつはさにはらひ鳩のとひたつ

○侍従日誌、侍従職日誌、儀式録、宮内省省報、官報

二十八日 水曜日 午後一時二十五分、成子内親王・和子内親王のお見送りをお受けになり葉山御用邸を御出門、三時十五分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、

宮内省省報、官報

二十九日 木曜日 午前、奥内謁見所において鳩彦王<sup>御父邦彦
王の弟</sup>と御対面になり、昨日還啓の御機嫌伺い

及び紀久子女王降嫁の勅許についてのお礼言上をお受けになる。午後、同所において鳩彦王妃允子内親王・紀久子女王と御対面になり、降嫁勅許につきお礼言上をお受けになる。○女官日誌、内舎人日誌

三十日 金曜日 午前、孝明天皇例祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○

女官日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、宮内省省報

二月

六日 金曜日 午前、昨日葉山より交代帰京の皇后宮事務官岡本愛祐に謁を賜い、成子内親王・和子内親王の様子についてお聞きになる。○女官日誌

昭和六年二月

夕刻、天皇と共に御成婚記念の内宴昭和四年一月二十六日に開催予定であった御成婚五周年記念の内宴が御延期となり、この日に開催に臨まれる。侍従・侍医・侍従

武官・女官等が模擬店を作る申ノ口前廊下にお出ましになり、侍従長始め側近奉仕者一同と共に各模擬店を御一巡の後、御進講室前の廊下に設けたベビーゴルフを楽しまれる。その後、奥内謁見所においてトーキー映画「モロッコ」「画家の夢」「米国の顔」及びパラマウントニュースを一同と共に御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、河井弥八日記、奈良武次日記

十一日 水曜日 午前、紀元節祭につき、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。その後、天皇と共に奥内謁見所において崇仁親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。ついでお一方にて、同所において宮内大臣始め側近高等官総代の拝賀をお受けになる。夕刻、皇霊殿御神楽の儀につき、油小路皇后宮女官に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮内省省報

十二日 木曜日 この日、着帯の儀が行われる。午前九時、帯親である載仁親王の御使として閑院宮付事務官浮田郷次が帯を捧じて参内し、これを皇后宮大夫河井弥八に伝える。皇后は奥内謁見所において、皇后宮女官長竹屋志計子より御帯の披露をお受けになる。その後、便殿奥御対面所に出御され、続いて天皇がお出ましになり、着帯の儀が行われる。終わって天皇と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め側近高等官総代より祝詞言上をお受けになる。引き続き皇太后御使の典侍竹屋津根子より祝賀をお受けになり、ついでお一方にて宮内省御用掛磐瀬雄一に謁を賜う。午後には皇族と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。なお御着帯に際し、天皇と鮮鯛代料・小戴をお取り交わしになる。これは別に天皇より皇后に中啓ほか七品の御贈進がある。

この日、賢所皇靈殿神殿に着帯奉告の儀につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。
○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇親録、儀式録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十七日 火曜日 枢密顧問官松室致昨十六日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。
なお、昨十六日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして葡萄酒を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、宮内省省報、枢密院委員会録

二十一日 土曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。
○女官長日記、侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報

二十八日 土曜日 午前、御休所において、大日本連合婦人会理事長島津治子元皇后宮女官長に謁を賜い、来る三月六日の発会式に先立ち、同会の会則等の献上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、大東京年誌
この月 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・円照寺・靈鑑寺・中宮寺・瑞竜寺・禅智院・水薬師寺・長福寺・善光寺に乾海苔を下賜される。○贈賜録

三月

一日 日曜日 正午、奥内謁見所において、この日乳人を命じられた森岡節子・北野貞に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

六日 金曜日 満二十八歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め総代の拝賀を、続いて皇后宮女官一同の拝賀をお

昭和六年三月

受けになる。御昼餐は、お祝御膳をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、河井弥八日記、奈良武次日記

七日 土曜日 午前十時、産殿に入られ、午後零時二分内親王を御出産になる。二時三十分、産殿にて天皇と御対面になる。

三時二十分、御剣を賜うの儀が行われる。侍従長鈴木貫太郎が勅使として皇后の本宮に差し遣わされ、聖旨を皇后宮大夫河井弥八に伝宣して内親王に御剣・御袴を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、儀式録、外交慶弔録、宮内省省報、官報

皇后のお誕生日に際し、この日、スペイン国皇帝・皇后より祝電が寄せられ、同日答電をお送りになる。また、内親王の誕生に際し、九日、回国皇帝・皇后より天皇・皇后に祝電が寄せられ、同日天皇・皇后より答電をお送りになる。○外交慶弔録、宮内省省報、官報

大正天皇五周年祭に際し、この日、泉涌寺霊明殿の内陣幡並びに仏名幡調製費として金一封を同寺に下賜される。○贈賜録

八日 日曜日 午前、天皇と御対面になる。それより御静養室にお移りになる。以後、しばしば天皇及び成子内親王・和子内親王のお見舞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

祐子内親王三年式年祭につき、皇后宮女官長竹屋志計子を豊岡墓地に差し遣わされ、御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、河井弥八日記

十二日 木曜日 午前、継体天皇千四百年式年祭につき、皇后宮事務官野口明に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、侍従職日誌、典式録、儀式録、宮内省省報

十三日 金曜日 午前七時、青山御所寒香亭側において内親王の御胞衣埋納の儀が行われる。

誕生第七日に当たり、九時十分、浴湯の儀が行われる。皇子御養育掛伊地知ミキの奉仕により内親王が浴殿に入り、正三位勲一等三上参次^{文学博士}が読書を、陸軍大将従二位勲一等功二級一戸兵衛及び子爵本

多正復が鳴弦に奉仕する。その後、命名の儀が行われる。宮内大臣一木喜徳郎が天皇の旨を承けて宸筆の名記を勅使侍従長鈴木貫太郎に授ける。ついで勅使が名記を皇后宮大夫河井弥八に授け、大夫がこれを皇后宮女官長に付して内親王に奉る。内親王は厚子^{あつこ}と命名され、順宮^{よりのみや}と称する。印章は「菊桜」と定められる。また、賢所皇霊殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われ、皇后宮事務官岡本愛祐に御代拝を仰せ付けられる。なお、命名に当たり、天皇より内親王に初衣・鮮鯛、皇后より初衣・鮮鯛・柳樽・昆布を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、順宮御誕生録、儀式録、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

十六日 月曜日 昨十五日、栃木県那須郡黒磯町において発生した火災被害に対し、天皇・皇后より同県に御救恤として金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十一日 土曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮事務官本多猶一郎に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録

二十三日 月曜日 陸軍大将本郷房太郎去る二十日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、宮内省省報、陸軍大将本郷房太郎伝

二十七日 金曜日 女子学習院において卒業式挙行につき、御名代として故依仁親王妃周子を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、皇親録、官報、女子学習院関係資料

昭和六年四月

三十一日 火曜日 邦英王^{御弟}臣籍降下につき、午前、参内朝見の儀が行われる。皇后は、御出産後の御静養中につきお出ましにならないこととされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

四月

三日 金曜日 午前、神武天皇祭につき、皇后宮事務官岡本愛祐に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、侍従職日誌、典式録、儀式録

四日 土曜日 この日、天皇が勲一等邦英王に東伏見の家名を賜う。同人は伯爵を授けられ、併せて従四位に叙される。今般一家を創立する同人に対し、皇后より三種交魚及びお品を御贈進になり、また故邦彦王妃^{御母}及び久邇宮にそれぞれ三種交魚を贈られる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、勲一等邦英王殿下に家名を賜い華族に列せらるるの件、授爵録、典式録、宮内省省報、官報

今般支那駐屯軍へ御差遣の侍従武官町尻量基に対し、皇后宮大夫を通じて次の令旨を下される。

司令官以下一同ガ気候風土ノ異ル地ニ在ツテ困難ナル任務ニ服スルコトハ誠ニ苦勞ニ思フ尚一層
身体ヲ大切ニシテ勤務スル様宜敷ク申伝ヘヨ

町尻は翌五日に出発、同軍の状況を実視の上、二十二日帰京、二十五日に皇后宮大夫を通じて復命する。○女官日誌、侍従職日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、河井弥八日記

六日 月曜日 この日、御床払いになる。午前十時五十分、奥内謁見所において、宮内大臣始め総代・女官より祝詞言上をお受けになる。ついで皇太后御使権典侍山口正子と御対面になり、皇后よりも御

使として皇后宮女官長竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされる。午後は雍仁親王妃勢津子、続いて故邦彦王妃倪子・朝融王御兄・同妃知子女王と御対面になる。夕刻、天皇と共に奥御対面所にて崇仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮附日記、河井弥八日記

八日 水曜日 午前、天皇と共に鳳凰ノ間において、シヤム国皇帝プラチャーティポック及び皇后と御会見になる。その際、相互儀礼叙勲があり、同国皇帝より皇后にマハ・チャクリ最高勲章が贈られる。また、皇后より同国皇后に市松人形大を、御会見に同席のサワツディボン親王妃皇后の御母に市松人形小を御贈進になる。同国皇帝以下御退出の後、天皇は皇帝・皇后を御答訪のため霞関離宮に行幸される。皇后は御名代として雍仁親王妃を御差遣になり、後刻、奥内謁見所において同妃より復命をお受けになる。

夜、天皇と共に豊明殿において、シヤム国皇帝・皇后と御晚餐を御会食になる。御食後、皇后にシヤム国皇后よりカッブ銀製水飲用の、陪食の同国親王妃より指輪の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、秩父宮附日記、重要雜録、外賓參内録、外賓接待録、宮内省省報、官報

十日 金曜日 正午より天皇と共に御内庭の芝生において花見をされる。芝生に据えられた卓にて天皇・成子内親王と共に弁当をお召しになり、側近高等官は座上にて鮎等を頂戴する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人日誌

午後、奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王及び礼子女王恒久王の王女、故成久王妃房子内親王及び佐和子女王成久王の王女と御対面になる。先般女子学習院卒業の両女王より、お礼言上をお受けになる。成子内

昭和六年四月

親王も同席する。なお、皇后より両女王に賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十六日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰ノ間に出御され、近く従五位鍋島直泰と結婚する紀久子女王の参内朝見の儀に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、官報

十七日 金曜日 午前、奥内謁見所において鳩彦王・同妃允子内親王と御対面になり、参内朝見の儀のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、内舍人日誌、朝香宮奥日誌

二十日 月曜日 午後、奥御対面所において天皇と共に故邦彦王妃倪子と御対面になる。それより皇后は同妃を案内され、飾られた雛人形をお見せになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌

二十二日 水曜日 天皇と共に御学問所において、近く降嫁する紀久子女王のために御晚餐を催され、鳩彦王・同妃允子内親王及び紀久子女王と御会食になる。皇后より紀久子女王に賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、朝香宮奥日誌

二十四日 金曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において載仁親王と御対面になり、病氣全快のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

社団法人東京市児童就学奨励会に金員を賜い、同会の催す慈善観劇会の観劇券をお買い上げになる。

○贈賜録

二十九日 水曜日 天長節につき、午前、皇后宮女官長始め皇后宮女官一同より祝詞言上をお受けになる。ついで天皇と共に奥御対面所において、御参内の皇太后と御対面になり、天皇・皇太后と共にお祝御膳をお召し上がりになる。その後、皇太后と共に雍仁親王妃勢津子始め皇族妃・王族妃の拝賀をお受けになる。続いて旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子等、元皇后宮女官長より祝詞言上をお

受けになる。

午後零時四十分より皇太后と共に奥内謁見所において、内宴を催される。皇族妃・王族妃が陪食する。終わって天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になる。夕刻、お一方にて奥内謁見所において侯爵久邇邦久^{御兄}と御対面になり、さらに鈴木タカ始め元奉仕者に謁を賜う。その後、奥内謁見所にて侍従長・侍従武官長に謁を賜う。ついで天皇と共に御学問所にお出ましになり、側近奉仕高等官を招いての内宴に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記、奈良武次日記

五月

一日 金曜日 午後、奥内謁見所において、第一・第二遣外艦隊及び旅順海軍無線電信所へ御差遣の侍従武官住山徳太郎に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下一同ガ氣候風土ノ異ル海外ニ在ツテ困難ナル警備任務ニ服スルコトハ誠ニ苦勞ニ思フ暑氣ニ向フ折柄一層身体ヲ大切ニシテ勤務スル様又傷病者ハ好ク勞ハル様宜シク申伝ヘヨ。

なお艦隊司令官以下に賜品がある。住山は五月三日出發し、六月十日帰京、二十日に復命する。○女官

長日記、女官日誌、侍従日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

先般邦英王臣籍降下につき、天皇と共に御学問所において、故依仁親王妃周子、故邦彦王妃倪子、朝融王・同妃知子女王、伯爵東伏見邦英と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、河井弥八日記

昭和六年五月

三日 日曜日 この日午前、陸軍騎兵少尉恒徳王恒久王の王子が代々木練兵場において騎兵第一聯隊初年兵を教育中、馬と共に転倒し、左上膊骨頸部を骨折して陸軍軍医学校に入院したため、午後、天皇・皇后より皇后宮大夫河井弥八を御使として同校へ差し遣わされる。○侍従日誌、侍従職日誌、皇族身分録、河井弥八

日記

四日 月曜日 厚子内親王の賢所初参拝につき、午前、天皇及び内親王と共に奥内謁見所において、側近高等官より祝詞言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、宮

内省省報、官報

天皇と共に奥内謁見所において、李王垠・同妹徳恵と御対面になる。伯爵宗武志と来る八日結婚する徳恵より、告別の挨拶をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、王公族録、官報

夕刻、厚子内親王賢所初参拝のお祝いの内宴に臨まれる。天皇と共に御学問所において、雍仁親王・載仁親王・故依仁親王妃周子始めお招きの皇族・王族よりそれぞれ祝詞をお受けになる。終わって千種ノ間にお出ましになり、御晚餐を御会食になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

五日 火曜日 日本赤十字社第三十九回通常総会に御臨席のため、午前十時御出門、憲法記念館に行啓される。御着後、便殿において総裁載仁親王、雍仁親王妃勢津子・故依仁親王妃周子・博恭王妃経子・故邦彦王妃侘子・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王・故恒久王妃昌子内親王・春仁王妃直子と御対面になる。ついで社長徳川家達より報告書その他の奉呈をお受けになり、副社長徳川圀順・同阪本鈺之助以下に謁を賜う。その後式場に臨まれ、次の令旨を賜う。

本日茲ニ日本赤十字社第三十九回總會ニ臨ミ親シク各員ヲ見ルヲ喜ブ總裁以下累年ノ努力ニ依リ
本社ノ基礎愈々固ク事業益々盛ナルニ至レルハ深く満足トスル所ナリ宜シク時勢ノ趨向ニ鑑ミ力
ヲ本来ノ使命ニ尽シ進ンデ平時ニ於ケル施設経営ニ努メ更ニ社業ノ振張ヲ致サムコトヲ期スベシ
總裁載仁親王の奉答をお受けになり、十一時十五分還啓される。直ちにお礼言上のため参内の載仁親
王と、奥内謁見所において御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、
日本赤十字社史続稿、事業年報（日本赤十字社）

六日 水曜日 午前、近く降嫁する紀久子女王に、天皇より勲二等宝冠章が親授される。その後、奥
内謁見所において、皇后が紀久子女王よりお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍
従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、河井弥八日記

紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八
日記

午後、奥内謁見所において、先般欧州より帰国した徳川為子御母倪子の妹に謁を賜う。ついで翌日京都に出発
する伯爵東伏見邦英と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記
七日 木曜日 愛国婦人会第三十回通常總會に御臨席のため、午前十時御出門、憲法記念館に行啓さ
れる。御着後、便殿において總裁故依仁親王妃周子、名誉会員雍仁親王妃勢津子・春仁王妃直子・博
義王妃朝子・故邦彦王妃倪子と御対面になる。ついで会長本野久子より書類の奉呈をお受けになり、
副会長水野満寿子に謁を賜う。続いて理事以下に謁を賜う。終わって式場に臨御され、開会后、次の
令旨を賜う。

昭和六年五月

愛国婦人会第三十回総会ニ臨ミ親シク諸員ヲ見ルヲ喜ブ本会ハ総裁以下一致ノ努力ニ頼リ年ヲ追
ウテ其ノ基礎愈固ク施設愈整フニ至レルハ深ク満足スル所ナリ宜シク時勢ノ帰趨ヲ察シ励精能ク
効績ヲ挙ゲムコトヲ期スベシ

総裁の奉答をお受けになる。十一時十分還啓される。直ちに参内の故依仁親王妃と御対面になり、お
礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行啓録、宮内省省報、官報、愛国婦人会四十年史

午後、奥内謁見所において、新任の侍従武官海軍少将出光万兵衛に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍
従武官府資料

天皇と共に御学問所において、文学博士佐佐木信綱より「万葉集に就て」と題する講話をお聴きにな
る。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

八日 金曜日 午後、去る五月一日付で侍従武官より海軍軍令部出仕に転出した海軍中将今村信次郎
に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従武官府資料

鳩彦王妃允子内親王及び紀久子女王と御対面になる。紀久子女王は皇后の御希望により、島田鬻・振
袖姿にて参内する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、朝香宮奥日誌、朝香宮奥御日誌

朝鮮総督府管内全羅南道沿岸における去る四月四日から五日にかけての暴風雨のため、多数の漁船が
遭難し、この日、天皇・皇后より同総督府へ御救恤として金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官
報

昨七日、石川県江沼郡山中町において発生した火災被害に対し、天皇・皇后より御救恤として同県に
金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

九日 土曜日 午前十時十分御出門、原宿駅より東浅川駅を経て、多摩陵^{大正天皇}に行啓される。御到着後、御休所において宮内次官関屋貞三郎以下諸員に謁を賜う。ついで陵前にお着きになり、拝礼される。御休所にて御昼餐後、内務大臣安達謙蔵以下関係諸員に謁を賜う。ついで陵所内の池にお出ましになり、鯉百尾・金魚五十尾を放たれる。午後三時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、鳩彦王妃允子内親王及び紀久子女王と御対面になる。紀久子女王より、明後十二日従五位鍋島直泰と結婚につき、暇乞いをお受けになる。また、この結婚に際して、天皇・皇后・皇太后より同女王及び鳩彦王に賜物がある。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、典式録、宮内省省報、朝香宮奥日誌、朝香宮奥御日誌

十一日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般上京の禅智院門跡の生源寺暎峰に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌

十三日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明にて蚕の発育状態を御覧になる。○女官日誌

午後二時御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、茶菓をお召しになり、三時四十五分還啓される。○女官日誌、侍従職日誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報

十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰国のベルギー国駐劄特命全権大使佐藤尚武に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

元皇后宮女官長島津治子に謁を賜い、賜物のお礼言上をお受けになる。以後、この年も随時、元奉仕

昭和六年五月

者の拝謁等がある。○女官日誌

鍋島直泰・同夫人紀久子に謁を賜い、結婚のお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌

午後、奥内謁見所において、昨日上京の大聖寺門跡の石野慈栄に謁を賜い、御機嫌奉伺並びに昨年の下賜金のお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌

十五日 金曜日 午後一時五分天皇と共に御出門になり、東京駅より厚子内親王を伴われ、葉山御用邸に行啓される。逗子駅を経て、二時三十分同邸に御到着になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

来る二十二日、靈鑑寺開基浄法身院宮後水尾天皇皇女二百五十年御忌並びに普賢院宮後西天皇皇女二百年御忌につき、

御供養料として金一封を靈鑑寺の六条徳全に下賜される。○贈賜録

去る十三日に発生した新潟県中蒲原郡白根町における火災の被害に対し、天皇・皇后より同県に御救恤として金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十六日 土曜日 午前、今般退職の前内匠頭東久世秀雄並びに新任の内匠頭白根松介・宮内大臣官房総務課長木下道雄・同秘書課長鹿兒島虎雄に、天皇と共に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、

進退録、幸啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十八日 月曜日 去る十六日島根県松江市において発生した火災被害に対し、この日、天皇・皇后より同県に御救恤として金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十三日 土曜日 午前十時葉山御用邸を御出門、天皇と共に成子内親王を伴われ、自動車にて初声御料地に行啓される。御到着後、高台の御用邸建設予定地を御視察になる。ついで天皇は海上にて生

物採集を行われ、皇后・成子内親王は櫓上に登られ、皇后宮事務官岡本愛祐の説明により御展望になる。終わって御料地内を御視察になる。天皇及び成子内親王と御昼餐御会食後、皇后・成子内親王は海岸御散策のほか、船にて小網代湾付近を御巡覧になる。午後三時四十五分、葉山御用邸に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、河井弥八日記

二十五日 月曜日 午後二時二十五分、天皇及び厚子内親王と共に葉山御用邸を御出門、三時五十七分宮城に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

二十七日 水曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明をお受けになり、蚕に桑をお与えになる。○女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

二十八日 木曜日 午後一時三十分御出門、東京慈恵会に行啓される。御着後、便殿において総裁故恒久王妃昌子内親王、名誉会員雍仁親王妃勢津子・故依仁親王妃周子・故邦彦王妃倪子・朝融王妃知子女王・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・春仁王妃直子と御対面になる。続いて会長徳川家達以下監事・理事・医院長等に単独にて謁を賜い、徳川泰子会長徳川家達夫人以下評議員等に列立にて謁を賜う。

その後、総会会場に御臨場になる。会長より報告書の奉呈をお受けになり、ついで副会長代理の侯爵蜂須賀正韶より昭和五年度歳入歳出決算報告を、医院長高木喜寛より昭和五年度施療患者要領報告をお受けになる。便殿にて御少憩後、高木医院長の説明により医院内各階の病室その他を御巡覧になる。

三時三十分還啓される。直ちに奥内謁見所において、お礼言上のため参内の故恒久王妃と御対面になる。なお、総会開催に当たり、東京慈恵会医院の入院患者にお菓子料を下賜される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、朝香宮奥日誌、河井弥八日記

昭和六年六月

二十九日 金曜日 午後、御学問所に出御され、公爵西園寺公望に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、典式録、河井弥八日記

三十日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、別当^{高松}石川岩吉に謁を賜い、近く帰国する

宣仁親王・同妃喜久子の渡欧中の動静につき言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、河井弥

八日記

天皇と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになり、宮内省御用掛服部広太郎及び臨時皇后宮職御用掛有泉善三の説明により各室を御巡覧になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、河井弥八日記

この月 今般、懿旨により書籍『内訓』『女訓』『高皇后伝』刷成につき、皇太后及び皇族・王公族に御贈進になる。また内大臣、宮内大臣始め省中各部署長・側近奉仕高等官等に下賜され、内閣文庫ほか各帝国大学附属図書館等に御寄贈になる。○贈賜録、女子学習院五十年史

六月

一日 月曜日 御夕餐後、跡見玉枝の描いた桜花三百種の画帖を天皇と共に御覧になる。三日・四日も天皇と共に御覧になる。○女官日誌

四日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般ポーランド国へ赴任の特命全権公使河合博之及び同夫人に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

七日 日曜日 昨日より少々御風気につき、御静養室にて御仮床に就かれる。○女官日誌、侍従日誌、重要

雑録、河井弥八日記

十日 水曜日 元式部長官公爵伊藤博邦昨九日死去につき、この日、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病気に際して天皇・皇后よりお尋ねとして果物を下賜され、危篤に際して葡萄酒を下賜される。伊藤は、明治二十四年の式部官任官以来、昭和四年の退官に至るまで主馬頭・式部長官などを歴任した。○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報

十一日 木曜日 午後、欧米諸国より帰国の宣仁親王・同妃喜久子横浜港到着につき、乗船の秩父丸へ御使として皇后宮大夫河井弥八を差し遣わされる。夕刻、参内した宣仁親王・同妃より天皇が復命をお受けになるが、皇后は御風気のため御対面をお取りやめになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、進退録、外国差遣録、官報、河井弥八日記、高松宮同妃両殿下御外遊日誌

十五日 月曜日 この日、御床払いになる。○女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、河井弥八日記

十八日 木曜日 午後、奥内謁見所において故恒久王妃昌子内親王・恒徳王と御対面になり、かねて負傷入院中の恒徳王今般退院につき、挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十九日 金曜日 午前、奥内謁見所において、先般欧米諸国より帰国の宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。○女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

二十日 土曜日 天皇と共に、先般帰国の宣仁親王・同妃喜久子をお召しになり、豊明殿において午餐を催される。雍仁親王・同妃勢津子が陪食する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、宣召録、重要雑録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、高松宮同妃両殿下御外遊日誌

二十二日 月曜日 午前、桐ノ間において、新任のポルトガル国特命全権公使ジュスチノ・デ・モン

タルヴァン、米国特命全権大使ウイリアム・キヤメロン・フォーブス、並びに随員の大使館参事官エドウィン・L・ネヴィル及び同夫人ほか十一名、スペイン国特命全権公使ファン・F・デ・カルデナス及び同夫人、ブラジル国特命全権大使シルヴィノ・グルジェル・ド・アマラル並びに随員の大使館一等書記官カルロス・エリアス・ラトローレ・リスボア及び同夫人ほか二名に順次謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、謁見録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十三日 火曜日 元宮内省御用掛後閑菊野去る二十一日死去につき、この日、皇后より盛菓子を下賜される。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病気に際して皇后よりお尋ねとして果物を下賜され、危篤に際して果物を下賜される。後閑菊野は、大正七年より十三年まで宮内省御用掛として久邇宮に勤務し、良子女王の御学問所主任として奉仕した。○侍従職

日誌、贈賜録、恩賜録

二十五日 木曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた雍仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記、河井弥八日記

皇太后のお誕生日につき、御使として皇后宮事務官野口明を大宮御所へ差し遣わされる。○女官日誌、侍従職日誌、貞明皇后実録正本、河井弥八日記

この日、歌舞伎座において癩病根絶期成同盟会主催の寄付募集観劇会が開催される。これより先、思召しをもって同会に金員を賜い、観劇券をお買い上げになる。○贈賜録

二十七日 土曜日 枢密顧問官男爵山川健次郎元東宮御学問所評議員 昨二十六日死去につき、この日、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、昨二十六日、天皇・

皇后より病氣お尋ねとして葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、贈賜録、恩賜録、宮内省省報、官報

二十九日 月曜日 午前十一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御昼餐を御会食になり、午後は宣仁親王・同妃喜久子が海外旅行中に撮影した写真を御覧になる。その後、宣仁親王・同妃、成子内親王・和子内親王も参集する。終わって両内親王を伴われ、四時五分還啓される。○女官日誌

侍従職日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報

三十日 火曜日 午前、奥内謁見所において、元朝鮮総督府政務総監児玉秀雄に謁を賜う。○女官日誌、

侍従職日誌、宮内省省報、河井弥八日記

七月

一日 水曜日 午後、成子内親王と共に、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。東京高等蚕糸学校校長本多岩次郎の説明により、繰糸作業を御覧になる。○女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

天皇と共に花蔭亭において、宣仁親王・同妃喜久子帰国につき歓迎の御晚餐を催され、宣仁親王・同妃、及び雍仁親王・同妃勢津子、崇仁親王、故恒久王妃昌子内親王、故成久王妃房子内親王、鳩彦王妃允子内親王、稔彦王妃聡子内親王と御会食になる。なお、開宴前に成子内親王・和子内親王・厚子内親王も参亭する。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、朝香宮奥日誌、河井弥八日記

二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、新任の朝鮮総督陸軍大将宇垣一成、新任の朝鮮総督府政務総監今井清徳、今般メキシコ国に赴任の特命全権公使堀義貴及び同夫人に謁を賜う。○女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、奈良武次日記、宇垣一成日記

午後、天皇と共に御学問所において、東京市長永田秀次郎より「東京市政ノ現状ニ就テ」と題する講話をお聴きになる。講話終了後に賜茶があり、天皇と共にお出ましになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

三日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、近く北海道・樺太地方へ旅行するため暇乞いに参内した載仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

午後、天皇と共に西溜ノ間において、この度完成した『昭和大礼記録』を御覧になる。大礼記録編纂委員会委員の宮内次官関屋貞三郎より説明をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、昭和大礼要録

この日、宮中顧問官男爵南部光臣死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、昨日、同人の病気に際して天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

四日 土曜日 帝都の復興状況を御巡覧のため、午前八時三十五分御出門、東京市大富尋常小学校に御到着になる。御休所において内務大臣安達謙蔵・文部大臣田中隆三・東京府知事牛塚虎太郎・東京市長永田秀次郎・東京市会議長柳沢保恵・東京市助役菊池慎三・東京市会副議長溝口信に謁を賜う。ついで永田市長より市教育事業に関する報告をお聞きになり、書類の奉呈をお受けになる。次に屋外運動場の御座所にお出ましになり、女子五年生による体操を御覧になる。その後列立拝謁場において市会議員ほかに謁を賜う。それより永田市長の説明により各教室を巡覧され、特に手工室では塵取・包丁掛などの日常家庭用小道具の習作を、理科室においては硫酸の化学作用により「奉迎」などの文字をあぶり出す実験を、陳列室では同校及び深川区内小学校児童の書画・粘土細工・紙細工・刺繍・

裁縫を御覧の傍ら、図表により児童の就学率その他に関する永田市長の言上を御聴取になる。次に同校特設の児童給食室にお入りになり、欠食児童に給する食事見本を御覧になる。終わって震災記念堂に向かわれる。御到着後、五万八千人の遺骨を保管する納骨堂祭壇前に進まれ、しばし黙禱される。ついで市長の説明により、堂内中央両側の油絵額を御覧になり、また玄関石畳上においては、震災遭難児童弔魂像及び弔霊鐘を御覧になる。次に隣接する記念館に移られ、震災により溶けたバケツ・釘・銅貨を始め、震災に関する文献・図表・絵画・写真を御覧になる。階上では、震災後に傷病者を御慰問中の皇后貞明皇后を描いた油絵、及び焼土の市内を御巡視中の摂政宮を描いた油絵いづれも徳永柳州作に特に目を留められる。終わって東京同愛記念病院に向かわれる。御到着後、便殿において同愛記念病院財団理事長潮恵之輔同愛記念病院財団評議員、内務次官以下十一名にそれぞれ謁を賜う。ついで病院長三浦謹之助より書類の奉呈並びに病院建物模型についての説明をお受けになる。御少憩後、屋上御展望所にお出ましになり、永田市長より地図と写真とを対照させた説明を受けられつつ、ニコライ会堂等の建築物や、隅田川に架する復興鉄橋等を御展望になる。引き続き院内を御巡覧の後、復興三大公園の一つである隅田公園に向かわれる。公園内に設けられたプールに御到着後、永田市長の説明により、日本女子水上競技連盟の選抜者による日本古来泳法の型・競技泳法の型・百メートル混合リレー等を、ついで東京府公私立女子中等学校選抜生徒による団体游泳を御覧になる。それより東京府立第一高等女学校にお着きになり、御休所において東京府書記官広瀬久忠・同羽生雅則・地方技師来島良亮・公立高等女学校校長市川源三・東京府会議長三隅正・東京府市部会議長押川定秋・東京府郡部会議長朝倉虎治郎・東京府会副議長伊藤武七郎・東京府市部会副議長山田竹治に謁を賜う。ついで牛塚府知事より言上書類の奉呈をお

昭和六年七月

受けになり、続いて陳列された生徒製作の三内親王への献上品に関する説明をお聞きになる。拝謁室にて列立する府会議員等に謁を賜い、台覧品室においては牛塚府知事の説明により生徒の成績品を御覧になる。特に幼児ドレス等に目を留められる。校内を御巡覧の後、体育館において生徒によるバスケットボール競技を、割烹室にては実習を御覧になる。ついで校庭において体操を御覧になる。正午宮城に還啓される。なおこの度の行啓に際し、震災記念堂に祭糝料・香炉を、東京府及び東京市に児童給食費用御補助として金一封を、東京同愛記念病院に金一封を、大富尋常小学校職員並びに生徒一同に菓子を、第一高等女学校長以下職員・生徒一同に菓子を下賜される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、復興帝都御巡啓録、幸啓録、恩賜録、宮内省省報、官報、帝都復興祭志

正午過ぎ、厚子内親王の箸初の儀が行われる。その後、天皇及び厚子内親王と共に、奥内謁見所において総代の侍従長・侍従武官長・侍医頭より祝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、奈良武次日記

六日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

八日 水曜日 午前、桐ノ間において、今般着任の英国特命全権大使フランシス・オズワルド・リンドレー、随員の大使館参事官T・M・スノー及び同夫人ほか七名に謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

九日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般帰国のトルコ国特命全権大使ジェヴァット・ベイ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

十日 金曜日 午後一時四十五分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御対面になる。

後刻、成子内親王・和子内親王・厚子内親王、さらに崇仁親王も参着する。天皇及び三内親王とお揃いにて大宮御所を退出され、四時十六分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、

幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十一日 土曜日 葉山御用邸へ行啓につき、午前九時三十五分、天皇及び成子内親王・厚子内親王と共に御出門、東京駅より逗子駅を経て、十一時五分同邸に御到着になる。以後、葉山御滞在中は、折に触れて天皇や内親王と共に、海上及び海岸にお出ましになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十五日 水曜日 今般の霖雨により失業した労働者の生活状態を深く憫然に思し召され、御救恤として東京府及び東京市に金一封を、神奈川県に金一封を下賜される。これにつき、二十六日には宮内次官関屋貞三郎より、困窮者の給食の状況等に関する言上をお聞きになる。○侍従職日誌、贈賜録、幸啓録、関

屋貞三郎日記

十八日 土曜日 去る十二日、恒憲王妃敏子が第四王子を出産し、七夜に当たるこの日、文憲ふみのりと命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より恒憲王邦憲王の王子に白羽二重・酒・鮮鯛を御贈進になる。○女官日

誌、侍従職日誌、皇族身分録、皇親録、宮内省省報、官報

十九日 日曜日 午後、昨日皇后宮職御用掛を拝命の東貞子に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、進退録、

河井弥八日記

二十三日 木曜日 午後、天皇と共に、陸軍士官学校卒業のお礼言上のため参邸した永久王と御対面

昭和六年八月

になる。王に対し、天皇・皇后よりお品を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、贈賜録、皇親録、河井弥八日記

二十五日 土曜日 午後、内閣総理大臣若槻礼次郎・外務大臣幣原喜重郎・農林大臣町田忠治・文部大臣田中隆三・商工大臣桜内幸雄・陸軍大臣南次郎に謁を賜う。二十七日には司法大臣渡辺千冬・大蔵大臣井上準之助・内務大臣安達謙蔵・逓信大臣小泉又次郎・海軍大臣安保清種・拓務大臣原脩次郎に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、奈良武次日記

二十六日 日曜日 午後、天皇と共に新任の皇子御養育掛塘ミツ皇后宮職
御用掛に謁を賜い、拝命のお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、進退録

二十九日 水曜日 午後、翌日の明治天皇例祭のため東京に還幸される天皇をお見送りになる。○女官日誌

三十日 木曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮事務官本多猶一郎に御代拝を仰せ付けられる。○侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報

午後、葉山御用邸に御到着の天皇をお出迎えになる。○女官日誌

八月

一日 土曜日 午後、樺太・北海道方面視察より帰京した載仁親王と御対面になる。続いて枢密院議長倉富勇三郎、宮内省部長総代として参邸の臨時帝室編修官長三上参次・帝室博物館総長大島義脩、近くベルギー国へ帰任の特命全権大使佐藤尚武及び同夫人に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、贈賜録、河井

弥八日記

三日 月曜日 午前、成子内親王を伴われ、海岸より隼号に御乗船になる。美年子女王が陪乗する。

船上から元学習院教授小堀平七並びに学習院学生四名による小堀流の各種泳技を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、河井弥八日記、奈良武次日記

午後、今般侍従武官を退任の陸軍少将瀬川章友・同蓮沼蕃、並びに新任の侍従武官陸軍少将川岸文三郎・同陸軍騎兵中佐石田保秀に謁を賜う。○女官日誌、奈良武次日記

五日 水曜日 午前九時二十五分、天皇及び成子内親王・厚子内親王と共に葉山御用邸を御出門、逗子駅より御乗車になり、黒磯駅を経て、午後三時五分那須御用邸に御到着になる。御車寄において和子内親王の出迎えをお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

八日 土曜日 午後、天皇と共に式部長官林権助・学習院長荒木寅三郎、並びに新任の憲兵司令官外山豊造に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、河井弥八日記

十一日 火曜日 去る五日第二男子^実を出産した三条西信子に、七夜に当たるこの日、白羽二重・三種交魚代料を下賜される。○侍従職日誌、贈賜録

十三日 木曜日 午前、医学博士磐瀬雄一に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌

午後、天皇と共に宮中顧問官総代長崎省吾・錦鶏間祇候総代木場貞長に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、河井弥八日記

十四日 金曜日 早朝御出門、黒木谷を通過されて澄空亭に御到着になる。御朝餐後、皇后宮大夫河

井弥八の説明にて周囲を御展望になる。また、総務課長木下道雄が引率する千代田健児団によるラジ
才体操等を御覧になる。澄空亭を御出発、嚶鳴亭に御到着になる。後刻、天皇及び成子内親王、ついで
厚子内親王が参集し、御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、河井弥八日記
十七日 月曜日 この月上旬の沖繩県下における暴風被害に対し、天皇・皇后より同県に御救恤とし
て金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十八日 火曜日 この日、枢密顧問官男爵九鬼隆一死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。
なお、これより先、同人の病気に際して天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○侍従職日

誌、恩賜録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十日 木曜日 天皇と共に成子内親王を伴われ嚶鳴亭にお出ましになり、供奉員一同を交え御昼餐
を御会食になる。御食後には天皇と共にゴルフトーナメントに参加される。競技の結果、天皇は第七
位、皇后は第六位となる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、河井弥八日記

二十四日 月曜日 御夕餐後、天皇及び成子内親王と共に、去る七月四日の東京市中巡啓を撮影した
活動写真東京市
長献上、及び東京府立第一高等女学校行啓を撮影した活動写真同校
長献上その他を御覧になる。○女官

日誌、侍従日誌、進献録

二十五日 火曜日 正午過ぎ、東北見学の帰途に参邸した崇仁親王より御機嫌伺いをお受けになる。
ついで天皇及び成子内親王・崇仁親王と御昼餐を御会食になる。御食後、天皇は宮城に還幸される。

○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、河井弥八日記

中華民国揚子江一帯の水害による在留邦人の被害に対し、天皇・皇后より外務大臣に御救恤として金

一封を下賜される。○恩賜録、外交贈答録、宮内省省報、官報、関屋貞三郎日記

二十七日 木曜日 午後零時二十五分、那須御用邸に御到着の天皇を、成子内親王と共に御出迎えになる。○女官日誌、宮内省省報、官報

前内閣総理大臣浜口雄幸昨二十六日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を同人邸に差し遣わされる。翌二十八日には、皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐を差し遣わされ、柳を賜い、玉串をお供えになる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。二十九日に日比谷公園内葬斎場において行われる葬送には、皇后宮使として岡本事務官を差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、昨二十六日、同人の危篤に際して天皇・皇后よりお尋ねとして侍医八田善之進を差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

御歌所寄人阪正臣昨二十六日死去につき、この日、皇后より盛菓子を下賜される。また、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。○進退録、恩賜録

二十八日 金曜日 満月につき、月見の宴が催され、天皇及び成子内親王と共に皇子御遊戯室前のベランダにお出ましになる。供奉員一同と御夕餐を共にされ、御食後には花火・活動写真を御覧になる。

○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、河井弥八日記、奈良武次日記

三十日 日曜日 午後、嚶鳴亭前において公爵近衛文麿・内大臣秘書官長木戸幸一に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、木戸幸一日記、河井弥八日記

昭和六年九月

九月

三日 木曜日 元学習院長陸軍大将一戸兵衛昨日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、昨日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

七日 月曜日 午前十時十五分、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に那須御用邸を御出門になり、午後二時三十二分宮城に還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

陸軍少将男爵上田兵吉元侍従武官昨日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

八日 火曜日 午前、宇多天皇千年式年祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

九日 水曜日 午後、この日誕生日を迎えた雍仁親王妃勢津子と御対面になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十三日 日曜日 今般吹上御苑のゴルフ場拡張工事竣成につき、午前、天皇と共に吹上にお出ましになり、コース開きのトーナメントに参加される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、河井弥八日記

十七日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般帰国のペルシャ国特命全権公使アワネス・ハーン・モサーエツドに謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午前十一時三十分天皇と共に御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と午餐を御会食になる。午後三時

四十五分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十一日 月曜日 皇后宮職御用掛加藤虎之亮より漢文進講を御聴取のところ、午前十一時二十分頃強震発生につき、陪聴中の宣仁親王妃喜久子と共に劍璽ノ間付近までお移りになる。なお十月十三日、

この地震西埼玉地震により被害を受けた埼玉県・群馬県に対し、天皇・皇后より御救恤として金一封ずつを

下賜される。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、日本被害地震総覧

八月初旬より下旬にわたる朝鮮総督府管内での暴風雨の被害に当たり、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

去る十八日滿洲事変勃発につき、この日、奥内謁見所において皇太后御使の典侍竹屋津根子より御機嫌伺いをお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、貞明皇后実録正本

二十二日 火曜日 ベルギー国特命全權大使アルベル・ド・バツソンピエールの息女ベーチ近く結婚につき、皇后宮職御用掛高木多都雄を同大使館に差し遣わされ、金地山水蒔絵小簞笥を賜う。○女官

日誌、侍従職日誌、贈賜録、外交贈答録

二十三日 水曜日 午後零時三十分、天皇と共に豊明殿において、英国特命全權大使フランシス・オズワルド・リンドレー及び先般来日の同夫人・息女のため午餐を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職

日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十四日 木曜日 午前、秋季皇靈祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、儀式録、祭祀録、典式録、宮内省省報、官報

二十五日 金曜日 夕刻、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、陸軍次官杉山元より報告された滿洲にお

昭和六年十月

ける事変の経過及び死傷者の概要についての説明をお聞きになる。ついで事変の負傷者に下賜されるため、繙帯巻きをされる。翌日も行われる。○女官日誌、侍従日誌、河井弥八日記

二十八日 月曜日 米国より帰国の途次、去る二十六日から非公式にて本邦を御旅行中のシヤム国皇帝プラチャーテイポック及び皇后より、この日神戸港を御出帆につき、天皇・皇后に礼電が寄せられる。これに対し、翌二十九日天皇・皇后より答電をお送りになる。○侍従職日誌、重要雑録、宮内省省報、官報

三十日 水曜日 和子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、総代の宮内大臣・宮内次官・皇后宮大夫・侍従武官長・侍医頭より拝賀をお受けになる。この後、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御常御殿入側において、記念のお写真を撮影される。夕刻、天皇及び成子内親王と共に御学問所における内宴に臨まれる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、河井弥八日記、奈良武次日記

この日、満洲事変の傷痍者に対し、思召しをもつて義眼・義肢及び繙帯百五十本を下賜される。午後、奥内謁見所において陸軍次官杉山元陸軍大臣の代理に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、

贈賜録

十月

一日 木曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、新任の別当伏見宮付本多正復・掌典次長三条公輝・皇太后宮事務官清閑寺良貞に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、進退録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

五日 月曜日 午前、桐ノ間において、新任の中華民國特命全權公使蔣作賓に謁見を仰せ付けられる。

○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

この日、李鍵公と伯爵広橋真光養妹誠子との結婚につき、皇后宮使として皇后宮事務官本多猶一郎を李鍵公邸へ差し遣わされ、お祝品を下賜される。○侍従職日誌、皇親録、典式録、重要雑録、宮内省省報、官報

六日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、初参内の文憲王^{恒憲王}及び恒憲王妃敏子と御対

面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、官報

八日 木曜日 午前、桐ノ間において、皇后に敬意を表するため英国大使夫人に伴われ参内した英国人スウエイリンク男爵の夫人に謁見を仰せ付けられる。同人は英国の親日家にて、これより先、雍仁親王、宣仁親王・同妃喜久子の渡英時に種々款待に当たった。○女官日誌、侍従職日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

午後、天皇と共に御学問所において、東京帝国大学教授塩谷温より「頼襄ノ史筆」と題する講話をお聴きになる。宣仁親王が陪聴する。なお、今回より、天皇が臨時の進講をお受けになる際には雍仁親王・宣仁親王にも通知し、皇后も陪聴される際は両親王妃にも連絡することとなる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

十日 土曜日 来る二十二日より二十四日まで帝国水難救済会の慈善演劇会が開催されるに当たり、この日、思召しをもって同会に金員を賜い、慈善券をお買い上げになる。○贈賜録

この度の事変において戦死した陸海軍将校以下に、天皇・皇后より祭糒料が下賜されることとなる。なお、従来は、平時における演習等にて公務により死亡した陸海軍将校・同相当官以下のみに天皇・皇后から祭糒料が下賜されていたが、今後は、戦役・事変において戦死した者にも下賜されることが

昭和六年十月

定められる。十二月二十八日には、戦役・事変の戦死者で祭料を下賜されるべき者の範囲が定められる。○例規録、侍従武官府資料、河井弥八日記

十三日 火曜日 午後、奥内謁見所において、満洲駐劄陸軍部隊に御差遣の侍従武官川岸文三郎に謁を賜い、次の令旨を下される。

軍司令官以下一同力幾多ノ困難ヲ冒シテ克ク任務ノ遂行ニ従事シ居ルハ随分苦勞多キコト、察セラルル殊ニ死傷シタル将卒ニ対シテハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘス今ヤ寒サニ向フ折柄各自一層身体ヲ大切ニスル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハヨク勞リ遣セ

なお司令官以下に賜品等がある。川岸は十五日に出発、十一月十八日に復命する。○女官日誌、侍従職日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、河井弥八日記、本庄日記

十四日 水曜日 成子内親王を伴われ、午前九時四十五分御出門、官幣大社明治神宮に行啓される。御着後、便殿において御少憩、ついで御拝座に進まれ御拝礼になる。同時に成子内親王も中門内の御拝座より拝礼する。続いて多摩陵に御参拝のため十時三十分原宿駅より御乗車、東浅川駅を経て同陵に御到着になる。便殿にて御少憩後、御拝所に進まれ、内親王と共に御拝礼になる。便殿において御昼餐後、諸陵頭杉栄三郎・内匠頭白根松介・陵墓監河村亮に謁を賜い、ついで内務次官次田大三郎・東京府知事牛塚虎太郎ほか四名に謁を賜う。終わって内親王と共に池にお出ましになり、鯉や金魚に餌をお与えになる。午後三時二十五分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十五日 木曜日 帝国美術院第十二回美術展覧会を御覧になるため、午後零時五十分御出門、東京府

美術館に行啓される。御着後、便殿において文部大臣田中隆三・帝国美術院幹事正木直彦・東京府知事牛塚虎太郎・文部次官中川健蔵・文部政務次官横山金太郎・院長代理和田英作以下会員にそれぞれ謁を賜う。御少憩後、便殿をお発ちになり、会場前において審査員・文部省高等官に謁を賜う。ついで結城貞松の説明により日本画を御覧になる。御少憩後は赤塚平左衛門の説明により工芸品を、内藤伸の説明により彫塑を、満谷国四郎の説明により洋画を御巡覧になる。四時二十分還啓される。なお、当初は天皇も行幸される予定であったが、時局重大につきお取りやめとなる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報

十七日 土曜日 午前、神嘗祭につき、賢所において御拝礼になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮内省省報

二十日 火曜日 この日、皇后宮大夫河井弥八をお召しになり、内親王の養育に関する意見を御聴取になる。皇后は、内親王の教育方針については同意されるが、宮城外における居住については不可とされる。○河井弥八日記、河井弥八関係文書

二十二日 木曜日 午前、天皇と共に鳳凰ノ間に出御され、去る五日結婚の李鍵公・同妃誠子の参内朝見の儀に臨まれる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内省省報、官報

二十四日 土曜日 京都泉山泉涌寺において朝彦親王御祖父四十年墓所祭執行につき、午前、京都出張中の皇后宮事務官黒田長敬に御代拝を仰せ付けられる。二十九日には東京渋谷の久邇宮邸において霊殿祭執行につき、黒田事務官に御代拝を仰せ付けられる。また、天皇・皇后より分霊前に盛菓子を、墓前に榊をお供えになる。○女官日誌、侍従職日誌、典式録

昭和六年十一月

二十六日 月曜日 午前、陸軍砲兵少尉に任官した永久王への勲章御親授が行われる。皇后は、奥内謁見所において王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。また、この度の永久王の少尉任官に對し、天皇・皇后より鮮鯛を御贈進になる。○女官日誌、侍従職日誌、皇親録

午後、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、成子内親王の養育に関し、宮城内旧本丸に新しく住居を建築すること、御養育掛を選定することなどの各方針、並びにその実行方法に関する言上をお聞きになり、これを御嘉納になる。三十日、河井大夫は新聞記者に對し、養育方法の概要を発表する。○河井弥八日記、河井弥八関係文書

二十七日 火曜日 午後、天皇と共に生物学御研究所脇の稲田にお出ましになり、鎌をお手に取られて稲刈りをされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、河井弥八日記

二十八日 水曜日 午前、奥内謁見所において、京都在住華族総代の久世章業に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌

二十九日 木曜日 午後、天皇と共に、帝国学士院会員徳富猪一郎より「歴史上ニ於ケル肥後及其人物」と題する講話をお聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十一月

二日 月曜日 午前九時御出門、天皇と共に上野公園内の東京科学博物館に行啓される。御到着後、動物学部・地学部・植物学部・理工学部等の各種展示や実験などを御覧になり、午後零時二十七分還啓される。この度の行幸啓は、東京科学博物館の震災復旧工事竣成を受け、この機会にその設備状況

を天覧に供するとともに、特に科学博物館事業御奨励の思召しをもって行幸啓を仰ぎたいとの願ひによるもので、博物館ではこの日を正式な開館記念日と定め、七日より一般公開を始める。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、宮内省省報、官報、国立科学博物館百年史

午後、天皇と共に御学問所において、公爵西園寺公望に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、河井弥八日記

今般、学童就学後援のため第十回甲種絵画頒布会を開催した社団法人東京市児童就学奨励会に対し、思召しをもって金一封を下賜される。○侍従職日誌、贈賜録

三日 火曜日 明治節につき、午前、天皇と共に御学問所において、崇仁親王、続いて宮内大臣始め側近高等官より拝賀をお受けになる。その後、天皇と共に奥御対面所において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の拝賀をお受けになり、続いて皇后宮職女子高等官の拝賀をお受けになる。ついで御参内の皇太后と御対面になり、奥御食堂においてお祝御膳をお召しになる。終わって天皇と共に御学問所において、雍仁親王妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子始め皇族・王族の拝賀をお受けになる。

正午過ぎより、皇太后と共に奥内謁見所において、親王妃・王妃と内宴を催される。その後、天皇・皇太后と奥御対面所において御談話になり、旧女官の正二位柳原愛子及び千種任子等の拝賀をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、貞明皇后実録正本、河井弥八日記

四日 水曜日 午前、桐ノ間において、今般米国へ転任のシヤム国特命全権公使プレイヤー・スパンソムバットに謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥

八日記

昭和六年十一月

奥内謁見所において朝鮮総督宇垣一成に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、

河井弥八日記

六日 金曜日 午前、桐ノ間において、エチオピア国特派大使ベラテンゲタ・ヘルイ・ウオルド・セラッシエに謁見を仰せ付けられる。同国皇帝より御贈進のシバ女王勲章大綬章を受領され、これに対してお言葉を賜う。その後、随員の領事リジ・テデセラ・ゲブレ・マリラムに謁見を仰せ付けられる。午後、天皇と共に豊明殿において、ヘルイ大使のため午餐を催される。その際、皇后はヘルイ大使と、日本の花・紅葉等について種々御会話になる。御食後、牡丹ノ間入側に陳列された皇帝よりの御贈進の品を御覧になる。また、非公式に来日の同国皇従弟リジ・アリア・アレバ公に天皇と共に謁見を仰せ付けられる。なお同日、皇帝に対し天皇・皇后より、特派大使の御差遣と親書・勲章・物品の御贈呈に対する礼電をお送りになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、外賓参内録、典式録、宮内省省報、

官報、河井弥八日記、大日本

八日 日曜日 天皇が陸軍特別大演習御統裁のため熊本県下に行幸されるに当たり、午前、奉送のため御使として皇后宮大夫河井弥八を横須賀軍港に差し遣わされる。後刻、河井より復命をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、進退録、行幸録、幸啓録、河井弥八日記

九日 月曜日 午前十時四十五分御出門、厚子内親王を伴われ、大宮御所に行啓される。御着後、皇太后と御談話になる。厚子内親王の退出後、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後、皇太后と共に、御徒歩にて内庭より秩父宮邸にお出ましになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と御対面の後、御歓談になる。その後、赤坂離宮御苑を散策され、紅葉を御覧になりつつ大宮御所に戻られる。四時

四十五分還啓される。○女官日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十一日 水曜日 この日、子爵渋沢栄一死去につき、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官野口明を同人邸に差し遣わされる。十四日には、皇后宮使として野口事務官を差し遣わされ、花を賜う。

さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。十五日に青山斎場において行われる葬送には、皇后宮使として野口事務官を差し遣わされる。なお、これより先、同人の病気に際して皇后よりお尋ねとして野菜^{新宿御苑産}を下賜され、また天皇・皇后より侍医村山浩一を差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。○侍従

職日誌、贈賜録、恩賜録、宮内省省報、官報、渋沢栄一伝記資料

この日及び十二日に歌舞伎座において、東京慈恵会の慈善観劇会が開催される。これより先、同会に金員を賜い、慈善券をお買い上げになる。○贈賜録

十二日 木曜日 午前九時十五分御出門、学習院に行啓される。御着後、便殿において在学中の崇仁親王・盛厚王^{稔彦王の王子}と御対面になる。ついで学習院長荒木寅三郎に謁を賜い、職員名簿その他の奉呈をお受けになる。御少憩後、廊下に整列する同院高等官に謁を賜い、中等科教室にお着きになる。崇仁

親王の教室・盛厚王の教室・英語会話室・絵画教室における授業を御巡覧の後、屋外の榭壇及び鉄門を御覧になる。ついで特別教室にお移りになり、物理学教室・化学教室・博物学教室を御巡覧になる。玄關上の露台にお出ましになり、同院ラグビーチームの試合を御覧になる。ついで乃木院長室及び図書館を御覧の後、正堂にお立ち寄りになり、学生による音楽演奏をお聴きになる。正午還啓される。

○女官日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、時事新報、東京朝日新聞、東京日日新聞

十三日 金曜日 土御門天皇七百年式年祭につき、午前、皇后宮女官北村民枝に御代拝を仰せ付けら

昭和六年十一月

れる。○女官日誌、侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

十六日 月曜日 この日、満洲事変の傷痍者に対し、思召しをもって繙帯三百本を下賜される。午前、奥内謁見所において陸軍大臣南次郎に謁を賜い、事変その他につきお言葉を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、満受大日記、河井弥八日記

御夕餐後、皇后宮女官をお相手に繙帯巻きをされる。翌十七日、十八日にも行われる。○女官日誌

十九日 木曜日 午後一時三十分御出門、成子内親王を伴われ、豊島岡墓地に行啓される。御着後、

御休所において諸陵頭杉栄三郎・別当^{久邇}高橋其三に謁を賜う。ついで祐子内親王墓、明治天皇の皇子・

皇女十方の墓の順に御拝礼になる。成子内親王も拝礼する。それより久邇宮家の墓所に向かわれる。

御着後、朝融王・同妃知子女王・故邦彦王妃侘子の出迎えをお受けになり、邦彦王墓に御拝礼になる。

成子内親王も拝礼する。御休所にて朝融王・同妃・故邦彦王妃と御会話になり、三時二十分還啓される。○女官日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十日 金曜日 午前九時三十分御出門、女子学習院に行啓される。御着後、便殿において在学中の湛子女王・多恵子女王・美智子女王と御対面になる。ついで院長松浦寅三郎に謁を賜う。それより各教室において第一限・第二限の授業を御覧になる。午後の第三限の授業では幼児の作業・遊戯も御覧になる。午後二時十五分還啓される。○女官日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、朝香宮奥御日誌、女子学習院関係資料、女子学習院五十年史

二十一日 土曜日 天皇還幸につき、午後、御使として皇后宮大夫河井弥八を横須賀軍港に差し遣わされる。○侍従職日誌、進退録、行幸録、幸啓録、河井弥八日記

二十六日 木曜日 観菊会につき、午後二時御出門、天皇と共に新宿御苑に行啓される。皇族・王公族と御対面の後、親任官並びに各国大公使その他に謁を賜う。四時還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、観菊会録、典式録、宮内省省報、官報

二十八日 土曜日 午後、天皇と共に御学問所において、この日陸軍大学校を卒業した雍仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、秩父宮附日記、皇族身分録、官報、河井弥八日記

三十日 月曜日 午前、天皇と共に御進講室において、臨時帝室編修官長三上参次より講話「明治天皇ト明治廿七八年戦役」をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・載仁親王・故依仁親王妃周子・故成久王妃房子内親王・李王垠等が陪聴する。なお、この続きを十二月七日・十四日に天皇と共に聴きになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、河井弥八日記

十二月

一日 火曜日 午後、奥内謁見所において、新任の侍従武官海軍大佐桑折英三郎に謁を賜う。○女官日誌

夕刻、天皇と共に奥御対面所において宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、同親王より海軍砲術学校入学の挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、河井弥八日記

二日 水曜日 午後、天皇及び成子内親王と共に東三ノ間において、東車寄に搬入された、エチオピア国皇帝ハイレ・セラシエより天皇に御贈進のライオン雄雌各一頭を御覧になる。なおライオンはこの日上野恩賜公園動物園に下賜され、翌三日より一般に公開される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内

昭和六年十二月

舍人日誌、恩賜録、上野動物園百年史、読売新聞

三日 木曜日 午後、天皇と共に宮城内旧本丸において、成子内親王の住居として去る一日に起工した皇子御修学所の予定地を、内匠頭白根松介・内匠寮工務課長鈴木鎮雄・技師森泰治の説明により御一巡になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮年誌、河井弥八日記

四日 金曜日 午後、今般侍従を免じられた土屋正直に謁を賜い、下賜品へのお礼言上をお受けになる。○女官日誌

天皇と共に奥内謁見所において、今般転補の元侍従武官住山徳太郎に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

六日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、去る二日に誕生日を迎えた崇仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

成子内親王の誕生日につき、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、宮内大臣始め側近高等官総代の拝賀をお受けになる。その後、天皇と共に元皇后宮女官長・元皇后宮女官に謁を賜う。ついで同内親王とお二方にて御学友一名に謁を賜い、祝詞言上をお受けになる。夕刻、天皇及び同内親王と共に御学問所において、内宴を催される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

七日 月曜日 この日、満洲事変の傷痍者に対し、思召しをもって繙帯五百四十本をさらに下賜される。午前、奥内謁見所において陸軍省人事局長中村孝太郎陸軍大臣代理に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、贈賜

録、満受大日記、河井弥八日記

満洲事変に際し、皇后・皇太后より、同地に駐筈の陸軍部隊の軍人・軍属に対し、防寒用として真綿

一人につき
二十匁ずつ を下賜される。○侍従日誌、贈賜録、満受大日記、河井弥八日記

八日 火曜日 午前十一時三十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。午後四時五分還啓される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十日 木曜日 歳末恒寒に際し東京府下の官公私立団体が協力して貧困者救済のために無料診療を実施するに当たり、思召しをもつて東京府に金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報

十五日 火曜日 夕刻、賢所御神楽につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、典式録、祭祀録、儀式録、宮内省省報、官報

十七日 木曜日 天皇・皇后より日本赤十字社病院維持費として金一封を、皇后より日本赤十字社病院救助患者治療費として金一封を下賜される。なお向寒に際し、思召しをもつて日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院・東京慈恵会医院の各救助収容患者及び財団法人福田会育児院収容者に対し、木綿反物・裏地・裁縫料をそれぞれ下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、日本赤十字社史続稿、事業年報（日本赤十字社）

十八日 金曜日 午前、雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子と共に観瀑亭にお出ましになる。亭内にて成子内親王始め女子学習院幼稚園児の手芸や図画等を御覧になる。花蔭亭にお移りになり、両親王妃と御昼餐を御会食になる。再び観瀑亭において園児の唱歌・遊戯・競技等を御覧になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

十九日 土曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において正二位柳原愛子に謁を賜い、歳末のお礼言上

昭和六年十二月

をお受けになる。○女官日誌

天皇と共に、新築御殿にこの日移居しお礼言上に参内した宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。天皇・皇后より高松宮に三種交魚等を御贈進になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇族身分録、贈賜録、河井弥八日記

この日、学習院評議协会会员子爵伊東祐弘死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、昨十八日、同人の病気に際して天皇・皇后よりお尋ねとして菓子を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十日 日曜日 午前、奥内謁見所において、一条悦子博義王妃朝子の母より御機嫌伺いをお受けになる。○女官日誌

二十一日 月曜日 午前、皇后宮御進講室において、凶作被害視察のため去る七日より天皇の命にて北海道・青森県へ御差遣の侍従黒田長敬に謁を賜う。黒田より地図を掲げての説明をお聞きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。夕刻には黒田侍従持ち帰りの各種草根を御覧になる。また、これより先、七日には天皇・皇后より御救恤として北海道庁・青森県それぞれに対し、金一封を下賜される。

○女官日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 午後、この日参謀総長に補された元帥陸軍大将載仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従職日誌、皇族身分録、官報

二十四日 木曜日 午前、桐ノ間において、新任のアルゼンチン国特命全権公使ロドルフォ・フレイレ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十五日 金曜日 大正天皇五年式年祭山陵の儀につき、御名代として稔彦王妃聡子内親王を差し遣

わされる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、幸啓録、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

二十六日 土曜日 午後、奥内謁見所において、この日退官の侍従山県有道に謁を賜う。なお、天皇・皇后より金員等を、皇后よりお品を同人に下賜される。○女官日誌、贈賜録、宮内省省報

午後、奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、河井弥八日記

この日、皇后・皇太后より、満洲その他の事変地に勤務する関東庁並びに外務省警察官吏に対し、防寒用として真綿一人につき二十匁ずつを下賜される。○贈賜録、貞明皇后実録正本、河井弥八日記

二十七日 日曜日 天皇と共に、歳末につき御挨拶のため御参内の皇太后と御対面になり、御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥内謁見所において、歳末につき参内の元皇后宮女官長島津治子・元皇后宮女官山岡淑子に謁を賜う。○女官日誌

二十八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、歳末につき参内の徳川実枝子威仁親王の王女に謁を賜う。午後、旧女官の千種任子・園祥子・西西子・生源寺伊佐雄に謁を賜い、歳末の祝詞言上をお受けになる。

○女官日誌、河井弥八日記

御夕食後、天皇と共に、陸軍省提出の満洲事変戦況映画を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌

二十九日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、総代の宮内大臣・内大臣・宮内次官・侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫・侍医頭・皇后宮女官長に謁を賜い、歳末の祝詞言上をお受けになる。続いて故邦彦王妃倪子始め皇族と順次御対面になり、歳末の祝詞言上をお受けになる。翌三十日には

昭和六年十二月

宣仁親王・同妃喜久子始め、三十一日には雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族とそれぞれ御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、官報、河井弥八日記

夕刻、天皇と共に、成子内親王・和子内親王が催すクリスマス会の茶会にお出ましになる。側近奉仕者も陪食する。くじ引きが行われ、クリスマスツリーに付けられた玩具や菓子入れ等が一同に贈られる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、河井弥八日記、奈良武次日記

この日、李王家東京邸において李王垠妃方子女王が第二王子を出産する。誕生した王子は、翌昭和七年一月四日に玖きうと命名される。命名当日に、天皇・皇后より李王垠にお祝いとして白羽二重・酒・鮮鯛を御贈進になる。○侍従職日誌、王公族録、皇親録、宮内省省報

一月

一日 金曜日 新年につき、午前、天皇と共に御学問所において、宮内大臣始め側近奉仕者の拝賀をお受けになる。ついで午前十時、拝賀の儀に臨まれる。天皇と共に鳳凰ノ間において雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。以下、新年式に従い、正殿及び西溜ノ間において恒例のとおり拝賀をお受けになる。午前の拝賀の後、天皇と共に奥内謁見所において、崇仁親王と御対面になる。翌二日にも拝賀の儀が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附

日記、典式録、儀式録、宮内省省報、官報、奈良武次日記、河井弥八日記

二日 土曜日 午後、天皇及び成子内親王と共に花蔭亭において、今般御食堂に取り付けられた油彩壁画二枚を御覧になる。この壁画は、即位礼に際して全国文武官より献金された花蔭亭・嚶鳴亭・澄空亭の建設費の残額をもって追加献上されたもので、天皇・皇后の思召しにより帝国美術院会員藤島武二が「潮岬」を、同和田英作が「妙高山」を制作する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

三日 日曜日 午前、元始祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、祭祀録、儀式録、宮内省省報、官報

天皇と共に奥内謁見所において、博英王始め未成年皇族の拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に奥御対面所において、この日誕生日を迎えた宣仁親王、及び同妃喜久子と御対面になる。その後、天皇

昭和七年一月

と共に故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、河井弥八日記

五日 火曜日 正午より、雍仁親王妃勢津子始め皇族妃・公族妃をお招きになり、皇太后宮御休所において内宴を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、秩父宮附日記、典式録、河井弥八日記

天皇と共に奥御対面所において、旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄・西西子・千種任子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

成子内親王・和子内親王・厚子内親王と、御静養室^{御洋館}においてお過ごしになる。以後、この年も、皇女と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌

六日 水曜日 正午前、元御学問所講師竹田みち・元久邇宮侍女滝野繁尾に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

午後、奥内謁見所において、第一・第二両遣外艦隊並びに旅順海軍無線電信所の状況実視のため御差遣の侍従武官山内豊中に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下一同カ時局多端ノ際困難ナル警備ノ任務ニ服スルコトハ誠ニ苦勞ニ思フ寒氣益々厳シキ折柄各自一層身体ヲ大切ニシテ勤務スル様又傷病者ハ好ク勞ハル様宜シク申伝ヘヨ

山内は二月十日帰京、同十五日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、河井弥八日記

天皇と共に奥内謁見所において、元皇后宮女官長島津治子・元皇后宮女官山岡淑子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

七日 木曜日 午前、奥御進講所において、別当^{伏見}本多正復より御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌

八日 金曜日 午前、陸軍始観兵式につき、代々木練兵場に行幸される天皇をお見送りになる。十時

より、天皇が閲兵される模様をラジオ放送にてお聴きになる。○女官長日記、女官日誌

十一時四十四分、観兵式より還幸途次の天皇の鹵簿に向かつて、朝鮮人^{後に朝鮮人独立運動家の李奉昌と判明}が手榴弾を投擲

する事件が発生する。このため宮内大臣乗用馬車に軽微の損害が生じたが、御料車には異常はなく、十一時五十分天皇は宮城に還幸され、皇后はこれをお出迎えになる。

この日の事件発生につき、天皇と共に奥内謁見所において、皇太后より御差遣の典侍竹屋津根子に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。これに対し、天皇は侍従長鈴木貫太郎を、皇后は皇后宮大夫河井弥八を、大宮御所に差し遣わされる。在京の皇族等も御機嫌伺いのため相次いで参内する。夕刻、河井皇后宮大夫は宮内大臣官邸を訪れ、宮内大臣に怪我がなかったことを喜ぶ旨の皇后のお言葉を大臣に伝達する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記、木下道雄日記

十一日 月曜日 午前、奥内謁見所において、鍋島栄子^{故侯爵鍋島直夫人}・同紀久子^{直大の孫直泰の夫人、鳩彦王の王女}に謁を賜う。

成子内親王も同席する。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

御夕餐後、縹帯巻きをされる。二月十四日・十五日にも行われる。○女官長日記、女官日誌

十二日 火曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において皇太后と御対面になり、お祝御膳を御会食になる。御食後、昨年秋の熊本県下における陸軍特別大演習への行幸に関する映画を、御一緒に御覧に

昭和七年一月

なる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記
夜、天皇と共に御学問所において、昨年十月より十二月まで南洋委任統治諸島を視察した侍従永積眞彦の復命進講をお聴きになり、同人が持ち帰った映画・産物等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、進退録、河井弥八日記、奈良武次日記

十三日 水曜日 この日、皇后宮大夫河井弥八に対し、成子内親王・和子内親王と御同居の思召しを仰せ出される。河井は直ちにはお請けし難い旨を奉答する。○河井弥八日記

十五日 金曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は京都帝国大学教授吉沢義則より「万葉集和歌三首」、漢書は従四位安井小太郎より「尚書皐陶謨」、洋書は帝国学士院会員美濃部達吉より「第二十世紀ニ於ケル欧米諸国ノ立憲制度ノ大勢」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、儀式祭典録、典式録、宮内省省報、官報

十六日 土曜日 午後零時三十五分御出門になり、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になった後、お祝御膳を御会食になる。午後四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記、奈良武次日記

十八日 月曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「暁鶏声」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

有明の月なほのこる空までもとかにひゞくにはとりの声

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、陸軍大臣荒木貞夫に謁を賜う。この日、皇后・皇太后より、今般の事変に際し同地に増派された関東軍・支那駐屯軍に防寒用として真綿一人につき二十匁ずつの下賜があり、それについてのお礼言上をお受けになる。その際、次の懿旨を賜う。

満洲事変に於て寒さと広い地域で少ない人員を以て其任務に服せられてをる将兵の労苦は大きいことゝ察する今後共能く身体を大切にして充分御奉公せらるる様に

なお、昨年十二月に皇后・皇太后より関東庁並びに外務省警察官吏に対してなされた真綿の下賜について、今般人員が増加したため、この月、関東庁警察官吏に追加の真綿を下賜される。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、贈賜録、満受大日記、河井弥八日記、木下道雄日記

奥内謁見所において、今般支那駐屯軍に御差遣の侍従武官石田保秀に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下一同力時局多端ノ際困難ナル任務ニ服スルコトハ誠ニ苦勞ニ思フ殊ニ今回ノ事変ニ於ケル死傷者ニ対シテハ氣ノ毒ニ堪ヘス尚寒サ愈々厳シキ折柄各自一層身体ヲ大切ニスル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ好ク勞リ遣ハセ

石田は二十日出発、状況実視後、二月六日に帰国し、同十日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、進退録、宮内省省報、官報、侍従武官府歴史

去る六日、陸軍大臣荒木貞夫・海軍大臣大角岑生より宮内大臣に対し、日本赤十字社臨時救護班の派遣について皇后への言上の依頼があり、この日、皇后がその報告書を御覧になる。満洲事変に際し、昨年十一月より、同社から患者救護のため臨時救護班が満洲に派遣され、その後、朝鮮及び内地各地方の陸海軍病院等にも派遣される。この年はほぼ毎月、陸軍大臣・海軍大臣より宮内大臣を通じて報

昭和七年一月

告書が提出され、皇后はこれを御覧になる。なお、臨時救護班は翌昭和八年八月までに全て解散する。

○恩賜録、重要雑録、事業年報（日本赤十字社）

宮中顧問官福原鏖二郎昨十七日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、これより先、同人の病気に際して天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、河

井弥八日記

十九日 火曜日 御夕餐後、天皇と共に奥内謁見所において、昨年十一月の鹿兒島県行幸に関する映画、及び侍従武官阿南惟幾撮影の台湾事情に関する映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

二十日 水曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后の御使権典侍清水水谷英子に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。以後、この年も折に触れ、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

奥内謁見所において、元侍従武官海軍中将今村信次郎に謁を賜う。今村は、練習艦隊の司令官として近海航海中のところ、今般横須賀に帰着につき、御機嫌伺いのため参内した。○女官長日記、女官日誌

二十一日 木曜日 夕刻、天皇と共に奥御対面所において、寒中御機嫌伺いのため参内の故成久王妃房子内親王と御対面になる。以後、この年も皇族・王公族・御親族と随時、御対面・御会食になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十二日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛藤虎之亮より漢文の進講をお聴きになる。以後、この年は、概ね月曜日または金曜日に、五十余回にわたり加藤の定例進講をお受けになる。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

去る十七日青森県西津軽郡鰺ヶ沢町において火災の損害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十六日 火曜日 御成婚記念日につき、夕刻、天皇と共に申ノ口にお出ましになり、側近奉仕者等に茶菓を供される。一同と種々御談話になった後、奥内謁見所において御成婚当時の活動写真を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、河井弥八日記

二十七日 水曜日 邦彦王^御三年祭につき、皇后宮事務官岡本愛祐に靈殿祭の、皇后宮事務官野口明に墓所祭の御代拝を仰せ付けられ、それぞれ玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より靈前に盛菓子をお供え、墓所に榊をお供えになる。これとは別に、皇后より靈舎に菓子・果物を、墓所に菓子をお供えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、贈賜録

二十八日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般離任のデンマーク国特命全權公使ヘンリック・デ・カウフマンに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十九日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、邦彦王三年祭のため名古屋より上京の稔彦王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

二月

一日 月曜日 今般の上海における事変の海軍傷痍者に対し、この日、思召しをもって繙帯百八十本を下賜される。午後、奥内謁見所において海軍大臣大角岑生に謁を賜い、お礼言上をお受けになる。

昭和七年二月

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、河井弥八日記

去る一月二十六日、博義王妃朝子が伏見宮邸において第一王子を出産する。誕生した王子は、七夜に当たるこの日、博明^{ひろあき}と命名される。命名当日に際し、天皇・皇后よりお祝いとして白羽二重・酒・鮮鯛を博義王に賜う。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、皇親録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般転任のスペイン国特命全権公使フアン・F・デ・カルデナス及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。ついで今般着任のトルコ国代理大使ネビル・ベイ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

三日 水曜日 満洲事変における陸軍の傷痍者に対し、思召しをもって繙帯三百本を下賜される。○贈賜録、満受大日記

四日 木曜日 御夕餐後、天皇と共に奥内謁見所において、東京日日新聞社提供の上海事変・満洲事変・明治三十五年青森県下八甲田山雪中行軍遭難事件に関する映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

勲六等ハンナ・リデル^{熊本回春病院長} 昨三日死去につき、この日、祭資を下賜される。リデルは、明治二十八年熊本回春病院を創設し、救らい事業及び同病の研究に尽力した。○贈賜録、恩賜録、藤楓協会創立三十周年誌
八日 月曜日 午後、葉山より帰京の皇后宮大夫河井弥八人に謁を賜い、河井大夫より成子内親王・和子内親王・厚子内親王の近況についてお聞きになる。以後、この年も、折に触れて関係者より内親王

の動静についてお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

九日 火曜日 今回の上海事変における海軍傷痍者に対し、縹帶百八十本を下賜される。○贈賜録、河井

弥八日記

十一日 木曜日 午前、紀元節祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。その後、天皇と共に御学問所において、側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。続いて雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。夕刻、皇靈殿御神樂の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、河井弥八日記

十三日 土曜日 午前、奥内謁見所において、今般還送患者状況実視のため横須賀・呉・佐世保の各海軍病院に差遣される侍従武官出光万兵衛、同じく東京第一衛戍病院・第二師団下各衛戍病院に差遣される侍従武官川岸文三郎に謁を賜い、令旨を下される。令旨の覚書は次のとおり。

今回ノ事変ニ於テ負傷シ又ハ病氣ニ罹リタル者ハ洵ニ氣ノ毒ニ思フ

季候モ寒イ折柄各自十分大切ニスルヤウ又掛リノ者ハ能ク氣ヲ付ケテ勞ハツテヤリ速ニ回復セシ

ムルヤウ宜シク申伝ヘヨ

川岸は二十四日に、出光は三月九日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、侍従武官府歴史、

宮内省省報、官報、河井弥八日記

十六日 火曜日 午後、奥内謁見所において、博恭王二月二日付にて海軍軍令部長に就任と御対面になる。○女官長日記、女官日

誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十七日 水曜日 天皇・皇后より載仁親王に病氣お尋ねとして果物を御贈進になる。親王の容体は天

昭和七年二月

皇と共に皇后宮大夫河井弥八よりお聞きになる。○侍従職日誌、河井弥八日記

十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般仏国へ赴任の特命全權大使長岡春一に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十九日 金曜日 午後、天皇に満洲事変以来の任地事情の奏上を終えた関東長官山岡万之助に対し、

皇后宮大夫河井弥八を通じて、國務繁劇の折柄、自愛奮励せよとの懿旨をお伝えになる。○侍従職日誌、

河井弥八日記

二十日 土曜日 正午過ぎ、桐ノ間において、新任の米国フィリピン総督テオドール・ルーズヴェル

ト及び同夫人・息女に謁見を仰せ付けられる。その後、天皇と共に豊明殿に出御され、総督夫妻・息

女のための午餐に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、

官報、河井弥八日記

二十一日 日曜日 厚子内親王の初節句につき、午後、奥内謁見所において元奉仕者総代清水シゲに

謁を賜う。元奉仕者より鶴亀の人形の献上がある。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十二日 月曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、正二位柳原愛子に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌

二十四日 水曜日 この日、上海事変における陸軍の傷痍者に対し、思召しをもって繙帯六百本を下

賜される。午後、奥内謁見所において陸軍次官杉山元に謁を賜い、上海方面の戦況について、地図を

使用しての説明を御聴取になる。また、繙帯下賜のお礼言上もお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、贈賜録、満受大日記、河井弥八日記

奥内謁見所において、関東軍及び広島・竜山・平壤各衛戍病院に御差遣の侍従武官阿南惟幾に謁を賜い、各衛戍病院へのお言葉と、関東軍への令旨を下される。各衛戍病院へのお言葉は次のとおり。

今回ノ事変ニ於テ負傷シ又ハ病氣ニ罹リタル者ハ誠ニ氣ノ毒ニ思フ季候モ未タ寒イ折柄各自十分
大切ニスルヤウ又掛リノ者ハ能ク氣ヲ付ケテ勞ハツテヤリ速カニ回復セシムルヤウ宜シク申伝ヘ
ヨ

関東軍への令旨は次のとおり。

軍司令官以下一同カ久シキニ互リ幾多ノ困難ヲ冒シテ克ク任務ノ遂行ニ従事シ居ルハ随分苦勞多
キコトト察セラル殊ニ死者傷者ニ対シテハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘス寒氣尚厳シキ折柄各自一層身体ヲ
大切ニスル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハヨク勞ハリ遣ハセ

阿南は二十六日出発、三月二十八日帰京し、三十一日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典
録、侍従武官府歴史、宮内省省報、河井弥八日記

二十五日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のペルシャ国特命全権公使ハッサン・アリ・ハー
ン・ケマル・ヘダヤットに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典
式録、宮内省省報、官報

正午過ぎ、奥内謁見所において、今般の事変にて出征の上海派遣軍司令官白川義則・第十一師団長厚
東篤太郎・第十四師団長松木直亮に謁を賜う。その際、白川軍司令官に下されたお言葉の大要は次の
とおり。

昭和七年二月

今回上海派遣軍司令官トシテ彼地へ出発スル趣洵ニ御苦勞ニ思フ就テハ身体ヲ大切ニシテ奮勵スルヤウ希望ス

また、兩師団長に下されたお言葉の大意は次のとおり。

此度上海方面へ派遣セララル趣洵ニ御苦勞ニ思フ就テハ身体ヲ大切ニシテ奮勵スルヤウ希望ス

○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、典式録、河井弥八日記、白川義則手帳

午後、奥内謁見所において、天皇への講話のため参内の外務大臣芳沢謙吉に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、河井弥八日記

二十六日 金曜日 午前、近く練習艦隊司令官として遠洋航海に出発の元侍從武官今村信次郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

奥内謁見所において、今般日本赤十字社副社長を免ぜられた阪本鈺之助に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、典式録、河井弥八日記

午後一時十五分御出門、大宮御所に行啓される。皇太后と御歓談の後、四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍從職日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

伯爵葛城茂麿邸火災につき、天皇・皇后・皇太后よりお見舞品を下賜される。○女官長日記、女官日誌、恩賜録、貞明皇后実録正本

二十七日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所にお出ましになり、出産後初参内の李王娘妃方子女王^{守正王の王女}と御対面になる。○女官日誌、侍從日誌、侍從職日誌、内舍人日誌、贈賜録、王公族録、皇親録、河井弥八日記

二十九日 月曜日 午後、奥内謁見所において、馬公要港部へ御差遣の侍從武官桑折英三郎に謁を賜

い、次の令旨を下される。

司令官以下一同カ時局多端ノ際遠隔ノ地ニ在リテ困難ナル警備ノ任ニ服スルコトハ誠ニ苦勞ニ思フ各自一層身体ヲ大切ニシテ勤務スル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク勞ハリ遣ハセ

桑折は三月一日出発、馬公要港部・鳳山海軍無線電信所・南支沿岸警備艦を巡視し、同月二十九日帰京、三十一日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

この月 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・円照寺・林丘寺・靈鑑寺・中宮寺・瑞竜寺・禅智院・水薬師寺・長福寺・善光寺に乾海苔を下賜される。○贈賜録

三月

一日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般歩兵第一旅団長に転補の鳩彦王御父邦彦王の弟と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、朝香宮奥日誌

三日 木曜日 午前、奥内謁見所において、元東京警備司令官林弥三吉・元近衛師団長岡本連一郎・元憲兵司令官外山豊造に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、河井弥八日記、奈良武

次日記

正午過ぎ、天皇と共に千種ノ間において、国際連盟支那調査委員の英国人伯爵ヴィクター・アレキサンダー・ジョージ・ロバート・リットン、伊国人伯爵ルイジ・アルドロヴァンデイ・マレスコツティ、仏国人陸軍中将アンリー・エツアル・クロードル、米国人陸軍少将フランク・ロス・マッコイ、独国人アルベルト・ハインリッヒ・シュネー、及び書記長の仏国人ロベール・アースに謁見を

仰せ付けられる。午後零時三十分、天皇と共に豊明殿において、リットン一行のために午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、「満洲国」見聞記

厚子内親王初節句につき、天皇及び厚子内親王と共に、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官に雛人形を御披露になり、申ノ口において茶菓を供される。なお、初節句に際し、天皇・皇后それぞれより厚子内親王に御台人形を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

四日 金曜日 午後、天皇と共に旧本丸にお出ましになり、内匠頭白根松介の案内にて、竣工間近の成子内親王修学用の皇子御修学所を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

五日 土曜日 午後、奥内謁見所において、この日侍従を拝命の徳大寺実厚・小出英経に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、宮内省省報

六日 日曜日 満二十九歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀を、続いて崇仁親王より祝詞の言上を、元皇后宮女官長・元皇后宮女官、御同級生総代三名、元侍従武官、元皇后宮事務官の拝賀をお受けになる。ついで桐ノ間入口廊下において皇族付武官・御用取扱の拝賀をお受けになった後、桐ノ間において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族、続いて大勲位以下公爵以上・宮内勅任官・同待遇及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、千種ノ間において、宮内奏任官・同待遇の拝賀をお受けになる。正午、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に奥御食堂において、お祝御膳をお召し上がりになる。

午後、奥内謁見所において、元出仕総代清水シゲの拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、河井弥八日記

七日 月曜日 厚子内親王初誕辰につき、午前、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。午後、お一方にて雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子、侯爵久邇邦久^{御兄}及び同夫人董子、朝融王妃知子女王と御対面になる。その後、内親王の雛人形の前にて成子内親王・和子内親王・雍仁親王妃・宣仁親王妃と共に御歓談になる。夕刻、天皇及び成子内親王と共に御学問所における内宴に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

十一日 金曜日 多摩陵^{大正天皇}に御参拝のため、午前十時十分御出門、原宿駅より東浅川駅を経て陵所の御休所に御到着になる。御拝所に進まれ、御拝礼になる。御休所にて御昼餐後、宮内次官関屋貞三郎・諸陵頭杉栄三郎ほかに謁を賜う。東浅川駅より原宿駅を経て午後二時二十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報

上海事変における陸軍の傷痍者に対し繙帯千八十本を、海軍の傷痍者に対し繙帯百二十本を下賜される。夕刻、海軍次官左近司政三及び陸軍省医務局長合田平に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録、満受大日記、公文備考、河井弥八日記

十二日 土曜日 午後、奥内謁見所において、今般第三艦隊へ御差遣の侍従武官出光万兵衛に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令長官以下一同力数多ノ危険ヲ冒シテ永ク困難ナル任務ニ服シタルコトハ随分苦勞ニ思フ殊ニ死傷者ニ対シテハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘス今後モ各自一層身体ヲ大切ニスル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク勞ハリ遣ハセ

昭和七年三月

出光は十三日出発、上海に赴き、第三艦隊の状況を実視し、二十九日に復命する。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十三日 日曜日 午前、奥内謁見所において、今般上海派遣軍の状況実視のため御差遣の侍従武官町尻量基に謁を賜い、次の令旨を下される。

軍司令官以下一同力数多ノ危険ヲ冒シテ克ク困難ナル任務ニ服シタルコトハ随分苦勞ニ思フ殊ニ死傷者ニ対シテハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘス今後モ各自一層身体ヲ大切ニスル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ能ク勞ハリ遣ハセ

町尻はこの日出発、上海派遣軍を慰問後、久留米・小倉・広島各衛戍病院にて上海方面よりの還送患者を実視し、四月四日復命する。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、河井弥八日記

十四日 月曜日 午後、天皇と共に御学問所において、公爵西園寺公望に謁を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、河井弥八日記、西園寺公と政局

十六日 水曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、出産後初参内の博義王妃朝子と御対面になる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

十八日 金曜日 天皇と共に豊明殿において、今般離任の米国特命全權大使ウィリアム・キヤメロン・フォーブスのための午餐を催される。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日記、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

午後、奥内謁見所において、今般渡欧につき参内の元東宮職嘱託安藤幸に謁を賜う。○女官長日記、女官

日誌、侍従職日誌

二十一日 月曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、官報

二十三日 水曜日 午前、奥内謁見所において、日本赤十字社副社長徳川圀順に謁を賜う。これより先、皇后より満洲事変以来の同社救護事業につき御下問があり、徳川は赤十字救護班の活動状況について、傷病兵看護の実況等を撮影した十数枚の写真を御覧に入れつつ奉答する。皇后より激励のお言葉がある。以後も五月三日付にて日本赤十字社社長徳川家達より皇后宮大夫を通じて救護概況につき報告がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、河井弥八日記、日本赤十字社史統稿

二十四日 木曜日 午前、奥内謁見所において元支那駐屯軍司令官香椎浩平に謁を賜う。一旦入御の後、再び同所にお出ましになり、第二艦隊司令長官末次信正・第一航空戦隊司令官加藤隆義・第三戦隊司令官堀悌吉・第二水雷戦隊司令官井上継松・第一水雷戦隊司令官有地十五郎に謁を賜う。各人に御慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、河井弥八日記

二十六日 土曜日 午後、奥内謁見所において、女子学習院教授宇佐美ケイに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、女子学習院関係資料、河井弥八日記、女子学習院五十年史

翌二十七日習志野野営演習へ出発の雍仁親王、及び同妃勢津子参内につき、夕刻、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御機嫌伺いを受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、雍仁親王実紀

二十七日 日曜日 正午前、天皇及び成子内親王・和子内親王と共に吹上御苑にお出ましになり、花

昭和七年三月

蔭亭において御昼餐を御会食になる。御食後、強風のため亭内にて蓄音機をお聴きになる。夜は奥内謁見所において、文部省作製の活動写真を御覧になる。成子内親王は、翌二十八日より葉山御用邸に暫時滞在の上、四月初旬より旧本丸に新築の御殿に移居するため、この日が天皇・皇后の御膝下にて過ごす最終日となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

二十八日 月曜日 午前九時御出門、女子学習院第四十五回卒業式に行啓される。御到着後、便殿において雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・博恭王妃経子・恒憲王妃敏子・守正王妃伊都子・故成久王妃房子内親王・春仁王妃直子と御対面になり、宮内大臣・宮内次官・院長松浦寅三郎に謁を賜う。

ついで在学中の湛子女王^{朝香}・多恵子女王^{北白}・美智子女王^{賀陽}と御対面になる。終わって、式場に御臨場になる。保育証書・卒業証書・修了証書の授与、恩賜品の授与等を御覧になり、金剛石の唱歌斉唱の後、入御される。便殿にて御少憩後、成績品陳列場を御巡覧になる。便殿にて再び院長に謁を賜い、

午後零時二十七分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、官報、女子学習院関係資料、朝香宮奥日誌、河井弥八日記、女子学習院五十年史

二十九日 火曜日 午前、奥内謁見所において載仁親王と御対面になり、病氣全快につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

三十日 水曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日学習院中等科第四学年修了の崇仁親王と御対面になる。翌三十一日、天皇・皇后より崇仁親王に対し、学習院中等科第四学年修了及び陸軍士官学校予科入学のお祝いとしてお品を御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍

人日誌、皇親録、贈賜録、官報、河井弥八日記

三十一日 木曜日 午前、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、宮城内旧本丸に新築の成子内親王修学のための皇子御修学所を「吳竹寮」と命名することの説明をお受けになり、これをお許しになる。これに先立ち、天皇も御聴許になる。吳竹寮は、昭和六年十二月一日に起工し、去る三月十八日に竣工した純和式の平屋建てで、以後、和子内親王・厚子内親王・貴子内親王も御殿として使用する。吳竹寮の「吳竹」は、明治四十二年の明治天皇御製「吳竹のなほきこころをためずしてふしある人におほしたてなむ」に因むと伝えられる。○女官長日記、女官日誌、例規録、吳竹寮年誌、河井弥八日記、新輯明治天皇御集、読売新聞

四月

二日 土曜日 成子内親王の女子学習院入学につき、この日、皇后宮職に皇子御養育に関する職員を置くことが定められる。午後、天皇と共に奥内謁見所にお出ましになり、皇子御養育掛長を仰せ付けられた藤井種太郎に謁を賜う。続いて皇后宮職御用掛を免ぜられ皇子御養育掛を仰せ付けられた塘ミツ、吳竹寮勤務を命じられた皇后宮事務官野口明に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、吳竹寮日誌、進退録、宮内省省報、河井弥八日記、藤井種太郎日誌

三日 日曜日 午前、神武天皇祭につき、皇靈殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、祭祀録、典式録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に奥内謁見所において崇仁親王と御対面になり、去る一日陸軍士官学校予科入学につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録

昭和七年四月

天皇と共に御常御殿南側芝上にお出ましになり、侍従武官出光万兵衛・同町尻量基の説明により上海事変の戦利品を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

御夕餐後、天皇と共に奥内謁見所において、侍従武官出光万兵衛の説明により上海事変に関する映画を御覧になる。五日にも天皇と共に上海事変に関する映画を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、映画教育

四日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、故依仁親王妃周子と御対面になり、御機嫌伺い及び近日九州への旅行に出発する暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

奥内謁見所において、上海事変地より凱旋の第十一師団長厚東篤太郎・混成第二十四旅団長下元熊弥に謁を賜い、先般伝達された令旨及び賜品についてのお礼言上をお受けになる。兩名にそれぞれ慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、河井弥八日記

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、今般侍医を拜命の神戸久誠小兒科医に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

五日 火曜日 午前、奥内謁見所において京都在住華族総代藤谷為隆に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において皇太后と御対面になる。ついで御昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井

弥八日記

午後、この日修祓を終えた呉竹寮に天皇と共に御出ましになり、寮内を御巡覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、河井弥八日記

六日 水曜日 御夕餐後、天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、この日葉山より帰京し同寮において起居を開始した成子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、河井弥八日記

七日 木曜日 午前、奥内謁見所において、本日付にて後備役編入の海軍大将財部彪に謁を賜う。同人に労いのお言葉がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、官報、財部彪日記、河井弥八日記
正午、天皇及び成子内親王と共に御学問所において、成子内親王の女子学習院入学及び呉竹寮移居につきお祝いの午餐を催される。内大臣・宮内大臣及び側近高等官が出席する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、河井弥八日記

御夕餐後、天皇と共に呉竹寮にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌

八日 金曜日 午前、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、成子内親王の女子学習院初登校の様子についての報告をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、女子学習院関係資料、河井弥八日記

午後、侯爵久邇邦久と対面され、成子内親王入学の祝詞言上をお受けになる。久邇邦久退出後、故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王より祝詞言上をお受けになる。三王妃退出後、天皇と共に故恒久王妃昌子内親王と御対面になる。折柄参内の成子内親王より、この日の入学時の模様をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

昭和七年四月

九日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般退任の元別当北白川山辺知春、元澄宮御用

掛立花寛篤、新任の別当北白川石川漣平陸軍中將に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録、

典式録、宮内省省報、河井弥八日記

御進講室において元皇后女官長島津治子に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。続いて奥内謁見所において、今般退任の元澄宮付出仕曾根ナツ・星野ちか子に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

天皇と共に呉竹寮にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 月曜日 午後、奥内謁見所において、海軍大臣大角岑生に謁を賜う。この日、上海事変の傷痍者に対し義眼・義肢を下賜される旨の御沙汰があり、それについてのお札言上をお受けになる。その際、皇后より傷病者の状況についての御下問があり、大臣は書面にて奉答する。なお、陸軍の傷痍者に対しても義眼・義肢が下賜されることとなり、この年は五回にわたり下賜される。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、贈賜録、河井弥八日記

十二日 火曜日 午後、天皇と共に呉竹寮にお出ましになり、成子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十三日 水曜日 二月下旬南洋群島において暴風雨の被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として南洋庁に金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

錦鶏間祇候安楽兼道昨十二日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十四日 木曜日 満洲・上海両事変の名譽戦傷病兵の御慰問のため、午前九時三十分御出門、東京第

一衛戍病院に行啓される。御到着後、御休所において陸軍大臣荒木貞夫・第一師団長林仙之・陸軍省医務局長合田平・病院長小池正晃・東京警備司令官木原清・近衛師団長鎌田弥彦・憲兵司令官秦真次・第一師団軍医部長氏家参頭・近衛師団軍医部長小泉親彦・陸軍省人事局長松浦淳六郎・日本赤十字社副社長中川望に謁を賜う。ついで合田医務局長より陸軍衛生一般に関する言上を、続いて小池病院長より院内状況に関する言上をお聞きになる。御少憩後、列立拝謁室において在郷衛生部将官並びに病院高等官・同待遇者等に謁を賜う。ついで院内の御巡覧に移られる。その間、各室では担当の軍医正より説明をお受けになり、台覧品陳列場においては義眼・義肢等の各種陳列品を御覧になり、また皇后より下賜された義眼・義肢を使用した患者に謁を賜う。各病室にて傷病患者を御慰問になり、他に娯楽室・炊事場・物療室・手術室・X放線室等を巡覧される。御休所にて御昼餐後も院内各病室にて御慰問になる。終わって御休所に戻られ、荒木陸軍大臣に次のお言葉を賜う。

昨年満洲事件ノ起ツテカラ出征軍隊ノ行動ハ洵ニ容易ナラス苦勞デアツタコトハ度々聞及ンデ居マシタガ今日此病院ニ来テ医務局長ノ説明ヲ聴キ又病院長ノ案内ニ依ツテ詳シク傷病將兵ヲ慰問シテ一層其感ヲ深クシタ次第軍隊ノ光輝ヲ發揚シタ所以モ実ニ茲ニ在ルト思ヒマス就テハ是等忠勇ナル犠牲者ニ対シテ十分手当ヲ尽シテ速ニ快癒セシメルヤウ希望シマス又治療ニ従事スル軍医初メ一同ニモ御苦勞ナガラ格別ノ奮励アルヤウニ望ミマス

ついで小池病院長に次のお言葉を賜う。

今日ハ緩々慰問ガ出来テ洵ニ仕合セニ思ヒマス院長初メ一同ノ骨折リガ能ク現レテ居リ設備ナドモ行届イテ居ルノデ満足ニ思ヒマスドウカ一層努力シテ傷病者ニ十分ノ手当ヲシテ遣ハスヤウニ

昭和七年四月

望ミマス

約四時間に及ぶ御視察を終えられ、午後三時十五分還啓される。なお、この度の行啓に際し、入院患者に菓子・酒肴料を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、幸啓録、官報、河井弥八日記

錦鶏間祇候仁尾惟茂去る十一日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。○恩賜録、進退

録、宮内省省報、官報

十五日 金曜日 午後、呉竹寮にお出ましになる。成子内親王と御対面になり、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜う。また、成子内親王の運動の様子を御覧になり、唱歌もお聴きになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十六日 土曜日 成子内親王の呉竹寮移居披露の催しがあり、午後、呉竹寮にお出ましになる。後刻天皇が参着され、成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御遊戯室にお入りになり、参集の側近奉仕高等官一同に茶菓等を供される。また御内庭において、くじにより一同にお品を賜う。ついで松ノ間において、大正十四年に女子学習院にて行われた成子内親王誕生奉祝旗行列の様子、及び先般吹上御苑大池にて天皇が鴨に投餌される御様子を撮影した活動写真をお揃いにて御覧になる。なお、これより先、天皇・皇后は呉竹寮へ頻繁にお出ましになることを御希望になったが、侍従長より内親王養育の観点から一週一回程度が適当との言上があり、以後、毎週土曜日午後にお出ましになることが慣例となる。皇后お一方にてのお出ましは、これとは別にしばしば行われる。また、内親王は、毎週日曜日に天皇・皇后の許へ参上する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、呉竹寮年

誌、河井弥八日記

十八日 月曜日 横須賀海軍病院の入院患者を御慰問のため、皇后宮大夫河井弥八を同所へ差し遣わされる。河井は次の令旨を伝達し、各病室にて上海方面における戦傷者・入院患者を慰問する。

皇后陛下ニハ今回上海方面ニ出動シ負傷シ又ハ病氣ニ罹リタル者ノ治療ノ状況ヲ実視シ慰問セヨ
トノ思召ニアラセラル

夕刻、河井大夫に謁を賜い、復命をお受けになる。なお、皇后より入院患者に菓子・酒肴料を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、公文備考、河井弥八日記

十九日 火曜日 午前、奥内謁見所において鳩彦王と御対面になり、正彦王への病氣お尋ねについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、重要雑録、読売新聞

天皇と共に新宿御苑において観桜会を催される。午後二時三十分天皇と共に御出門、新宿御苑に御到着になり、先着の皇族と御対面になった後、賜謁所において親任官以上・大公使及び同夫人に謁を賜う。四時十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、典式録、観桜会録、宮

内省省報、官報

二十三日 土曜日 去る二十一日より二十二日にかけての静岡県富士郡大宮町の火災による損害に対し、この日天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十五日 月曜日 午前、桐ノ間において、新任のスペイン国特命全権公使サンチアゴ・メンデス・デ・ヴィーゴ及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典

式録、宮内省省報、官報

二十七日 水曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、午前十時十五分御出門、同社

に行啓される。御到着後、本殿において玉串を奉じられ、御拝礼になる。御帰途、震災より復旧し、この日開館の靖国神社附属遊就館にお立ち寄りになる。御座所において海軍次官海軍中将左近司政三・陸軍次官陸軍中将小磯国昭・遊就館長陸軍少将松田常太・遊就館出品審査委員海軍中将小山田繁蔵に謁を賜う。ついで御先着の天皇と共に松田館長の説明により館内を御巡覧になる。午前十一時二十分天皇と共に還啓される。

今回靖国神社に合祀されたのは、満洲事変・昭和二年支那擾乱事件・昭和三年支那事変・昭和五年台湾霧社事件により戦死又は死没した軍人・軍属等合計五百三十一名にして、昨二十六日の臨時大祭第一日に際しては、天皇・皇后より祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行啓録、儀式祭典録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、遊就館日誌、靖国神社百年史

二十八日 木曜日 午前、満洲より帰還の元侍従武官大島陸太郎参内につき、天皇と共に奥内謁見所において謁を賜い、歩兵第四聯隊長より第十六師団参謀長への転補につきお礼の言上を受けられる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

二十九日 金曜日 午前、奥御座所において、女子学習院登校前に参内した成子内親王と御対面になり、天長節の祝詞言上をお受けになる。その後、奥内謁見所において、総代の宮内大臣・宮内次官・侍従長・侍従武官長・侍医頭・皇后宮大夫より祝詞言上をお受けになる。ついで奥御座所入側において、皇后宮女官長始めより祝詞言上をお受けになる。正午前、皇太后宮御休所において、雍仁親王・宣仁親王より祝詞をお受けになる。

午後零時三十分より雍仁親王妃勢津子始め皇族妃・王族妃をお招きになり、奥内謁見所において内宴

を催される。午後、奥御対面所において、崇仁親王より祝詞言上をお受けになる。その後、御休所において、三条西信子御妹と御対面になる。夜、天皇と共に御学問所において、側近高等官との内宴に臨まれる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

この日、上海新公園にて開催の天長節官民合同祝賀会場において手榴弾が投擲され、列席の上海派遣軍司令官白川義則・第九師団長植田謙吉・第三艦隊司令長官野村吉三郎・中華民国駐劄特命全權公使重光葵等が遭難する。犯人の朝鮮人独立運動家尹奉吉は即時現場において逮捕される。負傷の白川・植田・野村・重光に対して、直ちに侍従長・侍従武官長・皇后宮大夫連名の電報をもって天皇・皇后の御軫念の趣が伝達される。後日、天皇・皇后より四名それぞれに果物を下賜される。○重要雑録、侍従武官府資料、河井弥八日記、関屋貞三郎日記、特高月報

五月

二日 月曜日 この日より八日まで施行の全国乳幼児愛護週間中、東京府下における貧困家庭乳児に対し、御料牧場の牛乳三斗五升を毎日下賜される。○恩賜録

五日 木曜日 日本赤十字社第四十回通常総会に御臨席のため、午前十時御出門、憲法記念館に行啓される。御到着後、便殿において、総裁戴仁親王の代理恒憲王御父邦彦王の兄、邦憲王の王子及び雍仁親王妃勢津子・宣仁親

王妃喜久子・故依仁親王妃周子・博恭王妃絳子・博義王妃朝子・恒憲王妃敏子・故邦彦王妃倪子御母・朝融王妃知子女王・守正王妃伊都子・稔彦王妃聡子内親王・春仁王妃直子と御対面になる。次に海軍大

昭和七年五月

臣大角岑生・陸軍大臣荒木貞夫、日本赤十字社社長徳川家達・副社長徳川圀順・同中川望、篤志看護婦人会会長鍋島栄子・副会長本野久子・同藤沼静子に謁を賜い、徳川社長より書類の奉呈をお受けになる。終わって、列立する日本赤十字社理事・同常議員ほか、赤十字国際委員会事務局員シドニー・H・ブラウンに謁を賜う。ついで式場に臨まれ、次の令旨を賜う。

本日茲に日本赤十字社第四十回の総会に臨み親しく各員を見るを喜ぶ本社は総裁以下の一致協力に頼り社運弥々隆んに社務愈々挙り特に今回の事変に際して多数の救護班を派遣し克く其の任務を尽しつゝあるは深く満足する所なり

社員一同宜しく其の心を一にし益々社業の振張を致さんことを期すべし

恒憲王の奉答をお受けになった後、十時五十分憲法記念館を御出発、大宮御所に御到着になり、皇太后と御昼餐を御会食になる。

愛国婦人会第三十一回通常総会に御臨席のため、午後三時大宮御所をお発ちになり、再び憲法記念館に行啓される。御到着後、便殿において総裁故依仁親王妃周子、名譽会員の雍仁親王妃・宣仁親王妃・博恭王妃・恒憲王妃・故邦彦王妃・朝融王妃・守正王妃・稔彦王妃・春仁王妃と御対面になる。ついで陸軍大臣荒木貞夫・文部大臣鳩山一郎、愛国婦人会会長本野久子・副会長水野満寿子・本部顧問小笠原長生・同田内三吉・同水野鍊太郎に謁を賜い、本野会長より書類の奉呈をお受けになる。終わって、列立する理事・監事・内地支部長等に謁を賜う。ついで式場に臨まれ、次の令旨を賜う。

茲に愛国婦人会第三十一回総会に臨み親しく各員を見るを喜ぶ本会は総裁以下一致の努力に頼り年を追うて其の基礎益々固く施設見るべきものあり今又其の組織に改善を加へて一層将来の活動

に資せんとし特に今次の時局に処し克く本会の使命を遂行しつゝあるは深く満足する所なり會員宜しく協力一致今後愈々事業の成績を挙げんことを期すべし

総裁の奉答をお受けになり、午後四時十分還啓される。直ちに奥内謁見所において恒憲王・故依仁親王妃と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記、事業年報（日本赤十字社）

六日 金曜日 午後、桐ノ間において、チエコスロバキア国特命全権公使フランティシエツク・ハヴリチエツクに謁見を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

七日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日皇后宮職御用掛を拝命の小村温に謁見を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、河井弥八日記

九日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

午後、天皇と共に千種ノ間において、上野にて開催中の第四回發明博覧会の状況について、同博覧会副会長審査総長真野文二・事務総長山脇春樹及び審査部長六名の奏上を順次お聞きになる。商工大臣前田米蔵が陪席する。ついで、博覧会における陳列品を御覧になり、終わって一同に茶菓を賜う。この日の奏上等は、同博覧会への行幸啓が御都合によりお取りやめとなったため、その代替として御進講の形式にて行われた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録、河井弥八日記、木下道雄日記

昭和七年五月

仏国大統領ポール・ドゥメール去る七日死去につき、この日、皇后より弔問使として皇后宮職御用掛高木多都雄を仏国大使館に差し遣わされる。十二日に東京市小石川区関口台町の天主公会において行われる弔祭式には、天皇・皇后の御名代として雍仁親王・同妃勢津子を差し遣わされる。同日正午過ぎ、天皇と共に奥内謁見所において雍仁親王・同妃と御対面になり、復命をお受けになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記、重要雜録、外交慶弔録、宮内省省報、官報

十一日 水曜日 午前、桐ノ間において、今般世界漫遊の途次に来日の印度ジュバル国王ラナ・バガート・チャンドラ・バハデュア及び同王妃、並びに同伴の英国特命全權大使フランシス・オズワルド・リンドレーに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

十二日 木曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十三日 金曜日 午後、天皇及び成子内親王と共に御内庭にお出ましになり、南洋庁長官松田正之より天皇に献上されたワニを御覧になる。ワニは、パラオ諸島バベルダオブ島において捕獲されたもので、上野恩賜公園動物園に下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進献録、恩賜録

十四日 土曜日 夜、天皇と共に奥内謁見所において、去る四月十四日の東京第一衛戍病院行啓に関する活動写真^{陸軍}_{献上}等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌

十五日 日曜日 御夕餐後、急遽参内した侍従長鈴木貫太郎より、この日夕刻内閣総理大臣犬養毅が首相官邸において襲撃された旨の言上がある。直ちに天皇・皇后より、お尋ねとして侍従徳大寺実厚

及び侍医松永琢磨を首相官邸に差し遣わされ、葡萄酒を犬養に下賜される。犬養は、午後十一時二十分死去する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、特高月報、犬養木堂伝

十六日 月曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使の典侍竹屋津根子と御対面になり、昨十五日の事件につき御機嫌伺いをお受けになる。その後、皇后より御使として皇后宮女官長竹屋志計子は大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、貞明皇后実録正本

内閣総理大臣犬養毅昨十五日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を首相官邸に差し遣わされる。十八日には、皇后宮使として黒田事務官を首相官邸に差し遣わされ、花を賜い、焼香させられる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。十九日に首相官邸において行われる葬送には、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を差し遣わされ、焼香させられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恩賜録、重要雑録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、犬養木堂伝

十七日 火曜日 午前、天皇と共に御学問所において、東京帝国大学教授塩谷温より「唐太宗と王道政治」と題する講話天皇は五月三日に続く二回目をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

午後、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、上海派遣軍司令官白川義則以下のその後の容体、第三艦隊司令長官野村吉三郎に下賜の義眼、第九師団長植田謙吉に下賜の義足の製作状況について御下問になる。併せて特命全権公使重光葵にも義足下賜の御沙汰がある。○贈賜録、河井弥八日記、奈良武次日記
宮中顧問官男爵小原駘吉去る十五日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。

昭和七年五月

なお、これより先、天皇・皇后より病氣お尋ねとして葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、贈賜録、

宮内省省報

十八日 水曜日 夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、翌十九日習志野に出発の雍仁親王と御対面になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日誌

十九日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般ブラジル国へ赴任の特命全權大使林久治郎及び同夫人に謁を賜う。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報

三月末日までに関東軍に派遣された軍人・軍属に対し、この日、皇后・皇太后より真綿一人につき二十匁ずつを下賜される。○満受大日記、河井弥八日記

二十一日 土曜日 午前、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、上海派遣軍司令官白川義則にお見舞電報をお送りになる件につき、御内諾になる。皇后宮大夫を通じ、上海派遣軍参謀長田代皖一郎に対して次のお見舞電報をお送りになる。

皇后陛下ニハ白川軍司令官ノ容態ヲ聞召サレ深ク御憂慮遊ハサル速ニ回癒スル様充分手当ヲ加ヘ
ヨトノ御沙汰アラセラル右時宜ヲ見テ伝達セラレタシ

○重要雑録、河井弥八日記

二十三日 月曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

二十四日 火曜日 この日、東京慈恵会総会挙行につき、御名代として博恭王妃絳子を差し遣わされる。午後、奥内謁見所において博恭王妃より復命をお受けになる。続いて同会総裁故恒久王妃昌子内

親王と御対面になり、総会への御名代御差遣についてのお礼言上をお受けになる。なお、総会開催に当たり、東京慈恵会医院の入院患者にお菓子料を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、行啓録、皇親録、官報、河井弥八日記

二十五日 水曜日 夕刻、天皇より勲一等朝融王御に大勲位菊花大綬章が親授される。終わって、天皇と共に奥内謁見所において朝融王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、典式録、官報、河井弥八日記

二十六日 木曜日 この日、上海派遣軍司令官白川義則死去につき、皇后の弔意を伝達する電報が皇后宮大夫より上海派遣軍司令官代理植田謙吉に送られる。三十一日には、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を同邸に差し遣わされ、榊を賜い、玉串をお供えになる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。二日に青山斎場において行われる葬送には、皇后宮使として岡本事務官を差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、去る二十三日、同人の危篤に際して天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。また後日、皇后より御紋付銀盃大を下賜される。○女官長日記、侍従日誌、侍従職日誌、恩賜録、典式録、重要雑録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十七日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、この日元帥府に列せられ元帥の称号を下賜された海軍大将博恭王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、典式録、皇親録、例規録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十八日 土曜日 宮内省御用掛関根正直去る二十六日死去につき、この日、天皇・皇后・皇太后よ

昭和七年六月

り祭資を下賜される。なお、去る二十六日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして菓子を下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、宮内省省報、官報、女子学習院関係資料

六月

一日 水曜日 午後、この日侍従武官を拝命の海軍中佐小林謙五に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

午後、天皇と共に奥内謁見所において、李王垠妃方子女王及び初参内の李玖と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、宮内省省報、官報

三日 金曜日 午後、成子内親王・和子内親王と共に紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

四日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、博恭王妃経子・博義王妃朝子・光子女王及び初参内の博明王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、官報、河井弥八日記

六日 月曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般海軍軍令部出仕に転補の前侍従武官山内豊中に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、侍従武官府資料、河井弥八日記

正午過ぎ、奥内謁見所において、本日付にて退官・退職の侍従職御用掛皇宮警視阪口鎮雄、並びに新任の侍従職御用掛皇宮警視柴伝吉に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報、河井弥八日記

七日 火曜日 午前、呉竹を詠んだ明治天皇の御製呉竹のなほきこころをためずし
てふしある人におほしたてなむを懐紙にお認めになり、皇后

宮大夫河井弥八にお渡しになる。この懐紙は、呉竹寮における成子内親王の部屋の床の間に掲げられる。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記

八日 水曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般病氣全快の載仁親王と御対面になり、病氣お尋ねに對するお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

十日 金曜日 夕刻、奥内謁見所において、侯爵浅野長勲に謁を賜い、労りのお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、河井弥八日記

十四日 火曜日 午前、桐ノ間において、米國特命全權大使ジョセフ・クラーク・グルー及び同夫人・息女、大使館参事官エドウィン・L・ネヴィル以下館員並びにその夫人に謁見を仰せ付けられる。午後、天皇と共に豊明殿において、グルー夫妻・同息女のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、ジョセフ・C・グルー日記

十五日 水曜日 午後、京都より帰京の正二位柳原愛子に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十六日 木曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

二十日 月曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、この日下志津野営演習行軍に出発のため天皇への御挨拶を終えた雍仁親王と御対面になる。先に皇后の漢文進講を陪聴した雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子も同席する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記、雍仁親王実紀

二十一日 火曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に御対面になり、お祝御膳を御会食になる。

昭和七年六月

皇太后は、先般の天長節の内宴に御臨席にならなかつたため、この日、祝賀の思召しをもつて御参内になる。○女官長日記、女官日記、侍従日記、侍従職日記、内舍人日記、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十四日 金曜日 午前、奥内謁見所において、戦地より凱旋の第三艦隊司令長官海軍中将野村吉三郎・第二十師団長陸軍中将室兼次・上海派遣軍司令官代理第九師団長陸軍中将植田謙吉に謁を賜う。

先般下賜の令旨及び賜品についてのお礼言上をお受けになり、それぞれにお言葉を賜う。野村第三艦隊司令長官へのお言葉は次のとおり。

上海方面ノ行動ハ、毎時都合好ク運ンデ、海軍ノ光リヲ發揮シタコトハ、洵ニ一方ナラヌ御苦勞デアリマシタ、殊ニ過日ハ、不慮ノ災難ニ出遇ツテ負傷シタコトハ、何共氣ノ毒ニ堪ヘマセン、幸ニ経過モ宜シク、今日芽出度凱旋シタノデ、本當ニ喜バシク思ヒマス、ドウカ更ニ自愛シテ速ニ健康ヲ回復シ、御奉公ヲスルヤウニ

植田上海派遣軍司令官代理へのお言葉は次のとおり。

上海方面ノ行動ハ、毎時都合好ク運ンデ、陸軍ノ光リヲ發揮シタコトハ、洵ニ一方ナラヌ御苦勞デアリマシタ、殊ニ過日ハ、不慮ノ災難ニ出遇ツテ負傷シタコトハ、何共氣ノ毒ニ堪ヘマセン、幸ニ経過モ宜シク、今日芽出度凱旋シタノデ、本當ニ喜バシク思ヒマス、ドウカ更ニ自愛シテ速ニ健康ヲ回復シ、御奉公ヲスルヤウニ

室第二十師団長へのお言葉は次のとおり。

満洲ノ行動ハ毎時都合好ク運ンデ、陸軍ノ光リヲ發揮シタコトハ、洵ニ御苦勞デアリマシタ、永々ノ任務ヲ終ヘテ、今日芽出度凱旋シタノハ本當ニ喜バシク思ヒマス、ドウカ更ニ自愛シテ御奉公

ヲスルヤウニ

ついで元関東軍参謀長陸軍中将三宅光治・元第一遣外艦隊司令官海軍少将塩沢幸一・第三艦隊参謀長海軍少将嶋田繁太郎・歩兵第三十九旅団長陸軍少将嘉村達次郎・上海派遣軍参謀長陸軍少将田代皖一郎・同経理部長陸軍主計監奥田徳三郎・上海派遣軍軍医部長陸軍軍医監田川精三郎・元上海海軍特別陸戦隊司令官海軍少将植松練磨・上海派遣軍参謀副長陸軍少将岡村寧次に謁を賜い、それぞれに慰勞及び凱旋の祝詞を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、河井弥八日記

二十五日 土曜日 皇太后のお誕生日につき、午前、天皇と共に奥宮殿において、側近奉仕者総代の侍従長・皇后宮大夫に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。ついで皇后の御使として皇后宮大夫を大宮御所に差し遣わされ、皇太后に祝意をお伝えになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、貞明皇后実録正本、河井弥八日記

二十九日 水曜日 午後、成子内親王・和子内親王と共に、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。東京高等蚕糸学校校長本多岩次郎の説明にて製糸状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

三十日 木曜日 午後、皇后の思召しを拝した皇后宮大夫河井弥八が東京第一衛戍病院に赴き、入院する戦地還送患者の状況を視察する。翌七月一日、河井より皇后に視察の概要の復命がある。○侍従職

日誌、重要雑録、河井弥八日記

七月

一日 金曜日 午前、天皇と共に千種ノ間において、上海事変関係の油彩画「小学児童ノ通学保護」
「斃レテ後止ム大村水兵」「青雲路橋梁ノ戦闘」等全十六面を御覧になる。これらは元上海海軍特別
陸戦隊司令官植松練磨が上海より携帯したもので、同人より説明をお聞きになる。○女官長日記、女官日
誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、河井弥八日記

奥内謁見所において、この日侍従を拝命の大金益次郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、進退録、宮内省省
報

この日、皇后宮大夫河井弥八に謁を賜い、この年は時局多端につき例年行っている御避暑をお取りや
めとし、酷暑の候に改めて思召しを伺う旨の言上をお受けになる。○侍従日誌、河井弥八日記、木下道雄日記

五日 火曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官
日誌、侍従職日誌、河井弥八日記

六日 水曜日 午前、奥御進講所に紅葉山御養蚕所の繭・蛹・糸綿を飾られ、菓子・野菜を供えて御
供養になる。○女官長日記、女官日誌

午前十一時三十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御対面になり、ついで参殿の
故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王を交えて
御昼餐を御会食になる。午後四時十五分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日
誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌、河井弥八日記

十日 日曜日 午前、天皇及び成子内親王と共に吹上御苑のゴルフ場にお出ましになり、ゴルフ競技

会に御参加になる。御昼餐は花蔭亭にて御会食になる。夕刻、天皇と共に花蔭亭において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になる。なお、ゴルフ競技会は昨九日とこの日の両日にわたって行われ、天皇・皇后のほか侍従次長河井弥八・侍従職御用掛西園寺八郎始め侍従・侍従武官・侍医・皇后宮女官等が参加し、天皇は十九等、皇后は十四等となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十一日 月曜日 午後、天皇と共に奥宮殿において鳩彦王・同妃允子内親王と御対面になり、正彦王の病氣全快と帰京のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、重要雑録、朝香宮奥日誌、河井弥八日記

十五日 金曜日 午後、天皇と共に崇仁親王と御対面になり、病氣平癒のお礼言上をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

遠洋航海より昨十四日帰国の練習艦隊司令官今村信次郎元侍従
武官に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、河井弥八

日記

十八日 月曜日 吹上御馬場取り壊しにつき、午後、天皇及び成子内親王と共に同所にお出ましになり、馬場終として主馬寮員・常侍官による馬術を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、河井弥八日記

この月上旬の豪雨により愛知県下において被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十一日 木曜日 午後、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、内親王の御養育上の詳細について言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、河井弥八日記、藤井種太郎日誌

二十二日 金曜日 午前、天皇と共に成子内親王と御対面になり、葉山へ避暑につき挨拶をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、河井弥八日記、藤井種太郎日誌

午後、天皇と共に御学問所において、練習艦隊司令官海軍中将今村信次郎より、「遠洋航海中ノ所感」と題する各地の歓迎状況についての講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、侍従武官府歴史、奈良武次日記、河井弥八日記

二十五日 月曜日 午前、奥内謁見所において朝鮮総督宇垣一成に謁を賜う。宇垣に慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、河井弥八日記、宇垣一成日記

二十六日 火曜日 午後、皇后宮事務官岡本愛祐より、酷暑の折である八月上旬より約二週間、天皇と共に那須へ御避暑を願う旨の言上をお受けになる。八月一日、天皇と共に那須へ行啓される。○女官長日記、幸啓録、河井弥八日記、奈良武次日記

二十九日 金曜日 午前、奥内謁見所において、先に参謀総長として天皇への軍務上奏を終えた載仁親王と御対面になり、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、河井弥八日記
満洲事変における陸軍傷痍者に対し、思召しをもって繙帯六百本を下賜される。○贈賜録、河井弥八日記
三十日 土曜日 明治天皇二十年式年祭につき、午前、皇霊殿において御拝礼になる。また、陵所において奉幣の儀が行われ、掌侍取扱敷嘉根子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

午後、天皇と共に奥内謁見所において、昨二十九日軍艦春日にて南洋巡航から帰国の朝融王と御対面になる。王より天皇・皇后に献上品があり、皇后には鼈甲細工等が献上される。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

三十一日 日曜日 午前、天皇と共に千種ノ間及び豊明殿にお出ましになり、山里御文庫收藏中の御

物小道具類を御覧になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

天皇と共に、明治天皇山陵二十年式年祭に参列して京都より帰京した稔彦王妃聡子内親王・故成久王妃房子内親王と御対面になる。夕刻、天皇と共に、同じく京都より帰京した故恒久王妃昌子内親王と御対面になる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録

八月

一日 月曜日 天皇と共に那須御用邸へ行啓のため、午前八時二十五分御出門になる。原宿駅より黒磯駅を経て、午後零時五十分那須御用邸に着御される。その際、先着の和子内親王・厚子内親王の出迎えを受けられる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報、河井弥八日記、関屋貞三郎日記

六日 土曜日 正午過ぎ、天皇と共に学習院長荒木寅三郎・近衛師団長鎌田弥彦に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、河井弥八日記

七日 日曜日 正午過ぎ、天皇と共に前任の女子学習院長松浦寅三郎及び新任の女子学習院長長屋順耳に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、進退録、宮内省省報、女子学習院関係資料、河井弥八日記
天皇と共に枢密顧問官鈴木荘六に謁を賜い、任官のお礼言上を受けられる。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、河井弥八日記

八日 月曜日 午前六時前に御起床になり、天皇・成子内親王昨日と共にラジオ体操を行われる。以後、那須御滞在中の十五日まで、毎朝実施される。還啓後もしばしばラジオ体操を行われる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌

天皇と共に守正王御父邦彦王の弟と御対面になり、ついで陸軍大臣荒木貞夫・陸軍大将武藤信義・陸軍中将梅

崎延太郎・式部長官林権助に謁を賜う。午後、元帥府に列するの儀が行われ、儀終了後、元帥の称号を下賜された守正王と天皇と共に御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、儀式録、皇親録、宮内省省報、官報、公文別録、河井弥八日記、元帥武藤信義

九日 火曜日 午前九時十五分、御乗馬にて御出門、笹ノ平よりは御徒歩にて余笹沢にお出ましになる。先に御乗馬にてお出ましの天皇が粘菌を採集される間、皇后は木の葉を御採集になる。ついで御一緒に御昼餐をお召しになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、河井弥八日記、天皇陛下の生物学の研究

十日 水曜日 午前、李王垠参邸につき、天皇と共に御対面になり、陸軍歩兵中佐進級のお礼言上をお受けになる。ついで御昼餐を御会食になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、皇族身分録、奈良武次日記

十一日 木曜日 午後、昨十日付にて帝室会計審査局長官を免官の入江貫一に、天皇と共に謁を賜う。

○侍従日誌、内舍人供奉日誌、進退録、宮内省省報、河井弥八日記

去る五日、北海道石狩国空知郡歌志内村空炭坑においてガス爆発事故発生につき、この日天皇・皇后より御救恤として金一封を北海道庁に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十二日 金曜日 去る七月三十一日より八月二日の暴風雨による台湾の被害に対し、この日天皇・皇后より御救恤として金一封を台湾総督府に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十三日 土曜日 午後、宮内勅任官総代として参邸の帝室林野局長官三矢宮松・図書頭杉榮三郎に謁を賜う。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、河井弥八日記、奈良武次日記

十五日 月曜日 宮城へ還啓につき、午後零時二十分天皇と共に那須御用邸を御出門になる。黒磯駅より原宿駅を経て、四時四十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

李鍵公妃誠子昨十四日同公邸において第一公子出産につき、皇后より李鍵公に三種交魚を御贈進になる。この日誕生した公子は、七夜に当たる二十日に沖と命名される。命名当日に、天皇・皇后より李鍵公にお祝いとして白羽二重・酒・鮮鯛を賜う。○女官長日記、侍従職日誌、皇親録、贈賜録、宮内省省報、河井弥八日記

十八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般赴任の関東軍司令官武藤信義に謁を賜う。その際、お言葉がある。ついで同参謀長小磯国昭に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、

河井弥八日記、奈良武次日記、元帥武藤信義

二十六日 金曜日 御夕餐後、那須より帰京の皇子御養育掛塘ミツに謁を賜い、三内親王の様子に關する言上をお聞きになる。○女官長日記、女官日誌

この日、伯爵鹿島萩麿御母幌子の姉故菊 麿王妃常子の子息死去につき、天皇・皇后より盛菓子^{新宿御苑}を下賜される。翌二十七日には、弔問のため、御使として皇后宮事務官永積寅彦を同人邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。さらに、天皇・皇后・皇太后より祭資・榊を下賜される。二十八日に青山斎場において行われる葬送には、皇后宮事務官岡本愛祐を差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、同

昭和七年九月

人死去のこの日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして葡萄酒を下賜される。また、皇后はこの日より五日間服喪される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、皇親録、恩賜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十七日 土曜日 この月上旬沖繩県下において暴風雨による被害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

九月

一日 木曜日 関東大震災九周年に当たり、御昼餐は握り飯をお召し上がりになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

午後、天皇と共に奥御対面所において、北海道より帰京した崇仁親王と御対面になり、挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇親録、河井弥八日記

夕刻、天皇と共に、今般参謀本部付を拝命した雍仁親王、及び同妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記、皇族身分録、河井弥八日記

八月初旬の朝鮮総督府管内における暴風雨、同月二十六日岐阜県恵那郡中津町における豪雨の被害に對し、天皇・皇后より御救恤として、朝鮮総督府及び岐阜県に金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

五日 月曜日 午後、天皇と共に奥宮殿において、那須御用邸より帰京の成子内親王・和子内親王・厚子内親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

七日 水曜日 午後、奥内謁見所において、先に参謀総長として天皇に軍務上奏を終えた載仁親王より御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、奈良武次日記

八日 木曜日 午前、奥内謁見所において、満洲より凱旋の元関東軍司令官本庄繁に謁を賜い、次のお言葉を賜う。

昨年九月満洲事変ノ発生以来毎時機宜ノ行動ヲ執リ陸軍ノ光リヲ発揮シタコトハ洵ニ御苦勞デアリマシタ永々ノ重要ナ任務ヲ終ヘテ今日芽出度凱旋シタノハ本当ニ喜バシク思ヒマスドウカ更ニ自愛シテ御奉公ヲスルヤウニ

ついで元独立守備隊司令官森連・元騎兵第一旅団長吉岡豊輔・元混成第八旅団長村井清規・元関東憲兵隊司令官二宮健市に謁を賜い、慰労のお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、本庄日記、河井弥八日記

九日 金曜日 午後、奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた雍仁親王妃勢津子と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、河井弥八日記

十三日 火曜日 施薬料資金の一部に充当するため帝国劇場において慈善映画の会を開催中の東京慈恵会に、この日、金員を下賜され、観覧券をお買い上げになる。○贈賜録

十五日 木曜日 午前、奥内謁見所において、故菊麿王妃常子と御対面になり、同人の子息伯爵鹿島萩麿死去に伴う喪中お尋ねとして賜物を拝領したお礼の言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、河井弥八日記

旧暦八月十五日につき、御夕餐後、天皇と共に御学問所前の縁側において、お月見の茶会を催される。

当直の側近奉仕高等官が陪席する。皇后は、お手染めの月と秋草模様のお召しになる。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

十六日 金曜日 午後、奥内謁見所において、皇太后御使の権典侍清水谷英子と御対面になり、時節の御機嫌伺いをお受けになる。今般政府が中華民国より独立した満洲国を承認し、昨十五日、日滿議定書が調印されたことにつき、この日、皇太后より天皇・皇后に賀詞をお申し入れになり、また三種交魚をお贈りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、貞明皇后実録正本、官報、河井弥八日記

十七日 土曜日 午後、奥内謁見所において、この日皇后宮大夫兼侍従次長を辞任し、帝室会計審査局長官に任じられた河井弥八に謁を賜い、お言葉を賜う。続いて新任の皇后宮大夫兼侍従次長広幡忠隆に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報、河井弥八日記

十九日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般退官の帝室博物館総長大島義脩に謁を賜い、お言葉を賜う。続いて新任の帝室博物館総長杉栄三郎及び宮内省参事官浅田恵一に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、宮内省省報、河井弥八日記

二十二日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰国の米國駐劄特命全權大使出淵勝次及び同夫人、伊國駐劄特命全權大使吉田茂及び同夫人に謁を賜う。それぞれにお言葉がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報、出淵勝次日記

八月九日及び二十二日の両度にわたり沖繩県下において暴風雨被害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十三日 金曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、内舎人日誌、典式録、儀式録、宮内省省報、官報

二十四日 土曜日 靈元天皇二百年式年祭につき、午前、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、儀式録、典式録、宮内省省報

二十六日 月曜日 御風気のため、午前、臨時帝室編修官長三上参次の講話「明治天皇ト明治廿七八年戦役」昨年十二月十四日以來の第四回の陪聴をお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

三十日 金曜日 和子内親王の誕生日につき、午前、天皇及び和子内親王と共に奥内謁見所において、側近奉仕者総代より祝詞の言上をお受けになる。入御後、お一方にて皇后宮女官長等より祝詞言上をお受けになる。夕刻、天皇及び成子内親王と共に御学問所において内宴を催され、側近奉仕高等官と御夕餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

十月

三日 月曜日 夜、天皇と共に奥内謁見所において、東京日日新聞社及び東京朝日新聞社作製の第十回国際オリンピックロサンゼルスの活動写真を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進献録

五日 水曜日 去る八月下旬台湾総督府管内において暴風雨による被害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を同総督府に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報
来る二十三日より二十五日まで歌舞伎座において慈善演劇会を開催する帝国水難救済会に、金員を下賜され、慈善券をお買い上げになる。○贈賜録

昭和七年十月

六日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任のシヤム国特命全権公使。ピヤ・インドラ・ヴィジツトに謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報
桐ノ間において、今般着任の駐日滿洲国代表鮑觀澄に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

奥内謁見所において、今般ス・ペイン国へ赴任の特命全権公使青木新及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

八日 土曜日 午前十一時、天皇と共に鳳凰ノ間に出御され、この日賢所大前において成年式を済ませた孚彦王の参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の王より謝恩の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。午後、天皇と共に奥宮殿において、孚彦王よりお礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、皇親録、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌
午後、天皇と共に奥内謁見所において、宣仁親王妃喜久子と御対面になり、忌明けのお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

九日 日曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において鳩彦王・同妃允子内親王と御対面になり、孚彦王の成年式終了につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、朝香宮奥日誌

十一日 火曜日 午後、和子内親王と共に、生物学御研究所にお出ましになる。熱帯植物・高山植物等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

北海道庁管内において水害及び凶作の被害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封

を同庁に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十三日 木曜日 午後、天皇と共に奥御進講所において、皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、藤井種太郎日誌

天皇と共に御学問所において、理化学研究所長大河内正敏より「理化学研究ノ応用」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、大河内正敏人とその事業

十四日 金曜日 英国特命全権大使フランス・オズワルド・リンドレーの息女アリス近く結婚につき、皇后宮職御用掛高木多都雄を同大使館に差し遣わされ、御紋付金地吉野山蒔絵提篋筒を賜う。○

侍従職日誌、贈賜録

十七日 月曜日 午前、神嘗祭につき、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日

記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、宮内省省報

十八日 火曜日 正午前、奥内謁見所において、今般スイス国ジュネーブへ出張のトルコ国駐劄特命全権大使吉田伊三郎、国際連盟総会臨時会議代表者松岡洋右、ソビエト連邦より帰国の特命全権大使広田弘毅に謁を賜う。それぞれにお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、

典式録、宮内省省報、官報

十九日 水曜日 午前、桐ノ間において、満洲国特使謝介石に謁見を仰せ付けられる。その際、お言葉を賜う。ついで参進する満洲国外交部次長大橋忠一始め随員十四名に謁を賜う。午後、天皇と共に豊明殿において、特使謝介石のために午餐を催される。この度の来日に際し、満洲国執政溥儀より天皇・皇后に献上品があり、皇后には碧璽十八子珠串・碧璽翠金粉盒が献上される。○女官長日記、女官日

昭和七年十月

誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、外賓参内録、外賓接待録、宮内省省報、官報

来る十一月十五日より一週間、第二回全国児童栄養週間を実施する財団法人中央社会事業協会に、この日、思召しをもつて金一封を下賜される。○贈賜録

二十一日 金曜日 今般、久邇宮家及び親族等により京都皇宮御苑内に故朝彦親王貽範碑が建立されるに当たり、金一封を賜う。○侍従職日誌、贈賜録

二十三日 日曜日 先般より御懐妊の兆候がありであったところ、去る十九日午後より御不例となり、この日夜に流産される。二十五日、宮内省より次のように発表される。

皇后陛下には一両月以来御身体の御様子に御異状を拝しましたので万事に細心の御注意を以て御静養遊ばされましたが最近御平常に復させられ御機嫌よくあらせられます

これにつき、総務課長より次の旨の謹話がある。

近頃世間では或は皇后陛下の御慶事を仰ぐにあらざよとの喜びの期待もある様に察せられますので念の為め別項の如く発表する次第であります

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、木下道雄日記、読売新聞

二十五日 火曜日 去る二十二日石川県能美郡小松町において火災被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として金一封を同県に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十八日 金曜日 この月上旬、小笠原島付近に出漁中の静岡県榛原郡地頭方村の漁船が暴風雨のため遭難し、多数の行方不明者を出したことにつき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を静岡県に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

十一月

三日 木曜日 午後、明治館につき、御洋館において成子内親王と御対面になり、祝詞言上をお受けになる。夕刻、皇后宮女官長等の拝賀をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

十七日 木曜日 この日、御床払いになる。皇太后と御使をお取り交わしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十九日 土曜日 去る十四日より十五日にかけての台風により、関東地方その他に暴風雨又はこれに伴う火災の被害発生につき、天皇・皇后より、特に被害の大きな地域に対する御救恤として、東京府・神奈川県・静岡県・茨城県・千葉県・福島県にそれぞれ被害に応じ金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十日 日曜日 午前、天皇及び成子内親王と共に奥内謁見所において、天皇・皇后お手ずから真珠貝より真珠の摘出を試みられる。真珠貝は、昭和三年七月葉山御用邸において天皇・皇后が真珠商御木本幸吉より提出のものにお手ずから核入れ作業を行われ、爾来伊勢五ヶ所湾の養殖場において成育されたものであり、この日、御木本が持参し、御前にて貝を開く。二十二日、天皇・皇后より御木本に賜品・賜金がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録、奈良武次日記

二十二日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、今般海軍砲術学校を卒業する宣仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。ついで故成久王妃房子内親王・美年子女王^{成久王第一王女}と御対面になり、この日同女王と子爵立花種忠の子息種勝との結婚の儀が勅許されたことにつきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内省省報、官報

昭和七年十一月

二十五日 金曜日 満洲事変における陸軍の傷痍者に対し、この日、思召しをもって繙帯四百八十本を下賜される。○贈賜録、満受大日記

二十七日 日曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において朝融王・同妃知子女王と御対面になり、王より海軍大学校卒業のお礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌

二十八日 月曜日 午前、奥内謁見所において、今般関東軍へ差遣される侍従武官町尻量基に謁を賜い、次の令旨を下される。

将兵一同力天候ノ障碍、補給ノ不便等幾多ノ困難ヲ冒シテ戦闘ニ警備ニ最モ重大ナル任務ニ服シ居ルコト誠ニ苦勞多キコトト察ス

特ニ君国ノ為犠牲トナリタル戦病死傷者ニ対シテハ真ニ氣ノ毒ニ堪ヘス傷病者ハ充分ニ勞ハリ遣ハセ

今ヨリ寒氣愈々厳シキ折柄一同一層身体ヲ大切ニスル様宜シク申伝ヘヨ
町尻は翌二十九日出発、翌八年一月九日に帰京し、同二十一日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

二十九日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日陸軍大学校を卒業した春仁王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、皇族身分録、官報

天皇と共に奥内謁見所において、李鍵公妃誠子及び初参内の李沖と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、皇親録、宮内省省報

天皇と共に奥御対面所において、この日海軍砲術学校高等科を卒業した宣仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、官報

三十日 水曜日 午前、奥内謁見所において、林丘寺門跡の唐橋慈正に謁を賜い、門跡拜命のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十二月

一日 木曜日 関東軍・支那駐屯軍・朝鮮軍のうち満洲事変地にある部隊の軍人・軍属に対し、皇后・皇太后より防寒用として真綿を下賜される。また、第二遣外艦隊・第三艦隊・満洲特設機関・馬公要港部より南支に派遣の艦船、その他軍人・軍属に対し、皇后・皇太后より真綿を下賜される。○贈賜録、満受大日記、公文備考

二日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、昨日日付にて海軍少佐に進級した朝融王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。翌三日午後、天皇と共に奥内謁見所において朝融王と御対面になり、海軍少佐進級のお祝品御贈進についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録

三日 土曜日 歳末恒寒に際し東京府下の官公私立団体が協力して貧困者救済のために診療を実施するに当たり、思召しをもって東京府に金一封を下賜される。○恩賜録、宮内省省報

四日 日曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、去る二日に誕生日を迎えた崇仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和七年十二月

六日 火曜日 成子内親王の誕生日につき、午前、天皇と共に奥宮殿において、皇后宮女官長等の拝賀をお受けになる。その後、お一方にて奥御進講所において、元皇后宮大夫河井弥八に謁を賜う。午後、同所において皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、内親王の様子についての言上をお聞きになる。続いて奥内謁見所において、元皇后宮女官長島津治子に謁を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、呉竹寮日誌

七日 水曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、本日付にて騎兵第十六聯隊中隊長に転補の春仁王陸軍騎兵大尉と御対面になる。十日午後には、天皇と共に春仁王・同妃直子と御対面になる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、皇親録

十日 土曜日 午後、奥内謁見所において、今般帰国の安藤幸に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

十一日 日曜日 臨時久邇宮御用掛角田敬三郎昨十日死去につき、盛菓子を下賜される。また天皇・皇后・皇太后より祭資を賜う。角田は明治二十九年以降、久邇宮の家扶・家令・臨時御用掛を歴任した。○侍従職日誌、贈賜録、貞明皇后実録正本

十三日 火曜日 午前、奥御対面所において、故成久王妃房子内親王と御対面になり、先般の美年子女王降嫁に当たつての贈賜に対するお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十五日 木曜日 去る十一月十四日、関東近海及び福島・宮城両県沖合において暴風雨により多数の船舶遭難につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を逓信大臣に下賜される。○恩賜録、宮内

省省報、官報

天皇・皇后より日本赤十字社病院維持費として金一封を、皇后より日本赤十字社病院救助患者施療費として金一封を下賜される。なお、向寒に際し、思召しをもって日本赤十字社病院・恩賜財団済生会

病院・東京慈恵会医院の各救助収容患者及び財団法人福田会育児院収容者に対し、木綿反物・裏地・裁縫料を下賜される。○贈賜録、事業年報（日本赤十字社）

十六日 金曜日 午後、奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王及び彰常王と御対面になり、王への病氣お尋ねについてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

夕刻、天皇と共に御学問所において、年末に際し慰労の思召しをもって皇太后宮大夫入江為守・皇太后宮事務官西邑清・同清閑寺良貞をお召しになり、侍従長鈴木貫太郎・皇后宮大夫広幡忠隆始め側近奉仕男女高等官、皇子御養育掛長藤井種太郎等と御晩餐を共にされる。御食後、一同に茶菓を供される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、奈良武次日記、藤井種太郎日誌

十九日 月曜日 今般満洲へ派遣の第六師団並びに独立守備隊入営の初年兵に対し、皇后・皇太后より防寒用として真綿を下賜される。○満受大日記

二十日 火曜日 成子内親王誕生日の祝賀去る六日のところ内親王の風気により延期が行われ、午前、天皇と共に奥宮殿におい

て、成子内親王と御対面になる。ついでお揃いにて奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣始め男女側近総代の拝賀をお受けになる。夕刻、天皇及び成子内親王と共に御学問所において内宴に臨まれ、侍従長始め側近奉仕者と御夕餐を共にされる。御食後、余興を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

去る十六日、東京市日本橋区の株式会社白木屋における火災にて多数の死傷者発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を東京府に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十一日 水曜日 午後、奥内謁見所において、美年子女王・佐和子女王・礼子女王と御対面になる。

昭和七年十二月

三女王はその後呉竹寮に移動し、皇后も後刻呉竹寮にお出ましになる。成子内親王始めの出迎えを受けになった後、幸田延のピアノ、安藤幸のヴァイオリン演奏をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、呉竹寮年誌、重要雑録

この日、錦鶏間祇候山之内一次死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。○恩賜録、進退録、宮内省省報

二十二日 木曜日 午前、成子内親王と御対面になる。内親王はこの後、葉山御用邸に出発する。○女官日誌、内舍人日誌

二十三日 金曜日 午後、奥宮殿において、正二位柳原愛子より歳末の祝詞言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夜、天皇と共に奥内謁見所において、日満議定書調印に関する活動写真「敢然承認へ」等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、満洲事変と満鉄

二十四日 土曜日 昨二十三日東京市深川区富川町において火災被害発生につき、この日、天皇・皇后より御救恤として金一封を東京府に下賜される。○恩賜録、宮内省省報、官報

二十六日 月曜日 午前、この日誕生日を迎えた宣仁親王妃喜久子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

午後、天皇と共に元皇后宮女官長島津治子、元皇后宮女官山岡淑子・同青山元子に謁を賜い、歳末の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌

二十七日 火曜日 午後、天皇と共に奥御対面所において、旧女官の園祥子・生源寺伊佐雄・西西子

に謁を賜い、歳末の御機嫌伺いをお受けになる。ついでお一方にて奥内謁見所において、内閣総理大臣夫人斎藤春子・外務大臣夫人内田政子に謁を賜い、歳末の御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録

二十八日 水曜日 午前、天皇と共に奥御対面所において、宣仁親王・同妃喜久子と御対面になり、歳末の祝詞をお受けになる。その間、稔彦王参内につき、天皇と共に奥内謁見所において、御対面になる。稔彦王は今般参謀本部付に転補となり、名古屋より帰京する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、皇族身分録、皇親録

午前十一時四十分御出門、大宮御所に行啓され、皇太后と御昼餐を御会食になる。ついで参殿の雍仁親王妃勢津子と御対面になり、皇太后・雍仁親王妃と共に、常磐会会員三橋敬子・同平木隆子の盆景の製作を御覧になる。午後四時二十分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、行啓録、幸啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

二十九日 木曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、総代の内大臣・宮内大臣・宮内次官・侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長・皇子御養育掛長に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。ついで載仁親王、故依仁親王妃周子、守正王・同妃伊都子、鳩彦王・同妃允子内親王、故邦彦王妃侃子、李鍵公・同妃誠子、恒憲王・同妃敏子、故菊麿王妃常子と順次御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。

午後、皇太后御参内につき、天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に奥御対面所において御対面になり、祝詞をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、貞明皇后実録正本、宮

昭和七年十二月

内省省報、官報、奈良武次日記

三十日 金曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥御対面所において、稔彦王・同妃聡子内親王、朝融王・同妃知子女王、故恒久王妃昌子内親王、故成久王妃房子内親王、李王垠・同妃方子女王、博恭王・同妃経子、永久王と御対面になり、祝詞の言上をお受けになる。午後、お一方にて奥御進講所において、元侍従山県有道に、続いて皇太后宮大夫入江為守に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。

○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

三十一日 土曜日 歳末につき、午前、天皇と共に奥御対面所において、崇仁親王と御対面になる。

正午過ぎ、お一方にて奥宮殿において、元皇后宮大夫河井弥八に謁を賜う。午後、天皇と共に奥御対面所において、雍仁親王・同妃勢津子と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人

日誌、典式録、河井弥八日記

麝香間祇候侯爵蜂須賀正韶この日死去につき、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。これより先、同人の病気に際し、天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。○恩賜録、貞明皇后実録正本、

宮内省省報

この月 御下命により宮城内の桜花五十六種を写生し献上した跡見玉枝に対し、金員・白羽二重を下賜される。○贈賜録

一月

一日 日曜日 新年につき、午前、天皇と共に御学問所において、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。ついで午前十時、拝賀の儀に臨まれる。天皇と共に鳳凰ノ間において雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族の拝賀をお受けになる。以下、新年式に従い、正殿及び西溜ノ間において恒例のとおり拝賀をお受けになる。午前の拝賀の後、天皇と共に奥内謁見所において崇仁親王と御対面になる。翌二日にも拝賀の儀が行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、官報、奈良武次日記、斎藤実日記

二日 月曜日 午前、拝賀の儀の後、お一方にて桐ノ間において、御裳捧持者に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、典式録、宮内省省報、奈良武次日記

三日 火曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、博英王始め未成年皇族の拝賀をお受けになる。ついで、天皇と共に、この日誕生日を迎えた宣仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。続いて故成久王妃房子内親王・故恒久王妃昌子内親王より拝賀をお受けになる。夕刻、お一方にて御常御殿において、鈴木タカ始め元奉仕者に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

四日 水曜日 夕刻、葉山より帰京の皇子御養育掛塘ミツに謁を賜い、成子内親王の様子についての

昭和八年一月

報告をお聞きになる。以後、この年も随時、関係者より内親王方の動静をお聞きになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、吳竹齋日誌

五日 木曜日 正午過ぎより奥内謁見所において、雍仁親王妃勢津子始め皇族妃・王公族妃十六方と内宴を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、秩父宮附日記

午後、天皇と共に奥御対面所において、旧女官の正二位柳原愛子及び園祥子・西西子・生源寺伊佐雄より新年の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

六日 金曜日 午前、奥内謁見所において、久邇宮家の元奉仕者竹田みちほか二名に謁を賜い、新年の祝詞言上をお受けになる。午後、天皇と共に、元皇后宮女官長島津治子・元皇后宮女官山岡淑子に謁を賜う。以後、この年も随時、元奉仕者の拝謁等がある。○女官長日記、女官日誌

新年につき、午後六時より天皇と共に奥御食堂において、雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王・同妃喜久子、崇仁親王と御晩餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、秩父宮附日記、高松宮日記

七日 土曜日 午前、奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

天皇と共に、この日葉山より帰京の成子内親王と御昼餐を御会食になる。以後、この年も随時、皇女と御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 日曜日 午前、奥内謁見所において、徳川実枝子威仁親王の王女に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌
奥内謁見所において、御学友二名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

翌日より葉山行幸啓につき、午後、御使として皇后宮女官津輕理喜子を大宮御所の皇太后の許へ差し遣わされる。その後、皇太后の御使として権典侍山口正子参内につき、奥内謁見所において謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。以後、この年も随時、参内した皇太后御使に謁を賜い、また、天皇・皇后あるいは皇后から大宮御所に御使を差し遣わされる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌

九日 月曜日 午前十一時、天皇と共に鳳凰ノ間において、この日賢所大前において成年式を済ませた博英王の参内朝見の儀に臨まれる。式中、御前に参進の王より謝恩の辞の言上をお受けになり、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、儀式録、皇族身分録、宮内省省報、官報

天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に葉山御用邸に行啓のため、午後一時二十五分御出門、二時五十五分同邸に御到着になる。○女官長日記、女官日記、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十三日 金曜日 午前、陸軍科学研究所より届けられた水中写真機を、侍従武官石田保秀の説明にて天皇と共に御覧になる。○女官日記、侍従日誌、奈良武次日記

午後一時、天皇と共に葉山御用邸表内謁見所において、美年子女王^{成久王第一王女}の帰嫁に伴う参内朝見の儀に臨まれる。御前に参進の女王より謝恩の辞の言上を受けられ、天皇の勅語に続き、懿旨を賜う。後刻、お礼言上のため参邸の故成久王妃房子内親王・永久王^{美年子女王の兄}とお一方にて御対面になる。美年子女王は来る十七日、従五位立花種勝^{子爵立花種忠嗣子}に嫁す。なお婚礼当日には、天皇・皇后・皇太后より女王

昭和八年一月

と永久王にそれぞれ祝賀の賜品がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、典式録、幸啓録、皇族身分録、皇親録、宮内省省報、官報

宣仁親王・同妃喜久子参邸につき、天皇と共に御夕餐を御会食になる。以後、この年も皇族・王公族・

御親族と随時、御対面・御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、高松宮日記

十四日 土曜日 午後、参邸の載仁親王と御対面になり、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官長日記、女

官日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、奈良武次日記

十五日 日曜日 天皇と共に、故成久王妃房子内親王・永久王及び今般帰嫁の美年子女王を葉山御用

邸にお招きになり、御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、典式録、幸啓録

掌典長公爵九条道実^{皇太后の御兄}の病氣重体につき、この夜、天皇・皇后より御使として侍従徳大寺実厚を、

ついで侍医八田善之進を東京の同人邸に差し遣わされるとともに、お尋ねとして五種果物を下賜され

る。翌十六日、皇后より御使として皇后宮女官津軽理喜子を同人邸に差し遣わされ、天皇・皇后の病

気お尋ねの御沙汰を嗣子道秀に伝達させられる。十七日には、天皇・皇后よりお見舞いとして野菜^{葉山産}

を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、重要雑録、進退録、奈良武次日記

十六日 月曜日 満洲及び上海方面における今回の事変により傷痍を受け失眼した者、手足を切断し

た者に対し、思召しをもって義眼・義肢を下賜される。なお、この年は合計二十六回にわたり陸軍・

海軍の傷痍軍人に義眼・義肢・義歯・義顎を下賜される。○贈賜録

十七日 火曜日 午前十時二十分、天皇と共に葉山御用邸を御出門、十一時五十二分宮城に還啓され

る。なお、和子内親王・厚子内親王は三月十八日まで葉山に滞留する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舎人日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、今般朝鮮軍に差遣される侍従武官川岸文三郎に謁を賜い、次の令旨を下される。

軍司令官以下一同力僻遠ノ地ニ在リテ困難ナル勤務ニ服シアルハ苦勞多キコトト察ス殊ニ死傷者ニ対シテハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘス又傷病者ハ良ク勞ハリ遣ハセ今ヤ寒氣厳シキ折柄一層身体ヲ大切ニスル様宜シク申伝ヘヨ

川岸は翌十八日出発、三月八日帰京、十五日に復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報、木下道雄日記

十九日 木曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、講書始の儀に臨まれる。国書は東京帝国大学教授辻善之助より「花園天皇宸記」元応元年十月二十六日条
並三元亨二年九月六日条、漢書は京都帝国大学教授鈴木虎雄より「詩

周頌思文篇」、洋書は帝国学士院会員田中館愛橘より「航空機発達史の概要」と題する進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、儀式録、儀式祭典録、宮内省省報、官報

午前、掌典長九条道実危篤につき、天皇・皇后・皇太后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。またお見舞いのため、皇后は皇后宮女官津軽理喜子を御使として九条邸に差し遣わされる。午後一時二十五分、九条の死去が発表される。天皇・皇后・皇太后より御紋散文台硯箱を、お三方それぞれより祭資を下賜される。夕刻には皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐が弔問のため九条邸に差し遣わされる。ついで二十三日、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を差し遣わされ、櫛を賜い、玉串を柩前にお供えになる。また二十四日の葬送には皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎を邸内葬齋場に差

昭和八年一月

し遣わされ、玉串をお供えになる。

この日、皇太后へのお悔やみのため、天皇・皇后より御使として皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされる。

また、天皇・皇后は、雍仁親王・同妃勢津子、恒徳王、宣仁親王妃喜久子、及び側近奉仕者より九条道実死去についての御機嫌伺いをお受けになる。翌二十日以降も皇族・王公族等より御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、恩賜録、重要雜録、宮内省省報、官報

二十日 金曜日 午前、皇后宮職御用掛加藤虎之亮より、漢文の進講をお聴きになる。以後、この年は、月曜日または金曜日を定例として、同人より三十三回にわたり進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、加藤虎之亮關係資料

二十一日 土曜日 午前十時、天皇と共に鳳凰ノ間において、歌会始の儀に臨まれる。この年のお題は「朝海」であり、皇后宮御歌は次のとおり。

皇后宮御歌

はつ日かけ海よりいつるのとけさに年も心もあらたまりけり

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、御歌録、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

午後、奥内謁見所において、侍従武官町尻量基に謁を賜い、満洲軍隊慰問の復命をお受けになる。その後、候所において町尻武官持ち帰りの写真・写真帖を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十三日 月曜日 午前、奥内謁見所において、満洲より凱旋の第二師団長多門二郎に謁を賜う。多門師団長より満洲出張中の警備状況をお聞きになり、お言葉を賜う。ついで歩兵第三十八旅団長依田

四郎に謁を賜い、満洲の状況につき奏上を受けられ、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録、奈良武次日記

二十八日 土曜日 午前、奥内謁見所において、この日掌典長に任じられた三条公輝に謁を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、宮内省省報、官報

三十日 月曜日 午後、呉竹寮にお出ましになり、風気にて静養中の成子内親王の様子を御覧になる。

以後、この年は、概ね土曜日・日曜日に同寮にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二月

二日 木曜日 大聖寺・宝鏡寺・曇華院・光照院・円照寺・林丘寺・靈鑑寺・中宮寺・瑞竜寺・三時知恩寺・禅智院・水薬師寺・長福寺・善光寺に乾海苔を下賜される。○贈賜録

十日 金曜日 今般満洲に増派の兵員に対し、防寒用として皇后・皇太后より真綿を下賜される。○

重要雑録、満受大日記

十一日 土曜日 午前、紀元節祭につき、賢所・皇靈殿・神殿において御拝礼になる。その後、天皇と共に御学問所において、皇族・王公族、側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。夕刻、皇靈殿御神楽の儀につき、御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、祭祀録、儀式録、典式録、宮内省省報、官報

十三日 月曜日 午後零時三十分、天皇と共に豊明殿において、今般離任帰国のソビエト連邦特命全権大使アレクサンドル・トロヤノフスキー及び同夫人のため午餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍

昭和八年二月

従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

午後、翌十四日葉山御用邸に出発の成子内親王参内につき、天皇と共に御対面になる。○女官長日記、女

官日誌、侍従日誌、内舍人日誌

鍋島紀久子鳩彦王の王女に謁を賜い、先般の病氣お尋ねに対するお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十五日 水曜日 夕刻、奥内謁見所において、新任の宮内大臣湯浅倉平、及び前任の宮内大臣一木喜

徳郎にそれぞれ謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、宮内省省報、官報

二十日 月曜日 去る十四日、博義王妃朝子が伏見宮邸において第二王女を出産する。誕生した王女は、七夜に当たるこの日、令子よしこと命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より博義王に白羽二重・

酒・鮮鯛を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、皇族身分録、皇親録、宮内省省報、官報

二十一日 火曜日 午前、仁孝天皇例祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、祭祀録、儀式録、宮内省省報、官報

二十二日 水曜日 夕刻、奥内謁見所において、前宮内大臣一木喜徳郎に謁を賜い、お手ずからお品

を賜う。ついで天皇と共に御学問所において、一木及び新任の宮内大臣湯浅倉平ほか五名と御晚餐を共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、恩賜録、宮内省省報

二十三日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般ドイツ国へ赴任の特命全権大使永井松三に謁を

賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報

午後、天皇と共に御学問所において、大日本連合青年団常任理事田沢義鋪より「青年団ニ就テ」と題

する講話をお聴きになる。三月二日、田沢よりこの続きの講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

二十四日 金曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、

礼子女王<sup>故恒久王
第一王女</sup>の結婚内許についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十五日 土曜日 午後、奥内謁見所において、新宮内次官大谷正男・前宮内次官関屋貞三郎・新内

蔵頭白根松介・新内匠頭木下道雄ほか一名に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、宮内省省

報、官報、木下道雄日記

二十七日 月曜日 夕刻、奥内謁見所において、前宮内次官関屋貞三郎に謁を賜い、お手ずからお品

を賜う。ついで天皇と共に御学問所において、関屋及び新任の宮内次官大谷正男ほか四名と御晚餐を

共にされる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内省省報、官報、関屋貞三郎日記

二十八日 火曜日 午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥宮殿において御対面になり、ついで御

昼餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省

省報、官報

三月

一日 水曜日 満洲事変傷痍者に思召しをもって繙帯六百本を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従

職日誌、満受大日記

昭和八年三月

三日 金曜日 未明、宮城県金華山東方沖合の太平洋を震源とする強い地震がある。地震に伴う大津波の襲来により東北地方太平洋沿岸及び北海道襟裳付近に甚大な被害が発生し、翌四日、天皇・皇后より岩手県・宮城県・青森県・北海道庁にそれぞれ被害に応じ御救恤金を下賜される。また天皇・皇后より侍従大益次郎を岩手・宮城・青森の各県に差し遣わされる。大金は四日夜出発、十二日帰京、十五日震災地の状況につき復命する。また四月一日には、皇后より北海道庁管下の罹災した六十歳以上の孤独者、岩手県下の罹災傷病者並びに六十歳以上の孤独者・十四歳未満の孤独者、宮城県下の罹災傷病者並びに六十歳以上の孤独者・十四歳未満の孤独者、青森県下の罹災傷病者に、それぞれ綿ネル・裁縫料を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、恩賜録、視察録、重要雜録、宮

内省省報、官報

四日 土曜日 午後、三陸地方震災地に御差遣の侍従大益次郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌

六日 月曜日 満三十歳のお誕生日を迎えられる。

午前、奥内謁見所において、成子内親王・和子内親王・厚子内親王の使者として葉山御用邸より参内した皇子御養育掛長藤井種太郎、続いて内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官の拝賀をお受けになる。ついで桐ノ間入口の外において皇族付武官・御用取扱の拝賀をお受けになった後、桐ノ間において、雍仁親王・同妃勢津子始め皇族・王公族、続いて大勲位以下公爵以上・宮内勅任官・同待遇及びその夫人の拝賀をお受けになる。その後、西溜ノ間において宮内奏任官・同待遇の拝賀をお受けになる。正午過ぎ、天皇と共に祝御膳をお召し上がりになる。

午後、奥内謁見所において、元皇后宮女官長島津治子、元奉仕者の鈴木タカ・曾根ナツ、御学友及び

御同級生二名に謁を賜う。ついで御座所において、鳩山薫のラジオ婦人講座「国母陛下の御誕辰を寿ぎ奉りて」をお聴きになる。その後、奥内謁見所において、永久王と御対面になる。夕刻、内宴が催され、天皇と共に御学問所において、内大臣・宮内大臣始め側近奉仕高等官と御夕餐を共にされる。

ついで天皇と共に奥内謁見所において、側近奉仕者の吹き込みによるレコード、続いて映画を一同とお楽しみになった後、申ノ口にお出ましになり、福引の余興を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、呉竹寮日誌、典式録、進退録、藤井種太郎日誌

七日 火曜日 午前、桐ノ間において、今般来日の米国海洋学者トーマス・ウェーランド・ヴォーン及び同夫人に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

八日 水曜日 祐子内親王五年式年祭につき、午前、天皇と共に奥内謁見所において、側近奉仕者総代より御機嫌伺いをお受けになる。豊島岡墓地における祭典では、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。天皇・皇后より墓所に色花を、またそれぞれより榊をお供えになる。○女官長日記、女

官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、祭祀録、重要雑録、儀式録、宮内省省報

九日 木曜日 午後、天皇と共に御学問所において、東京帝国大学教授塩谷温より「欧米ヲ視察シテ」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、進講録

十一日 土曜日 午前、生物学御研究所の横において、侍従武官川岸文三郎の説明にて間島臨時派遣隊長池田信吉より献上された白鹿を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進献録、侍従武官府歴史

十三日 月曜日 午前十一時三十分御出門、天皇と共に大宮御所に行啓される。皇太后と御昼餐を御

昭和八年三月

会食になった後、デッキゴルフ等をされる。午後四時十三分還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、

侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十四日 火曜日 午前、帝室博物館鑑査官秋山光夫より、日本美術史についての進講をお聴きになる。

雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子が陪聴する。以後、七月二十五日まで十三回にわたり、同人よ

り日本美術史についての進講をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

十五日 水曜日 午後、侍従大金益次郎に謁を賜い、津波を受けた三陸地方の惨状についての報告を

お聞きになる。○女官長日記、女官日誌

十七日 金曜日 満洲事変傷痍者に思召しをもつて繙帯三百本を下賜される。○侍従職日誌、満受大日記

十八日 土曜日 午後、奥内謁見所において、九州における愛国婦人会支部総会等に臨場する故依仁

親王妃周子愛国婦人会総裁と御対面になり、暇乞いの挨拶をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、愛国

婦人会四十年史

二十日 月曜日 午前、桐ノ間において、ソビエト連邦特命全權大使コンスタンティン・ユレネフ及

び同夫人に謁見を仰せ付けられる。午後零時三十分、天皇と共に豊明殿において、ユレネフ夫妻のた

め午餐を催される。御食後、牡丹ノ間において茶菓を供される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日

誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十一日 火曜日 午前、春季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けら

れる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

二十七日 月曜日 午前、奥内謁見所において、稔彦王妃聡子内親王、並びに盛厚王稔彦王の王子・彰常王同

と御対面になる。今般学習院中等科第四学年を修了して陸軍士官学校予科に入学した盛厚王、及び学習院初等科を卒業した彰常王より、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、内舍人日誌、官報

二十八日 火曜日 女子学習院卒業式に御臨席のため、午前九時御出門、同院に行啓される。御到着後、便殿において雍仁親王妃勢津子・宣仁親王妃喜久子・春仁王妃直子・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・故恒久王妃昌子内親王・李王塚妃方子女王と御対面になる。ついで宮内大臣湯浅倉平・女子学習院長長屋順耳・内大臣牧野伸顕・文部大臣鳩山一郎・宮内次官大谷正男に謁を賜う。続いて在学する湛子女王・多恵子女王・美智子女王・治憲王と御対面になる。その後、式場に臨御される。式中、証書・恩賜品・寄贈品の授与、院長の式辞、宮内大臣告辞、卒業生総代の謝辞、「金剛石」の唱歌がある。終わって各陳列室において学生の成績品を御巡覧になった後、再び便殿において長屋院長に謁を賜う。なお、皇后宮大夫より院長に賜物が伝達される。午後零時二十五分還啓される。○女官

長日記、女官日記、侍従職日誌、内舍人日誌、行啓録、幸啓録、宮内省省報、官報、女子学習院関係資料

奥内謁見所において、結婚後初参内の立花種勝及び同夫人美年子に謁を賜う。夫妻に五種交魚を賜う。

○女官長日記、侍従職日誌、贈賜録

三十日 木曜日 この日、錦鶏間祇候浅田徳則死去につき、天皇・皇后より祭資を下賜される。○侍従職日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

三十一日 金曜日 皇太后沼津行啓につき、奉送のため皇后宮女官津軽理喜子を東京駅に差し遣わされる。○女官長日記、女官日記、侍従職日誌、重要雑録、貞明皇后実録正本、官報

昭和八年四月

四月

三日 月曜日 午前、神武天皇祭につき、皇霊殿において御拝礼になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、祭祀録、儀式録、宮内省省報、官報

五日 水曜日 午前、奥内謁見所において、今般第三艦隊及び第二遣外艦隊並びに満洲所在海軍部隊に御差遣の侍従武官出光万兵衛に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令長官以下一同カ時局多端ノ際困難ナル警備ノ任務ニ服シアルコトヲ誠ニ苦勞ニ思フ氣候風土異ナル地ナレハ各自一層身体ヲ大切ニシテ勤務スル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ好ク勞ハリ遣ハセ

出光は五月三十一日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録

この日、厚子内親王の誕生日祝賀行事が行われ、正午前、天皇及び同内親王と共に奥内謁見所において、内大臣・宮内大臣・侍従長・侍従武官長等の拝賀をお受けになる。午後六時より、天皇及び成子内親王と御学問所において、祝賀の御晚餐に臨まれる。厚子内親王は御晚餐開始前に一同からお辞儀を受けて退出 誕生日当日の三月七日は

厚子内親王が葉山御用邸に滞在中であったため、祝賀行事はこの日行われた。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、侍従武官府歴史、奈良武次日記

六日 木曜日 午前、奥内謁見所に出御され、中華民国より帰国の特命全権公使重光葵に謁を賜う。

昨年上海の天長節祝賀式場における爆弾投擲事件により右足を負傷した重光に対し、労いのお言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報、重光葵外交回想録

奥内謁見所において、前任の侍従武官長奈良武次・新任の侍従武官長本庄繁に謁を賜う。○女官長日記、

女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、進退録、侍従武官府資料、侍従武官府歴史、官報、奈良武次日記、本庄繁日記

七日 金曜日 夕刻、奥内謁見所において前侍従武官長奈良武次に謁を賜い、後備役編入と退職に伴う賜物に対するお礼言上を受けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雑録、奈良武次日記

八日 土曜日 午後、奥内謁見所において、三条西信子御妹・同息女淑子と御対面になる。淑子の女子

学習院前期第一学年入学につき、賜物拝領のお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌

十日 月曜日 夕刻、奥内謁見所において、この日主馬頭を免ぜられた西園寺八郎に謁を賜う。○女官

長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録、宮内省省報、官報

十二日 水曜日 午前、奥内謁見所において、新任の主馬頭杉村愛仁に謁を賜う。○女官長日記、女官日

誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進退録、宮内省省報、官報

十三日 木曜日 天皇と共に御学問所において、前侍従武官長奈良武次・新侍従武官長本庄繁を招いての御晩餐を催される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録、侍従武官府歴史、奈良

武次日記、本庄繁日記

十四日 金曜日 この日、朝融王御兄妃知子女王内着帯につき、天皇・皇后より三種交魚を御贈進にな

る。また、久邇宮家より天皇・皇后に鮮鯛の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

十五日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、出産後初めて参内する博義王妃朝子と御対面になる。天皇・皇后より同妃に友禪・万那料・お品を御贈進になる。また、同妃より天皇・皇后に五種交魚の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

昭和八年四月

奥宮殿において天皇・成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に、万国婦人子供博覧会芝会場で公演中のハーゲンベック・サーカスの模様に関する活動写真を御覧になる。夜、天皇と共に続きの活動写真を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、内舍人日誌、呉竹寮日誌、本庄繁日記、上野動物園百年史、読売新聞

二十日 木曜日 雨天のため、観桜会をお取りやめになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、典式録、観桜会録

二十三日 日曜日 今般徳川実枝子^{宣仁親王妃喜久子の母}重体につき、お慰めの思召しをもつて宣仁親王妃喜久子をお招きになる。午前、奥内謁見所において御対面になった後、花蔭亭において天皇及び和子内親王・

厚子内親王も交えて御昼餐を御会食になる。午後、親王妃と共に御散策になる。なお、去る十五日、徳川実枝子の東京帝国大学医学部附属医院塩田外科への入院に際して、天皇・皇后より同人にお尋ねとして果物を下賜され、二十一日には、天皇・皇后より病氣お尋ねとしてアイスクリーム・メロンを下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

二十四日 月曜日 午前、桐ノ間において、今般帰任の駐日満洲国代表鮑觀澄に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十五日 火曜日 午後、天皇と共に御学問所において、東京帝国大学教授柴田桂太より「植物生理ニ関スル二三軌近ノ知見ニ就テ」と題する講話をお聴きになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、進講録

この日、徳川実枝子死去につき、天皇・皇后より、沖縄県において聯合艦隊演習に参加中の宣仁親王

に弔電をお送りになる。翌二十六日には、天皇・皇后の御使として皇后宮女官長竹屋志計子を高松宮邸に差し遣わされ、ついで天皇・皇后の弔問使として同女官長を徳川邸に差し遣わされる。二十七日には、天皇・皇后より盛菓子を下賜される。二十八日には、天皇・皇后・皇太后より祭資を下賜される。なお、去る二十四日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして竹屋皇后宮女官長を同人入院中の東京帝国大学医学部附属医院塩田外科に差し遣わされ、花卉^{新宿御苑産}・三鉢・洋菓子・アイスクリームを下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報、高松宮日記

二十六日 水曜日 午前、奥内謁見所において、京都在住華族総代の子爵萩原貞振に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

二十七日 木曜日 別格官幣社靖国神社において臨時大祭挙行につき、午前十時三十五分御出門、同社に行啓され、本殿において御拝礼になる。十一時五分還啓される。なお、この度の臨時大祭挙行に際し、天皇・皇后より同社に祭資を下賜される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、幸啓録、行啓録、儀式祭典録、宮内省省報、官報

二十八日 金曜日 午後、奥内謁見所において、今般スイス国ジュネーブより帰国の国際連盟総会臨時会議代表者松岡洋右に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、典式録、

宮内省省報、官報

二十九日 土曜日 天長節につき、午前、成子内親王より祝詞言上をお受けになる。ついで奥内謁見所において、宮内大臣・宮内次官・侍従長・皇后宮大夫・侍医頭・侍従武官長・皇子御養育掛長の拝賀をお受けになり、続いて皇后宮女官長以下の拝賀をお受けになる。正午過ぎ、皇太后宮御休所にお

昭和八年五月

いて雍仁親王と御対面になる。ついで奥内謁見所において、皇族妃・王公族妃と内宴を催される。御食後、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に奥御対面所において、崇仁親王、旧女官の千種任子・園祥子・西西子・生源寺伊佐雄、元皇后宮女官長島津治子、元皇后宮女官山岡淑子の拝賀をお受けになる。ついで天皇と共に奥御座所において、元奉仕の侍女・出仕に謁を賜う。夕刻、天皇及び三内親王と共に奥御食堂において、御夕餐を御会食になる。なお、この日予定されていた御学問所における恒例の内宴は、去る二十五日に宣仁親王妃喜久子の母徳川実枝子死去につき、延期される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

五月

一日 月曜日 午前、奥内謁見所に出御され、今般ロンドン国際経済会議の予備交渉のため米国へ出発の帝国政府特派委員石井菊次郎・同深井英五・同顧問門野重九郎に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省省報、官報、枢密院高等官履歴、石井子爵日記

五日 金曜日 午前十時御出門、憲法記念館に行啓され、日本赤十字社第四十一回通常総会に御臨席になる。御着後、便殿において総裁載仁親王・雍仁親王妃勢津子・故依仁親王妃周子・博恭王妃経子・博義王妃朝子・恒憲王妃敏子・故邦彦王妃倪子^母・守正王妃伊都子・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王・春仁王妃直子・李王塚妃方子女王と御対面になる。ついで社長徳川家達より報告書その他の書類の奉呈をお受けになり、社業の現況に関する言上をお聞きになる。続いて社員に謁を賜う。その後、会場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に日本赤十字社第四十一回総会に臨み本社の経営施設愈整備進展せるを見るを喜ぶ殊に満洲事
變の發生以来多数の救護班を派遣し克く其の任務を尽し以て奉公の精神を発揚したるは偏に総裁
以下各員努力の致す所にして深く其の労を多とす惟ふに方今内外の時局多端にして本社の責務亦
一段の重きを加ふ社員一同宜しく協心一致事業の伸長を期せむことを望む

総裁載仁親王の奉答をお受けになる。閉会后、同所を御出發、赤坂離宮に向かわれる。御着後、先着
の和子内親王と御昼餐を御会食になり、午後は御内庭を散策される。

三時赤坂離宮を御出發、再び憲法記念館に行啓され、愛国婦人会第三十二回通常総会に御臨席になる。
御着後、便殿において総裁故依仁親王妃・名誉會員雍仁親王妃・博恭王妃・博義王妃・恒憲王妃・故
邦彦王妃・守正王妃・鳩彦王妃・稔彦王妃・李王垠妃と御対面になる。ついで會長本野久子より報告
書その他の書類の奉呈をお受けになる。続いて副會長水野満寿子・内務大臣山本達雄・陸軍大臣荒木
貞夫以下諸員に謁を賜う。その後、会場に臨御され、次の令旨を賜う。

茲に愛国婦人会第三十二回総会に臨み親しく各員を見るを喜ぶ本会は総裁以下一致の努力に頼り
基礎漸く鞏く成績次第に挙り殊に前年来重大なる時局に処して婦人報国の責務を果し以て其の使
命を完うせんとしつゝあるは深く満足する所なり

會員宜しく協心戮力益々事業の發展を期すべし

総裁故依仁親王妃の奉答をお受けになる。四時七分還啓される。直ちに参内の総裁故依仁親王妃と御
対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、幸啓録、行啓録、宮内省

省報、官報、日本赤十字社史続稿、事業年報（日本赤十字社）、愛国婦人会四十年史

昭和八年五月

この日、満洲事変傷痍者へ思召しをもつて繙帯六百本を下賜される。○満受大日記

八日 月曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕始の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

九日 火曜日 午後、支那駐屯軍に状況実視のため御差遣の侍従武官阿南惟幾に謁を賜い、次の令旨を下される。

司令官以下一同力時局多端ノ際困難ナル任務ニ服スルコトハ容易ナラヌ苦勞ト思フ殊ニ今次ノ事
變ニ於ケル死傷者ニ対シテハ誠ニ氣ノ毒ニ堪ヘス尚暑サニ向フ折柄各自一層身体ヲ大切ニスル様
宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ好ク勞ハリ遣ハセ

阿南は十一日出発、六月一日帰京し、同月五日復命する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十一日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般帰国の国際連盟帝国事務局長特命全權公使沢田節藏及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、拝謁参拝録、典式録、例規録、宮内省省報、官報

十五日 月曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌
夕刻、奥御対面所において、沖繩方面における聯合艦隊演習より帰還の宣仁親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、高松宮日記

十八日 木曜日 午前、桐ノ間において、今般着任の初代満洲国特命全權公使丁士源に謁見を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、省中日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十二日 月曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「第六十四議會ノ少年立法」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。以後、当分の間、毎週月曜日に継続されることとなる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

二十三日 火曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十四日 水曜日 午後、東京慈恵会總會開催につき、御名代として故邦彦王妃倪子を差し遣わされる。後刻、奥内謁見所において、倪子より復命をお受けになる。また、同会総裁故恒久王妃昌子内親王と御対面になり、御名代御差遣につきお礼言上をお受けになる。なお、總會開催に当たり、東京慈恵会医院の入院患者にお菓子料を下賜される。

皇后の東京慈恵会行啓について、今後、病院の巡視はお取りやめになり、還啓後に女官に施療状況を巡視させられることとなり、翌昭和九年よりこの原則が施行されることとなる。また、御名代を御差遣になる場合においても、御名代による病院の巡視を廃止し、女官が施療状況を巡視することとなる。

この原則はこの年から施行され、皇后宮女官津軽理喜子・同東貞子を差し遣わされ、御名代の故邦彦王妃倪子の帰還後、総裁故恒久王妃昌子内親王と共に病院を巡視させられる。○女官長日記、女官日誌、侍

従職日誌、省中日誌、皇親録、行啓録、例規録、官報

吳竹寮にお出ましになり、旧本丸跡にて行われる天覧馬術を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十五日 木曜日 午前、桐ノ間において、ドイツ国特命全權大使エルンスト・アルツール・フォレットチ及び同夫人に謁見を仰せ付けられ、賜暇帰国の暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌

昭和八年六月

侍従職日誌、内舎人日誌、謁見録、典式録、宮内省省報、官報

二十九日 月曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「大津事件の回顧（一）」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、穂積家文書

午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、蚕に桑をお与えになる。また天蚕を御巡覧になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従職日誌

夕刻、御学問所において、延期されていた天長節の内宴が催され、天皇及び成子内親王・和子内親王と共にお出ましになる。内大臣・宮内大臣始め側近奉仕者が出席する。御晚餐の後、一同と共に表内謁見所において、活動写真「銀界縦走」を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、典式録

この日、満洲事変傷痍者へ思召しをもつて繡帯千二十本を下賜される。○侍従職日誌、満受大日記

三十一日 水曜日 皇后より義眼・義肢を下賜された、満洲事変による傷痍者の写真が、陸軍大臣より皇后宮大夫を通じて奉呈される。六月・十月にも陸軍大臣より写真が奉呈される。○贈賜録

六月

二日 金曜日 病氣療養中の邦芳王昨一日伏見宮中野別邸において薨去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮女官長竹屋志計子を同邸に差し遣わされる。翌三日には、正寝移柩の儀につき、天皇・皇后・皇太后よりそれぞれ盛菓子をお供えになる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。五日には、皇后より衾を賜い、また靈代安置の儀につき、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を同

邸に差し遣わされ、玉串をお供えになる。六日には、斂葬当日柩前祭の儀につき、皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎を同邸に差し遣わされ、玉串をお供えになり、ついで葬場の儀につき、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を葬斎場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、去る五月三十一日、同人の病気に際して天皇・皇后よりお尋ねとして五種果物を御贈進になり、六月一日には、同人の危篤に際して天皇・皇后より侍医高橋信を同邸に差し遣わされ、葡萄酒を御贈進になる。

邦芳王は、故貞愛親王の第二王子で、母は幟仁親王第四王女の利子女王である。享年五十四。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族身分録、重要雑録、皇親録、墓誌銘録、宮内省省報、官報

五日 月曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「大津事件の回顧（二）」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

七日 水曜日 午後、沼津より皇太后還啓につき、御奉迎のため皇后宮女官津軽理喜子を東京駅に差し遣わされる。夕刻、皇太后御使として皇太后宮大夫入江為守参内につき、天皇と共に謁を賜う。○

女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、例規録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

八日 木曜日 午後、和子内親王・厚子内親王と共に、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

夕刻、天皇と共に奥内謁見所において、この日新邸白金台町に移転した鳩彦王御父邦彦王の弟・同妃允子内親王と御対面になり、賜物についてのお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、宮内

省省報、官報、朝香宮奥日誌

十二日 月曜日 正午前、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になり、御昼

昭和八年六月

餐を御会食になる。午後、お揃いにて紅葉山御養蚕所にお出ましになり、和子内親王・厚子内親王を交えて蚕の飼育状況を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、

貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十五日 木曜日 午前、奥内謁見所において、今般スイス国より帰国の特命全権公使杉村陽太郎前国際
連盟事

務局事務次長及び同夫人に謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、拝謁参拝録、典式録、宮内省

省報、官報

午後、天皇と共に奥内謁見所において、徳川実枝子死去に伴う第一期喪明けにつきお礼言上のため参内した宣仁親王妃喜久子と御対面になる。皇后より同妃にお品の御贈進があり、また、同妃より天皇・皇后に果物の献上がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、重要雑録

十七日 土曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日、故恒久王の第一王女礼子女王と従五位佐野常光との結婚の儀が勅許される。午後、天皇と共に奥内謁見所において、故恒久王妃昌子内親王・礼子女王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。

○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇族身分録、宮内省省報、官報

十九日 月曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「思想問題概観（一）」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

二十二日 木曜日 スウェーデン国皇族カール来日につき、天皇・皇后より御使として侍従甘露寺受長を同国公使館に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、外賓接待録

天皇と共に、昨二十一日侍従職御用掛と皇后宮職御用掛を免ぜられた帝室会計審査局長官河井弥八に

謁を賜い、在職中のお礼言上をお受けになる。○進退録、典式録、宮内省省報、官報、河井弥八日記

二十五日 日曜日 皇太后のお誕生日につき、午前、天皇と共に奥宮殿において、側近奉仕高等官総代の侍従長・皇后宮大夫に謁を賜い、祝詞の言上をお受けになる。ついで皇后より皇后宮大夫を大宮御所に差し遣わされる。後刻、皇太后御使の典侍竹屋津根子より御答礼をお受けになる。○女官長日記、

女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、典式録、貞明皇后実録正本

午後、天皇と共に奥内謁見所において、この日誕生日を迎えた雍仁親王と御対面になり、お礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

二十六日 月曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「思想問題概観（二）」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、穂積家文書

三十日 金曜日 午後、紅葉山御養蚕所にお出ましになる。東京高等学校校長本多岩次郎の説明により、製糸状況・吹留真綿の製作等を御覧になる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

この日、総務課長鹿兒島虎雄より、七月十二日から天皇・皇后が葉山御用邸に行幸啓されること、皇后には最近御吉慶の兆候があるため御用邸御滞在中は御静養になる予定であること等が非公式に発表される。○侍従日誌、皇親録、東宮御誕生録、読売新聞

七月

三日 月曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より、「独裁政治の傾向」と題する進講をお聴きになる。雍仁親王妃勢津子が陪聴する。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

昭和八年七月

四日 火曜日 午前、奥内謁見所において、今般凱旋の元第二遣外艦隊司令官津田静枝に謁を賜い、お言葉を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、典式録、官報

七日 金曜日 午前、紅葉山御養蚕所にお出ましになり、御養蚕納の儀を行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

八日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、元宮内次官関屋貞三郎に謁を賜い、社会情勢に対する所感等につき言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、関屋貞三郎日記

十一日 火曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、新任の皇后宮職御用掛錦織良子に謁を賜う。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌

天皇と共に奥内謁見所において、鳩彦王・孚彦王と御対面になり、孚彦王の陸軍士官学校卒業につきお礼言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、皇族身分録、贈賜録、官報、朝

香宮奥日誌

十二日 水曜日 天皇と共に葉山御用邸に行啓のため、午前九時二十五分御出門、十一時八分御到着になる。先に避暑中の和子内親王・厚子内親王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十五日 土曜日 昨六月下旬よりこの月初旬にかけて朝鮮総督府管内において豪雨被害発生につき、

天皇・皇后より同総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十日 木曜日 故邦芳王五十日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐を権舎及び墓所に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より霊前に盛菓子を、墓所に榊をお

供えになる。○女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、幸啓録、宮内省省報、官報

二十二日 土曜日 午後、内大臣牧野伸顕に謁を賜う。○女官日誌

二十三日 日曜日 この日、京都市において錦鶏間祇候李家隆介死去につき、天皇・皇后より祭資を

下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十六日 水曜日 午前、宮内大臣湯浅倉平に謁を賜う。続いて宮内省部局長総代の内蔵頭白根松介・

参事官浅田恵一に謁を賜い、暑中の御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、省中

日誌、幸啓録

二十七日 木曜日 午前、天皇と共に李鍵公・同妃誠子と御対面になり、陸軍騎兵学校卒業につきお

礼言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、王公族録、幸啓録

二十八日 金曜日 午前七時四十五分に元帥陸軍大将男爵関東軍司令官武藤信義の死去発表につき、この日、

皇后より皇后宮大夫を通じて関東軍参謀長宛てに弔電をお送りになる。武藤の遺骸が着京七月三十日 満洲国発した

八月三日には、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官永積寅彦を同人邸に差し遣わされる。六日

には、皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎を差し遣わされ、柩を下賜され、玉串をお供えになる。

さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。七日に日比谷公園内葬斎場において行われる葬送には、

皇后宮使として大金事務官を差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、去る七月二十六日、同人の

病氣重体に際して皇后より皇后宮大夫を通じてお見舞いの電報をお送りになり、天皇・皇后よりお尋

ねとして果物を下賜され、二十七日には、同人の危篤に際して天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を

下賜される。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、幸啓録、重要雑録、侍従武官府資料、宮内省省報、官報

昭和八年八月

三十日 日曜日 午前、明治天皇例祭につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。

○女官長日記、侍従職日誌、省中日誌、典式録、儀式録、宮内省省報

夕刻、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に汐見御茶屋前の磯先にお出ましになり、侍従武官小林謙五の説明により、御用邸沖に投錨中の第三潜水戦隊の艦船九隻を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、侍従武官府歴史、呉竹寮日誌

三十一日 月曜日 午後、天皇と共に澄宮御養育掛長田内三吉に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録

八月

一日 火曜日 午前、天皇と共に汐見御茶屋前の海岸にお出ましになり、葉山沖合を航行中の第四艦隊を御覧になる。天皇が海洋生物の御採集に出発された後も皇后はお残りになり、航空母艦艦上機による編隊特殊飛行等を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、幸啓録、侍従武官府歴史、本庄繁日記

二日 水曜日 午前、昨日付にて近衛歩兵第二聯隊長に転補の前侍従武官阿南惟幾に謁を賜う。○

女官日誌、官報

三日 木曜日 午後、新任の侍従武官中島鉄蔵に謁を賜う。○女官日誌、官報

九日 水曜日 この日関東防空演習の予行につき、葉山御用邸においても午後八時二十分より四十分まで灯火管制が実施される。その間、皇后は短時間お庭にお出ましになり、飛行機を御覧になる。翌十日夜の演習では、天皇と共に、空襲警報と同時に御座所の消灯を行われ、汐見御茶屋にお出ましに

なり、鎌倉方面より三浦半島西岸一帯の灯火管制状況を御覧になる。○女官日誌、侍従日誌、内舎人供奉日誌、幸啓録、侍従武官府資料、本庄繁日記、本庄日記

十二日 土曜日 午後、宮内省御用掛磐瀬雄一の拝診をお受けになり、御懐妊五箇月で経過は御順調

である旨の言上をお受けになる。この旨は宮内大臣謹話として発表される。夕刻、天皇と共に、側近奉仕者総代の皇后宮大夫広幡忠隆・侍従武官長本庄繁の祝詞言上をお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、皇親録、東宮御誕生録

十四日 月曜日 午後、内大臣牧野伸顕・元宮内大臣一木喜徳郎に謁を賜い、御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、幸啓録

今般広島・熊本・姫路各衛戍病院に御差遣の侍従武官川岸文三郎、同じく東京第一・旭川・弘前・宇都宮各衛戍病院に御差遣の侍従武官石田保秀に謁を賜い、次の令旨を下される。

今回ノ事変ニ於テ負傷シ又ハ病氣ニ罹リタル者ハ洵ニ氣ノ毒ニ思フ氣候モ暑イ折柄各自充分大切ニスルヤウ又掛リノ者ハ能ク氣ヲツケテ労ハリ速ニ快復セシムルヤウ宜シク申伝ヘヨ

川岸は二十九日に帰京、三十一日に復命する。石田は二十三日に帰京し、二十八日に復命する。○女官日誌、典式録、進退録、幸啓録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十五日 火曜日 午後、宮内大臣湯浅倉平・侍従長鈴木貫太郎・元皇后宮大夫河井弥八に謁を賜う。○女官日誌、河井弥八日記

十六日 水曜日 天皇が海軍特別大演習御統裁のため本邦南海面に行幸されるに当たり、午前、御使として皇后宮大夫広幡忠隆を横須賀軍港に差し遣わされる。○侍従日誌、行幸録

十九日 土曜日 御朝餐後、御食堂において、内庭外の艇庫脇に集合した儀仗隊兵士が合唱する近衛第一聯隊の歌・陸軍行進曲・東京行進曲をお聴きになる。○女官日誌、幸啓録

二十一日 月曜日 天皇が海軍特別大演習より還幸されるに当たり、午前、御使として皇后宮大夫広幡忠隆を横須賀軍港に差し遣わされる。○侍従日誌、内舍人供奉日誌、幸啓録、行幸録

午後、天皇の行幸に供奉した宮内大臣湯浅倉平に謁を賜う。続いて侍従長鈴木貫太郎に謁を賜う。○女官日誌

二十三日 水曜日 この月初旬に沖縄県下において暴風雨の被害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十四日 木曜日 この日、内着帯の儀が行われる。午前十時、奥御座所に出御される。皇后宮女官長竹屋志計子が参進し、御帯を皇后に奉り、ついで卓上に置く。続いて天皇の臨御の後、竹屋皇后宮女官長が御帯を天皇に捧げ、皇后宮女官万里小路ソデが陪侍して内着帯の儀が行われる。終わって、天皇と共に謁見所において内大臣・宮内大臣・侍従長・皇后宮大夫ほか総代より祝詞の言上をお受けになり、続いて皇后宮女官長以下の拝賀をお受けになる。その後、お一方にて奥内謁見所において、宮内省御用掛磐瀬雄一ほかに謁を賜う。また、天皇と共に、皇太后御使の権典侍清水谷英子より、午後には故成久王妃房子内親王より祝賀をお受けになる。夕刻、お一方にて元侍女鈴木タカに謁を賜い、祝賀をお受けになる。

内着帯の儀につき、天皇・皇后より御使として皇后宮女官津軽理喜子を大宮御所に差し遣わされ、皇太后に五種交魚を御贈進になる。また、皇太后より五種交魚の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍

従日誌、侍従職日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、皇親録、東宮御誕生録、幸啓録、貞明皇后実録正本

二十八日 月曜日 午前、正二位柳原愛子と御対面になり、先般来の同人の病氣全快についてのお礼言上、及び御機嫌奉伺をお受けになる。○女官日誌、内舍人供奉日誌、贈賜録

昨七月下旬よりこの月初旬にかけて朝鮮総督府管内において暴風雨の被害発生につき、天皇・皇后より同総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

九月

一日 金曜日 関東大震災十周年につき、この日、天皇・皇后は生物採集・御散策等をお取りやめになり、午前十一時五十八分に黙禱される。また、関東大震災十周年に際し歿死者追悼会施行につき、東京市本所区の震災記念堂並びに横浜市に対し、天皇・皇后・皇太后よりそれぞれ生花を下賜される。

○女官日誌、侍従日誌、省中日誌、恩賜録、幸啓録、貞明皇后実録正本

三日 日曜日 午後、天皇と共に、山陰地方旅行より帰京し参邸した崇仁親王と御対面になる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、本庄繁日記

六日 水曜日 豊島岡墓地において韶子内親王^{明治天皇第三皇女}五十年式年祭が行われ、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、典式録、儀式録、祭祀録、宮内省省報

八日 金曜日 豊島岡墓地において章子内親王^{明治天皇第四皇女}五十年式年祭が行われ、皇后宮女官津軽理喜子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、典式録、儀式録、祭祀録、宮内省省報

故邦芳王百日祭につき、皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐を権舎に、皇后宮事務官永積寅彦を墓

所にそれぞれ差し遣わされ、玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より権舎に盛菓子を、墓所に榊をお供えになる。○女官日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報

十日 日曜日 去る四日、朝融王妃知子女王が東京帝国大学医学部附属医院において第三王女を出産する。誕生した王女は、七夜に当たるとこの日、通子みちこと命名される。命名当日に際し、天皇・皇后より

朝融王御に白羽二重・酒・鮮鯛を賜う。○女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、宮内省省報、官報

十一日 月曜日 午後、宮内省部局長総代として参邸の帝室博物館総長杉栄三郎・式部次長松平慶民に謁を賜い、御機嫌伺いをお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録

十二日 火曜日 去る八月二十四日に宗秩寮総裁を退官した子爵仙石政敬に対し、天皇・皇后・皇太后より御紋付銀花瓶を下賜される。○省中日誌、進退録、宮内省省報

昨月末日よりこの月一日にかけて沖縄県下において暴風被害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十日 水曜日 陸軍中将筒井正雄去る十七日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

二十二日 金曜日 午前、英照皇太后の霊代を歴代皇后の霊代に合祀の儀につき、皇后宮女官万里小路ソデに御代拝を仰せ付けられる。○侍従職日誌、省中日誌、儀式録、典式録、祭祀録

二十三日 土曜日 午前、秋季皇霊祭及び同神殿祭につき、皇后宮女官油小路蒙子に御代拝を仰せ付けられる。○女官長日記、侍従職日誌、典式録、儀式録、祭祀録、宮内省省報

二十四日 日曜日 午前、宮内大臣湯浅倉平に謁を賜う。○女官日誌

二十八日 木曜日 この月初旬に朝鮮総督府管内において暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より同総督府に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

三十日 土曜日 午前九時五十分、天皇及び和子内親王・厚子内親王と共に葉山御用邸を御出門、一時五十分宮城に還啓される。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、内舍人供奉日誌、省中日誌、幸啓録、宮内省省報、官報

十月

二日 月曜日 米国特命全權大使ジョセフ・クラーク・グルーの息女エリザベス・スタージス近く東京において結婚式挙行につき、皇后宮職御用掛高木多都雄を同国大使館に差し遣わされ、御紋付金蒔絵提篋を下賜される。○侍従職日誌、贈賜録、外交贈答録

四日 水曜日 昨月中旬に沖繩県下において暴風被害発生につき、天皇・皇后より同県に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

六日 金曜日 皇太后御参内につき、天皇と共に御対面になり、御昼餐を御会食になる。御食後、和子内親王・厚子内親王を交えて御団欒になる。その後、成子内親王も参内につき、御一緒にお過ごしになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雑録、貞明皇后美録正本、宮内省省報、官報

これより先、久邇宮邸内の御花御殿が東京府立第三高等女学校に移築され、この日、仰光寮として落成式が挙行される。同寮は、皇后が女王時代に御学問所としてお使いになり、先般東京府知事より久

昭和八年十月

邇宮家に対し、府立各高等女学校生徒等の修養並びに府下女子教育の精神的資料に供する目的をもって下賜願いが出されていた。○省中日誌、わたしたちの「仰光寮」

七日 土曜日 和子内親王の誕生日九月三十日 祝賀行事が行われ、正午前、天皇及び和子内親王と共に奥内

謁見所において、側近奉仕者総代の拝賀をお受けになる。午後二時、故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・鳩彦王妃允子内親王・稔彦王妃聡子内親王と御対面になる。六時、天皇及び成子内親王・和子内親王・厚子内親王と共に御学問所において、御晩餐の内宴に臨まれる。○女官長日記、女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌

九日 月曜日 午前、東京帝国大学教授穂積重遠より「夫婦の法律と道徳」についての進講をお聴きになる。同内容の進講は三回にわたり、十六日・二十三日にも行われる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、穂積家文書

十日 火曜日 朝鮮京城府において宮中顧問官男爵韓昌洙去る八日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。なお、同人の危篤に際して天皇・皇后よりお尋ねとして葡萄酒を下賜される。

○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十一日 水曜日 帝国水難救済会に金員を賜い、同会の催す慈善演劇会の慈善券をお買い上げになる。

○贈賜録

十二日 木曜日 満洲国執政溥儀より、今般来日の同国立法院長趙欣伯を通じ、天皇・皇后・皇太后に竜紋銀鼎各一对の御贈進がある。○省中日誌、謁見録、外交贈答録、宮内省省報、官報

去る一日熊本県宇土郡三角港付近の海上において発動機船第二幸運丸の沈没事故発生につき、この日、

天皇・皇后より熊本県知事に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十三日 金曜日 在桑港救世軍日本入部社会事業館建設につき、天皇・皇后より救世軍在米日本人部に金員を下賜される。○省中日誌、恩賜録

十四日 土曜日 午後、天皇と共に吳竹寮にお出ましになる。和子内親王・厚子内親王もお成りになる。皇子御養育掛長藤井種太郎に謁を賜い、成子内親王の成績につき言上をお受けになる。○女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、藤井種太郎日誌

十七日 火曜日 午前、神嘗祭につき、皇后宮女官東貞子に御代拝を仰せ付けられる。○女官日誌、侍従職日誌、典式録、儀式録、祭祀録、宮内省省報、官報

十八日 水曜日 午前、鳳凰ノ間において、近く従五位佐野常光に帰嫁する礼子女王の参内朝見の儀が行われる。皇后は御懷妊中のため御欠席になる。儀終了後、奥内謁見所において礼子女王と御対面になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録、宮内省省報、官報

十九日 木曜日 天皇と共に御学問所において、翌年三月帰嫁する礼子女王並びに故恒久王妃昌子内親王・恒徳王と御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、典式録

二十日 金曜日 午前、天皇と共に奥内謁見所において、孚彦王・李錡公と御対面になり、任官と叙勲のお礼言上をお受けになる。これに先立ち、孚彦王は陸軍歩兵少尉に、李錡公は陸軍砲兵少尉に任官し、天皇よりそれぞれ勲一等旭日桐花大綬章が授けられる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、典式録、皇族身分録、王公族録、官報

午後、天皇と共に奥御対面所において、この日皇后宮女官を退官の油小路蒙子に謁を賜う。○女官長日

昭和八年十一月

記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、進退録

天皇と共に奥内謁見所において、宣仁親王・同妃喜久子、故恒久王妃昌子内親王、故成久王妃房子内親王、稔彦王妃聡子内親王、鳩彦王・同妃允子内親王と順次御対面になる。鳩彦王・同妃允子内親王より、孚彦王の任官・叙勲のお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舎人日誌、重要雑録、朝香宮奥日誌

二十五日 水曜日 午前、侯爵久邇邦久^{御兄}と御対面になる。同家創立十周年のお祝品に対するお礼言上をお受けになる。○女官長日誌、女官日誌、侍従職日誌、贈賜録

二十六日 木曜日 去る二十日兵庫県須磨沖合において大阪商船株式会社所有汽船屋島丸沈没につき、この日、天皇・皇后より逋信大臣に御救恤金を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

この月 東京慈恵会に金員を賜い、同会の催す慈善観劇会の一等券をお買い上げになる。○贈賜録

十一月

二日 木曜日 午後、御休所において、昨日一日皇后宮職御用掛を免ぜられた錦織良子に謁を賜う。○

女官長日誌、女官日誌、省中日誌、進退録

三日 金曜日 午前一時十五分朝香宮邸において鳩彦王妃允子内親王薨去につき、弔問のため、皇后宮使として皇后宮女官長竹屋志計子を朝香宮邸に差し遣わされる。正午前、同内親王薨去につき御機嫌伺いに参内した皇太后の御使権典侍清水谷英子に、御書齋において謁を賜う。五日には、皇后より靈前に盛花・野菜^{生物学御研究所産}・切り花^同をお供えになる。六日には、御槽入につき、天皇・皇后より靈前に

榊・盛菓子をお供えになる。十日には、正寝移柩の儀につき、天皇・皇后・皇太后それぞれ盛菓子を、また天皇・皇后より靈前に榊・盛花を、皇后より内親王の写真に葡萄をお供えになる。十一日には、午前、皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐を朝香宮邸に差し遣わされ、天皇・皇后・皇太后より幣帛・榊を、天皇・皇后より祭資を下賜され、さらに、天皇・皇后より靈前にセロリをお供えになる。また夕刻、靈代安置の儀につき、皇后宮使として皇后宮女官津軽理喜子を同邸に差し遣わされ、天皇・皇后・皇太后それぞれより玉串をお供えになる。十二日には、斂葬当日柩前祭の儀につき、皇后宮使として津軽皇后宮女官を同邸に差し遣わされ、玉串をお供えになり、ついで葬場の儀につき、同女官を葬齋場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、去る十月二十一日より内親王は慢性腎臓炎のため仮床に就き、二十五日、天皇・皇后より御使として竹屋皇后宮女官長を朝香宮邸に差し遣わされ、内親王に病氣お尋ねとして果物を御贈進になる。二十九日には、皇后より野菜生物学御研究所産を御贈進になり、三十一日には、皇后より内親王に野菜・花卉を、鳩彦王に缶詰を御贈進になる。十一月一日には、内親王重体に際して天皇・皇后より御使として竹屋皇后宮女官長を、また侍医算繁を同邸に差し遣わされ、内親王に野菜スープ・牛乳・万那料を、鳩彦王に果物を、孚彦王・正彦王・湛子女王に洋菓子を御贈進になる。二日には、午前、お見舞いのため、皇后より御使として竹屋皇后宮女官長を同邸に差し遣わされ、内親王に万那料・野菜新宿御苑産を、鳩彦王に万那料を御贈進になり、夕刻、内親王の容体急変に際して皇后より御使として再び竹屋皇后宮女官長を同邸に差し遣わされ、また天皇・皇后より侍医八田善之進を差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。

允子内親王は、明治天皇第八皇女として誕生し、富美宮と称する。生母は権典侍園祥子であり、大正

天皇の妹に当たる。享年四十三。

この日、内親王の薨去に伴い、明治節の拝賀等はお取りやめとなる。また、皇后の定例進講及び呉竹寮へのお出ましは、宮中喪第一期三日より二十三日まで中はお取りやめとなり、十六日に御予定の着帯の儀は二十八

日に延期となる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、儀式録、典式録、重要

雑録、皇族身分録、贈賜録、墓誌銘録、宮内省省報、官報

九日 木曜日 錦鶏間祇候赤司鷹一郎去る七日死去につき、この日、天皇・皇后より祭資を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

元帥陸軍大將子爵上原勇作昨日八日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を同人邸に差し遣わされる。十一日には、皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎を差し遣わされ、榊を賜い、玉串をお供えになる。十三日に青山斎場において行われる陸軍葬には、皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐を差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、去る一日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして果物を下賜され、八日には、同人の危篤に際して天皇・皇后より侍医村山浩一を同人邸に差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。○侍従職日誌、省中日誌、恩賜録、重要雑録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報

十一日 土曜日 去る十月中旬に鹿児島・愛媛・大分三県下において暴風雨被害発生につき、天皇・皇后より御救恤として鹿児島県・愛媛県・大分県に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、官報

十三日 月曜日 午前、鳩彦王妃故允子内親王の斂葬後一日権舎祭につき、天皇・皇后より皇后宮女

官長竹屋志計子を朝香宮邸に非公式に差し遣わされる。また、墓所祭にも竹屋皇后宮女官長を差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雜録、朝香宮奥日誌

十四日 火曜日 午後、皇太后御参内につき、天皇と共に奥御対面所において御対面になる。○女官長

日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

今般関東軍へ御差遣の侍従武官石田保秀に対し、皇后宮大夫を通じ、次の令旨を下される。

軍司令官以下一同カ久シキニ亘リ氣候風土ノ異ナレル地域ニ於テ幾多ノ困苦ヲ忍ヒ危険ヲ冒シクク任務ヲ遂行シツツアルハ随分苦勞多キコトト思フ殊ニ死傷シタル將兵ニ対シテハ洵ニ氣ノ毒ニ堪ヘス今ヤ寒サ益々厳シサヲ加フルノ折柄各自一層身体ヲ大切ニスル様宜シク申伝ヘヨ又傷病者ハ好ク勞ハリ遣ハセ

石田は十二月二十五日に帰京する。○侍従職日誌、省中日誌、典式録、進退録、侍従武官府歴史、宮内省省報、官報
去る九月上旬より中旬にかけて支那東海方面に出漁中の漁船が、台風に遭遇し多数の行方不明者を出したため、天皇・皇后より御救恤として金一封を通信大臣に下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報、

官報

十八日 土曜日 夕刻、天皇と共に、今般軍艦扶桑分隊長として呉へ赴任の宣仁親王、及び同妃喜久子と、御晚餐を御会食になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、皇族身分録、典式録、官報、高松宮日記

二十二日 水曜日 翌二十三日に大日本連合婦人会主催の母子会が開催されるに当たり、皇后より、救済費欠食児童及びその母等の救済として金員を、皇后宮女官長竹屋志計子の名をもって下賜される。○侍従職日誌、贈賜録

二十四日 金曜日 昨二十三日をもつて宮中喪第一期御喪明けにつき、午後、天皇と共に奥御対面所において、御機嫌奉伺のため参内の雍仁親王・同妃勢津子、宣仁親王妃喜久子、崇仁親王及び故恒久王妃昌子内親王・故成久王妃房子内親王・稔彦王妃聡子内親王とそれぞれ御対面になる。またこの日、天皇・皇后の御使として皇后宮女官長竹屋志計子を大宮御所に差し遣わされる。○女官長日記、女官日誌、

侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、秩父宮附日記、重要雑録

二十六日 日曜日 午後、皇太后御使として典侍竹屋津根子参内につき、天皇と共に謁を賜う。○女官

日誌、侍従日誌、侍従職日誌

二十八日 火曜日 この日、着帯の儀が行われる。去る十月二十一日、載仁親王が御帯進献の勅命を受け、この日午前八時四十分、載仁親王御使の別当稲垣三郎が帯を捧じて参内し、これを皇后宮大夫広幡忠隆に伝え、広幡大夫は本宮^{奥内謁見所}の載台に置く。ついで皇后が本宮に出御され、皇后宮女官津軽理喜子より御帯の披露をお受けになる。終わって入御される。十時より賢所皇霊殿神殿に着帯奉告の儀が行われる。宮中喪のため皇后の御代拝はない。その後、奥御対面所において、天皇の臨御をお迎えになり、着帯の儀が行われる。終わって、天皇と共に奥内謁見所において載仁親王と御対面になり、拝賀をお受けになる。ついで内大臣・宮内大臣・宮内次官及び侍従長始め総代、皇后宮女官等の拝賀をお受けになる。続いて皇太后御使の権典侍清水谷英子に謁を賜い、祝賀をお受けになる。ついで一方にて宮内省御用掛磐瀬雄一・侍医塚原伊勢松ほか助産婦二名に謁を賜う。午後、奥内謁見所において守正王^{御父邦彦王の弟}・同妃伊都子始め皇族の祝賀をお受けになる。その後、天皇と共に同所において、祝賀のため参内の皇族・王公族と御対面になる。

着帯の儀に当たり、天皇と鮮鯛代料・小戴をお取り交わしになる。これとは別に、天皇より皇后に白紋錦紗等の御贈進がある。また、天皇・皇后それぞれより皇太后へ鮮鯛・小戴を御贈進になり、皇太后より天皇・皇后に七種交魚の御贈進がある。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、皇親録、東宮御誕生録、儀式録、重要雜録、貞明皇后実録正本、宮内省省報、官報

十二月

一日 金曜日 夕刻、天皇と共に奥御対面所において、宣仁親王滞在中の広島県呉市に出発する同親王妃喜久子と御対面になり、暇乞いをお受けになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、贈賜録、高松宮日記

この日、在滿在支陸海軍部隊の將兵一同並びに関東庁及び滿洲国駐在外務省警察官等に対し、皇后・皇太后より防寒用として真綿一人につき十五匁ずつを下賜される。○省中日誌、重要雜録、公文備考、外務省記録

四日 月曜日 天皇と共に奥内謁見所において、第一期喪明けにつき参内した鳩彦王と御対面になる。

○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、朝香宮奥日記

六日 水曜日 歳末に際し東京府下の官公私立団体が協力して貧困者救済のために夜間無料診療を実施するに当たり、思召しをもつて東京府に金一封を下賜される。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報

七日 木曜日 御夕餐後、御学問所前入側に陳列された滿洲の動植物の化石・各種標本類を御覧になる。これは、先般理化学博士徳永重康が第一次滿蒙學術調査研究団団長として調査を行い、このほど持ち帰ったものである。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、変形菌

昭和八年十二月

九日 土曜日 海軍大将伯爵山本権兵衛昨八日死去につき、この日、弔問のため、皇后宮使として皇后宮事務官岡本愛祐を同人邸に差し遣わされる。十一日には、皇后宮使として皇后宮事務官大金益次郎を差し遣わされ、天皇・皇后・皇太后それぞれより櫛を賜い、玉串をお供えになる。さらに、天皇・皇后より祭資を下賜される。十二日に青山斎場において行われる海軍葬には、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を葬斎場に差し遣わされ、玉串をお供えになる。なお、昨八日、天皇・皇后より病氣お尋ねとして果物を下賜され、また、同人の危篤に際して天皇・皇后より侍従徳大寺実厚・侍医高橋信を同人邸に差し遣わされ、葡萄酒を下賜される。○侍従日誌、侍従職日誌、省中日誌、重要雜録、恩賜録、侍従武

官府歴史、宮内省省報、官報

十一日 月曜日 この日、愛国婦人会に金一封を賜う。同会には大正十二年以降、十箇年間継続して賜金があり、昨年をもつて期限満了のところ、同会事業はさらに發達助成が必要なことから、この年以降昭和十二年まで五箇年間、引き続き従来どおり下賜することとなる。○省中日誌、恩賜録、宮内省省報
十五日 金曜日 この日、慶光院盈子死去につき、盛花・盛菓子代料をお供えになる。なお、去る六日、病氣お尋ねとして果物料を下賜される。慶光院盈子は、朝彦親王の第一女子で、大炊御門家信の養女となり、慶応元年に慶光院に入った。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、重要雜録

天皇・皇后より日本赤十字社病院維持費として金一封を、皇后より同社病院救助患者治療費として金一封を賜う。また、向寒に際し、皇后より日本赤十字社病院・恩賜財団済生会病院・東京慈恵会医院の各救助収容患者及び財団法人福田会育児院収容者に対し、木綿反物・裏地・裁縫料をそれぞれ下賜される。○贈賜録、恩賜録、官報、事業年報（日本赤十字社）、日本赤十字社史続稿

十六日 土曜日 午後、天皇と共に奥内謁見所において、今般皇子御養育掛を拝命の大迫セイに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、進退録

二十日 水曜日 午後、奥内謁見所において、御誕生予定の新宮に奉仕する乳人野口善子・進藤はなに謁を賜う。○女官長日記、女官日誌、侍従職日誌

二十二日 金曜日 鳩彦王妃故允子内親王五十日祭につき、午前、皇后宮使として皇后宮事務官黒田長敬を権舎並びに墓所に差し遣わされ、それぞれ玉串をお供えになる。また、天皇・皇后より権舎に榊・盛菓子を、墓所に榊をお供えになる。昨二十一日には皇后より権舎に切り花をお供えになる。○

女官長日記、女官日誌、侍従職日誌、省中日誌、皇親録、重要雑録、宮内省省報、官報、朝香宮奥日誌

二十三日 土曜日 未明、御出産の御兆候があり、御洋館^{御静養室}に移られる。午前六時二十分に産殿にお入りになり、同三十九分御出産、親王すなわち皇太子が誕生する。八時二十分、御洋館にお出ましの天皇と御対面になる。ついで故邦彦王妃倪子と御対面になり、続いて誕生した皇太子と御対面になる。十時、御剣を賜うの儀が行われる。侍従長鈴木貫太郎が勅使として御剣を奉じて皇后の本宮に参入し、便殿において旨を皇后宮大夫に伝宣し、御剣を授ける。大夫は御剣を女官に付し、皇太子に奉る。なお、皇太子誕生につき、天皇と五種交魚代料をお取り交わしになる。また、天皇・皇后よりそれぞれ皇太后に五種交魚代料を御贈進になる。皇太后より天皇・皇后に五種交魚の御贈進があり、これとは別に天皇・皇后に三種交魚を、天皇に置物等を、皇后に反物等をお贈りになる。

皇太子誕生につき、デンマーク国・イタリヤ国・シヤム国の各皇帝・皇后、オランダ国皇帝、スウェーデン国皇太子・同妃、シヤム国皇族サワッディポン・同妃、米国大統領・同夫人より天皇・皇后に祝

昭和八年十二月

電が寄せられる。これに対し、天皇・皇后より答電をお送りになる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍

従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、東宮御誕生録、皇親録、儀式録、重要雑録、外交慶弔録、宮内省省報、官報

この日、皇室令をもって東宮に関する事務主管の件が制定公布される。これにより東宮職設置に至るまで当分の間、皇后宮職が東宮に関する事務を掌る。○省中日誌、皇室令録、宮内省省報、官報

二十九日 金曜日 午前七時、青山御所寒香亭側において皇太子の御胞衣埋納の儀が行われる。

誕生第七日につき、九時、浴湯の儀が行われ、皇子御養育掛小倉満子の奉仕により皇太子が浴殿に入り、従三位市村瓊次郎^{文学博士}が読書を、正三位有馬良橘・従三位爵大給近孝が鳴弦に奉仕する。十一時、

命名の儀が行われる。侍従長鈴木貫太郎が勅使として参内、皇后の本宮において皇后宮大夫広幡忠隆に宸筆の名記と称号を授ける。広幡皇后宮大夫はこれを皇后宮女官長竹屋志計子に伝え、さらに竹屋皇后宮女官長はこれを捧持して皇子御座所に進じ奉る。皇太子は明仁^{あきひと}と命名され、繼^{つぐのみな}宮と称する。

印章は榮^{えい}と治定される。命名の儀と同時に、賢所皇靈殿神殿に誕生命名奉告の儀が行われるが、宮中喪につき天皇・皇后の御代拝はない。命名の儀終了後、多摩陵^{大正天皇陵}に御奉告のため、天皇・皇后より

皇后宮女官津軽理喜子を差し遣わされる。また、広幡皇后宮大夫を皇太后の許に差し遣わされる。皇太子の命名当日に際し、天皇・皇后より皇太后に鮮鯛及び御台盛を御贈進になり、皇太后より天皇・皇后に七種交魚を御贈進になる。また、天皇より鮮鯛代料・初衣を、皇后より鮮鯛代料・初衣・柳樽・昆布を皇太子に御贈進になる。○女官長日記、女官日誌、侍従日誌、侍従職日誌、内舍人日誌、省中日誌、東宮御誕生録、

儀式録、皇親録、重要雑録、臨時祭祀録、宮内省省報、官報

宮中喪につき、この日より三日間の歳末祝詞言上はお取りやめとなる。○重要雑録、典式録